
遊戯王デュエルモンスターズGX～氷のデッキの使い手～

アストラル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王デュエルモンスターズGX〜氷のデッキの使い手〜

【Nコード】

N3483Q

【作者名】

アストラル

【あらすじ】

遊戯王5D's OCGが好きな外道決闘者である高嶺康太はある日遊戯王デュエルモンスターズGXの世界に転生してしまった。更に他の転生者も出てきて……。高嶺康太の明日はどっちだ？

簡潔に言つと遊戯王デュエルモンスターズGXのオリ主転生物です。もちろんオリカは有りです。

高嶺 康太（前書き）

はじめましてTです。

この小説が処女作になりますがよろしくお願ひします。

高嶺 康太

俺の名前は高嶺 康太だ。

友達とデュエルして遊んだり、カラオケ行ったりして遊んだりしている一般的な男子高校生だ。

今日も遊んだ後、帰って飯食って寝ただけなんだ！

なのに何で、知らない部屋で寝てるんだ？

なのに何で腕にアニメの世界にしか無いはずのデュエルディスクが付いてるんだ？

すまない、感情的になりすぎた。

そして何より困ったのはデュエルアカデミアの受験票が枕元に置いてあったことだ。

目と鼻の先には、受験場所である海馬ドームがある。

更に困ったことに、デッキが、元の世界では当たり前だが、この世界ではカード化されてない、シンクロモンスターを中心としたデッキなんだがどうしたら良いんだろう・・・？

悩んでも仕方ねえ！

このまま行くぜ！

初デユエル！ VS クロノス！（前書き）

いきなりですがミスがあり、ちょっと変えました。
本当に申し訳ありません。

初デュエル！ VSクロノス！

Side 康太

やっと着いたぜ！

しかし遅刻寸前だったらしい、十代の次に試験を受けることになった。

十代のデュエルは知ってるし、観なくていいか。

「受験番号111番 高嶺 康太第二試験場に来い」

十代のデュエルが終わったらしいな。

さて、行くか！

Side End

Side クロノス

あのドロップアウトボーイに負けるなノーテ何でノーネ！？

こうなったらあのもう一人のドロップアウトボーイを倒してけちよんけちよんにしてやるノーネ！

「試験番号111 高嶺 康太です。
よろしく願います！」

あのドロップアウトボーイは礼儀だけは正しいノーネ。

まあどうでもいいノーネ。

Side End

No Side

「デュエル！」

「先行はどうします？」

「あなたに譲るノーネ」

「俺のターンドロー！」

この手札ならこれくらいしかしなくていいな。

「モンスターをセット。

カードを二枚伏せターンエンド」

康太LP4000

手札3枚

モンスター セットモンスター1枚

魔法・罫リバースカード2枚

「私のターンナノーネ。

ドロニーヨ！」

この手札なら勝ちを貰ったも同然ナノーネ。

「私はトロイホースを召喚するノーネ！」

更に二重召喚を発動するノーネ！
更にトロイホースをいけにえに、古代の機械巨人を召喚するノーネ
！」

巨大な、機械の巨人が出てくる。

「畏発動！奈落の落とし穴効果により、古代の機械巨人を破壊し、
除外する！」

さつき出たばかりの巨人が巨大な穴に落ちていく

これはまずいノーネ！

「カードを二枚伏せターンエンドナノーネ」

クロノスLP4000

手札1枚

魔法・罨 2枚

康太LP4000

手札3枚

モンスター セットモンスター1枚

「俺のターンドロー！」

このデュエル・・・俺の勝ちだ

「俺は氷結界の軍師を召喚！

氷結界の軍師の効果発動！手札の氷結界を一枚捨てることで、一枚
ドローする！俺は氷結界の破術師を捨てドロー！

更に二重召喚を発動！

これにより、デブリドラゴンを召喚！

モンスター効果により、氷結界の破術師を特殊召喚！」

傘をかぶったような、老人が出た後、小さな龍が出てくる。

更に、魔術師風の子供が出てくる。

「レベル3氷結界の破術師に、レベル4デブリドラゴンをチューニング！」

小さな龍が4つの輪になり、小さな子供が、半透明になる。

「……チューニング!?」「……」

「何なノーネ？」

「チューニングとは?」

「チューナーモンスター1枚と、それ以外のモンスター1枚以上を墓地に送り、エクス・・・もとい融合デッキより、シンクロモンスターを一枚特殊召喚するのさ！」

「集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！」

シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」

赤い色が少しいた、氷の龍が召喚される。

「氷結界の龍グングニールの効果発動！

1ターンに一度、手札を2枚まで捨てて、その枚数分相手のカードを破壊する！

俺は手札を2枚捨てて、そのリバースカード2枚を破壊する！

フリージングランス！」

高嶺 康太が手札を2枚捨てると、グングニールがブレスを放つ。

そのブレスが、クロノスのリバースカードを2枚まとめて破壊する。

破壊されたカード

炸裂装甲

サイクロン

「そのまま攻撃してたらまずかったぜ」

「嫌ナノーネ、負けたくないノーネ」

「まずは軍師でダイレクトアタック！」

軍師が扇子をクロノス教諭に向けると、氷の塊がクロノス教諭に向かっていく。

「更にグングニールでダイレクトアタック！

フリージングブレス！」

「ペペロンチーノ」

クロノス教諭がそう叫ぶとともに、クロノス教諭のライフがゼロになる

クロノスLP 4000 2400 0

「俺の勝ちだ。」

そう康太が言うと、すぐ康太は試験場から去った。

S i d e E n d

S i d e 十代

さっき一緒に遅刻した奴スゲーな！

俺の知らないカード達に、シンクロ召喚！

デュエルしてみたいぜ！

そう考えたらワクワクしてきた！

待ってるよ！デュエルアカデミア！

S i d e E n d

高嶺康太のプロフィール(前書き)

またまたミスを見つけました。

申し訳ありません。

高嶺康太のプロフィール

高嶺 康太

転生前17歳 転生後15歳

誕生日1月7日

容姿

金色のガッシュ!!!の高嶺清磨を高校生にした感じ

性格

クールという程でもないが、冷たい印象を抱かれやすいが、身内や友人には優しい。

元々熱い性格だったが、過去の出来事で熱くなくなった。

本人は気づいていないがオタクである。

家族構成は母と弟がいたが、こちらの世界では家族はおらず、一人ぼっちだった。

転生した日に謎の事件巻き込まれ、それが原因で転生することになったが、本人はその記憶を失っており、全く知らない。

因みに転生したのはGOLDSERIESの発売日の三日後でGOLDSERIESを2箱買ったため、グングニールを10枚持っている。

使用デッキは氷結界でビートダウンを軸にしている。

また、あまりのカードが結構あるので、いくつかサブデッキがある。

その中には、トリシューラを並べるのに特化した外道なデッキや、特殊召喚メタ用デッキみたいなのが嫌われているデッキも使っていた。アニメの世界である為、そこまで上げつないことはする気はない。

ムカついたら、相手のことを無視したワンキルデッキを使うこともあるかもしれない。

好きな物はデュエル、アニメ、コロッケ

嫌いな物は面倒、生野菜、自分勝手な奴。

呼び出しデュエル！ VS万丈目（前書き）

またまたミスをしてしまいました。

かなり情けないです。

本当に申し訳ありません。

呼び出しデュエル！ VS万丈目

S i d e 康太

やっと着いたぜ。

デュエルアカデミア！

寮はオシリスレッドだった。

あの受験番号なら当たり前か・・・。

さて、寮に荷物を置きに行くか。

S i d e E n d

S i d e 十代

あのシンクロモンスターとかいうカードを使ってた奴を捜すぜ！

とにかくあいつとデュエルしたいぜ！

居たな！

さて行くか！

S i d e E n d

S i d e 康太

「なあ、デュエルしようぜ」
何故こうなった！

何故いきなり遊城 十代に話し掛けられたんだ！

「お前のシンクロモンスターと、俺のHEROどっちが強いか気になるんだ！

だからデュエルしようぜ！」シンクロを使ってしまったせいで、目立ちすぎたか・・・どうやって今は無理だって断ろうか・・・。

よし、これだ！

「まずは名乗れそれは礼儀だろ？

そして俺の名前は高嶺 康太だ。

とりあえず、康太と呼べ。

そして今はデュエルできない。

荷物があるし、デッキは調整中だしな。」

マジで奈落は抜かないとな。

強いが、この世界では外道過ぎるしな。

あとは、強欲な壺と天使の施しを入れなきゃな。

「ちえ。

わかったよ。

俺の名前は遊城 十代だよろしくな、康太！
調整終わったら、デュエルしてくれよな！」

と十代が言つと

「わかった、わかったから早く寮に行かせてくれ」

「わかった！

じゃあ行くか！」

数時間後

さて、調整が終わつたぜ！

あとは、あのデッキを組むか……。

「康太！

調整終わったか？」

「まだだ。」

「わかった……。

また後でな。」

「待て。

何処行く気だ？」

「とりあえず、翔とアカデミアの中に行つてくるぜ」

「わかった。

また後でな」

数分後

歓迎会が始まつた。

料理が美味しいな。

「まずいすつよ兄貴！」

「何言つてんだよ翔。

結構美味いぜ？」

「そういう意味じゃないすよ兄貴……」

大徳寺が来たな……。

「私は細かいことは気にしないのじゃ。」

こうして、歓迎会が終わった。

数時間後

何故、万丈目のメールが俺にまで届いたんだ！？

俺は何もしてないだろ……シンクロしたのが悪かったのか！

イライラしてきた！

そっぴゃ、禁止制限を調べたら、やっぱりかなり緩かった。

奴らも禁止制限にかかってなかった。

これで、氷結界の全力を出せるぜ。

そしてデュエル場に着いたら十代のデュエルが終わってるだと！

原作では、途中で中断されたはずだ！

まあ良い。

行くぜ！

「スマン遅れた。」

「「「遅れ過ぎだ！」「」」

下っ端二人と万丈目に言われた。

「サブデツキを作ってたら遅れたんだ」

「とりあえずデュエルだ！」

「わかった。」

Side End

No Side

「「デュエル！」「」

「先行はどうする？」

「お前がやれ」

「俺のターンドロー」

(これは・・・なんて酷い手札だ)

康太はそう思いながらプレイする。

「強欲な壺を発動し、二枚ドロ。」

更に魔法カード天使の施し発動!

三枚ドロし、エルフェンとシロッコを捨てる。

ダークグレファアを召喚

ダークグレファアの効果で手札からヴァーユを捨てヴァーユをデッキから墓地に送る。

手札から二重召喚を発動

ゲイルを召喚」

黒い戦士が出た後、頭が緑色の鳥が出てくる。

「黒い漆黒の爆撃機が、闇より現れ敵を討つ。

絆を紡ぐ力となれ!

シンクロ召喚!

ダーク・ダイブ・ボンバー」頭が緑の鳥が三つの輪になった黒い戦士が四つの星になる。

その後、某漆黒の爆撃機が現れる。

さて終わらせるか・・・。

「墓地からヴァーユの効果を発動。

エルフェンとヴァーユを除外し、BF - アーマード・ウイングを特殊召喚。

更に、シロッコとヴァーユを除外し、BF - アームズ・ウイングを特殊召喚。」

二体の鳥型モンスターが特殊召喚される。

「ダークダイブボンバーの効果発動！

フィールドのモンスターを生け贄に、捧げること、生け贄に捧げたモンスターのレベル×200のダメージを与える。
アームズウイングを生け贄に捧げる。」

アームズウイングが銃口にセットされる。

「発射！」

万丈目

LP4000 2800

康「更にアーマードウイングを生け贄に捧げる。」

次はアーマードウイングが銃口にセットされる。

康「発射！」

万丈目

LP2800 1400

「これで最後だ！

ダークダイブボンバーを生け贄に捧げる！」

ダークダイブボンバーが光ながら、万丈目に向かって飛んで行く。

康「ラストショット！」

ダークダイブボンバーが自爆する。

万丈目

LP14000

さて帰るか。

Side 康太

「くそ、何故負けた！」

と万丈目が叫ぶ。

ダークダイブボンバーの力さ

「自分のカードを信じてないからだ！
もっと自分のカードを信じな！」

そう俺が言つと悔しがりながら、万丈目は帰って行く。

「十代、早く帰ろっぜ！」

「ああ、わかった・・・」

Side End

Side 十代

あのデッキとはデュエルしたくないな・・・。

「なあ、何時デュエルするんだ？」

そう康太に聞くと。

「明日にでもするか！」

氷結界の調整も終わったしな！」

「ダークダイブボンバーを使うなよ？」

「さあ、どうしようかな？」

あれを出されたら堪らないぜ。

「勘弁してくれよな」

「わかったよ」

「じゃあ明日デュエルだ！」

「わかったよ。」

「じゃあ明日の放課後な！」

「ああ！」

Side End

楽しいデュエル！ VS 十代 前編（前書き）

またミスしました。

本当に申し訳ありません。

VS 十代です。

よければ感想を書いてください、感想は誰でも書けるよう設定しています。

楽しいデュエル！ VS 十代 前編

Side 康太

俺は今悩んでいる。

どのデッキで十代とデュエルするかを！

BFはまずいだろうし、氷結界が新しいサブデッキだろう。

デッキは、BF以外は、アニメの世界でやって行ける程度の物に改造した。

さすがにガチカードばかりのデッキとかは、使う気はない。

自分だけが奈落とか、警告とかは使って勝っても楽しくないしな。

BFだって、闇のデュエルとか、やばいデュエル用に組んだ物だ。

頻繁に使う訳には行かない。

話がそれたな。

因みに、十代がクロノスを馬鹿にしたりとか、翔のラブレター事件は今日らしい。

実際あったし、翔の態度がいつもと違ったからな。

十分くらいで約束の時間だな。

さて、ディスクとデッキを準備しよう！

Side End

Side 十代

約束の時間まであと十分だな。

デッキの調整も終わったし、準備を始めるか！

そっぴや翔の奴、なんか態度がいつもと違ったけどなんかあったのか？

まあいいか、今は康太とのデュエルに集中するぜ！

Side End

Side 康太

十分後デュエルする時間になった。

その前にあれを十代に渡しておくか。

「十代楽しいデュエルにしようぜ！

でも、楽しいデュエルに、こいつはいらない。

しばらく預かってくれ！」

そう言っつて、十代にダークダイブボンバーを渡す。

「こいつは確かにいらぬいな」

そう言っつて十代はダークダイブボンバーをポケットに入れた。

「さて、始めようぜ！」

「ああ！」

Side End

「デュエル！」

「どっちが先行にする？」

「コイントスで決めようぜ！」

「コインはこれな。」

康太は十円玉を見せる。

「わかった。」

俺は表（数字の書いてない方です。）を選ぶぜ」

「じゃあ弾くぜ。」

そう言つて康太はコインを弾く。

表が出た。

「俺のターンドロー！」

「俺はフェザーマンを守備表示で召喚！
カードを二枚伏せてターンエンド」

羽が生えた、仮面を着けた男が現れる。

十代

手札3枚

LP4000

モンスター フェザーマン

リバーズカード 2枚

「俺のターンドロー！」

「俺は氷結界の紋章を発動！

氷結界の番人ブリズドを手札に加える。

更に、モンスターを守備表示で召喚」

「カードを1枚伏せターンエンド」

康太

手札4枚

LP4000

モンスター セットモンスター1枚

リバーズカード 1枚

「俺のターンドロー！」

「俺は融合を発動！

俺はフィールドのフェザーマンと手札のバーストレディを融合し、
フレイムウイングマンを融合召喚！」

龍の顔面を腕につけた、十代のフェイバリットカードが現れる。

「フレイムウイングマンでセットモンスターを攻撃！

フレイムシュート！」

リバーズしたモンスターは氷結界の破術師だった。

龍の口から出た炎が子供を焼き尽くす。

つてえげつないな！オイ！

「フレイムウイングマンの効果発動！

戦闘で破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える！」

十代がそう言うと、フレイムウイングマンの龍の頭についてない方の、腕を康太に向ける。

フレイムウイングマンの康太に向けた腕から電撃を放つ。

つてお前、風属性だろ？

何で別の属性みたいな攻撃方法なんだ？

康太LP4000 3600

「ターンエンド」

十代

手札 2枚

モンスター フレイムウイングマン

リバーズカード 2枚

「俺のターンドロー」

「俺は氷結界の武士を召喚！」

氷で出来た鎧を着た武士が現れる。

「更に手札からエネミーコントローラーを発動！
上下左右C A！

このコマンド入力により、相手モンスター1枚の表示形式を入れ替える！」

フレイムウイングマンが膝を地面につけ、防御の姿勢をとる。

「氷結界の武士で、フレイムウイングマンを攻撃！
アイススラッシュ！」

氷結界の武士が、手に持った刀で、フレイムウイングマンを攻撃する。

十「罨発動！
ヒーローバリア！」

武士の持つ刀がいきなり出てきたエネルギーで出来たような盾により防がれる。

「倒せなかったか・・・。
カードを一枚伏せてターンエンドだ」

康太

手札 3枚

モンスター 氷結界の武士

リバーズカード 2枚

「勝負はこれからだ！」

「ああ！」

次回に続く

楽しいデュエル！ VS 十代 前編（後書き）

どうでしたか？

今回の目標は、一進一退の攻防です。

上手く出来ましたか？

それだけが今回の目標です。

楽しいデュエル！ VS 十代 後編（前書き）

今回はかなり悩みました。

十代戦決着です。

どうぞ！

ところで5D・sのOPPのGoing my way 走りだせの部分がゴドウィン！ゴドウィン！走りだせって聞こえるのは気のせいでしょうか？

またミスをしてしまいました。

本当に申し訳ありません。

楽しいデュエル！ VS 十代 後編

十代

LP 4000

手札 2枚

モンスター フレイムウイングマン

リバーズカード 1枚

康太

LP 3600

手札 3枚

モンスター 氷結界の武士

リバーズカード 2枚

NoSide

「俺のターンドロー！」

「俺はスパークマンを召喚！」

青色と黄色の色がついた全身タイツを着た、説明しづらいHEROが現れる。

「フレイムウイングマンで、氷結界の武士を攻撃！フレイムシュート！」

フレイムウイングマンの腕についた龍の口から、炎が放たれる。その炎が、氷で出来た鎧を着た武士に向かって行く。

「させるか！」

リバースカードオープン！

聖なるバリアーミラーフォーサー

突如現れたバリアによりフレイムウイングマンの攻撃は弾かれ、スパークマンとフレイムウイングマンは破壊される。

「カードを一枚伏せターンエンド。」

十代

手札 2枚

モンスター 無し

リバースカード 2枚

「俺のターンドロロー！」

「俺は氷結界の風水師を召喚！」

鏡を持った、女がフィールドの呼ばれる。

「いくぜ！」

十代、これが俺の全力だ！」

「来い！」

「レベル4氷結界の武士にレベル3氷結界の風水師をチューニング
！」

氷結界の風水師が三つの輪になり、氷結界の武士が星になる。

「集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！」

仲間との絆を紡ぐ力となれ！

シンクロ召喚！

砕け！

氷結界の龍グングニール」

赤みを帯びた氷の龍が現れる。

「モンスター効果発動！

俺は手札を二枚捨て、十代のリバーカード二枚を破壊するぜ！
フリージングランス！」

氷の矢がグングニールの上にできる、その矢が十代のリバーカードに、向かう。

「リバーカードオープン！

クリボーを呼ぶ笛！

効果によりハネクリボーを守備表示で特殊召喚！」

小さな羽の生えた、毛玉のようなモンスターが現れる。

「ならグングニールでハネクリボーを攻撃！

フリージングブレス！」

グングニールが氷のブレスを放つ！

「ターンエンドだ！」

康太

LP3600

手札 3枚

モンスター グングニール

伏せ 1枚

「俺のターンドロ―！」

「クレイマンを守備表示で召喚！
カードを一枚伏せてターンエンドだ」

十代

LP4000

手札 1枚

モンスター クレイマン（守備表示）
リバースカード 1枚

「俺のターンドロ―！」

俺は氷結界の軍師を召喚！」

傘をかぶった老人が現れる。

「俺は氷結界の軍師の効果により、氷結界の舞姫を捨て一枚ドロ―
！」

軍師がなにか指示をする。

手札の舞姫墓地に捨てられ、一枚ドロ―させてもらう。

「死者蘇生を発動！」

俺は氷結界の舞姫を特殊召喚！」

かなり美人な女性が現れる。

かなり俺好みな女性だな。って話が逸れたな。

「俺は手札の氷結界を見せることで、舞姫の効果発動！俺は二枚見せる。」

リバーズカードを二枚手札に戻す」

風が起きる。

その風により、十代のリバーズカードが手札に戻る。

見せたカード

氷結界の番人ブリズド

氷結界の軍師

「グングニールの効果発動！

軍師を捨て、クレイマンを破壊するぜ！

フリージングランス！」

「俺の負けか……。

でも楽しかったぜ！

康太来いよ！」

「いくぜ！

グングニールでダイレクトアタック！

フリージングブレス！」

十代

LP4000 1500

「舞姫でとどめだ！」

吹雪が起き、十代のライフを削る。

十代

S i d e 康太

「負けちまったか・・・」

「今回は勝たせてもらったぜ。」

「次やったら負けるかもな」

実際かなりまずかった。

いつ負けてもおかしくなかったもんな。

「次は勝たしてもらっぜ」

と、十代が言う。

「返り討ちにしてやるよ。」

後で、一緒にデッキ調整でもしないか？」

そう言うと、十代はこっ返す。

「いいぜ！」

また後でな！」

「ああ！」

因みに俺の部屋は十代の部屋の横で、一人部屋だ。

じゃあ準備するか・・・。

十代にグングニールをチューナーと一緒に渡そうかな？

10枚有るし・・・。

S i d e 十代

後で、康太とデッキ調整するぜ！

楽しみだな！

シンクロモンスターとチューナーモンスターを交換してもらおうかな？

まあ後で考えよう！

S i d e E n d

楽しいデュエル！ VS 十代 後編（後書き）

ミスが多くて申し訳ありません。

約束（前書き）

今回はすんなり書けました。

どしどしー！

約束

Side 康太

そついやあまりのカードはあんまり弄ってなかったな……。

B Fとかシリーズ別に全部ちゃんと整理してあったから簡単に選んで組めたが、E・HEROは別の種類のカードもよく使うから、いろいろ見なきゃならん。

無くなってるカードとか有るのかな？

……数分後……

使うと歴史が変わるようなカードは無くなってるなシンクロ以外だ
がな。

はっきりしたことは、地縛神とかオベリスクの巨神兵とかのヤバい
カードだけ消えていることだ。

それや、世界に一枚しかないような特定人物専用のカードだな。

宝玉獣とか、D・HEROとかのな。

まあ問題ないな。

「オーイ。康太来たぞ！」

十代が来たな……。

「入ってくれ！
鍵は開いている。」

「わかった」

そう言うと十代は入って来た。

「頼む康太！

チューナーモンスターとシンクロモンスターを少しでいいから譲ってくれないか？」

十代はそう言っているが、こっちはグングニールの処理に困っているからデブリドラゴンと沼地の魔神王と一緒に渡そうと思ってたんだが……。

「別にかまわん。

グングニールとデブリドラゴンをやるよ
あと、ダークダイブボンバーを返せ」

「わかったよ

ありがとうな康太」

ダークダイブボンバーを渡してくる十代とグングニールとデブリドラゴンを渡す俺……。

かなりシユールだな。

「俺のカードで十代のデッキに合いそうなカードを探してたんだ。
結構あるし、使わないからやるよ」

そう言つてZeroとシャイニングとガイアとGreat TOR
NADOとノヴァマスターと沼地の魔神王とグングニールとデブリ
ドラゴンとエアーマンとオーシャンとフォレストマンを三枚づつ渡
す。

「かなり多いな。」

「ありがとうな康太！」

「大切に使うな！」

「そう言つてくれるとうれしいな」

そう言つと十代はデッキを取り出した。

「どれを抜いたらいいと思う？」

「そう聞かれたから。」

「ヒーローバリアと、ヒーートハートとバブルショットとスパークガンとクレイラップとエッジハンマーだな。」

「専用カードだから使いにくいからな。」

「あと、エッジマンとネクロダークマンも使いにくいから抜いたらどうだ？」

「ああ！わかった！」

「そんなこんなで調整は終わって一服して寝ようとしたら……。」

「大変だ！」

「翔がさらわれた！」

「そう言いながら、いきなり血相を変えて、十代が入ってきた。」

「何故俺のここに来た？」

そう聞くと、十代はこう、返事してきた。

「女子寮に来てって言われたけど女子寮の場所がわからないから案内して欲しいんだ！」

「わかった。

そいつはダークダイブボンバーの鎧にしてやる。
行くぞ！十代」

「ああ」

そう言って女子寮に向かった。

次回に続く。

約束（後書き）

次回予告

外道主人公に戻った康太は明日香をダークダイブボンバーによって
ワンキルすると決めた。

次回

原作なんてぶち壊せ！ VS 明日香

康太「俺は勝利をリスペクトする！」

原作なんてぶち壊せ！ VS 明日香（前書き）

案外簡単に書けました。

康太のソリティアゲーです。

原作なんてぶち壊せ！ VS 明日香

Side 康太

女子寮に着いたぜ！

俺の眠りを妨げた奴はどこだ？

ダークダイブボンバーで潰してやる！

「遊城 十代！

私とデュエルしなさい！

あなたが勝つたら、翔君は返してあげる」

「助けてよ！アニキ！」

「わかった・・・デュエル「ちょっと待った！」なんだよ康太？」

「貴様は俺の眠りを妨げた！

仕返ししなきゃ、気がすまん！

デュエルだ！」

（彼ってシンクロモンスターとかいうモンスターを使ってた・・・
実力が気になったのよね・・・）

「いいわ！受けてあげる！」

「よし！デュエルだ！」

NoSide

「デュエル！」

「先行はどうする？」

明「あなたに譲ってあげる」

「俺のターンドロー！」

（デッキ間違えた！

ワンキルデッキじゃないだど・・・）

そう康太は思う。

「俺はモンスターをセット
ターンエンド」

康太

手札 5枚

モンスター セットモンスター 1枚

「私のターンドロー！」

「エトワールサイバーを召喚

エトワールサイバーでセットモンスターを攻撃！」

体に包帯を巻いたようなモンスターが出てくる。

そのあと、そのモンスターが回転し、攻撃してくる。

「セットモンスターはライトロードハンター・ライコウだ！」

効果により、デッキの上から三枚墓地に送りエトワ・ルサイバーを破壊する」

送られたカード

ボルト・ヘッジホッグ

レベル・ステイラー

グロリアップ・バルブ

「カードを二枚伏せてターンエンド」

明日香

LP4000

手札 3枚

リバースカード 2枚

「俺のターンドロ」

(勝ったなこりゃ)

康太はそう思った。

「俺は、大嵐を発動！

あなたのフィールドの魔法罫を潰させてもらっぜー！」

破壊されたカード

炸裂装甲

次元幽閉

(一枚ガチカードじゃないか！
やばかったな！)

康太は大嵐を手札に引けてよかったと思った。

「強欲な壺を発動し、二枚ドロ―！
増援を発動し、ジャンク・シンクロンを召喚！
効果によりグローアップ・バルブを特殊召喚！
手札から、ドッペル・ウォリアーを特殊召喚！」

オレンジ色の鍋をかぶった、ゴミでできたような人型のモンスターが現れる。

その後、目の着いた奇妙なモンスターが現れる、そして、銃を構えた男が現れる。

「レベル2ドッペル・ウォリアーにレベル3ジャンク・シンクロンをチューニング！」

ジャンクシンクロンが三つの輪になり、ドッペルウォリアーが星になる。

「シンクロ召喚！」

GO!TG ハイパーライブラリアン！」

本を持った男が現れる。

「シンクロ素材になったドッペルウォリアーの効果発動！
ドッペルトークンを特殊召喚！」

銃を構えた男が二人現れる。

全く同じ説明をさっきした気がするぜ……。

「レベル1グローアップ・バルブに、レベル1ドゥペルトークンをチューニング！」

奇妙な植物が、一つの輪になり、銃を構えた男が星になる。

「シンクロ召喚！希望のカシンクロチューナー、フォーミュラ・シンクロン！」

F1のスポーツカーのようなモンスターが現れる。

「ハイパーライブラリアンの効果により一枚ドロー！」

更にフォーミュラ・シンクロンの効果により一枚ドローする！

グローアップ・バルブの効果発動！

デッキの上のカードを一枚墓地に送り、このカードを特殊召喚できる！」

墓地に送られたカード

スターライトロード

(墓地に送られたカードは気にしねえ！)

康太はそう考えながらプレイする。

「もう一度、シンクロ召喚！」

フォーミュラシンクロン！もう一度ハイパーライブラリアンの効果により一枚ドロー！

フォーミュラシンクロンの効果により一枚ドロー！

THEトリッキーを効果により特殊召喚！」

効果で捨てたカード

レベル・ステイラー

「更に死者蘇生を発動！
ジャンクシンクロンを特殊召喚！」

顔に？が描かれたマントを付けた奇術師みたいなモンスターが現れたあと、また鍋をかぶったような人型モンスターが現れる。

「集いし星が新たに輝く星となる！
光さす道となれ！
シンクロ召喚！
現れる！スターダストドラゴン！」

「綺麗な（ね）」

明日香と十代がそう呟く。

「ハイパーライブラリアンの効果により一枚ドロ―！
レベル8スターダストドラゴンにレベル2シンクロチューナーフォ
ーミュラシンクロンをチューニング！」
フォーミュラシンクロンが二つの輪になり、スターダストドラゴン
が八つの星になる。

「クリアマインド！
集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く！
光さす道となれ！
アクセルシンクロ！
現れる！シューティング・スター・ドラゴン！」

機械のような、龍が現れる。

さてと、潰すか。

「ハイパーライブラリアンでダイレクトアタック！」
ハイパーライブラリアンが本を投げつける。

「シューティング・スター・ドラゴンでダイレクトアタック！」
スターダスト・ミラージュ！」

シューティングスタードラゴンが突撃する！

「終わりだな。」

「ええ、約束だし、翔君は返してあげるわ」

「わかった……。帰るぞ、十代、翔！」

「ああ」

「ハイっす」

「あと翔は帰りは一人で船を漕げ」

「嫌っすよ！」

「なんでやらないといけないんすか？」

「俺達はもう寝るはずだったのに、眠りを妨げたからだ！
それとも、ダークダイブボンバーの錆になるか？」

「……。わかつたっす」

（二度と康太を怒らせないようにしよう）

二人の心がシンクロした瞬間だった。

Side End

Side 明日香

「帰るわよ！」

ジュンコ、モモエ。」

「「わかりました。

明日香様」

「フフ、康太ってなんかおもしろそう」

「なんか言いましたか？」

明日香様？」

「いや、何も無いわ。

それより、あの子にこのことを伝えましょう」

「わかりました明日香様」

（今回はこうなったけど、次はこうは行かないわよ！
またデュエルしましょう、康太！）

Side End

原作なんてぶち壊せ！ VS 明日香（後書き）

次回予告

俺以外のトリッパーだと！

しかも女子かよ・・・やりにくいな・・・。

だが、デュエルに女も男も関係ない！

デュエルだ！

次回

崩壊しだした原作 VS？

崩壊しだした原作 VS? (前書き)

またミスしました。

情けないです。

申し訳ありません。

崩壊しだした原作 VS？

Side 康太

今何故か明日香に絡まれている。

どうしたらいいんだ！

「早く来なさい！

あの子が待ってるのよ！

あの子にあなたを連れて来るように頼まれたのよ！

早く来て！」

そう明日香に言われたがあの子って誰だよ……。

それより、明日香が「あの子」なんて呼んでた人物なんて原作にいなかったと思うんだが……？

まさか、俺以外の転生者か？

勘弁してくれよ。

面倒事が増える……。

「何回言えば気が済むんだ！

断るって言ってるんだからそろそろ諦める！

じゃないと前以上のオーバーキルするぞ？

そいつに伝えとけ、お前自身が来いってな！」

そう返すと明日香は電話をかけた。

「……わかったわ。

沙也加！来なさい！」

「わかりました〜今行きます〜」

「来んのかよ!」

「来るけど、あの子ってかなりシャイなのよ・・・。
自分が会いたいののに、他人に呼ばせたりとかね」

「それって、ただ面倒を他人に押し付けてるだけだろ・・・。」

「まあそう言わないで、会ってあげて」

「仕方ない、わかった。

ただし、嫌になったらすぐに帰るからな」

わかったわ」

そう言っつて、明日香はため息をつく。

「お前も苦労してるんだな。

これいるか?」

俺はそう言っつて胃薬を渡す。

「・・・ええ、少しもらうわ。」

そう言っつと明日香は胃薬を受け取っつて

「水をくれないかしら?」

飲めないから」

「わかったよ」

そう言っつて、俺は水を渡す。

「ありがとう。」

あっ、来たわね。

こっちよ、沙也加!」

明日香が向いた方向を見ると、茶髪の結構かわいい女子が走ってきている。

「はじめまして、藍沢 沙也加です!

よろしく願いします!」

そう言われたからには、こっちも挨拶程度はしないとな。

「はじめまして高嶺 康太だ。

康太と呼んでくれ。

よろしくな」

「わかりました!

康太さん」

「なんだ?」

「いきなりですが、デュエルしませんか?」

「何故そうなった?

理由を話して欲しい」

「あなたも、シンクロモンスターを使っていたからです。

私は公の場では使ってませんでしたから、目立ちませんでしたかね」

またシンクロモンスターのせいか!

それより、この子なんて言った？
あなたも、シンクロモンスターを使っていたって言ったよな？
こいつ、俺と同じ転生者だな？

「明日香、しばらく別の所に行ってくれないか？
二人きりで話がしたい」

「わかったわ、その子に手を出したら殺すわよ？
社会的に」

「・・・わかった。

わかったから物騒なことを言うな
つか、どんだけ過保護なんだ！」

「じゃあとで呼んでね」
そう言っつて明日香は席を外す。

「さてと、まずひとつ聞きたい。

お前も転生者か？」

「はいそうですよ！」

あなたと同じで転生者です」

やっぱりか！

ヤバいな・・・。

「明日香にカード渡したりとかしたか？」

「渡してないですよ。」

それより、あなたこそ、渡してないですよね？
渡しても問題ないですけどね」

「俺は十代に何枚か渡した。」

十代のデッキが外道になったが気にするな」

「わかりました。」

明日香さんと呼んで、デュエルしましょうか！」

「わかった」

そう返事したらずぐ沙也加が電話を取り出す。

「早めに戻って来てくださいね」

「わかったわ」

・・・数分後・・・

「あの子に手を出してないわよね？」

「帰ってきて最初の発言がそれか！

出してねえよ！」「わかったわ・・・」

「さてと、デュエルしようか！」

「はい！」

NoSide

「「デュエル」

「先行はどうします？」

「沙也加に譲るよ」

「じゃあ、私のターンドロー！」

「私は、強欲な壺を発動します。
効果により二枚ドローします！
更に天使の施しを発動します。
三枚ドローし手札を二枚捨てます」

捨てたカード

ダンディライオン

ダンディライオン

「効果によりフィールドに綿毛トークンを四枚特殊召喚します！
綿毛が四枚も呼び出される。」

「カードを二枚伏せてターンエンドです」

沙也加

LP4000

手札 4枚

モンスター 綿毛トークン（守備表示）4枚

リバースカード 2枚

「壁モンスターが多いな。」

俺のターンドロー！

俺は天使の施しを発動し、三枚ドローし、二枚捨てる」

捨てたカード

ダンディライオン

グローアップ・バルブ

「ダンディライオンの効果により、綿毛トークンを特殊召喚！」

二枚の綿毛が出てくる。

「更にジャンクシンクロンを召喚！」

オレンジ色の鍋をかぶったような人型モンスターが現れる。

「ジャンク・シンクロンの効果によりグローアップ・バルブを特殊召喚！」

「レベル1綿毛トークン二枚にレベル3ジャンク・シンクロンをチューニング！」

ジャンクシンクロンが三つの輪になり、綿毛トークン二枚が二つの星になる。

「シンクロ召喚！」

GO!TG ハイパーライブラリアン！」

このデッキのドロー要員が現れる。

「更にワンショット・ブースターを特殊召喚！」

小さな、機械のようなモンスターが現れる。

「レベル1グローアップバルブにレベル1ワンショットブースターをチューニング！」

(この前のデュエルと同じ動き！)

「気をつけて沙也加！」

「シンクロ召喚！」

希望の力、シンクロチューナー、フォーミュラシンクロン」

F1カーのようなモンスターが現れる。

「ハイパーライブラリアンの効果発動！

一枚ドロー！

更にフォーミュラシンクロンの効果で一枚ドロー！」

「畏発動！激流葬！」

そう沙也加が言い、畏を発動すると、沙也加と康太のフィールドのモンスターはすべて破壊された。

「私のフィールドのモンスターが破壊されたので、機皇帝ワイゼルを特殊召喚します！」

白い人型モンスターが現れる。

「カードを二枚伏せてターンエンドだ」

康太

LP4000

手札 4枚

リバーズカード 2枚

「私のターンドロー！」

機皇帝ワイゼル でダイレクトアタック！」

「畏発動！次元幽閉！」

次元の狭間にワイゼルが吸い込まれる。

「ターンエンドです」

沙也加

LP4000

手札 5枚

リバーズカード 1枚

「俺のターンドロー！」

魔法カード死者蘇生を發動し、TG ハイパーライブラリアンを特殊召喚！

更に、リバーズカードオープン。

リビングデッドの呼び声！

効果によりフォーミュラシンクロンを特殊召喚！

更にレベル5TG ハイパーライブラリアンにレベル2フォーミュラシンクロンをチューニング！」

フォーミュラシンクロンが二つの輪になり、ハイパーライブラリアンが五つの星になる。

「冷たい炎が世界の全てを包み込む。

漆黒の華よ、開け！

シンクロ召喚！

現れる！ブラックローズドラゴン！」

薔薇のような龍が現れる。

「ブラックローズドラゴンの効果発動！

お互いのフィールドのカードを全て破壊する！

ブラックローズガイル！」

薔薇の華のお互いのフィールドのカードが全て破壊される。

「魔法カードミラクルシンクロフュージョンを発動！
効果により、ブラックローズドラゴンとジャンクシンクロンを除外
し、波動龍騎士ドラゴエキテスを融合召喚！」

大きな槍を持った騎士が現れる。

（まだライフは残ってるしまだ逆転できる！）

「このターンに終わらせる！」

ドッペルウォリアーを攻撃表示で召喚！」

銃を構えた男が現れる。

（本当に頼りになるぜ！）

「ドッペルウォリアーでダイレクトアタック！」ドッペルウォリア
ーが銃を乱射する。

沙也加

LP4000 3200

「これでラストだ！」

ドラゴエキテスでダイレクトアタック！」

ドラゴエキテスがその手に持っている槍を投げつける！

沙也加

LP3200 0

Side 康太

「やばかったな。」

最後のターンにミラクルシンクロフュージョンを引かなかったら負けていたし、死者蘇生もなかったらやばかった」
「かなり運任せでしたね。」

「言うな。」

自分でもそう思う」

「「ハハハハハハ」」

「あなた達私のこと忘れてない？」

「「すまん（すいません）忘れてた（忘れてました）」」
そう言つて二人で土下座した。

「酷いわね。」

ずっと居たのに
まあいいけどね」

「なら言わないでくれよ」「本当ですよ！
言わないでくださいよ」

「ところで沙也加、あなたもシンクロモンスターを使うのね。
知らなかったからびっくりしたわ」

「言い忘れててごめんなさい」

「気にしてないから謝らなくていいからね」「わかりました。
じゃあまたあとで会いましょう」

「じゃあまた今度な」

「はい」

「あと、機皇帝は使いな」

「わかりました……って待ってよ、明日香さん」

月一試験く十代編く(前書き)

外道十代の初デュエルです！

月一試験く十代編く

Side十代

寝坊しちゃった！

今日はテストなのによ！

あんなところにトラックを押ししてるおばちゃんがいる！
助けなきゃ！

「大丈夫か？手伝うよ！」

「今日は試験だよ？
急がなくて大丈夫かい？」

「困った時はお互い様ってね」

「ありがとう」

・・・数分後・・・

やっと登りきったぜ！

「じゃあ俺行くよ。
じゃあな！」

俺はそういうと全力でアカデミアの校舎に向かって走りだした。

・・・数分後・・・

「十代君、20分も遅刻して大丈夫なのかな？」

「すみませんでした！」

「わかったらいいのにゃ」

「はい！」

こうして俺はテストを受けはじめた。

Side End

Side 康太

原作に十代の説教されるシーンなんてあったっけ？

まあいいか。

とりあえず、シンクro使うかどうか、決めなきゃな。

十代が居るな・・・話し掛けるか。

「十代、何で遅刻したんだ？」

「トラックを押してるおばちゃんがいだから助けてたんだ」

理由は原作と同じか・・・

「これからどうする？」

「購買部に行くぜ！」

新しいパックを買いに行くんだ！」

原作だとクロノスが買い占めたんだよな……。

「わかった、俺も行く」

「じゃあ早く行こうぜ！」

「ああ」

「僕のこと忘れてないすか？」

……数分後……

「「売り切れ!?!」」

翔と十代が叫んでいる。

まあ仕方ないか。

「全部買い占めていった生徒がいたのよ。
ごめんなさいね」

余ってるパックが無いだと!

「どうしたんだい？」

「ってあんたは、朝の!」

「おばちゃんって購買部の人だったんだ」

「トメって呼んでね。
いいもの有るわよお客さん」

そういつて、トメさんは十代にパックを渡す。

「いいのか？トメさん」

「今朝の御礼だよ」

「ありがとな！トメさん！」

「じゃあそろそろ、行こうぜ。」

早く行かないと、テストに遅れる」

「わかったぜ、康太」

「わかったっす」

さてと行くか。

Side End

Side 十代

実技試験の会場に来たけど、なんかおかしいな？

「なんで俺の相手が万丈目なんだ？」

俺はクロノス先生に聞いてみる。

「あなたの相手は、レッド寮の人間で、は釣り合わないノーネ。

だからシニョール万丈目に任したノーネ」

「早く構えろ！遊城 十代！」

「ああ！」

NoSide

「デュエル」

「先行はどうする？」

「オシリスレッドのお前に譲ってやる！」

「俺のターンドロ」

「E・HEROエアーマンを召喚！」

プロペラの付いた羽を持つHEROが現れる。

「効果により、オーシャンを手札に加える。

カードを二枚伏せてターンエンド」

十代

LP4000

手札 4枚

モンスター エアーマン

リバースカード 2枚「俺のターンドロ」

フィールドラゴンヘッドを守備表示で召喚！」

赤い龍のような機械が現れる。

「カードを一枚伏せてターンエンド」

万丈目

LP4000

手札 4枚

モンスター Yードラゴンヘッド

リバースカード 1枚

「俺のターンドロ」

「リバースカードオープン！

強烈なはたきおとし」

（あんなカード原作では使ってたはずだぞ？

ここまで原作が変わったか・・・？

面倒だな。）

康太はそう思った。

墓地に送られたカード

E・HEROフォレストマン

「魔法カード融合を発動！

手札のオーシャンと手札のスパークマンを融合し、E・HEROア
ブソルトZeroを融合召喚！」

氷で出来たHEROが現れる。

「更に手札から沼地の魔神王を捨てることで融合を手札に加える。

更にミラクルフュージョンを発動！

効果によりスパークマンと沼地の魔神王を除外し、シャイニング・
フレア・ウイングマンを融合召喚！」

説明しにくい不気味な光ったHEROが現れる。

「シャイニングフレアウイングマンは墓地のHEROの数×300
ポイント攻撃力を上げる！」シャイニングフレアウイングマン

ATK2500 3400

「アブソルトZeroでYードラゴンヘッドを攻撃！
FREEZING AT MOMENT！」

アブソルトZeroが突進する。

つて危ないな。「更にシャイニングフレアウイングマンでダイレク
トアタック！

シャイニングシュート！」

シャイニングフレアウイングマンが上昇し、急降下して相手を攻撃
する。

万丈目

LP4000 600

「これで終わりだ！

リバーズカードオープン！

仕込みマシガン！

相手に相手の手札とフィールドのカードの枚数×200ポイントダ
メージを与える！」

(さっき、調整したときあまりのカード混ざっちゃまったみたいだな。
そのおかげで勝ってたけどな)

S i d e 十代

「くそ！」

何故負けたんだ！」

そう万丈目は叫ぶ

「デュエルをもっと楽しもうぜ！」

「くそ！」

そう言うと万丈目は悔しそうに帰ってしまふ。

さてと帰るか。

S i d e E n d

月一試験く十代編く(後書き)

十代が外道にししか見えなくなってきました・・・

月一試験く沙也加編く（前書き）

またミスしました情けないです。

アンケート始めました。

詳しくは、俺の活動報告にて

月一試験〜沙也加編〜

Side 沙也加

さてと準備できましたし、試験を受けましょう！

・・・数分後・・・

試験会場に着きました！

「それじゃ、試験を始めるにや」

・・・簡単ですね。

問い15

レベル8の通常モンスターで最も攻撃力の高いモンスターを答えなさい。

って社長！何やってるんですか!？

青眼の白龍ですね、答えは。

問い30

青眼の白龍の攻撃力を答えなさい。

またですか社長！

こんな問題、ほとんどの生徒が答えられないでしょう!？

3000ですね、わかります。

・・・数分後・・・

「十代君、20分も遅れてきて大丈夫なのかにや？」

「すいませんでした！」

前でそんな話をしていますが、無視しましょう。

・・・数分後・・・

テストが終わりました！

「沙也加！購買部行かない？」

明日香さんがそう言うってくれますが。

「いえ、やめておきます。」

デッキを調整したいので・・・」

「わかったわ、一人で行くわ」

「ごめんなさい」

「謝らなくていいわよ。」

こっちが勝手に誘っただけだから」

「はい！わかりました」

そういつて私達は別れました。

・・・数分後・・・

実技試験が始まりました！

「藍沢 沙也加。
三番試験場に来い！」

そして、私の実技試験が始まりました。

・・・試験場到着後・・・
私の相手は・・・あなたなの？

「ちょっと鮎川先生に頼んで、弄らせてもらったの」

「ちょっと待つてよ！」

明日香さんが相手なんて、どうしよう？

「本気で相手してね？」

「・・・わかりました。やりますよ」

「実技試験開始！」

NoSide

「デュエル」

「私のターンドロー！
私はブレードスケーターを召喚！」

全身タイツを着た女性が現れる。

ブレードスケーター

ATK1500

「ターンエンド」

明日香

LP4000

手札 5枚

モンスター ブレードスケーター

「私のターンドロー！」

私はトレードインを發動します！

効果により、光神機「轟龍」を捨て二枚ドローします！

更に死者蘇生を發動します！

効果で轟龍を特殊召喚します！」

光神機「轟龍」

ATK2900

機械のような龍が現れる。

でも、天使族なんですよね・・・。

「更に苦渋の選択を發動します！」

選択されたカード

レベル・ステイラー

レベル・ステイラー

レベル・ステイラー

ダンディ・ライオン

ジャンクシンクロン

「私はダンディ・ライオンを選択するわ」

「私はダンディライオンを手札に加えます。
更に、冥界の宝札を発動します。」

そして、レベル・ステイラーの効果発動！
フィールドのレベル5以上のモンスターのレベルを一つ下げること
で特殊召喚します」

背中に一つだけ星が描かれた、てんとう虫が現れる。

レベル・ステイラー

ATK600

「更に、レベル・ステイラー二枚をいけにえに、創世神を召喚し
ます！」

説明しにくい、神々しいモンスターが現れる。

創世神

ATK2300

「冥界の宝札の効果により二枚ドロします。」

更にクイック・シンクロンの効果を手札より発動します。

ポルト・ヘッジホッグを捨て、特殊召喚します」

テンガロンハットをかぶった、銃を持った、モンスターが現れる。

クイック・シンクロン

ATK700

「レベル・ステイラーの効果を発動します。」

創世神のレベルを一つ下げること特殊召喚します！」

また、あのとんとう虫が現れる。

「レベル5クイック・シンクロンにレベル1レベル・ステイラーをチューニング!」

クイック・シンクロンが、五つの輪になり、レベル・ステイラーが一つの星になる

「シンクロ召喚!ターボ・ウォリアー!」

ターボ・ウォリアー

ATK2500

赤い車のようなモンスターが現れる。

「バトル!」

ターボ・ウォリアーで、ブレードスケーターを攻撃!
アクセル・スラッシュ!」

明日香

LP4000 3000

「創世神でダイレクトアタック!」

明日香

LP3000 700

「轟龍でダイレクトアタック」

明日香

LP7000

S i d e 沙也加

「私の勝ちですね」「ええ、貴女の勝ちよ」

「楽しかったですね！」

「ええ、楽しかったわ」

「ハハハハハハハハハハ」

私達は笑いあつて、私達の実技試験は終わった。

N o S i d e

月一試験〜康太編〜（前書き）

康太が外道にしか見えないな・・・改善しなくては！

月一試験〜康太編〜

Side 康太

今日は試験だな、昨日、翔が死者蘇生に祈るといふ馬鹿な行動をしてたからな。

あんなことしてる暇があったら勉強しろよ・・・。

とりあえず、暇だったから死者蘇生と死のデッキ破壊ウイルスを入れ替えておいた。

翔は残念なことになるだろうな。

って話が逸れたな。

今試験が始まるうとしている。

「それじゃあ試験を開始するのじゃ」

大徳寺先生の開始の合図とともに、試験が始まった。

・・・20分後・・・

「十代君、20分も遅刻して大丈夫かじゃ？」

「すみませんでした」

十代が叱られるイベントなんてあったっけ？

まあいい。

テストに集中しよう。

・・・数分後・・・

試験が終わった。

簡単だったから全教科が平均30分位で終わった。

しかし、ルールのテストはツツコミ所が多かったな・・・。

沙也加だったらツツコんだだつろな。

十代が居るな・・・話し掛けるか。

S i d e 十代

「アニキ、新しいパックが入荷したらしいつすよ。
買いに行きましょうよ、アニキ！」

「ああ！早く行こうぜ、翔」
俺達はこうして購買部に走って行った。

「なんで遅刻したんだ、十代？」

「トラックを押してるおばちゃんがいたから助けてたんだ」

事実しか言っていないぜ

「これからどうする？」

「購買部に行くぜ！」

新しいパックを買いに行くんだ！」

売り切れたら買えないし、早く行きたいぜ。

「わかった、俺も行く」

「じゃあ早く行こうぜ！」

「ああ」

「僕のこと忘れてないすか？」

翔がなんか言ってるけど、とっとと行こう！

・・・数分後・・・

「「売り切れ!?!」」

俺と翔は叫んだ。

かなりショックだぜ。

「全部買い占めていった生徒がいたのよ。

「ごめんなさいね」

「一つも余ってないのか!?!」

「どうしたんだい？」

「ってあんたは、朝の!」

「おばちゃんって購買部の人だったんだ」

「トメって呼んでね。
いいもの有るわよお客さん」

そういつて、トメさんは俺にパツクを渡してくれる。

「いいのか？トメさん」

「今朝の御礼だよ」

「ありがとな！トメさん！」

「じゃあそろそろ、行こうぜ。」

早く行かないと、テストに遅れる」

「わかつたぜ、康太」

「わかつたつす」

Side 康太

・・・数分後・・・

「クロノス先生、何故相手が彼何ですか？」

「シニョールカイザー自身の希望ナノーネ。

あなたみたいなドロップアウトボーイが相手してもらえるナンーテ
奇跡に近いノーネ。

万が一勝ったらブルー寮に昇格させてあげるノーネ」

「よろしく頼む」

おいおい勘弁してくれよ。

俺はサイバー・ドラゴンに何回もやられたんだ、デュエルしたくな

いんだよ！

でもデュエルするしかないか……。

「仕方ないか……デュエルしますよ。」

「じゃあデュエル開始ナノーネ！」

NoSide

「デュエル！」

「後攻でいいですか？」

「かまわん、俺のターンドロー！」

サイバーフェニックスを攻撃表示で召喚！」

機械で出来た、鳥のようなモンスターが現れる。

サイバーフェニックス

ATK1200

カードを一枚伏せてターンエンド」

亮

LP4000

手札 4枚

モンスター サイバーフェニックス(守)

リバースカード 1枚

「俺のターンドロー！」

カードを三枚伏せてモンスターをセットしターンエンド」

康太

LP4000

手札 2枚

モンスター セットモンスター

リバーズカード 3枚

「俺のターンドロー！」

俺は永続魔法、未来融合ーフューチャーフュージョナーを発動し、サイバーエンドドラゴンを選択し、サイバードラゴン三枚を墓地に送る

二ターン後、サイバーエンドドラゴンを融合デッキより融合召喚する！

「畏発動！ゴッドバードアタック。

効果により、セットモンスターをいけにえに捧げ、相手フィールドのカードを二枚破壊する！

サイバーフェニックスとセットカードを破壊！」

いけにえに捧げたカード

BFI大はいのヴァーク

「ターンエンド」

亮

LP4000

手札 4枚

リバーズカード無し 表側になった未来融合ーフューチャーフュージョナー

「俺のターンドロ―！」

魔法カード、強欲な壺を発動し、二枚ドロ―
リバースカードオープン！血の代償！

手札より永続魔法、黒い旋風を発動！

更に永続魔法一族の結束を発動

BFI黒槍のブラストを召喚！

黒い旋風の効果でシロツコを手札に加える」

ブラスト

ATK1700 2500

黒い大きな槍を持った鳥のようなモンスターが現れる。

「血の代償の効果発動！

500ライフを払い、シロツコを召喚！

黒い旋風の効果でブラストを手札に加える」

鳥のような被り物をかぶったような人型のモンスターが現れる。

シロツコ

ATK2000 2800

康太

LP4000 3500

「ブラストを自らの効果で特殊召喚！」

また槍を持った鳥のようなモンスターが現れる。

「二枚でダイレクトアタック！」

亮

LP4000 12000

「勝ったぜ？」「悔しいノーネ！」

でも、約束通りブルー寮に格上げノーネ」

「断る！」

「何でノーネ？」

「面倒くさいから」

「わかったノーネ」

「あと、レッド寮の飯を改善してほしい。
飯が質素過ぎる。」

そして、バランスが悪い」

「わかったノーネ」

「それじゃ、また今度。」

カイザー、楽しいデュエルだったぜ、じゃあな！」

「ああ、またデュエルしよう」

そうして康太の試験は終わった。

Side End

藍沢 沙也加のプロフィール（前書き）

沙也加のプロフィールです。

軽いネタバレがあります。

藍沢 沙也加のプロフィール

藍沢 沙也加

19歳 15歳

見た目

金色のガッシュュー！！の大海 恵が貧乳になった感じ。

性格

中学生の頃にイジメられていたため、他人に嫌われないようにしようとして、礼儀ただしくしはじめた。

元々、明るい性格だったが今は暗くシャイな性格になっている。

康太の転生した理由と同じ事件に巻き込まれ転生した。

明日香とは仲が良く、基本一緒に行動している。

使用デッキはいろいろ有るが元の世界では、上級天使デッキと、エンジェルパーミッションを使っていた。

好きなもの

パスタ 優しい人 こゝそれ以上は言っちゃ駄目です！
ネタバレです！

作者「居たのかよ！

沙也加「居ましたよ！」

嫌いなもの

藍沢 沙也加のプロフィール（後書き）

アンケート実施中です。

詳しくは俺の活動報告にて！

闇のデュエル！？ VS タイタン（前書き）

かなり難産でした。

それではどうぞ。

アンケート実施中

詳しくは俺の活動報告にて

闇のデュエル!? VS タイタン

Side 康太

「ふざけるな！」

何故、廃寮に行かなきゃならんだ！

離せ十代！俺はオカルトが、非科学的は苦手なんだ！」

「まあそう言うなよ、康太！」

一緒に廃寮に行こうぜ！」

何故こうなったかは回想を読んでくれ。

・・・回想・・・

俺は部屋でゆっくりデッキを調整していた。

ガチャガチャ ドアノブをひねる音 バタン ドアを開けた音

「オイ、康太！廃寮行こうぜ！」

そう言われたので。

「断る！ミルクでも貰おうか!？」

ネタで返した。

「ミルクは持ってないぜ・・・

とりあえず行くぞ！」

「やめろ！十代！何をするう！」

「引きずってでも連れて行く！」

と言って引きずられて行く。

そんな感じで廃寮に行くことになってしまった。

・・・回想終了・・・

廃寮に来てしまった。

翔は帰ろうと十代に提案しているが同感だ、早く帰ろう！

「いつそ、ここに住もうか？」

十代がそんなことを言っている。

「ふざけるな！こんなとこに住めるか！」

「掃除したら住めるだろ？」

「やめろ！こんな怖い場所に住む場所になんて出来るか！？
ミルクをよこせ！」

「ミルクは持ってないぜ？」

てか、そんな怖いかな？」

「非科学的なのは苦手なんだ！
やめろ！オカルトは嫌なんだ！」

「わかったわかった
とりあえず、早く奥に行こう・・・ってこれは明日香の（エトワールサイバー）！」

「どうして明日香のってわかるんだ！」

「勘だ」

「オイ、問題しかないぞ！」

「てか何故勘でそんなことを言うんだ！」

「わかったよ」

「私は闇のデュエリストタイタン」

「うるさい！俺とデュエルだ！」

「俺は今イライラしているんだ！」

「貴様みたいな中二病に関わってる暇は無い！」

「即潰してやる！」

「貴様が負けたらこの小娘共と貴様は死ぬ！」

「小娘共だと？」

「沙也加辺りでも捕まったか？」

「どこに居るんだ！その小娘共ってのはよ？」

「ここだ！」

タイタンが叫ぶと、二つの棺桶から明日香と沙也加が出てくる。

「そいつらは怪我とか、意識障害とかになってないよな？
なつてたら殺す」

俺はそう言つて鞆から折りたたみ式のナイフを取り出して構える。

「大丈夫だなつていない。
ちよつと睡眠薬を嗅がせただけだ」

「わかつた、半殺しで済ましてやる！」

俺はとりあえず、ムカついたからこう答えた。

「結局半殺しにされるのか!？」

そうタイタンは返してくる。

「もちろんさ！」

俺はかなり爽やかな笑顔で返してやる。

「そろそろデュエル始めるよ・・・。
そろそろ、その漫才飽きてきたぜ」

十代はそんなことを言っている。

「漫才じゃない!」「タイタンと八モつたが気にしない。

「行くぞ!」

「ああ！」

NoSide

「デュエル！」

「俺のターンドロー！
モンスターをセットしカードを二枚伏せてターンエンド」

康太

LP4000

手札 3枚

モンスター セットモンスター

魔法、罫 セットカード2枚

「私のターンドロー！」

私は、デーモンソルジャーを召喚！」

説明しにくい、悪魔みたいなモンスターが現れる。

デーモンソルジャー

ATK1900

「デーモンソルジャーでセットモンスターを攻撃！」

セットモンスター

氷結界の破術師 DEF1000

「私はこれでターンエンド。」

「俺のターンドロー！
俺はデブリ・ドラゴンを召喚！」

小さな龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「デブリ・ドラゴンの効果により、破術師を特殊召喚！」

小さな魔術師風のモンスターが現れる。

「レベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！」

集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！
仲間との絆を紡ぐ力となれ！

シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」

赤みを帯びた氷の龍が現れる。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「グングニールの効果発動！
手札を一枚捨て、デーモンソルジャーを破壊する！
フリージングランス！」

グングニールの頭上に氷の槍が出来、デーモンソルジャーに向かい
飛んでいく。

「グングニールでダイレクトアタック！」

フリージングブレス！」

タイタン

LP4000 1500

「ターンエンドだ」

康太

LP4000

手札 3枚

モンスター 氷結界の龍グングニール

魔法、罨 2枚

「私ターンドロ！」

私は、デーモンソルジャーを召喚！」

また説明しにくいモンスターが現れる」

デーモンソルジャー

DEF1500

「私はこれでターンエンド」

「俺のターンドロ！」

グングニールの効果により手札を一枚捨て、デーモンソルジャーを破壊する！

フリージングランス！」

またさっきのように、デーモンソルジャーが破壊される。

「グングニールでダイレクトアタック！」

フリージングブレス！」

タイタン

LP1500 0

「仕方ない、約束通り小娘共を解放してやる」

沙也加と明日香は約束通り解放された。

「十代、明日香をおんぶしてやれ。

俺は沙也加をおんぶして運ぶ」

そう言っつて沙也加を俺は背負う。

S i d e 沙也加

気がついたら、康太さんにおんぶされてる!?

何で!？ 何でなの!？

「ふにゅう」

なんだか変な声をあげて、また倒れた。

S i d e 康太

とりあえず俺の部屋の二段ベッドの下の段に寝かせておくか・・・
沙也加ってかなりかわいいな。

そっついや、さっき変な声あげたけどなんでだろう？

まあいい寝るか。

S i d e E n d

闇のデュエル!? VSタイタン(後書き)

ごめんなさい。

デーモンデッキがよくわからず、こんな感じになってしまいました。

退学デュエル！？（前書き）

今回はデュエル無しです。

ネタ八割シリアス二割でお送りします。

そしてアンケート実施中なので、アンケートの回答をお願いします。

退学デュエル！？

Side 康太

「開ける！高嶺 康太！開けないならばこの扉を爆破する！」

何故朝っぱらからこんなことを言われなきゃならん。

「わかった・・・せめて着替える時間をくれないか？

俺は寝るときはパンツだけで寝るタイプなんだ。

だから頼む」

実際の話、嘘だ。

沙也加を隠す時間だけでも稼がないといけないからな。

「わかった、三分間だけ待ってやる」

「スカ大佐か！？」

・・・三分後・・・

「何の用だ？」

恐らくは制裁タッグデュエル辺りだな。

「貴様等を廃寮に入った疑いにより査問委員会に連行する」

「わかった・・・抵抗はしない。

早く連れていけ」

・・・移動後・・・

「あなた達を退学にするノーネ」

「「退学うー」」

翔と十代が叫ぶ。

「そうなのーネ。

あなた達は廃寮に入り内部を荒らした疑いにより退学処分にするノ
ーネ」

「ふざけるな！能無し共！」

俺は久々に頭に来た。

原作なんてくそくらえだ！

壊してやる！

「何故不法侵入した変態を追いかけ、捕まえようとしたことが罪に
なる！？

何故人質を解放することが罪になる！？

何故朝っぱらから、扉を爆破させられそうになる？

何故朝っぱらから命を落とす可能性のあるような危険なことをさせ
られそうになる！？

答えてみる！クズ共！」

皆が黙る。

査問委員会達は皆顔が青ざめていつている。

【一歩間違えていたら、俺達は死んでいた。】
このことを一切考えていなかったのだろう。

校長達もかなりびっくりしている。

人質【沙也加達】を解放したことを知らなかったのだろう。

クロノス教諭は冷や汗をかいているようだ。

自分の依頼したことがこんな大事になると、俺達の退学だけで終わると信じていたのだろう。

そして、校長が口を開いた。

「あなたの主張はよくわかりました。

遊城 十代君と丸藤 翔君はレポートを明後日までに10枚提出するよつに。」

高嶺 康太君には、一週間後、退学を賭けたデュエルをしてもらいます。

廃寮に入った罪はこれで免除します」

そう校長は言った。

「ふざけんな！」

何で康太だけ、退学を賭けたデュエルなんてしなきゃいけないんだよ！」

そう十代は返す。

「いいんだ、十代！

俺は教師に暴言を言った。

その罪もある。

それくらいやらないと見逃したり出来ねえだろ？

教師のプライドくらい守る生け贄くらいにはなつてやるぞ。

それじゃ、失礼しました」

俺はそう言つて部屋から立ち去つた。

S i d e 十代

俺は認めない！

康太を生け贄になんて絶対させない！

せめて俺も一緒に生け贄になつてやる！

「校長先生！

康太を見逃してやつてくれ！

それが出来ないなら俺も康太と一緒に戦わせてくれ！

頼むよ！校長先生！」

俺は土下座して頼み込む。

「両方不可能です。

しかし、カードを貸したりするような助け合いくらいならいくらでも認めます。

一緒にタッグデュエルするだけが、共に戦つということでは無いんですよ？

あなたは今出来ることを出来る限りやりなさい。

それが高嶺君の意志なのですから」

校長先生はそう言ってくれ。

「わかったよ・・・なら早速助けに行ってくるよ。待ってるよ、康太今行くからな！」

S i d e 沙也加

朝起きたら、12時30分でした。

何で康太君の部屋に居るの？

とりあえず、アカデミアには休むことを伝えておきましょう。

「もしもし？」

藍沢沙也加ですけど、鮎川先生はいらっしゃいますか？

あっ先生ですか！

今日は風邪みたいなので、休みます。

明日はおそらく行きますので」

プツツという音と共に電話は切れました。

二段ベッドは上の段の方がいいし、康太さんが楽なので上の段に上がりましょう。

S i d e 康太

生徒指導の先生の説教も終わったし、帰ろう。

今日はもう授業終わったしな。

説教だけでかなりの時間使ったな……。

8時間もかかったぜ。

「ただいま」

一応帰ってきたし言うておく。

多分返って来ないであろう挨拶をするなんておかしいかも「お帰りなさい、康太さん」なって返ってきた!?

「誰だ?」

「私ですよ!」

そう言っつて沙也加が二段ベッドの上の段から言ってくる。

「何故そこにいるんだ、沙也加?」

そう聞くと。

「とりあえずしばらくここに泊まっていいですか?」

と返される。

「何故だ!?」

「私、一人部屋なんですよ。

毎日寂しいんですよ!

だから一緒に居させてください!」

こんなこと言われたら断りにくいじゃないか！

「俺、理性なくしていきなりレ プしたりするかもよ？
それでもいいのか？」

もちろん嘘だ。

沙也加を追い返さないと、いろいろまずい、主に性的な意味でな。

「別に大丈夫ですから、居させてください！」

「・・・わかったよ」

心配事が増えるなあ・・・。

ガチャガチャ ドアノブを回そうとする音

「康太！

開けてくれよ！」

今日は沙也加が居るから、入られたらまずい！

「今部屋片付いてないから入れないんだ。
だから明日にしてくれ」

「わかったよ」

「仕方ない、今日からよろしくな」

「はい！」

S
i
d
e
E
n
d

退学デュエル！？【前日準備編】（前書き）

今回もデュエル無しです。

アンケート実施中です。

詳しくは、俺の活動報告にて

退学デュエル！？【前日準備編】

Side 康太

今、十代の部屋に居る。

理由？

俺のデッキ調整だ。

「康太！これいるか？」

「これは・・・いるよ。」

明日のデュエルの時デッキに入れておくよ。
ありがとう十代」

「使わないカードだし別にいいさ
それより、明日勝てよ？」

「わかってる。」

きつと勝ってみせる」

そういえば、十代には沙也加のことは伝えてある。

理由は匿う時に協力者が居てほしいからだ。

今回のことは、沙也加には来ないよう伝えてある。

来たら、翔や隼人辺りにばらされるからな、多分。

「そついや、康太のデッキって何種類有るんだ？
いろいろ使ってるけどさ」

「今は三種類だ。」

氷結界とBFとドツペルウオリアーデッキだな。

基本的にBFは使わないつもりだ。

あと、ダークダイブボンバーも使わないようにしている。

そして、アカデミアの中では基本、氷結界使いという扱いになるようにしている。

あとの残りのデッキはやばい時用に使うようにしている」

「そうか・・・」

「これくらいでお開きにして、そろそろ寝ようぜ。
俺はもうくたくただ」

実際最近毎日居残りで指導されてるからな。

「まだ、18時半だぜ？

早くないか？」

「居残りで毎日指導されてるから疲れてるんだよ。
ちゃんと飯の時間には食堂に行くよ」

「わかったよ。またあとでな」

「ああ！」

こうして俺は部屋に帰った。

「ただいま！」

「お帰りなさい、康太さん！」

「今から寝るから、飯の時間になったら起こしてくれ」

「わかりました。

おやすみなさい、康太さん」

・・・30分後・・・

「起きてください！

ご飯の時間ですよ！」

「わかった・・・」

こうして俺は目覚めた。

「ご飯食べに行きましょうよ！」

「大徳寺先生に貰いに行くだけだな」

最近は何で部屋で二人で食べている。

一人残したらかわいそうだからな。

「この焼き魚おいしいですね、康太さん」

「そうだな」

こんな感じで食事は終わる。

風呂？

風呂の時間だけはブルー寮に帰らせてるよ？

・・・そして寝る時間になって行く・・・

「沙也加、おやすみ」

「おやすみなさい、康太さん」

こうして康太の一日が終わる。

Sideクロノス

あのドロップアウトボーイはあの武藤 遊戯と戦った伝説のデュエ
リストによって潰されるノーネ。

あのドロップアウトボーイもおしまいナノーネ！

SideEnd

退学デュエル！【本番】（前書き）

今回はデュエル五割シリーズ二割ネタ三割のつもりです。

退学デュエル！【本番】

S i d e 康太

「さてと、行くか！」

俺は精一杯自分を騙す。

もし負けた場合、沙也加を傷つけてしまう【精神的な意味で】

それだけはしたくない。

何故かわからないが、沙也加の悲しむ顔は見たくないんだ。

せめて退学を賭けたデュエルをすることだけは悟られないように沙也加を騙し続けた。

今日は胸を張って帰れるようにしよう。

S i d e 沙也加

最近、康太さんの態度がおかしい。

食事中も、おしゃべりしている時も、ずっと上の空でした。

もしかして退学を賭けたデュエルをやらされるとかかな？

絶対康太さんとは離れたくない。

初めて出来た好きな人だもん！

S i d e 康太

さて、デュエル場に着いた。

ちなみに観客は鮫島校長とクロノス教諭だけだ。

俺が頼み込んで、生徒には発表しないようにしてもらった。

沙也加には絶対観られたくない。

「誰が俺の相手だ？」

十代と調整したデツキは実は氷結界じゃない。

氷結界に見せ掛けた、氷結界の余りのパーツだ。

十代には絶対見せたくなかったのだ。

最強の氷結界の龍の姿を。

「俺だ！」

「勝たせてもらうぜ、城之内 克也！」

N o S i d e

「「デュエル」「」

「俺が先行をもらう！」

トローー！！

モンスターをセット、カードを二枚伏せターンエンド」

康太

LP4000

手札 3枚

モンスター セットモンスター1枚

リバースカード 2枚

「俺のターンドロー！」

ロケット戦士を召喚！」

頭に刺のついた剣と盾を持つ戦士が現れる。

ロケット戦士

ATK1500

「ロケット戦士でセットモンスターを攻撃！」

ロケット戦士がその名前のとおり、ロケットのようになる。

「畏発動！和睦の使者！」

セットモンスター

氷結界の武士

「ターンエンド」

城之内

LP4000

手札 5枚

モンスター ロケット戦士

「俺のターンドロー！」

俺は氷結界の術師を召喚！」

氷の杖を持った男性が現れる。

今回のデッキ調整で入れた、普段使わないカードだ。

「レベル4氷結界の武士にレベル2氷結界の術師をチューニング！」

「チューニングって、依頼された時に言われたシンクロモンスターとか言う珍しいカードの事か？」

「ああ！」

「氷結界の里より現れし龍が世界を凍らせ全てを消し去る！
仲間との絆を紡ぐ力となれ！」

シンクロ召喚！

消し去れ！氷結界の龍ブリューナク」

顔が氷の結晶のような龍が現れる。

氷結界の龍ブリューナク

ATK2300

「氷結界の龍ブリューナクでロケット戦士を攻撃！
エターナル アイス」

康太はかなり中二臭い攻撃名を叫ぶ。

（かなり恥ずかしいな）

康太は心の底からそう思った。

城之内

LP4000 3200

「ターンエンドだ」康太

LP4000

手札 4枚

モンスター 氷結界の龍ブリューナク

リバーズカード 1枚

「俺のターンドロー！」

リトル・ウイングガードを守備表示で召喚し、カードを三枚伏せてターンエンド」

城之内

LP3200

手札 2枚

モンスター リトル・ウイングガード

リバーズカード 3枚

「俺のターンドロー！」

俺は天使の施しを発動し三枚ドロし、二枚捨てる」

捨てたカード

フィッシュボーグガンナー

E・HEROアイスエッジ

「強欲なウツボを発動し二枚水属性モンスターを手札からデッキに戻して三枚ドロ」

戻したカード
氷結界の舞姫
氷結界の軍師

「強欲な壺を発動し二枚ドロ―
さらにブリューナクの効果を発動し、手札を3枚捨て、リバースカード三枚を手札に戻す。
アイスリバース！」

ブリューナクが叫ぶと吹雪が起きて、リバースカードを手札に戻させる。

「さて、十代に貰ったこのリバースカードをオープンする。
リバースカードオープン！
魔法カードミラクル・フュージョン！
効果により、アイスエッジと武士を除外しE・HEROアブソルトZeroを融合召喚！
さらに氷結界のお庭番を召喚！」

二つの刀を持った人型のモンスターが現れる。

氷結界のお庭番
ATK100

「さらに墓地のフィッシュボーグ・ガンナーの効果発動！
手札を一枚捨て、特殊召喚する」

両手にサイコガンをつけたような機械のようなモンスターが現れる。

フィッシュボーグ・ガンナー
ATK100

「レベル6氷結界の龍ブリューナクとレベル2氷結界のお庭番にレベル1フィッシュボーグ・ガンナーをチューニング！
氷結界の里に封印されし龍が、その力を今解放つ！

仲間との絆を紡ぐ力になれ！
シンクロ召喚！

壊せ！氷結界の龍トリシューラ！」
三つの首を持つ、氷の龍が現れる

氷結界の龍トリシューラ
ATK2700

「トリシューラの効果発動！
相手の手札と相手のフィールドのカードと墓地のカードを一枚ずつ除外する！

俺は墓地のロケット戦士と手札の1番右のカードとリトル・ウィンガードを選択する！
破壊神龍の咆哮」

トリシューラがほえると、選択したカードが除外される。

除外されたカード

リトル・ウィンガード

融合解除

ロケット戦士

「トリシューラでダイレクトアタック！
エターナル・ブリザード！」

某超次元サッカーアニメの技名と全く同じように叫ぶ。

城之内

LP3200 500

「Zeroでダイレクトアタック!

FREEZING AT MOMENT!」

城之内

LP500 0

「勝ったぜ!」

「俺の負けか・・・」

「クロノス教諭?

俺の退学は無しですよね?」

「ぐぬぬ・・・確かに無しナノーネ」

「じゃあ帰りますね。

城之内さんまたデユエルしましょうね」

「ああ!」

こうして家に帰った。

Side 康太

「勝つて退学を逃れたぜ！
十代！」

「よかつたな！康太！」

と騒いでいると。

「今のはどういう意味ですか？」

凄く笑顔な沙也加が俺を見ている。

そして後ろには、修羅のようなオーラが見える。

「皆さん、康太さんを捕まえてくれないですか？」

「……イエス、ボス……」

十代と翔と隼人がそんなことを言いながら俺を縛る。
つて何処からそんなロープを出してきた！？

「部屋でゆっくり訳を聞かせてね？
康太さん？」

「はい！」

わかりましたからこのロープを解いてください！」

「嫌です。」

「さあ逝きますよ？」

「嫌だ！まだ死にたくない！」

退学デュエル！【本番】（後書き）

アンケート実施中です。

詳しくは俺のマイページの活動報告にて。

野生解放デュエル！ VS SAL（前書き）

SALとのデュエルです。

アンケート実施中、詳しくは俺の活動報告にて。

野生解放デュエル！ VS SAL

Side 康太

はあ、やっとO H A N A S H Iが終わった。

長かったな【二日間ずっとO H A N A S H Iされてました。
】。。。。

沙也加って怖いな、付き合ったら多分尻に敷かれるな。。。

しかも、平日に休まされて説教されるし。。。

あと、この一日で三沢と万丈目のデュエルが終わってしまった。

観たかったな。。。

「大変だ〜アニキ、康太くん！」

「何があっただんだ翔？」

「万丈目くんが行方不明になっただんだ！」

「何だっつて！」

「俺が居なかった昨日一日で何があっただんだ？」

「実は・・・（三沢と万丈目のデュエルがあったことと、その理由を説明）ってことがあっただんだよ」

「そうかわかった、ありがとう翔」

「で、これからどうするんだ？」

「万丈目くんを捜そうよ！」

「わかった」

こうして俺達は授業中に校舎から抜け出す。

直さないとそのうち、不法侵入されるぞこれ。

「待ちなさい、康太、十代」

「なんでだよ？」

「そつだよ、なんでだよ？」

「私達も連れて行って」

「康太さんよろしくお願いしますね」

「・・・わかった」

沙也加の奴なんで居るんだよ！

・・・数分後・・・

結構捜したが居なかったな・・・。

まあアカデミア辞めてノース校に行くんだっけ？

ガサガサ 草むらが揺れる音

「何の音だ!?!」

十代が叫ぶ。

バツ 何かが飛ぶ音

「「「「「猿!?!」「」「」「」

沙也加と俺以外が叫んだ。

確か原作だとジュンコがさらわれるんだよな……。

「キヤー」

何故対象が沙也加に変わった?

あの猿デュエルでたたきのめしてやる!

「待て!」

なんか声が聞こえてくる。

「君達、デュエルディスクを付けた猿を見なかったかい?」

「仲間をさらって逃げ出しやがった」

「わかったよ。」

あれはただの猿じゃない。

デュエルの特訓をさせたSuper Animal Learning

ng 略してSALだ」

「そのままだなオイ」

「文字じゃないと伝わらないんだな」

「ウキー」

猿もといSALがディスクを構えている。

「康太さん！助けて！」

沙也加が叫ぶ。

そのデュエルうけてやる！

「お前が勝ったら好きなようにしろ！」

俺が勝ったら俺の言うとおりにしろ！」

「ウキー」

NoSide

「デュエル」

「猿が喋った!?!」

「デュエルに関係することはコンピュータが喋って相手に伝える」

「高性能だな」

「私はバーサークゴリラを召喚！
カードを一枚伏せてターンエンド」

SAL

LP 1枚

手札 4枚

モンスター バーサークゴリラ

リバーズカード 1枚

「俺のターンドロー！

俺は手札を一枚捨てチューナーモンスター、クイック・シンクロンを特殊召喚」

小さな銃を持つテンガロンハットをかぶったモンスターが現れる。

クイック・シンクロン

ATK700

捨てたカード

グローアップバルブ

「俺はチューナーモンスタージャンク・シンクロンを召喚」

鍋をかぶったモンスターが現れる。

ジャンク・シンクロン

ATK1300

「効果により、グローアップバルブを特殊召喚」

目玉の付いた植物が現れる。

グローアップバルブ

ATK100

「更に墓地のモンスターの特殊召喚に成功したことにより、このカードを特殊召喚する！
来い！ドッペルウオリアー！」

銃を構えた男が現れる。

ドッペルウオリアー

ATK800

「レベル2ドッペルウオリアーにレベル3ジャンク・シンクロンを
チューニング！
シンクロ召喚！Go！
T G I ハイパーライブラリアン！」

本を持った男が現れる。

T G I ハイパーライブラリアン

ATK2400

「ドッペルウオリアーの効果により、ドッペルトークンを二枚特殊
召喚！」

銃を構えた男が二人現れる

ドッペルトークン

ATK400

「レベル1ドッペルトークンにレベル1グロリアアップバルブをチューニング！」

シンクロ召喚！希望の力、シンクロチューナー、フォーミュラ・シンクロン」

F1カーのようなモンスターが現れる。

フォーミュラシンクロン

ATK200

「TGIハイパーライブラリアンの効果により一枚ドロ！
更にフォーミュラ・シンクロンの効果により一枚ドロ！」

グロリアアップバルブの効果発動！

デッキの一番上のカードを墓地に送りこのカードを特殊召喚する！」

グロリアアップバルブ

ATK100

墓地に送られたカード
ボルト・ヘッジホッグ

「もう一度、レベル1ドッペルウォリアーにレベル1グロリアアップバルブをチューニング！」

シンクロ召喚！希望の力、シンクロチューナーフォーミュラ・シンクロン！」

またF1カーのようなモンスターが現れる。

「もう一度、TGIハイパーライブラリアンの効果により一枚ドロ！
！」

フォーミュラ・シンクロンの効果により一枚ドロ！」

ボルト・ヘッジホッグはチューナーがフィールドにいる場合特殊召喚できる！

来い！ボルト・ヘッジホッグ！」

ハリがボルトに変わったハリネズミが現れる。

ボルト・ヘッジホッグ

ATK800

「更に強欲な壺を発動し二枚ドロ！」

レベル2ボルト・ヘッジホッグにレベル5クイック・シンクロンをチューニング！

シンクロ召喚！現れる！

ジャンクアーチャー！」

オレンジ色の体で弓を持ったモンスターが現れる。

ジャンクアーチャー

ATK2300

「ジャンクアーチャーの効果によりバーサークゴリラを除外する。サイクロンを発動し、リバースカードを破壊する」

破壊されたカード

DNA改造手術

「ウキイ」

その声が出た方向を皆が見ると夥しい量の猿が居た。

「あいつらはお前の仲間か？」

康太はそう聞いた。

「ウキイ」

SALはそう言いながら頷いた。

「わかったが、デュエルは真剣勝負だ！

手は抜けない。ごめんな。

ジャンクアーチャーとTGRハイパーライブラリアンでダイレクト
アタック」

SAL

LP4000 17000 0

Side 康太

「ウキイ」

「沙也加を解放し、今すぐこの場から離れる。

これが命令だ」

「ウキイ！」

こうしてSALが離れようとしたその時。

「SALを捕まえる！」

と博士らしき人物が指示をする。

「五月蠅いカス。」

冬休み（前書き）

少しだけ、康太の過去を書いてみました。

アンケート実施中です。

詳しくは俺の活動報告にて

冬休み

S i d e 康太

今、俺はアカデミアに居ない。

理由？

サイコシヨツカーの事件に巻き込まれたくないから、アカデミアに行く前に住んでいた(らしい)家に帰るんだ。

闇のデュエルなんかに関わりたくないんだ！

話が逸れたな。

とりあえず、実家？に帰って来たんだ。
ゆっくりしよう。

沙也加からメールがきたな。
さて、内容は……。

F r o m 沙也加

無題

暇なので、康太さんの実家に行っても大丈夫ですか？大丈夫なら明日行きます。-----
部屋を掃除しよう。

とりあえず、返信しよう。

宛先 沙也加

Re

大丈夫だ

返事が来たな。

From 沙也加

Re

わかりました。

さて掃除するか。

・・・次の日・・・

ピンポーン チャイムの音

来たな。

ガチャ ドアを開けた音

「こんにちは、おじゃまします」

「こんにちは、沙也加」

とりあえず挨拶する俺達。

「案外広いですね」

「まあな。

飯はどうする？」

簡単な物なら作れる。

現世では、家事は全部やってたからな。

「ちなみに昨日はどうしたんですか？」

「自分で作った。」

簡単な物なら作れるからな」

「じゃあお願いしますね。」

私は料理が出来ないんですよ……」

……面倒が増えたな。

「ちなみにいつまで居るんだ？」

「冬休みが終わるまで居るつもりですけど、無理ですか？」

「……わかった、大丈夫だ。」

沙也加の家はどんな感じだったんだ？」

「康太さん、現世での話ですか？」

「いや、こつちの世界でだ」

「康太さんと一緒に一人でした。」

調べたら、家族はいないみたいでした」

「わかった」

……数時間後……

「料理が出来たぞ！」

「わかりました。

すぐに行きます！」

ちなみに晩飯は野菜炒めと、ほうれん草のお浸しだ。

「美味しいですよ！」

康太さん！」

「こんなもんだろ、普通」

「私は料理出来ないんですよ？
嫌がらせですか？」

「すまない、忘れてた」

マジで忘れてた！

これじゃ嫌がらせにしか聞こえない！

「まあ気にしてないですから頭を上げてくださいよ」

「わかった」

「現世ではどんな生活してたんですか？」

「親父が居なかったからお袋が仕事してたから、俺が家事をしてたんだ。

もともと、家事は親父の仕事だったかな」

「なんでですか？」

「お袋が銀行で働いてて、親父は働いてなかったんだ」

「なんでですか？」

「お袋が家事が出来なくなてな。

仕方なく家事をしてたらしいが、実際、家事をするのが好きだったような感じだったな」

「そうですね・・・」

「こんな湿っぽい話は止めて飯食おうぜ」

「わかりました」

・・・数分後・・・

「風呂は先にどっちが入る？」

「お先にどうぞ。」

私は後でいいですよ」

「わかった、また後でな」

・・・数分後・・・

「お風呂の温度はどれくらいですか？」

「四十度くらいだ」

「わかりました」

・・・数分後・・・

「お風呂気持ち良かったですよ！」

「それはよかった、んじゃおやすみ」

「おやすみなさい、康太さん」

Side End

ユニーク10000突破記念番外編【バレンタインデー編】（前書き）

沙也加がちょっと危なくなっていました。

ユニーク10000突破記念番外編【バレンタインデー編】

Side 沙也加

明日はバレンタインデーですね。

今晚中に康太さんや十代さんのぶんのチョコを作っておきましょう！
ちなみに明日香さんと一緒にレッド寮の食堂のキッチンを借りて
います。

「速く作ってしましましょう？」

明日には渡すんだし」

「そうですね」

さあ、早く作りましょう！

Side 康太

明日はバレンタインデーだな。

ちなみに今は十代の部屋だ。

沙也加に追い出されて、ここに泊まるように言われたんだ。

十代の許可も取ったらしい。

行動早いな。

「早く寝ようぜ？康太？」

十代が俺を急かす。

「わかった。おやすみ、十代」

こうして俺は寝た。

明日の危機に気づかずに……。

Side 沙也加

「明日香さんは、何を入れますか？」

私は明日香さんにそう聞きます。

「私は苺を刻んで苺ミルクチョコを混ぜて、刻んだ苺をチョコに入れるわ。」

沙也加はどうするの？」

明日香さんはそう聞いてきます。

「秘密です！」

もちろんここで言っても面白くないので内緒にします。

「わかったわ……」

こうしてお互いに調理を始めます。

まずは、唐辛子を入れて……。

「沙也加！何を入れてるの!？」

明日香さんはそう言いました。

当たり前ですよね？

「唐辛子ですよ？」

「いや、まずいでしょ」

「何がですか？」

「何がって……考えたらわからない？」

「いえ、何も」

こんな感じで料理が終わりました。

S i d e 康太

今日は2月14日だ。

バレンタインデーか……。

リア充爆発しろ！

話が逸れたな。

「康太さん、受け取ってください！」

沙也加がいきなりそう言ってくる。

「ありがとう、沙也加！」

これで俺もリア充の仲間入りか？

「さあ、食べてみてください！」

「ああ！」

そうして俺は沙也加のチョコを食べた。

「ゴパア」

そう言つて俺は倒れた。

「大丈夫ですか！？康太さん！康太さん！」

なんか聞こえるな……。

「綺麗な河が見えるな。」

しかもあつちの方が、花畑も綺麗だな。

あつちに渡ろう！」「それは三途の河ですよ！

死んでしまいますよ！

起きてください！

康太さん！」

……（康太の感覚で）数時間後……

「大丈夫でしたか？康太さん？」

「沙也加？」

「はい？」

「二度と料理するな。次は確実に死ぬ」

「……わかりました……。」

「ちなみに何を入れた？」

「塩酸（金属等を溶かします、人体に当たるとかなり危険です。）と、唐辛子と青酸カリ（名探偵コナン等でお馴染みかもしれませんが、がほぼ確実に飲んだら死にます。）とテトロドキシン（河豚の毒、人は普通死にます。）と重曹です」

「俺に怨みでもあったのか？」

「無いです」

「わかった」

「もう二度と料理するな」

「・・・わかりました・・・」

ちなみに俺は一週間寝込んだらしい。

らしいというのは、沙也加に聞いただけだからだ。

S i d e E n d

アカデミアへの帰還と・・・(前書き)

沙也加の過去を少しでも書いてみました。

アカデミアへの帰還と・・・

Side 康太

「いよいよ明日から学校だな、沙也加。帰る準備は出来たか？」

俺は居候である沙也加にそう聞いてみる。

「できましたよ」

沙也加はそう答えた。

「わかった。」

そろそろ行くぞ！」

「はい！」

こうして俺達の冬休みは終わった。

・・・数時間後・・・

「船に着いたな。」

「冬休みも終わりですね。」

康太、荷物がかなり多いようですけど何を持ってきたんですか？
沙也加が聞いてくる。

「FARLY TAILのコミックス全巻と、とある魔術の禁書目録のライトノベルの原作全巻と家に忘れてきた、あまりのカードととある魔術の禁書目録のコミックス全巻とCODE：BREAKER全巻とバカとテストと召喚獣原作ライトノベル全巻だな」
漫画とか本が多いな・・・。

「・・・本が、特に漫画が多いですね・・・。」

「言わないでくれ。」

部屋の本棚がかなりスカスカで気にしてたから本を持ってこようと思ってたんだ。

文句あるか？」

「無いです。」

むしろ本を読むのは好きだからありがたいです」

「わかった。」

好きなとき読んでいいぞ」

「はい！」

こんな感じで船に乗った。

ちなみに本は折れないようにケースに入れてきた。

カードも別のケースに入れた。

「今から寝るから、沙也加も寝たらどうだ？」

「わかりました、おやすみなさい康太さん」

「おやすみ、沙也加」

こうして俺達は寝た。

・・・次の日・・・

アカデミアに着いた。

ちなみに俺達は日にちを間違えて始業式の前日に帰って来てしまった。

別に問題ないがな。

とりあえずDDBとカタストルがあまりのカードの中に75枚ずつ入っててびっくりした。

まさか、無限回収したのが悪かったのか!?

現世では透明なスリーブに入れてスリーブの代わりにしてたからな・・・。

皆に「鬼畜スリーブ」と言われていた。

入れてたデッキは弾圧型BFと墓地BFだ。

・・・あの頃は楽しかったな・・・。

って感傷に浸ってる暇は無い。

部屋を片付けないとな！

「早く片付けて小説を読もう！」

珍しく沙也加が敬語を使ってるいな。

一言、言ってみよう。

「沙也加」

「なんですか？」

「俺に敬語を使わないでくれないか？」

「なんでですか？」

「俺達、友達なのになんで敬語を使うんだ？」

そんなに気を使いあうのは友達じゃないと思うんだ」

俺は正直に今の気持ちと言った。

「私・・・昔、虐められてたんです」

「何だと!？」

こんなこと聞いてないぞ！

「友達だと思ってた人にいきなり蹴られたり、罵られたり、カッタ

ーで服を切られたり、いろいろされました」

なんて酷いんだ。

「男子の前で裸にされた事もありました。」

同じ学年の女子は皆、私に死ねと言ってきました」

俺の目から涙が流れる。

「高校生になるときに、親以外の人に対して例外なく敬語を使うようになったら、

誰にも嫌われないようになるために・・・ってキヤア！

何をするんですか!？」

俺は沙也加を抱きしめた。

「悲しかったらどう？」

苦しかったらどう？」

痛かったらどう？」

悔しかったらどう？」

死にたいと思うくらい辛かっただろっ？

でも、その辛さは現世に置いておいて、この世界では幸せになろう！
俺と一緒に幸せになろう！」

「うん！わかった！

一緒に幸せになろう！」

こうして俺達は付き合った。

S i d e E n d

青春？のテニスデュエル VS 修造もどき（前書き）

今回、凄まじいオーバーキルをしてしまいました。

後悔はしてません。

青春？のテニスデュエル VS 修造もどき

S i d e 康太

クソ！

何故体育なんてあるんだ！

面倒の象徴じゃないか！？

よりによって女子と混合でテニスだと！？

修造もどきのあれか！

サービスエースとか、カード化してほしかったぜ……。

あっ！修造もどきが明日香に当たりかけたボールを打ってクロノスの顔に当てやがった！

あいつ、多分クロノスに怨みがあるだろ。

まあいい、帰ろう。

S i d e 十代

なんで放課後にテニスなんかしなきゃいけないんだよ！

「後、100球！」

「はあ、はあ、はあ」

もうへとへとだぜ……。あれは……。明日香と沙也加じゃねえか！
なんでこんなところに？

「君達！僕にスポーツドリンクとタオルを持ってき」

「はい、十代。スポーツドリンクよ。」

沙也加もタオルを持ってきてくれてるわよ

「ありがとな！明日香、沙也加！」

「十代くん！？」

「なんだ？」

「君は、彼女達とどういう関係なんだい？」

「友達と、親友の彼女だけど？」

「デュエルだ！十代くん！」

勝った方が彼女のファイアンセだ！」

こう言つて沙也加を指指す。

「沙也加は俺の親友の彼女なんだけど？」

「じゃあその彼氏を連れてきてくれないか!？」

「わかつた」

S i d e 康太

「十代？あの修造もどきつてどれくらいまでならオーバーキルしていいんだ？」

「いくらでもかまわねえぜ」

「わかつた。目標は20000にする」

「君、僕をなめてるのかい？」

「カイザーより雑魚なら問題ない」

N o S i d e

「デュエル」

「僕のタ・・・」

「俺のターンドロー！」

モンスターをセット、カードを三枚伏せ、ターンエンド」

康太

L P 4 0 0 0

手札 2枚

モンスター セットモンスター 1枚

リバーズカード 3枚

「僕のターンドロ―！

サーブイエースを発動！

僕はこのカードを選択する」

（確か自分の手札を一枚選択して、相手がその種類を言い当てたら何も起きず、外したら1500ダメージだな。）

康太はそう思った。

「モンスターで」

「畏かもしれないよ？」

「モンスターで」

「僕が選択したのはメガ・サンダーボールだ。よってダメージは発生しない。

さらにメガ・サンダーボールは除外される。

カードを一枚伏せ、神聖なる球体を守備表示で召喚しターンエンド」
白い球が現れる。

神聖なる球体

ATK500

修造もどき（綾小路 ミツル）

LP4000

手札 1枚

モンスター 神聖なる球体

リバーズカード 1枚

「俺のターンドロ―！

リバーズカードサイクロンを発動し、そのリバーズカードを破壊する」

破壊されたカード

炸裂装甲

「俺はリバースモンスター【魔導雑貨商人】をオープンする。効果により、デッキの一番上のカードを一枚ずつ墓地に送り最初に出た魔法カード又は罫カードを手札に加わる！」

1枚目カオス・ネクロマンサー！

2枚目カオス・ソーサラー・・・

26枚目！地獄の暴走召喚！俺はこれにより、地獄の暴走召喚を手札に加える」

墓地に送られたカード

カオス・ソーサラー二枚

カオス・ネクロマンサー三枚

ジャンク・シンクロン二枚

クイツク・シンクロン一枚

ボルト・ヘツジホツグ三枚

レベル・ステイラー三枚

魔導雑貨商人二枚

グローアップ・バルブ一枚

ドッペル・ウオリアー二枚

バイス・ドラゴン三枚

シンクロン・エクスプローラー三枚

「ジャンク・シンクロンを召喚！」

毎度お馴染みのオレンジ色の鍋をかぶったゴミで出来たシンクロンが現れる。

ATK1300

「効果により、カオス・ネクロマンサーを特殊召喚」

指先に糸をつけ、その先には人形がついている悪魔のようなモンスターが現れる。

DEF0

「攻撃力0の雑魚に何ができる？」

カイザーを倒したとはいえ、あのデッキじゃないと君は雑魚なんだね？」

「負ける覚悟は出来たか？」

手札より地獄の暴走召喚を發動しカオス・ネクロマンサーを特殊召喚する」

「じゃあ僕は神聖なる球体を特殊召喚させてもらう」

カオス・ネクロマンサー

ATK6900

「攻撃力6900だど！」

「カオス・ネクロマンサーは、墓地のモンスターの枚数×300ポイントが攻撃力になる効果がある」

「何故最初に特殊召喚されたカオス・ネクロマンサーは攻撃力0なんだい！？」

「ジャンク・シンクロンの効果により特殊召喚されたモンスターは効果が無効になる」

「レベル1カオス・ネクロマンサーに1レベル1魔導雑貨商人にレベル3ジャンク・シンクロンをチューニング！

シンクロ召喚！ジャンク・ウォリアー！」

ジャンク・ウォリアー

ATK2300

「ジャンク・ウォリアーの効果発動。

自分フィールド上のレベル2以下のモンスターの攻撃力を自身の攻撃力に追加する。

パワーオブフェローズ

さらに効果にチェーンし、エンジェル・リフトを発動しカオス・ネクロマンサーを特殊召喚」

カオス・ネクロマンサー

ATK7500×3体

ジャンク・ウォリアー

ATK2300 24800

「神聖なる球体三体をカオス・ネクロマンサー三体で攻撃
白い球がカオス・ネクロマンサーによって踏み潰される。

「ジャンク・ウォリアーでダイレクトアタック」

修造もどき

LP4000 0

Side 康太

「うわーん」

あんな事を叫びながら修造もどきは帰って行った。

「沙也加」

「何？」

「あいつに近づかれたら俺を呼べ」

「なんで？」

「さっき以上のオーバーキルをするから」

「わかった。」

私、トイレ行くから、また後でね！」

「ああ！」

さあ、帰ろう！

（（康太恐すぎだろ！

攻撃力24800って何！？

見たこと無いんだけど！！！！）

十代と明日香の心がまた、シンクロした。

S i d e E n d

青春？のテニスデュエル VS 修造もどき（後書き）

ちなみに今回使ったデッキは作者のデッキを改造した物です。

偽物の器 VS 神楽坂（前書き）

前書きと後書きに書くことが無い・・・。

どうしたらいいんだ！

ちなみに最後の方はR15レベル以上かもしれないエロいシーンがあります。

偽物の器 VS 神楽坂

Side 康太

さあ、明日は遊戯デッキの展示会だな！

レアカード強盗の事件は十代が外道戦法で簡単に終わらせるし、大山のドロップンの事件は・・・いや、もうなにも言うまい。

神楽坂が翔に負けるイベントも有ったし、偽物とは言っても、遊戯デッキだし簡単に勝てるだろ。

かなりバランス悪いし。

「なあ、康太、遊戯さんのデッキを今から見に行かないか？」

「良いぜ。」

沙也加、一緒に行くか？」

「私は眠いから遠慮するよ」「わかった」

「じゃあ、いつてらっしやい！」

「いつてきます！」

さてと、潰すか、あの偽物を！

・・・数分後・・・

さて着いたな。

そろそろ盗まれるだろ。

「君達はドロップアウトボーイズ！」

「十代、帰らないか？」

いきなりドロップアウトボーイズなんて言う馬鹿は放置してさ」

「僕も帰って良いと思うっす」

「じゃあ帰るか！」

「待つて欲しいノーネ！」

遊戯さんのデッキが盗まれてしまったから犯人を探してデッキを取り戻して欲しいノーネ！」

「仕方ない。行くぞ十代！」「わかった、翔はあっちを頼む！」

「ハイっす！」

「俺も居るぞ！」

「誰だ？この空気のような男は！？」

「なんだこのかなり礼儀知らずな男は！？」

三沢、登場おめでとう！

しかし、目立たないな……。さすがエアーマン、有り得ない位影が薄い。

「俺は高嶺 康太」

「君があのお調召喚師か！」

俺は三沢 大地試験番号1番だった男だ」

「よろしく。」

後で俺がお調召喚師と呼ばれた理由を聞かせてくれ」

「よろしくな。」

君がお調召喚師と呼ばれた理由はシンクロモンスターを使ったからだ」

クソ！また、シンクロモンスターのせいだよ！

「早く行くぞ、康太」

「・・・またシンクロモンスターのせいだよ・・・」

「オイ、康太！早く行くぞ！」

「・・・ああ」

・・・数十分後・・・

「うわー！」

「俺が・・・強い」

「オイ、偽物！」

「なんだ？」

「俺とデュエルしろよ」

「良いぜ！」

「俺が勝つたら、そのデッキは帰してもらおう！」

俺が負けたら翔のデッキをやる」

「なんで僕のデッキなんすか！？」

「翔？」

「なんすか？」

「俺が負けるとでも？」

「いや、でも、遊戯さんのデッキだし」

「大丈夫だ、使うのはBFだ」「大丈夫っすね」

「BFって信頼感あるな・・・」

「そうっすね」

「あっ！康太！ずるいぞ！

俺と代われ！」

「断る！」

「早くしろ」

「わかった」

NoSide

「「デュエル！」」

「先行はどうする？」

偽物野郎？」

「貴様に譲ってやる」

「俺のターンドロー！」

(デッキ間違えちまった！

これは・・・ピンチだ！

手札事故だ！)

康太はこの世界にきて初めて負けたかもしれないと感じた。
「モンスターをセットしてターンエンド」

康太

LP4000

手札 5枚

モンスター セットモンスター1枚

「俺のターンドロ―！」

俺は強欲な壺を発動し二枚ドロ―する！

さらにドロ―したワタポンの効果発動！

ワタポンを特殊召喚！」

小さな綿で出来た球のようなモンスターが現れる。

「さらにワタポンを生け贄にブラックマジシャンガールを召喚」

ブラックマジシャンガール

ATK2000

「ブラックマジシャンガールだあ！」

「翔後で覚えてるよ。」

デッキ以外は無事には帰さん」

「やめてほしいっす！」

「君が！ブラマジガールの応援をやめるまで！翔に嫌がらせするのを止めない！」

「わかったっす、わかったっすから」

「なら、よし」

「ブラックマジシャンガールでセットモンスターを攻撃！

ブラックバーニング！」

セットモンスター

氷結界の破術師

DEF1000

「カードを一枚伏せターンエンド」

神楽坂

LP4000

手札 4枚

モンスター ブラックマジシャンガール
リバーズカード 1枚

「俺のターンドロー！」

（なんで入れた覚えの無いカードが何枚も入ってんだ！
これじゃ戦いにくくて負けてしまうかもしれない！）
はつきりと康太はピンチを意識しだした。

「俺は手札断殺を発動し、手札を二枚捨て二枚ドロウする」

康太が捨てたカード

ジャンク・シンクロン

ボルト・ヘツジホツグ

神楽坂が捨てたカード

ブラックマジシャン

幻獣王ガゼル

「さらに強欲な壺を発動し、二枚ドロウ！」

さらに天使の施しを発動し三枚ドロウし二枚捨てる！」

捨てたカード

シールド・ウイング

ジャンク・ブレード

「来た！」
死者蘇生を發動しブラックマジシャンを特殊召喚！」
黒い衣装に身を包む、武藤 遊戯のデッキの象徴とも言えるモンスターが現れる。

ブラックマジシャン

ATK2500

「さらに二重召喚を發動！」

氷結界の風水師を召喚」

顔に鏡をつけた女型モンスターが現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「さらに氷結界の風水師を生け贄に現れる！」

ブリザード・プリンセス」

氷で出来たドレスを着た女型モンスターが現れる。

「このカードの召喚に成功したターン、相手は魔法罫を發動出来ない」

「クソッ！」

「ブラックマジシャンでブラマジガールを攻撃」
神楽坂

LP4000 3500

「ブリザード・プリンセスでダイレクトアタック！」

神楽坂

LP3500 700

「これで貴様のモンスターはすべて攻撃した！
俺のライフはまだ残ってる！
何が来たんだ？」

「ターンエンドだ」

康太

LP4000

モンスター ブリザード・プリンセス
ブラックマジシャン

「このターンに逆転したらどんなに気分が良いだろうか？
俺のターンドロー！

天からの宝札を発動し二枚ドロー！」

「俺は六枚ドロー」

「何故逆転の一手が来ない!？」

「それはお前が一から全部考えて、作ったデッキじゃないからだ！」
「何？」

「お前が一から全部、一人で考え作ったデッキなんて有ったか？
すべて、どこかで活躍したデッキに近いもんだろ？」

「ああそつだよ！

その何が悪い!」

「デュエリストとしての魂がそんなデッキに宿る訳が無い!」

「ターンエンド」

神楽坂

手札 6枚

LP700

魔法罫 1枚

「このターンに終わらせてやる。

反省して考えるよ?」

「ああ」

「俺のターンドロー!

魔法カードサイクロンを発動しリバースカードを破壊する!」

破壊されたカード

魔法の筒

「ブリザード・プリンセスでダイレクトアタック!」

神楽坂

LP700 0

Side 康太

「今回の件はクロノス先生には自分から報告しろよ」

「ああ」

「俺も一緒に行つてやるよ」「ありがとう、康太」

「その必要は無い!」

「誰だ?」

「つてカイザーとクロノス先生か・・・」

「康太、いいデュエルだった」

「ありがとう、カイザーに言ってもらえるなんて光栄だな」

「康太、君は俺に勝った。」

「これは事実だ」

「だが、俺は俺のメインで使っているデッキではデュエルしていな

い

「なら、俺が卒業するまでにそのメインデッキとデュエルさせてほしい」

「わかった。」

「もちろん、全力でやってやるさ！」

「じゃあクロノス先生？」

「神楽坂の処分はお願いします」

「わかったノーネ」

「それじゃ、さようなら」

・・・数分後・・・

俺はレッド寮に着き、部屋に入った。

ただそれだけだったのに、沙也加が俺のベッドで【放送出来ません】をしてたんだが、どうしたらいいんだ？

かなり気まずいんだが？

「康太さん？」

「なんだ？」

「私が【放送出来ません】してたの見たよね？」

「ハイ！」

俺は全力でスライディング土下座をした。

「責任、とってね？」

「ハイ！」

こうして、俺達は熱い一夜を過ごした

Side End

恋する乙女と鬼畜野郎（前書き）

作者のイメージが康太⇨鬼畜野郎になって来ました・・・。

こんなはずじゃなかった（笑）

恋する乙女と鬼畜野郎

Side 康太

さてと、今日の朝飯と晩飯はどうしようか？

最近、やっと寮長に沙也加を住まわす許可を取れた。

しかも二つ返事で……。

もっと早く伝えればよかったな……。

沙也加も沙也加で鮎川先生に許可貰ってたし……。

不幸だ……。

しかし、大徳寺先生も条件をつけてきたんだよ。

内容は、毎日朝飯と晩飯を作る事だ。

材料は毎日準備されているしレッド寮の他の生徒も説得（脅し）をして許可を貰った。

そして、今日も限られた材料で調理をする。

「ニヤ」。

皆さんに紹介したい人がいますのニヤ」

もう、レイが来るような時期か……。

まさか、俺が憑依する前に関わったりしてないよな？「編入テストを受けて、この度オシリス・レッドに入ってきた早乙女レイ君だニヤ」。

仲良くしてあげてニヤ」

大徳寺先生はそう言ってるけど、すぐに帰るんだぜ？

「とりあえず料理が出来たから皆、取りに来てくれ」

「わかった」

レッド寮のメンバー全員がそう言って取りに来た。

「とりあえず、康太君と沙也加ちゃんの部屋にレイ君を入れていいかニヤ？」

「何故ですか？」

「他の部屋はもう、誰かが入れる場所が無いのニヤ」

「仕方ないか、わかりました」

「じゃあよろしくだニヤ」

「俺は高嶺 康太だ、とりあえず康太と呼んでくれ。

よろしくな」

「ボクは早乙女 レイだよ

よろしくね」

こうして、俺はレイと同室になった。

・・・晩飯後・・・

「こいつは俺の彼女の藍沢 沙也加だ」

「沙也加って呼んでね。

よろしくね」

「ボクは早乙女 レイ

よろしくね」

「お前女子だろ？」

俺はそう言う。

「へ？」

「どうみても、女子だろ。

だって、あまり言いたくないが胸が出てきてるし、撫で肩だし」

もちろん、原作知識だ。

もちろん言わないがな。

「ばれちゃったか」

「理由を説明してもらおうか？」

「わかったよ。

実は・・・」

・・・理由説明中・・・

「そんな理由で来たのか？」

「そんな理由ってなにさ？」

立派な理由じゃない！」

「親や友人に迷惑をかけて、そんな理由で勝手にこんなところに来て、本当に立派か？」

「ごめんなさい。」

もうしませんから！」

「謝る相手が違うだろ？」

早く帰って親や友達に謝るんだ」

「わかったよ。」

次の定期便で帰るよ」

「とりあえず沙也加の部屋に泊まりなよ」

「いいよ別に」

「わかった。」

普段使っていないこの布団で俺は寝るから、ベットは使ってくれ」

「男の人が使ったベットで寝るの？」

「布団は入れ替える」

「わかったよ」

そうして、レイは俺のカードケースに触ろうとした。

「俺のカードケースに触るな！」

俺はダークダイブボンバーをカードケースの上を目掛けて手裏剣のように投げる。

狙いどおり、カードケースの上の壁に刺さった。

さすが、ボマーさんの手錠と足枷の鎖を破壊しただけはあるな。投げる特訓もしてきたしな。

「何するんですか!？」

「カードを投げた」

「危ないじゃないか!！」

普通ならカードを投げて危ないなんて台詞でないよな……。

「だって、俺のカードケースを触ろうとしたし」

「それだけ!？」

「シンクロモンスター入ってるから、仕方ないさ」

「シンクロモンスターって何？」
「やっちまった！」

「またかよ！」

「仕方ない、デュエルだ！」

「シンクロ召喚を見せてやる！」

「わかったよ」

こうして仕方なくデュエルすることになった。N O S i d e

「「デュエル」」

「先行は譲ってやる。」

「好きなようにプレイしな」

「わかったよ、ボクのターンドロー！」

「ボクは、恋する乙女を召喚！」

「ウエディングドレスを着た女の子が現れる。」

恋する乙女

ATK400

「カードを一枚伏せてターンエンド」

レイ

LP4000

手札 4枚

モンスター 恋する乙女

魔法罫 リバースカード 1枚

「俺のターンドロー。」

俺は苦渋の選択を發動。

この中から一枚選ばせてそれ以外を墓地に送る」

選択されたカード

氷結界の破術師

氷結界の破術師

氷結界の破術師

ブリザードプリンセス

ブリザードプリンセス

「ボクはブリザードプリンセスを選択する」

「じゃあ他のカードは墓地に送らせて貰う。」

チューナーモンスター、デブリ・ドラゴンを召喚」

小さな龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「デブリ・ドラゴンの効果により、墓地の氷結界の破術師を効果を無効にし、特殊召喚」

魔術師風な子供が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「レベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！」

集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！

仲間との絆を紡ぐ力となれ！

シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」

赤みを帯びた、氷の龍が現れる。

氷結界の龍グングニール
ATK2500

「更に、二重召喚を発動し、死者蘇生を発動！
氷結界の破術師を特殊召喚更に氷結界の破術師を生け贄に捧げ、ブ
リザードプリンセスを召喚」

ブリザードプリンセス
ATK2800

「ちなみにブリザードプリンセスは、魔法使い族を生け贄に捧げ召
喚した場合生け贄に捧げるモンスターは一枚でいい。
ブリザードプリンセスの召喚に成功したターン相手は魔法罫を発動
出来ない。」

氷結界の龍グングニールで恋する乙女を攻撃、フリージングプレス」

レイ
LP4000 1900

「恋する乙女は攻撃表示の時、戦闘では破壊されず、乙女カウンタ
ーを一つのせる」

「かまわん、ブリザードプリンセスで恋する乙女を攻撃」

レイ
LP1900 0

「シンクロ召喚についてはもうこれ以上聞かないと約束してほしい。
あと、校長には明日にでも話をつけて来る。
だから、今日は早く寝ろ」

「・・・わかったよ、康太先輩」

「先輩とかつけるのは勘弁してくれ、慣れてないから」

「わかったよ康太さん」

「仕方ない、妥協してやる」

「それじゃ、おやすみなさい」

「わかったおやすみ」

次の日、ちゃんと校長に話をつけて、沙也加の部屋にしばらく住ま
わせた。

その後は原作通り進んだ。

S i d e E n d

精霊世界への導き（前書き）

少し飛びます。

今回、康太に精霊と新たな力を手に入れます。
どうぞ！

精霊世界への導き

S i d e 康太

ノース校との交流戦も終わり、課外授業になった。

交流戦は十代の後攻ワンキルにより終わったし、万丈目は帰ってきた。

あれはかわいそうだったな。

まあスルーしよう。

「そろそろ、お弁当にするのにや」

ちなみに沙也加は部屋で留守番だ。

「先生、ちよつとあっちに行つて良いですか？」

「大丈夫ですよ」

「わかりました」

あつちの遺跡を見たかつたんだよな！

俺は歴史とか遺跡とか大好きでね！

行つてみたかつたのさ！

三つの太陽にわかれだした。

くそ！

もつと見たかつたな……。

「あれ？ここは？」

ネクロバレーじゃない？」

ネクロバレーではなく、氷の木とか、氷の家とかがあるな……。

かなり綺麗だ……。

「貴様！何者だ！名を名乗れ！」

あれ？俺、逮捕でもされるのか？

「俺の名は高嶺康太だ。」

あんたはなんて名前だ？」

「私は氷結界の虎将ライホウだ！」

「ここは・・・氷結界の里だな。」

「何のようだ？」

「貴様、人間か？」

「ああ、そうだ。」

俺は遺跡に居たんだが、いきなり太陽が三つにわかれて、気がついたら、ここに居たんだ」

「わかった。」

「とりあえず、私の家に来い」

「ありがとう。」

「そうさせてもらう」

「貴様、【氷結界】というカテゴリーのカードを使ってないか？」

「何故わかった？」

確かに氷結界というカテゴリー、つまりあんた達のカードを使っているが・・・」

「貴様、いやあなた様が選ばれし者ですか!？」

「いきなり言われても、しらんとしか言えない」

「あなた様は、シンクロモンスターを知っていますか？」

「ああ。」

「今も持つてるぜ？」

「そう言つてトリシューラを見せる。」

「そっぴや沙也加はトリシューラ持ってないんだよな・・・」

「あなた様は転生しましたか？」

「何故わかった？」

「トリシューラ様があなた様をお呼びになってました。」

「なので来てください」

「わかった」

こうしてトリシューラのいる祠に案内される。

「転生者、高嶺康太様を連れて参りました」

「わかった。」

「ライホウ、そなたは家に戻って良いぞ」

「わかりました」
こうしてライホウが帰って行く。
「トリシューラよ、何故俺を呼んだ？」
「そなたは、私が転生させた」
「なんで、俺は転生しなきゃならなかったんだ？」
「そなたは死んだ」
「何故、俺は死んだんだ？」
「そなたは、精霊界の乱れにより、起きた事件により死んでしまった二人のうちの一人なのだ」
「もしかして、もう一人の名前って、藍沢沙也加じゃないだろうか？」
「接触していたか……。」
「問題無いがな」
「わかった……。」
とりあえず、俺はどうなるんだ？」
「そなたに我等の里に伝わる伝説の力を授ける。
そして、【氷結界】以外のデッキを封印してもらいたい」
「なぜだ？」
理由がわからん」
「このカード達の力を最も引き出せる様にするには、そなたがこれらを使いこなさねばならないからだ。
もう一つ理由がある。」
それは、このカード達には闇のアイテムを無効に出来る力があるのだ」
「わかった」
「ならこのカード達を授けよう」
そうトリシューラが言うと光の球が俺に向かって落ちてくる。
見たこと無いカード達と見知らぬ氷結界のカード達だ。
「ありがとう、トリシューラ。
大切に使用してもらおう」

「あと、一人精霊をつけてやる。来い、風水師よ」

「わかりました。トリシューラ様」

こうして風水師がやって来る。

「康太様、よろしくお願いします」

「呼びにくいから、名前つけていいか？」

「はい」

「じゃあ、風華【ふうか】でいいか？」

「はい！」

「じゃあ、元の場所に帰すぞ」

「わかった」

「最後に聞きたい」

「何をだ？」

「なぜこの氷結界の里で暴れたんだ？」

「供え物の干し肉が抜かれたからだ」

どうでもいい理由で氷結界の里を荒らすなよ……。

まあいいか。

さて帰るか！

こうして氷結界の風水師の風華が仲間になった。

「あれ？ここは？」

つて遺跡か……」

さっきのは夢か？

『夢ではありませんよ』

そう風華が答える。

「わかった」

「よっ！康太、帰る時間だぜ？」

「わかった。」

それと、その羽が生えた毛玉はなんだ？」

「ハネクリボーだ。」

サイコシヨツカーの事件の時に見えるようになったんだ！
ところで、その女の子は誰だ？」

『私は氷結界の風水師の風華でございます』

「よろしくな、風華！」

『はい』

「早く帰ろうぜ、十代」

「ああ！」

こうして俺達は帰った。

沙也加には精霊が見えないらしく、風華の事は聞かれなかった。

S i d e e n d

闇のデュエル VS ダークネス（前書き）

今回からオリカが出ます。

闇のデュエル VS ダークネス

S i d e 康太

錬金術の授業だが、面白いな！

まあ使わないがな。

機械を弄ったりする、情報の授業も面白いな。

今度オートシャッフルでもデュエルディスクにつけようかな？

案外簡単につけれそうだったし・・・。

見た目も変えよう！

ハンマーとか良いかもな。

オプライエンともかぶらないし。

PDAも改造しようかな？

いろいろ機能をつけよう！

電話とメールと校則を見ることが出来ないから、ゲームでもつけよう。

テトリスにしようかな？

キーンコーンカーンコーン チャイムの音

チャイムも鳴ったし昼飯にしよう！

「十代くん、三沢くん、天上院くん、万丈目くん、高嶺くん、校長室に来てくるようににゃ」

「康太？

問題でも起こしたか？」

「心当たりが有りすぎて困るくらいある」

沙也加が呼ばれてないな・・・。

まあ闇のデュエルなんかに関わってほしくないがな。

・・・数分後・・・

校長室に着いたな。

「失礼します。」

校長先生、何の用ですか？」

「実は・・・」

・・・理由説明・・・

という訳で、その七精門の鍵を預かってほしいのです」

「俺は預かるぜ」

「俺もだ」

ちなみに先に受け取ったのは俺だ。

「世界を守るなんて柄じゃないが、仲間くらい守ってやるよ。」

とりあえず、単独行動は全員控えようぜ」

「わかったわ」

「わかった」

「わかったノーネ」

「わかった」

「わかった」

ちなみに受け取ったメンバーはクロノス教諭と明日香と三沢とカイザーと万丈目と十代と俺だ。

大徳寺先生が省かれたな・・・。

ん？待てよ？

タイタンが闇に飲み込まれてないが、誰が穴を埋めるんだろうか？

とりあえず、頑張ろう。

・・・その日の深夜・・・

「って事で俺が七精門の鍵を大徳寺先生の変わりに受け取る事にな

「つちまつた」

「わかりましたよ、康太さん。」

「とりあえず、戦う時まで待とうよ」

「ああ。」

「てかなんで裸エプロンなんだ？」

「康太さんが喜ぶかなって思っただけ。」

「どう？似合う？」

「似合うというより、かなりエロくて、見れないぜ。」

「似合うよ。」

「それより、早く服を着てくれ、目のやり場に困る」

「早くしないと理性がとぶぞ？」

「十代の部屋に行ってくる」

「わかりました。」

「留守番してますね！」

「ああ」

「窓の方からいきなり光が放たれる。」

「大丈夫か？康太！」

「十代か！？多分、セブンスターズが来た！」

「PDAで伝えてくれ！」

「わかった！」

「そして光が消えていった。」

「そして目を開けると、火山の火口の近くだった。」

「つてなんで火口に居るんだ俺達？」

「セブンスターズが移動させたんだろ？」

「そして仮面の男が現れ、こう言った。」

「私はセブンスターズの一人、名はダークネス！」

「高嶺康太、デュエルしろ！」

「さもないと、この女は死ぬぞ！」

「助けて！康太さん！」

「光の球に沙也加が包まれている。」

着替えである、俺のジャージを持ったまま、裸エプロンの姿で……

「人の彼女をなんて姿で外に連れ出してんだ、このド変態！」

『康太さん、落ち着いて！』

風華がそう言うが。

「とつととけりつけるぞ変態！」

デュエルだ！

沙也加は早く着替えろ！」

「はい！」

No side

「デュエル！」

「俺のターンドロー、カードを二枚伏せ、氷結界の騎士を召喚！」

ターンエンドだ」

氷の鎧を着た騎士が現れる。

氷結界の騎士

ATK1700

康太

手札 3枚

モンスター 氷結界の騎士

魔法罫 リバースカード 2枚

「私のターンドロー！」

私は、スピアドラゴンを召喚！」

鼻が尖ったような見た目の龍が現れる。

スピアドラゴン

ATK1900

「スピアドラゴンで氷結界の騎士を攻撃！」

スピアドラゴンが氷結界の騎士に向かって飛んでいく。

「畏発動！アイスシエル！」

アイスシエルが発動したターン、相手モンスターは俺のフィールド上のモンスターを戦闘では破壊出来ず、氷結界と名のつくモンスターの戦闘によるダメージは0になる。

さらに氷結界と名のつくモンスターを攻撃したモンスターはダメージステップ終了後に除外される」

「くっ。」

これで私はターンエンド」

ダークネス

手札 5枚

「俺のターンドロー！」

俺は氷結界の狩人を召喚！」

氷の弓を持つモンスターが現れる。

氷結界の狩人

ATK1000

「氷結界の狩人の効果発動！」

1ターンに一度、手札を三枚まで捨てる事で、相手の手札を捨てた枚数分墓地に送る。

俺は手札を二枚捨てる！」

康太が捨てたカード
氷結界の破術師
氷結界の防人

ダークネスが捨てたカード
真紅眼の黒龍
軍隊龍

(なんだ・・・手札事故か)
康太はそう考えた。

「氷結界の防人が氷結界と名のつくカードにより捨てられた時、俺はデッキから一枚ドロウする。
さらに二重召喚を発動し、氷結界の槍使いを召喚」
氷の槍を持った、強そうな人のようなモンスターが現れる。

氷結界の槍使い
ATK500

「氷結界の槍使いの効果発動！
墓地に存在する氷結界と名のつくモンスターを一枚デッキに戻し一枚ドロウする」

「バトル、全モンスターでダイレクトアタック、アイスフルボッコ！

ダークネス

LP4000 3500 1800 800
「ターンエンドだ」

康太
手札 2枚

モンスター 氷結界の騎士
氷結界の狩人 氷結界の槍使い
魔法罫 リバースカード 1枚

「俺のターンドロー！」

「罫発動！アイスブレイク！」

このカードは相手のスタンバイフェイズに氷結界と名のつくモンスターが三枚以上存在する時のみ発動出来る。

フィールド上の氷結界と名のつくモンスターを全て生け贄に捧げる事で、相手に3000ポイントダメージを与える」

ダークネス

LP8000

Side 康太

「勝ったぜ！」

「さあ沙也加を解放し……」

「そう言った途端、俺達はワープする。」

「なあ、この変態、気絶してるし、この仮面を盗らないか？」

「それは面白そうだな！」

俺が出した悪巧みに、十代はのっけてくれる。

「さあはずすぞ！」

俺達は仮面をはずす。

そして、顔が露出される。

「そんな！この人って！？」 「多分あの人だよな？」

その人物は……。

「明日香の兄ちゃんじゃないか！」

S i d e e n d

闇のデュエル VS ダークネス（後書き）

オリカの効果は活動報告に書きます！

ゾンビVS氷（前書き）

オリカは出る度に活動報告にて効果を書きます。

ゾンビVS氷

Side 康太

「オイ！なんで俺が精密検査受けてる間に二人もやられてんだ！」
精密検査を受けた理由は、闇のデュエルをしたから異常があるかもしれないと思っただからだ。
全く異常は無かったがな。

「俺達がふがないからだ……。スマン康太！」

三沢がそう言う。

「お前等は甘すぎだ！十代はなんで行かなかつたんだ！」

「下痢で寝込んでたんだ。スマン康太！」

お前さえ居れば亮さんも助かったかもしれないのに……。

「次は、俺が行く！お前等は着いて来るなよ？」

「……………なんで【なの】！？……………」

ちなみに十代、翔、隼人、明日香、万丈目、三沢の発言だ。

「十代は来ても問題はないが……。他のメンバーは闇のアイテムを持ってないだろ！」

「……………あつ！……………」

十代達はそう言った。

ちなみに、ペンダントは吹雪さんから昨日、受け取っていた

「なんで俺が闇のアイテムを持つてんの知ってたんだ？」

「俺は保健室にずっと居ただぜ？聞こえてるにきまってんだろ！」

「わかった」

「とりあえず、三沢とサンダーと明日香は帰ってよし！」

万丈目はこれからはサンダーで俺が言う時は統一しよう！

短いから言いやすいしな。

「俺はお前等がネクロバレーに行ってた間、ずっと氷結界の里に居たんだ。その時俺は転生したって事を聞かされたんだ。つまり、俺

はもともと、この世界の人間じゃない。ずっと黙っていて悪かった」
「どういう意味だ？」

十代が聞いてくる。

「そのままの意味だ。俺は、一度死んでこの世界に来て生き返ったんだ」

「『そんなこと、ありえないだろ【んだな】（っす）！？』」

「事実だ」

「証拠はなんだ？」

「シンクロモンスターとチューナーモンスターだ。どちらも俺のもと居た世界に有ってこの世界にまだ存在していないカードなんだ」

こう俺が言くと、皆が黙りだす。

仕方ないよな・・・。

友人が死人？だったなんて聞かされて、正気を保てる人間なんているわけないよな。

てかもう友人を名乗る事すらおこがましいか・・・。

「でも、ここに居る康太は偽物じゃない。高嶺康太、本人だろ！

今までどつりで良いだろ？」

「そつっすね！」

「そうなんだな！康太は俺達の友達なんだな！」

「でも、俺はお前等を騙してた。だから謝罪したんだ」
裏切られる覚悟だったんだ。

「そんなこと気にしてなんかいないさ！俺達、親友だろ！」

「ああ！ありがとう、許してくれて」

「気にすんな！」

すっきりしたな！

まだまだ話していない事はたくさんある。

だが、今はまだ話さなくていい。

今は今を楽しもう！

・・・その日の夜・・・

本当に一人でやって来た。
マジでこの中に入んのか・・・気味が悪い。俺は非科学的な事は嫌いだ！

「オイ、誰か居ないのか？居るなら俺とデュエルしろ！」

「ここに居るわ。とっととデュエルしましょ？あなたは好みなの！」

「俺はお前みたいなのは好みじゃないな。さっさとデュエルして帰りたい。」

マジでここみたいな場所は苦手なんだ！」

No side

「デュエル！」

「私のターンドロー！」

私はゾンビマスターを召喚してターンエンド
キモいゾンビが現れる。

ゾンビマスター

ATK1800

カミューラ

手札 5枚

モンスター ゾンビマスター

「俺のターンドロー！アイスブーストを発動！手札の水属性モンスターを3枚捨てる事で3枚ドロウする！さらにドロウサポーターを召喚！」

小さなコピー機のようなモンスターが現れる。

ドローサポーター

ATK0

アイスブリストで捨てたカード

氷結界の舞姫

氷結界の虎将グルナード

氷結界の武士

「さらに、強欲な壺を発動し二枚ドロー！さらにドローサポーターの効果発動！お互いのプレイヤーはカードの効果によってドローしたとき、ドローしたプレイヤーはドローした枚数ドローする。

この効果でドローしたターンのエンドフェイズ時にドローしたプレイヤーはエンドフェイズ時に手札をこのカードによってドローした枚数除外する。二枚ドロー！さらに手札から、強欲なウツボを発動し手札を二枚デッキに戻し三枚ドロー！さらにドローサポーターの効果で三枚ドロー！アイスカーペットを発動！1ターンに一度、墓地の氷結界と名のつくモンスターを特殊召喚出来る。グルナードを特殊召喚！」

氷で出来た鎧を着たモンスターが現れる。

氷結界の虎将グルナード

ATK2800

「さらに手札断殺を発動！二枚手札を捨て二枚ドローする。さらにドローサポーターの効果で二枚ドロー！」

「私はドローしないわ」

「さてと二重召喚を発動し、デブリ・ドラゴンを召喚」

毎度お馴染みになってきた小さな龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「さらに氷結界の虎将グルナードの効果により、氷結界の破術師を召喚！」

毎度お馴染みになってきた小さな魔術師みたいな子供が現れる。

「レベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」

赤みを帯びた龍が現れる。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「グングニールの効果発動！手札を二枚まで捨てる事で相手フィールド上のカードを捨てた枚数破壊する。俺は手札を一枚捨て、ゾンビマスターを破壊する！フリージングランス！」

グングニールが氷の槍を作りだし、ゾンビマスターを破壊する。

捨てたカード

ブリザードプリンセス

「さらに死者蘇生を発動し、ブリザードプリンセスを特殊召喚！」

氷で出来たドレスを着た女性が現れる。

ブリザードプリンセス

ATK2800

「全モンスターでダイレクトアタック！ブリザードブレイク！」

カミューラ

Side 康太

いきなり、カメラの後ろに幻魔の扉が現れ、カメラを吸収する。

哀れだな……。

亮さんを連れて早く帰ろう！

「なあ風華？亮さんを回収出来るか？」

『短時間なら実体化出来るので回収出来ます！』

「じゃあ回収は任せた！」

俺はそう言うと、扉に向かって走り出す。

「脱出成功！」

『こちらも、回収成功しました！』

「わかった。実体化を解除して、早く帰ろうぜ」

そう言っていたら、亮さんが起きた。

「亮さん、大丈夫か？」

「ああ、問題ない」

「じゃあ俺は帰るな」

「わかった」

絶対亮さんとは友達になれないな。
会話が続かねえもん！

Side end

精霊世界湯煙旅情（前書き）

最近感想が少ないですorz

もっと感想を書いてほしいです・・・。

精霊世界湯煙旅情

S i d e 康太

いい湯だなあ・・・。

今、俺は十代達と温泉に来ている。

この温泉かなり気持ちいいな。
癒される。

隣で騒いでる十代達さえいなければ。

あっ！十代達が消えた！

追いかけよう！

S i d e 十代

「うわぁ！」

負けちまったぜ。

完敗だ・・・。

「貴様！」

高嶺康太という男は知らんか？」

「今は居ないが、知ってるぜ」

「トリシューラの奴から、連れて来るように言われてな。
確認したんだが居ないなら仕方ない」

「オーイ！大丈夫か？」

「康太、どうやって来たんだ？」

「風華に頼んで無理矢理、精霊世界への扉をこじ開けたんだ。
案外簡単だったらしい」

「カイバーマンが呼んでるから、用件を聞いとけよ」

「わかった」

「高嶺康太よ！」

トリシューラの奴が貴様を呼んでいた。

早く着いてこい！

貴様等は帰っていい」

カイバーマンがそう言つと精霊世界からアカデミアの温泉への扉が作られた

「じゃあ先に帰つとくぜ」

「わかった、多分すぐに帰る」

こうして俺達は康太をおいて帰った。

Side 康太

氷結界の里に着いた。

「トリシューラ！」

用件ってなんだ？」

ちなみにカイバーマンは帰りやがった。

無責任な奴だな。

社長そつくりだな。

「干し肉は持つてないか？」

「第一声がそれか？」

「康太か・・・。」

お前に話が有るんだが、とりあえず腹ごしらえがしたい。

里の者から、食事を貰つて来てくれ」

「俺はパシリか！？」

「わしはここらを守つてる龍なんだ！

食べ物ねだりに行つたら格好悪いだろ！」

「なんか・・・ごめん」

「わかれば良いんだ」

飯を貰いに下りよう・・・めんどくさいな。

・・・数分後・・・

「風華、ライホウの家を知らないか？」

「ついて来てください。」

案内します」

「わかった」

・・・到着・・・

「ライホウ！」

トリシューラに飯をやってくれ！」

「お久しぶりです、康太様！」

わかりました、すぐにお持ちしますと伝えておいてください」

「わかった。」

先に行つとくぞ」

「わかりました、康太様」

・・・数十分後・・・

「ただいま！」

トリシューラ、伝えてきたぞ！」

とりあえず、後でライホウが持つてくるから待つててくれ！」

「わかった」

「お持ちしました、トリシューラ様」

「ありがとうございます、ライホウよ」

トリシューラは飯を食いだす。

「それでは、失礼しました」

「干し肉が無いだと！」

康太よ、少し待っておけ！」

「なんでだ？」

「少し暴れて来る」

「ふざけんな！」

さつき守つてるとか言っておきながら、いきなり暴れるなんて宣言すんな！」

「干し肉が抜かれたから、復讐だ！」

「わかった！」

わかったから待っててくれ！

風華！すぐに干し肉を持ってきてくれ！」

「わかりました！」

風華が飛んで行く。

早めに頼む！

トリシューラが暴れださないうちに頼む！

「30分だけ待ってやる。」

その間に持つてこい！」

・・・20分後・・・

「ただ今お持ちしました！」

「風華！ありがとう！」

お前のおかげで氷結界の里は救われた！」

「やっぱり干し肉は美味しいな！」

トリシューラめ・・・嬉しそうに頬張りやがって・・・呑気でうらやましいな。

「康太よ。」

スターダスト・ドラゴン様の所に行つて、力を貸して貰つてこい」

「いきなりなんでだ？」

「お前はアクセルシンクロモンスターである、【シューティング・スター・ドラゴン】は持つておるな？」

「ああ」

こう言って俺はスターダスト・ドラゴンとシューティング・スター・ドラゴンとフォーミュラ・シンクロンを見せる。

「わしの真の力や、シューティング・スター・ドラゴンの上位のモンスターも存在しており、お前さんが望み、覚悟を見せ、認めたら力を貸してくださるらしい。」

これからの戦いの為に受け取ってこい」

「わかった。」

めんどくさいが・・・仕方ないか」

「じゃあ飯を食い終わったら行くぞ」

「わかった」

S i d e e n d

星屑との遭遇と試練（前書き）

今回、新しい力を康太が手に入れます。

星屑との遭遇と試練

Side 康太

「行くぞ康太」

「ああ」

トリシューラの食事が終わり、スターダスト・ドラゴンの居る所に行く事になった。

「30分以内に着く。」

たった400Kmしか離れてないからな」

「待って！時速800Kmで飛んで行くって宣言だよな！？」

ミスって落ちたら死ぬよな！？」

「大丈夫だ、走りだから！」

「それってよけい危険だよな！？」

命懸けなんて嫌だ！

死にたくないんだ！」

「冗談だ、飛んで行く」

「わかった・・・命懸けなんて嫌だな・・・」

「行くぞ！」

「ああ・・・」

ちなみに俺は今、トリシューラの口に入っている。

外に居たら衝撃波で死ぬ。

ちなみにビニールで体はコーティングしてよだれが付かないようにしてある。

「着いたぞ、さっさと受け取ってこいよ」

「早く行きましようよ。」

早く帰らないと沙也加さんに殺られますよ」

「まだ死にたくない！」

さっさと行こう！」

「ハイ！」

「汝なんの用か答えよ」

「スターダスト！お前の力を貸して欲しいんだ！」

「我とデュエルしろ。」

「それが試練だ」

「わかった」

スターダスト・ドラゴンのまわりに石で出来たカードが現れる。
紅蓮の悪魔のしもべとジャックのデュエルみたいな感じだ。

NoSide

「デュエル」

「我のターンドロー！」

我はTG ストライカーを特殊召喚！」

水色の機械を付けた戦士のようなモンスターが現れる。

TG ストライカー

ATK800

「さらに、手札を一枚捨て、Theトリッキーを特殊召喚！」
顔に？と書かれた不気味な奇術師みたいなモンスターが現れる。

Theトリッキー

ATK2000

捨てたカード

TG カタパルト・ドラゴン

「ジャック・シンクロンを召喚！」

鍋をかぶったようなゴミで出来たモンスターが現れる。

ジャンク・シンクロン

ATK1300

「効果により、墓地のTG カタパルト・ドラゴンを特殊召喚！」

頭にカタパルトが付いたようなドラゴンが現れる。

TG カタパルト・ドラゴン

DEF1300

「さらに、レベル4以下のモンスターの特殊召喚に成功した時、このカードは特殊召喚出来る！」

現れる！TG ワーウルフ！」

左腕が機械で出来た狼のようなモンスターが現れる。

TG ワーウルフ

ATK1200

「レベル5Theトリッキーにレベル3ジャンク・シンクロンを手
ユーンング。

現れる、スターダスト・ドラゴン」

星屑を身に纏った幻想的な龍が現れる。

スターダスト・ドラゴン

ATK2500

「さらにこのカードは通常召喚に成功したターン、このカードは特
殊召喚出来る。

現れる、ワンショット・ブースター！」

小さな機械のようなモンスターが現れる。

ワンショット・ブースター

ATK0

「レベル1ワンショット・ブースターとレベル2TG カタパルト・ドラゴンとレベル3TG ワーウルフにレベル1TG ストライカーをチューニング。」

スターダスト・ドラゴン」

「これで我はターンエンド」

スターダスト・ドラゴン

手札 無し

モンスター スターダスト・ドラゴン×2体

「俺のターンドロー！」

（かなりきついな・・・てかTGはまだカード化してないだろ！
使うなよ！使いたかったぜ）

康太はそう思った。

「俺はバイス・ドラゴンを攻撃力を半分にし、特殊召喚する」

紫色のドラゴンが現れる。

バイス・ドラゴン

ATK2000 1000

「さらに氷結界の守護霊を召喚！」

小さな盾を持った半透明な人型のモンスターが現れる。「レベル5
バイス・ドラゴンにレベル1氷結界の守護霊をチューニング！」

氷結界より現れし龍が世界を凍らせ全てを消し去る！

仲間との絆を紡ぐ力となれ！

シンク口召喚！

消し去れ！氷結界の龍ブリューナク」
氷で出来た龍が現れる。

氷結界の龍ブリューナク

ATK2300

「手札を二枚捨て、ブリューナクの効果を発動する。
スターダスト2体にはエクストラに帰ってもらう」
捨てたカード

氷結界の破術師

氷結界の防人

「氷結界の防人の効果により一枚ドロー！

さらに二重召喚を発動！

デブリ・ドラゴンを召喚！

毎度お馴染みの小さな龍が現れる。

「レベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！

集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！

仲間との絆を紡ぐ力となれ！

シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」

赤みを帯びた氷の龍が現れる。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「これが俺の覚悟だ！

2体でダイレクトアタック！

ツイン・アイス・プレス！

スターダスト・ドラゴン

LP40000

Side 康太

「これが俺の覚悟だ！」

「わかった、よいだろう。」

我の力を貸してやる」

スターダストの体から緑色の光の球が現れる。

その光がおさまると、何も描かれていないカードが三枚あった。

「汝が正しい理由で正しく力を使うとき、そのカード達は力を貸してくれるだろう」

「わかった。」

ありがとうな、スターダスト」

「例には及ばん、達者でな」

「ああ」

こうして俺はスターダスト・ドラゴンと別れた。

「風華、待たせたな！」

「いえいえ気にしないでください。」

それより、早くゲートを開きますよ。

トリシューラ様には私から伝えておきますので」

「わかった」

「では、また後で」

こうしてアカデミアに帰って来た。

「ただいま！」

「朝帰りなんて、浮気ですか？」

やべえ！朝って事は理解してたが、沙也加が起きてるだと！
「断じて浮気ではない。」

カイバーマンに絡まれてたんだ」

「温泉の時のアレですか・・・」

「ああ」

「O H A N A S H I しよう？」

「ごめんなさい！」

O H A N A S H I だけは勘弁してください！」

「わかったよ。」

それじゃあ徹夜だったから私は寝るね。

起きたらその時に罰を与えるからね」

「止めてくれ！沙也加！」

その日の夜、康太の叫び声アカデミア中に響いた。

S i d e e n d

鬼畜野郎 VS 黒サソリ盗掘団(前書き)

アンケート実施中です。

詳しくは俺の活動報告にて！

鬼畜野郎 VS 黒サソリ盗掘団

Side 康太

疲れたな・・・O H A N A S H Iなんかもう嫌だ！

沙也加によってO H A N A S H Iされてる間に十代はさらわれかけたし・・・。

そして三沢はアマゾネス使いだったタニヤに婿入りさせられた挙句一日で帰って来たし、十代がタニヤをボコボコにしたし。

そういえばサンダーにオジヤマモンスター一式をあげたな。

使わないし、サンダーならば使いこなせるだろうしな。

今日は黒サソリ盗掘団の日だな。

隠すように指示されたし。

とりあえず風華に鍵を見張って貰えばいいな。

うまいければ犯人を凍らて捕獲出来るかもしれないし。

「沙也加飯食いに行こうぜ」

「ハイ！」

沙也加つて怒つてなけりゃかなりかわいいんだよな。

怒らせたら命懸けだな。

・・・食後・・・

「晩飯旨かったな」

「そうですね」

ちなみにセブンスターズの居る間は寮長に代わってもらってる。

食事を作ってる間に襲われたらレッド寮全員飯抜きなんて事になったらまずいからな。

『康太さん！沙也加さんを部屋に入れなさい！』

「何故だ？」

『見張っていたら、変な人が入って来たので凍らせたんですよ』

「ありがとうそいつは拷問してから海にでも流す」

『わかりました』

さあ沙也加が入って来ないようにしよう。

「沙也加！」

「なんですか？」「すまないが、ちよつとブルー女子寮に行つて鮎川先生にトイレットペーパーを貰つて来てくれ！」

トイレットペーパーがきれてるのを忘れてたんだ！」

「わかつたよ。」

すぐに戻つて来るね！」

そつして沙也加は鮎川先生の所に行った。

「風華！早くトイレットペーパーを全部窓から海に捨てる！」

沙也加に本当の事がばれたらまた O H A N A S H I されるぞ

！」

『ハイ！』

そついうと風華はトイレットペーパーを凍らせて窓の外に捨てた。

そして凍つたトイレットペーパーは全て海に沈んでいった。

「さて次は、このザルーフを解凍してくれ」

『わかりました』

風華がそついうと氷は一瞬で溶けた。

「縛り上げるぞ！」

『ハイ！』

俺達は協力して、ザルーフを縛る。

「起きろ！」

俺はザルーフを怒鳴る

「なんだ？」

マグレ警部もといザルーフはそつ答える。

「何故七精門の鍵を盗もうとした？」

「私は十年前に依頼を受けこの島に来た」

「その依頼の内容が七精門の鍵の強奪か・・・」

「そうだ」

「仲間を呼べ。」

そして七精門の鍵をもってこい。

七精門は七精門の鍵を賭けたデュエルによってのみ開く」

「わかった」

ザルグはそう言って仲間を呼んだ。

「デュエルしようぜ」

「七精門の鍵を手に入れるには貴様を倒さねばならんのならばやっ
てやろう！」

NoSide

「デュエル」

「俺のターンドロー！」

モンスターをセットしターンエンド」

康太

手札 5枚

モンスター セットモンスター1枚

「俺のターンドロー」

俺は首領・ザルグを召喚！」

眼帯を着けた、男性が現れる。

首領・ザルグ

ATK1400

「首領・ザルীগでセットモンスターを攻撃」

「セットモンスターは氷結界の破術師だ。
よって破壊される」

「カードを一枚伏せターンエンド」

ザルীগ

手札 4枚

モンスター 首領・ザルীগ

魔法罫 リバースカード1枚

「俺のターンドロー！」

俺は氷結界の武士を召喚！」

康太のフィールドに氷の鎧を着た武士が現れる。

氷結界の武士

ATK1800

「氷結界の武士で首領・ザルীগを攻撃！
アイススラッシュ」

「畏発動！攻撃の無力化！」
渦が現れ、武士の攻撃が防がれる。

「カードを一枚伏せターンエンド」

康太

手札 4枚

モンスター 氷結界の武士

魔法罫 リバースカード1枚

「俺のターンドロー！」

俺は黒蠍―逃げ足のチツクを攻撃表示で召喚！」

小さな少年のようなモンスターが現れる。

黒蠍―逃げ足のチツク

ATK1000

「さらに手札から魔法カード地割れを発動し氷結界の武士を破壊！」

「くっ！」

氷の鎧を着た武士が立っていたら地震が起きて、地面が割れる。

その割れ目に氷結界の武士は落ちていく。

「首領・ザル―グでダイレクトアタック！」

康太

LP4000 2600

「手札よりトラゴエディアの効果発動！

特殊召喚する！」

蜘蛛のような悪魔が現れる。

トラゴエディア

DEF1800

「さらに首領・ザル―グの効果により、手札を一枚捨ててもらおう」

康太
手札 3枚 2枚

トラゴエディア

DEF1800 1200

「ターンエンドだ」

ザルীগ

手札 2枚

モンスター 首領・ザルীগ 黒蠍―逃げ足のチック

「俺のターンドロ―！」

俺は強欲な壺を発動し二枚ドロ―！」

さらにリバーズカードオープン！」

強制脱出装置！」

効果により、トラゴエディアを手札に戻す」

巨大な機械が現れ、トラゴエディアを発射する。

そしてトラゴエディアは俺の手元にカードとなって帰って来る。

「バイス・ドラゴンを効果により、攻撃力を半分にして特殊召喚！」

紫色の龍が現れる。

バイス・ドラゴン

ATK1000

「さらに氷結界の風水師を召喚！」

『多分、私はシンク素材にされるんですね』

愚痴りながら風華が現れた。

氷結界の風水師

ATK800

「レベル5バイス・ドラゴンにレベル3氷結界の風水師をチューニング！」

シンクロ召喚！スターダスト・ドラゴン！」

白銀の翼を持った星屑の龍が現れる。

スターダスト・ドラゴン

ATK2500

「スターダストドラゴンで首領・ザルীগを攻撃！
響け、シューティングソニック！」
スターダスト・ドラゴンの口からブレスが放たれる。

ザルীগ

LP4000 2900

「カードを一枚伏せターンエンド」

康太

手札 1枚

モンスター スターダスト・ドラゴン

魔法罫 リバースカード1枚

「俺のターンドロォー！
チックを守備表示にしターンエンド」

ザルীগ

手札 3枚

モンスター 黒蠍―逃げ足のチツク

「俺のターンドロ―！」

リバーズカードオープン！

リビングデッドの呼び声を発動し、バイス・ドラゴンを特殊召喚！
紫色のドラゴンが現れる

バイス・ドラゴン

ATK2000

「さらに氷結界の舞姫を召喚！」

氷で出来た髪飾りを着けたかなりかわいい女性が現れる。

氷結界の舞姫

ATK1700

「氷結界の舞姫で黒蠍―逃げ足のチツクを攻撃！」

氷結界の舞姫が手に持っている武器を投げる。

そしてそれが命中しチツクが爆発する。

「バイス・ドラゴンとスターダスト・ドラゴンでダイレクトアタック！」

ザルグ

LP2900

Side 康太

そしてザルグのライフが0になった瞬間に半透明になっていった。
サンダーに押し付けよう！
めんどくさいし。

「サンダー！居るか？」

「なんだ？」

「こいつ等を預かってくれ」

「黒蠍盗掘団？」

「雑魚じゃないか！」

『雑魚つて言うな！』

「この前のためえの兄弟の件の報酬がまだ貰ってないしその分って事にしてくれ。」

そのかわり、報酬は半額にする」

「貴様はオジャマ・グリーンとオジャマ・ブラックの精霊を押し付けただけじゃなくこいつ等まで押し付けるのか？」

「ああ、じゃあな」

・・・数分後・・・

「ただいま！」

「おかえり！」

沙也加が帰って来た。

トイレトペーパーを10本持って・・・。

「・・・ありがとう・・・」

「なんでそんなにテンション低いの？」

「黒サソリ盗掘団の件が起きたんだ・・・」

「なるほど・・・」

「疲れたからおやすみ」

「おやすみなさい、康太さん」

S i d e e n d

康太のデッキレシピ（前書き）

康太のデッキレシピです。

オリカは今のところ、全て活動報告に効果が書いてあります。

アンケート実施中です。

回答をお願いします。

詳しくは俺の活動報告にて。

3月9日18時45分

ミスが有ったため内容を少し変更

康太のデッキレシピ

最上級

トラゴエディア×1

ブリザードプリンセス×2

上級

バイス・ドラゴン×1

下級

デブリ・ドラゴン×3

ドロー・サポーター×1

氷結界の騎士×1

氷結界の軍師×3

氷結界の防人×3

氷結界の守護霊×1

氷結界の破術師×2

氷結界の番人ブリスド×1

氷結界の風水師×1

氷結界の舞姫×2

氷結界の武士×1

氷結界の槍使い×1

魔法

アイスカーペット×1

アイスブースト×1

苦渋の選択×1

強欲なウツボ×1

強欲な壺×1

サイクロン×1

天使の施し×1

ハリケーン×1

ミラクルシンクロフュージョン×1

ライトニング・ボルテックス×1

罨

強制脱出装置×1

聖なるバリア -ミラーフォース- ×1

神の宣告×1

アイスシエル

×2

康太のデッキレシピ（後書き）

これが今現在の康太のデッキです。

デッキは時々弄って別のカードを使う時もあります。

まだまだオリカも使う予定がありますし。

ちなみにエクストラは使えるシンクロモンスター及び融合モンスターが全て三枚ずつ入っています。

GXの時代が舞台なのでチート気味ですが融合デッキと同じようなルールにしました。

鬼畜野郎と学園祭（前書き）

アンケート実施中！

詳しくは俺の活動報告にて！

鬼畜野郎と学園祭

S i d e 康太

もう学園祭の季節か・・・。

アドビス三世やタイタンが襲って来たしそろそろだと思ってはいたがな。

タイタンが襲って来た理由は別の所で何故か本当の闇のデュエルが発動し、そこを理事長の影丸に救われたらしい。

トリシューラに風華を使って聞いてみたら、歴史の修正力が働いたらしい。

歴史は何処かで変わっても別の部分で修正され、正しい歴史に近づいていくと説明された。

タイタンは改心して欲しかった。

そうだったら W A K A M O T O ボイスを聞くチャンスがあったかもしれないに・・・。

まあ気にしないがな。

せつかくの学園祭だし楽しもう！

じゃあ早速衣装の準備をしよう！

・・・数日後・・・

やっと衣装が出来たぜ！

俺の衣装は氷結界の武士だ。

風華に頼んで実物を借りてもらい、アルミの板を使って作ってみた。見た目はかなり良く出来た。

学園祭のクオリティなんてレベルじゃないな・・・。

もはや、秋葉原とかで見るコスプレのレベルだな。

沙也加には氷結界の風水師の服を作ってみた。

ちなみに風華に実体化してもらい、服を借りて作った。
素材の感じまでかなりそっくりだ。

風華は渋々協力してくれたトイレに3時間程籠られたがな。
里にも帰れないし外にも出られないという苦痛に良く耐えてくれた
なって思っている。

さてと、行くか！

・・・数分後・・・

さて、十代達の反応は・・・。

「凄いつす」

「学園祭のレベルじゃないんだな」

「康太って何者だよ・・・」

「転生者だ」

「絶対それは聞いてないんだな」

「俺は一般人だと自負しているんだが・・・」

満足したぜ！

一ヶ月かけて作ったかいがあつた！

「誰だ？この鎧は！？」

「サンダー、俺だよ！」

「康太か」

「そうだ。」

ちなみにこの鎧はお手製だ」

「有り得ないだろ！」

「ちなみに十代達の前でも作業してたから、知ってたんだがな」

「毎晩金属を叩く音が五月蠅かったのはお前のせいか！」

「いかにも俺の責任さ」

「お前な・・・」

「悪かったとは思ってる」

「わかつた」

「ちなみに沙也加の衣装も手作りだ」

「お前何者だ!？」

「アカデミアの一人の生徒だ」

「有り得ないだろ!？」

「それはない(笑)」

・・・数分後・・・

さて、デュエルだ!

と言いたいが無理、疲れた。

近くをうろつくだけでいいや。

S i d e 十代

「私の名前は、ブラックマジシャンガールです!

高嶺康太って人は知らない?」

「康太ならあそこだぜ」

俺はそう答える。

嘘はついてないぜ。

「じゃあ彼とデュエルして来ます!」

「康太は強いぜ」

「わかりました!」

そう言つてあの娘は去つて行った

S i d e 康太

「デュエルしてください!」

仕方ないな・・・。

「良いぜ、来いよ!」

NoSide

「デュエル！」

「先行は私が貰いまっす！」

ドロー！」

私はマジシャンズヴァルキュリアを召喚！」

ブラックマジシヤンガールに似た女性が現れる。

マジシャンズヴァルキュリア

ATK1600

「カードを二枚伏せてターンエンド！」

ブラマジガール

手札 3枚

モンスター マジシャンズヴァルキュリア

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロー！」

俺は氷結界の武士を召喚！」

毎度お馴染み、康太のデッキのアタッカーである、氷で出来た鎧を来た武士が現れる。

氷結界の武士

ATK1800

「氷結界の武士で、マジシャンズヴァルキュリアを攻撃！
アイススラッシュ！」

氷結界の武士がマジシャンズヴァルキュリアを襲い掛かる。

ブラマジガール

LP4000 3800

「カードを二枚伏せてターンエンド」

康太

手札 3枚

モンスター 氷結界の武士

魔法罫 リバースカード1枚

「私のターンドロー！」

私は熟練の黒魔術師を召喚！」

黒いローブ？を着た男が現れる。

熟練の黒魔術師

ATK1900

「熟練の黒魔術師で氷結界の武士を攻撃！

さらに、畏発動！

マジシャンズサークル！

効果によりお互いに攻撃力2000以下の魔法使い族モンスターを特殊召喚するよ！」

「俺は氷結界の破術師を守備表示で特殊召喚」

小さな魔術師みたいな少年が現れる。

氷結界の破術師

DEF1000

「私はマジシャンズヴァルキュリアを攻撃表示で特殊召喚」

またブラマジガールに似た女性が現れる。

マジシャンズヴァルキュリア

ATK1600

「バトル続行！」

熟練の黒魔術師で氷結界の武士を攻撃！」

康太

LP4000 3900

「さらに氷結界の破術師をマジシャンズヴァルキュリアで攻撃！」

「くっ」

「さらにリバースカードダイヤモンドマジック！」

効果により、マジシャンズヴァルキュリアを生け贄にブラマジガールを特殊召喚！」

「畏発動！強制脱出装置！」

ブラマジガールを手札に戻す！」

「それじゃ私はカードを一枚伏せてターンエンド！」

ブラマジガール

手札 2枚

モンスター 熟練の黒魔術師

魔法罫 リバースカード1枚

「俺のターンドロー！」

俺はデブリ・ドラゴンを召喚！」

毎度お馴染みの小さな龍が現れる

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「デブリ・ドラゴンの効果により、氷結界の破術師を特殊召喚しレベル3氷結界の破術師にレベル4デブリドラゴンをチューニング！集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」
赤みを帯びた氷結界の龍が現れる。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「畏発動！奈落の落とし穴！」

「そうはさせない！」

リバースカードオープン！

畏カードトラップスタン！

効果によりこのターンの間お互いは畏の効果は無効になる！」

「嘘ッ!？」

「本当だ！」

グングニールの効果発動！

手札を一枚捨てて、熟練の黒魔術師を破壊！

フリージング・ランス！」

グングニールが叫ぶと氷の槍が一つ現れ、熟練の黒魔術師は破壊される。

捨てたカード

氷結界の騎士

「グングニールでダイレクトアタック！
フリージング・ブレス！」

ブラマジガール

LP3800 1300

「ターンエンド」

「私のターンドロ！」

私はカードを一枚伏せてターンエンド」

ブラマジガール

手札 2枚

リバーズカード1枚

「俺のターンドロ！」

俺はグングニールの効果により、手札を一枚捨ててリバーズカードを破壊する！

フリージング・ランス！」

「畏発動！天罰！

グングニールを破壊します！」

グングニールが一つの氷の槍を作ったが突如落ちた雷によりグングニールごと氷の槍は破壊された。

康太が捨てたカード

氷結界の武士

ブラマジガールが捨てたカード
ブラック・マジシャン

「勝った！」

俺はデブリ・ドラゴンを召喚し氷結界の破術師を特殊召喚し、もう一度シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール！そしてグングニールでダイレクトアタックだ！」

ブラマジガール

LP13000

Side 康太

「俺の勝ちだ！」

「負けちゃったか・・・！」
帰ろう、疲れた。

「んじゃ帰るか・・・」

「私と色々見て回ろうよ！」

「わかったよ沙也加！」

「速く行くよ！」

「ああって待つてくれ！」

鎧だから動きにくいんだよ！」

「わかったよ、康太さん！」

「ああ！」

ちなみにこの二時間後、康太は過労で倒れた。

Side end

PV100000突破記念番外編 ホワイトデー編（前書き）

アンケート実施中！

詳しくは俺の活動報告にて！

感想、書いてほしいな・・・。

PV100000突破記念番外編 ホワイトデー編

Side 康太

ホワイトデーだな・・・。

リア充になった今、彼女である沙也加に渡すのは当たり前だろう、
殺されかけたがな。

テトロドキシンが入ってるチョコを食わされて生きてただけでよか
つたとも思う。

さて、何を作るうか？

ちなみに十代達も一緒に作る。

明日香から貰ったらしいからな。

何故らしいなんて言うかつて？

見てないからさ！

なんせ気絶というか死ぬ寸前だったんだからな！

「康太！早く作るうぜ！」

『クリクリ！クリー！』

ハネクリボーの言葉が良くわからないが早く始めよう！

「康太くん？」

「なんだ？」

「これ何処に飾れば良いっすか？」

「部屋の窓の上に飾ってくれ」

ちなみに飾りつけしているのは、十代達の部屋だ。

俺の部屋なら沙也加にばれる。

「わかったっす！」

・・・数時間後・・・

「飾りつけ終わったか？」

「もちろんつすよ！ね、隼人くん？」

「そうなんだな！」

「よかった・・・。」

「こつちも出来たぞ！」

ちなみに作ったのはチーズケーキとモンブランだ。

家事を全部やってきた時に覚えた料理がこんなところで役に立つとはな。

「じゃあ明日を待つだけだな！」

春休みだし、食堂は空いてるから、食堂で今晚は寝ようぜ！」

「沙也加が居るから俺は部屋に戻らせてもらっぜ！」

「わかった、また明日な！」

「ああ！」

こうして俺達は別れ、寝た。

・・・次の日・・・

「ねえ、沙也加？」

「なんです？」

「十代達の呼び出して、レッド寮の十代の部屋のはずよね？」

「はい」

「なんで青眼の白龍の模型が飾ってあるの？」

「あれって、たしか、海馬コーポレーション製ですよ？」

海馬コーポレーションから一ヶ月前に届いてましたから」

「海馬コーポレーション製なの？」

「そうみたいです」

「海馬コーポレーションの社長ってそんなに青眼の白龍が好きなのかしら？」

「みたいですね」

「早く入れよ！康太が作ったケーキを早く食べようぜ！」

「康太って何者？」

「本当に何をやってたんでしょつかね・・・」

「沙也加も知らないの？」

「素性を話すことがあまり無いので」

「成る程ね」

「良く来たな！」

「康太？」

「なんだよ、明日香？」

「あなたって何者？」

「家事を全部請け負ってきた馬鹿なアカデミアの生徒さ」

「そんなこと言っていないで早く食べようぜ！」

「ああ！」

「……………いただきます！」「……………」

チーズケーキを人数分に切り分けてあるので、一人一つ食べた。

「美味しい！」

「……………おいしい【んだな】【っす】【です】！」「……………」

俺以外がハモっていた。

十代は別の言葉だがな。

「なんでこんなに上手くケーキを作れたの？」

「弟にせがまれて良く作ったからな」

「弟いたの!？」

「昔はな・・・」

この世界にはいないが、元の世界にはいる。

「なんかごめんなさいね」

「気にすんな」

「モンブランもおいしいだな！」

「ありがとう、作ったかいがあるよ」

こうしてホワイトデーは無事に成功した。

PV100000突破記念番外編 ホワイトデー編（後書き）

アンケートの締め切りは今日の11時59分にします！

ユニークニ万突破記念番外編 トリシューラの暴走 (前書き)

トリシューラの過去です。

感想がもっと増えて欲しいな・・・。

ユニーク二万突破記念番外編 トリシューラの暴走

S i d e 康太

今、精霊界にある氷結界の里に居る。

理由？

風華とトリシューラとライホウに呼ばれたからだ。

これから、トリシューラの暴走の事件の話を聞くんだ。

絶対ふざけた話だろうな。

S i d e トリシューラ

「では話すぞ」

昔、わしは腹を減らして倒れていたところをライホウ達氷結界の一族に助けられたのだ。

氷結界の一族は効果は強くても、非力で戦えぬ者や効果が弱く、戦えぬ者もおった。

助けられたお礼に、この里を守ると約束した。

給料として飯を恵んでくれたのだ。

そしてそれから百年位たった時、事件は起きた。

なんとわしが毎回運ぶように指示していた、干し肉がなかったのだ。

「トリシューラ様、お言葉ですが」

「なんだ？ライホウよ」

「あの時はたまたま干し肉を道中に落としたただけであって」

「続きを話すぞ」

「無視しないでください！」

そして、わしは激怒した。

何故よりによって干し肉を抜いたのかと！

そしてその数分後わしは氷結界の里に百年ぶりに行ったのだ。

S i d e 過去のライホウ

「なんか騒がしいですね」

私は部屋で休んでいました。

ドン！という音が聞こえたので私は外に出ました。

そうするとトリシューラ様がいらしておりましてこう言いました。

「わしの干し肉は何処だ？」

「たしかにトリシューラ様のお食事にいれましたが？」

「じゃあなかったのはなぜだ？」

私は耳を疑った。

確かに入れてあった。

お食事の中身は確認してあったのに。

「そんなはずありません」

「話にならない！わしはこの里を破壊する！」

そう言つてトリシューラ様は里を破壊しました。

S i d e トリシューラ

そしてわしは里で暴れ始めた。

プレスを放ち、家を壊す。

踏んで木をへし折る。

プレスで人を殺す。

皆が皆逃げて行く。

わしはその中心で破壊の限りを尽くす。

S i d e 昔のライホウ

私はトリシューラ様が住む祠への道を走り続けた。
消えた干し肉を探し、許しを乞う為に。
里を救う為に！

S i d e トリシューラ

そして里の食料庫以外の物という物を破壊しつくした。

そして、わしが少し休憩していたらライホウが走って来た。

「はあはあはあ」

「息を切らしてどうした？」

「何故トリシューラ様のお食事に干し肉が入っていなかったのかと
いう疑問の答えを探して参りました」

「見つかったのか」

「はい。」

道中にて、持って行った人物が落としたと思われます」

「それで？」

「回収して参りました。」

どうぞお食べくださいませ」

「ライホウは気が利くな。」

美味いぞ！」

そしてわしは干し肉を平らげた。

「申し訳ないことをしたな・・・。」

わしが復興を手伝ってやろう」

「それでは木材運び等を手伝ってください」

「わかった」

そして一年位して復興出来た。

という事があったのだ」

突発的番外編〜康太VS十代〜（前書き）

なんか、ネタが降臨したかの如く脳裏に浮かんだので書きました。

デュエルはしません。

ゲームでの対戦です（笑）。

どうぞー！

突発的番外編〜康太VS十代〜

Side 康太

「ついに決着をつける時が来たな」

「そうだな、康太！」

この決着だけは絶対につける！

「行くぜ！十代！」

「ああ、康太！」

「『ポケモンバトルだ！』」

ちなみに50戦中25勝25敗だ。

今回勝てば、勝ち越した。

ルール

3対3

シングルバトル

使用ソフトはブラック、ホワイト

ディスクは使用禁止

「行けキュレム！」

「行け！グラードン！」

グング（キュレム）

レッド（グラードン）

ちなみにキュレムは俺でグラードンは十代だ。

「グラードンのとくせい、ひでりを発動！」

「天気を快晴にする！」

「十代のいつものパターンだな。」

「更にグラードンに装備させているせんせいのツメの効果発動！
先に攻撃できる！」

「食らえ！ドラゴンクロー！」

「残念ながら、キュレムの体力は半分は残ったぜ！」

「俺のターン！キュレムでグラードンにれいとうビームだ！」

「やるな！康太、しかし、俺のグラードンの体力もまだ半分は残ってるぜ！」

「俺のキュレムの方がすばやさは高いぜ？」

「倒されるのはグラードンの方だ！」

「行け！キュレム、ふぶきだ！」

レッドは倒れた。

「グラードンがやられちゃったか！」

「翔相手ならたまに三体全部倒せんだけどな！」

「グラードンは確かに強いが、弱点をつけば何とか倒せる！」

「グラードンに2体やられてピンチになった事もあったな……。」

「じゃあ行け！ウルガモス！」

モスラ（ウルガモス）

「そいつか！」

「ウルガモスの攻撃ねっぷう！」

グングは倒れた。

「キュレムがやられちまったか。

まだ戦えるかな！

行け！サザンドラ！」

トリシユ（サザンドラ）

「そいつは倒しにくいな」

「俺のエース（笑）だからな！」

「（笑）ってなんだよ？」

「だって、あの馬鹿精霊にそっくりなんだぜ？」

「確かにそうだな」

『どっという意味だ！』

「そのままで」

『・・・』

「さてってあれ？」

なんで先にウルガモスが攻撃したんだ？

あの技か！」

「ウルガモスはねっぷうを使ったか・・・。

ダメージはあんまし受けなかったな！

食らえドラゴンテール！」

「ウルガモスの体力が半分を切ったな・・・。

しかも最後の手持ちに強制交代か・・・行け！レシラム！」

エンペラー（レシラム）

「やっぱりお前、俺の部屋の漫画読んでたな！」

「確かにCODE：BREAKERは借りて読んだぜ」

「本を借りるとは言ったが、全巻借りるなんて暴挙にでるとはな

「まあカリカリすんなよ康太」

「お前のせいだ！」

「食らえりゅうのはどうー！」

「俺のレシラムがすばやさで負けた！？

なんてすばやさだ！」「こいつの個性と性格と個体値はすばやさ向きでね！」

とくこうと一緒に努力値を振り分けたのさ！」

「くっ！半分以上どころか四分の一は削られたか！

反撃だレシラム！

りゅうのはどうー！」

サザンドラは倒れた。

「残念だが、サザンドラの体力が尽きてしまった」

「次のポケモンは？」

「こいつさ！行け、レックウザ」

「くっ！エアロックのとくせいによって快晴状態が無効か！」

「死んで貰うぜ！食らえドラゴンクロー！」

エンペラーは倒れた。

「行け、ウルガモス！」

「無駄だ！食らえドラゴンクロー！」

モスラは倒れた。

「負けちゃったぜ・・・」

「まあメタでレックウザ入れたりしたが・・・」

「まあ良いか！」

「そうだな」

ちなみに、俺達は沙也加とシングルバトルを同じルールでしたが、
両方一体も倒せず負けた。

S i d e e n d

突発的番外編〜康太VS十代〜（後書き）

感想をもっと書いて欲しいです・・・。

三幻魔 VS 氷とHERO（前書き）

十代が外道です（笑）
かなり外道です（笑）

三幻魔 VS 氷とHERO

Side 康太

学園祭からまあ色々あった。

大徳寺もといアムナエルと十代のデュエルや氷結界の里に行ったり
(番外編の内容です)とか色々あった。

そしてサンダーが七精門の鍵をさっき盗んでいたし、明日香とデュエルもしていた。

鍵が開くな・・・さてと現場に行くか。

・・・数分後・・・

着いたな。

うわぁ・・・帰りてえ。

だってさ、機械が落ちてくるんだぜ？

嫌になるだろ？

「高嶺康太！遊城十代！私とデュエルしろ！」

影丸理事長がほざいている。

「良いぜ。受けるぜ」

「俺はパスしたい」

「拒否は認めない」

「仕方ない・・・」

「ルールは簡単お前等は4000ライフポイントずつ、私はその8000倍の3200000000ライフポイントで異存はないな？」

「「異存しかねえよ！」」

「チッ！なら4000ライフポイントの二倍の8000ライフポイントで異存はないな？」

「「ああ！てか舌打ちすんな！」」

「ならデュエルだ！」
「無視すんな」

NoSide

「デュエル」

「私から行かせて貰う！私のターンドロ！私はカードを三枚伏せ
ターンエンド」

影丸

LP8000

手札 3枚

魔法罫 リバースカード3枚

「次は俺のターンだ！ドロ！俺はE・HEROオーションを召喚
！」

モリを持った青い体のHEROが現れる。

E・HEROオーション

ATK1500

「オーションでダイレクトアタック！」

「畏発動！門前払い！」

影丸

LP8000 6500

E・HEROオーションが門番により弾かれる。
オーションはカードに戻り、十代の手札に戻った。

「カードを二枚伏せターンエンド」

十代

手札 4枚

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロワー！俺は魔法カードアイスブーストを発動し手札の水属性モンスターを三枚捨て三枚ドロワーする！」

捨てたカード

氷結界の虎将グルナード

氷結界の舞姫

氷結界の狩人

「更に氷結界の軍師を召喚」傘を被った老人が現れる。

氷結界の軍師

ATK1600

「俺は軍師の効果により、氷結界の防人を捨て、一枚ドロワー！防人の効果でもう一枚ドロワー！」

「更に俺はアイスカーペットを発動し、墓地よりグルナードを特殊召喚」

氷で出来た鎧を着た戦士が現れる。

氷結界の虎将グルナード

ATK2800

「グルナードの効果により氷結界の守護霊を召喚」

半透明な小さな子供が現れる。

氷結界の守護霊

ATK1000

「更にワンショット・ブースターの効果発動！このターンの通常召喚に成功していた場合、手札から特殊召喚できる」

「レベル1のワンショット・ブースターにレベル1の氷結界の守護霊をチューニング！シンクロ召喚！フォーミュラ・シンクロン！」
小さなF1カーのようなモンスターが現れる。

フォーミュラ・シンクロン

ATK100

「フォーミュラ・シンクロンの効果により一枚ドロ」

「更にもう一枚のアイスカーペットを発動！効果により氷結界の狩人を特殊召喚！」

氷で出来た弓を持った男が現れる。

氷結界の狩人

ATK1000

「レベル4氷結界の軍師とレベル3氷結界の狩人にレベル2のフォーミュラ・シンクロンをチューニング！氷結界の里に封印されし龍が、その力を今解放つ！仲間との絆を紡ぐ力になれ！シンクロ召喚！壊せ！氷結界の龍トリシューラ！」

三つの首を生やした龍が現れる。

『わしも頑張るかのう!』

氷結界の龍トリシューラ

ATK2700

「帰れ!」

『そんなこと言つなよ・・・』

「スルーしよう。トリシューラの効果により、フィールドの門前払いと右端の手札を除外する!破壊神龍の咆哮!」

除外された手札のカード

神炎皇ウリア

「・・・なんかすいません」

『自重しろよ康太』

「てめえが言つなよ!」

「康太・・・外道だな」

「十代、言つな。トリシューラでダイレクトアタック!」

『食らえ!ブリザードブレス!』

「そんな技名だったのか」

トリシューラは三つの首からブレスを放ち、影丸に全て当てた。

影丸

LP6500 3800

「グルナードでダイレクトアタック」

影丸

LP3800 1000

「カードを一枚伏せターンエンド」

康太

手札無し

モンスター 氷結界の龍トリシューラ 氷結界の虎将グルナード

魔法罫 アイスカーペット2枚リバーズカード1枚

「私のターンドロ！私はクリボーを召喚！」
小さな毛玉のようなモンスターが現れる。

クリボー

ATK300

「更に速攻魔法増殖を発動しクリボートークンを5体特殊召喚！」

クリボートークン

ATK300

「3体のクリボートークンを生け贄に捧げ現れる！幻魔皇ラビエル！」青い巨人のようなモンスターが現れる。

幻魔皇ラビエル

ATK4000

「畏発動！奈落の落とし穴」

「十代・・・お前な・・・」

「問題ないだろ？」

「いや、もう何も言うまい……」

「ターンエンド……」

影丸

手札 無し

モンスター クリボートークン2体

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロー！俺は魔法カード融合を発動！俺はオーシャンとエアーマンを融合しE・HEROアブソルトZeroを融合召喚！更に速攻魔法融合解除を発動しエアーマンとオーシャンを特殊召喚！更にZeroの効果によりクリボートークンを全て破壊！オーシャンでダイレクトアタック！」

影丸

LP10000

Side 康太

「オイ！十代、お前は悪魔か！？」「仕方ないだろ！こんなドローしたんだから！」

「そしてトリシューラ！」

「なんだ？」

「出てくんない！」『扱いが酷え……』

影丸理事長がなんか言ってるがスルーだ！

「まあ過ぎた事は仕方ないか……」

ちなみにこのあとは原作と同じように進んだが……。

影丸理事長はE・HEROを見る度に「止める！止めてくれ！」と叫ぶようになってたらしい。

鬼畜野郎の毒牙？ 隼人VSクロノス（前書き）

そろそろアニメ本編でいう一기가終わります。

自分でも良く続いたな・・・って思います。

記念に番外編を二本、書こうと思います。何が良いのか悩みます。

という事でリクエストを書こうと思います。

リクエストがある方は、感想又はメッセージ又は俺の活動報告にて伝えてください。

先着一名です。

よろしく願います。

ちなみに昨日に一名リクエストがありましたので残り一名です。

鬼畜野郎の毒牙？ 隼人VSクロノス

Side 隼人

今俺は悩んでるんだな……。

俺は、インダストリアル・イリユージョン社からスカウトが来たんだけど、クロノス先生に勝たなければ、行かせてくれないと言われ
たんだな。

康太に手伝ってもらおう！

康太なら覆せる程のアイデアを出してくれそうなんだな！

Side 康太

「断る！」

「何でなんだな？康太しか頼れないんだな！」

「例えばの話だがな、翔にレポートを書くという課題が出たとする。それを全てやったとしたら、翔の為になるか？隼人が言ってるのはな、それと同じ事だぜ？」

「言われてみればそうなんだな……」

「デッキ調整や、デッキに足りないカードをやる位なら手伝うよ」

「ありがとうなんだな！」

「気にすんな。隼人には色々世話になったしな」

沙也加の件で色々世話になったな……。

沙也加がいなかった頃も世話になってたが……。

「十代や康太みたいに、シンクロモンスターを使いたいんだな！」

止める！猫シンクロをこの世界で使おうとも言っただけか！？

「康太？顔が青くなってるけど大丈夫か？」

「少し元の世界でのトラウマを思い出してな……」

あんなものこの世界で使ったらプロで食っていけるぞ！

「コアラデツキってそんなに強いのか？」

「獣族に優秀なチューナーが二種類もあってな……。そのチューナーが無茶苦茶強くてな、しかもレスキューキャットから展開してシンクロするってデツキが流行ってな……。何度も負けたんだよな。レスキューキャットから特殊召喚できるという点からデスコアラやコアラッコとかが一緒に使われててだな……。猫シンクロの説明……。ってデツキが有ったから、獣族は好きじゃないんだ」

「それは酷いんだな」

「たちの悪い事に隼人にシンクロモンスターとチューナーを渡したらずくに組めるんだよな」

「ならやりたいんだな！」

「……。仕方ないか……。良いぞ」

「ありがとうなんだな！」

「ただし、調子にのるなよ？」

「わかつたんだな！」

こうして隼人のデツキはOZをアタッカーとして使うギミックを入れた猫シンクロデツキになったな……。

……翌日……

「康太？」

「なんだ十代？ガチデツキでも使いたいのか？」

「そうじゃねえよ！使いたいけど……。隼人のデツキを改造したってホントか？」

「本当だ。ちなみにかなり強く出来たはずだ。隼人が回せればな……」

「」

「回せなかったら？」

「負けだな。勝ち目ないもん」

「無責任だな！」

「使いかた次第だがな、十代のデッキよりも隼人のデッキのほうが強いぜ？」

「マジかよ……」

「回しかたは昨日の夜と今日の朝に徹底的に叩きこんだが……」

「そんなに難しいのか？」

「十代なら回しかたを覚えるのに一ヶ月はかかりそうだな」

十代がorzつてなってるが気にしないでおこう……。

Side 隼人

「俺は、クロノス先生を倒してインダストリアルイリユージョン社にデザイナーとして入るんだな！」

「私を倒すと言うんですか？シニョール隼人？」

「そうなんだな！」

俺は……逃げずに戦うんだな！

NoSide

「デュエル！」

「私のターンドロー！私は古代の機械砲台を守備表示で召喚し、ターンエンドナノーネ」

古そうな砲台が現れる

古代の機械砲台

DEF500

クロノス

手札 5枚

モンスター 古代の機械砲台

「俺のターンドロー！俺はレスキューキャットを召喚！」

ヘルメットを被った猫が現れた。

レスキューキャット

ATK300

「そんなモンスターで何をしようと言うのデスカ？」

「レスキューキャットは生け贄に捧げる事で、デッキからレベル3以下の獣族モンスターを二体特殊召喚できるんだな！効果によりレスキューキャットを生け贄に捧げ現れるX-セイバーエアベルン、デスコアラ！」

レスキューキャットが光の球になり弾けると二体のモンスターになった。

デスコアラ

ATK1100

X-セイバーエアベルン

ATK1600

「レベル3デスコアラにレベル3のX-セイバーエアベルンをチェーンング！シンクロ召喚！氷結界の龍ブリューナク！」

氷で出来た龍が現れる。

氷結界の龍ブリューナク

ATK2300

「手札から早すぎた埋葬を発動しレスキューキャットを特殊召喚す

るんだな！ブリューナクの効果により、手札を一枚捨てて早すぎた埋葬を手札に戻すんだな。レスキューキャットを生け贄にもう一度デスコアラとX・セイバーエアベルンを特殊召喚するんだな！レベル3デスコアラにレベル3X・セイバーエアベルンをチューニング！シンクロ召喚、現れる！ゴヨウ・ガーディアン！」

歌舞伎役者のようなモンスターが現れる。

ゴヨウ・ガーディアン

ATK2800

「手札から融合を發動！手札からビッグコアラとデスカンガルーを墓地に送り、マスター・オブ・OZを融合召喚するんだな！」
緑色のコアラのようなモンスターが現れる。

マスター・オブ・OZ

ATK4200

「更に手札から早すぎた埋葬を發動しレスキューキャットを特殊召喚し生け贄に捧げまたデッキからデスコアラとエアベルンを特殊召喚するんだな！そしてシンクロ召喚、現れる！ゴヨウ・ガーディアン！」

ゴヨウ・ガーディアン

ATK2800

「ゴヨウ・ガーディアンで古代の機械砲台を攻撃！」
ゴヨウ・ガーディアンが古代の機械砲台に接近すると、ゴヨウ・ガーディアンが手に持った十手で殴る。

殴られた古代の機械砲台が爆発し四散した。

「ゴヨウ・ガーディアンとマスター・オブ・OZとブリューナクで
ダイレクトアタック！」

クロノス

LP40000

Side 康太

「クロノス先生、ありがとうなんだな！康太もありがとうなんだな
！」

「隼人！良くやったな！」

「康太が居なきゃ俺は勝てなかったんだな！」

「いや、隼人のお前の力さ、俺は少し手伝っただけだ！」

「わかつたんだな！」

そして翌日隼人はインダストリアルイリュージョン社に行った。

隼人に会えるのは原作の展開的にラーの件だろうな……。

まあ友達の間出の日だし、笑顔で送りとどけよう！

Side end

卒業模範タッグデュエル！（前書き）

最長です。

次回は予告通り、番外編です。

卒業模範タッグデュエル！

Side 康太

隼人もアカデミアから去り、残りのイベントは卒業模範デュエルだ
けだな……。

……多分亮さんとやる事になりそうだな……。
亮さんの成績ならばある程度我が儘を言っても普通に通るんだらう
な……。

ぶっちゃけやだよサイバー流とやり合うなんてさ。

パワーに押し切られそうだし。

「康太、失礼するな」

「いらつしやい亮さん」

「俺は、明日は康太、お前ともデュエルがしたい。だが、十代とも
デュエルがしたいんだ」

やだよ！我が儘通りそうだよ！

「だから、校長に掛け合ってタッグデュエルにしてもらったんだ」

十代、翔、お前達でやってくれ！

俺は夜逃げする！

「ちなみに、十代は康太と組むってはしゃいでたぞ」

夜逃げしたらばれるな……。

「か先に十代に話をつけてたのかよ！

「逃げて良いのか？」

「残念ながら、十代がここに泊まって、監視しつつ、デッキを一緒
に調整したいと言っていたし逃げれないだろうな」

俺の明日はどっちだ！？

……数分後……

マジで来やがった！十代め……。

「どうやって合わせるんだ？」

「とりあえず、お前の融合デッキにシンクロモンスターを詰め込む。俺は……夜逃げする」

「夜逃げはさせないぜ？寝るときに沙也加に頼んで縛ってもらうんだ」

「お前は悪魔か！？」

「アカデミアの単なる生徒だ」

助けてくれ！

「仕方ないか……俺はサレンダーをさせてもらう！」

「ルールでサレンダー禁止だとさ」

「……ベストを尽くす」

「わかった！頑張って勝とうぜ、康太！」

「わかったよ十代」

……次の日……

「先生！帰って良いですか？」

「絶対ダメナノーネ」

くそ！無理か！

「仕方ないか……始めましょうよ。そういえば、亮さんのパートナーは誰ですか？」

そう聞くと、亮さんは観客席の方を向いて言った。

「翔、来い！お前がパートナーだ！」

「僕なんかにお兄さんのパートナーは勤まらないよ……吹雪さんに頼んだら？」

「翔、俺の最後のアカデミアでのデュエルはお前に近くで観てほしいんだ！」

翔……俺達はふざけた攻撃力のインフレと戦うんだぜ？パートナー位やってやれよ。

「わかったよお兄さん！」
そう言つと翔が降りて来た。

「翔・・・俺達は負ける気は無い！亮さんに黒星をつける気で来た！」

「僕だつて戦う為に来たんだ！負ける気は無いぞ！」

「わかった！始めようぜ！」

No Side

「デュエル！」

ルールを説明させていただきます。

まず墓地は共通です。

フィールドも共通で魔法罫ゾーン、モンスターゾーンは5つです。

ライフも共通で8000です。

手札を捨てる効果等、プレイヤーの手札に係る効果はその前のターンを行った相手プレイヤーが受けます。

例 手札抹殺を発動した場合、発動したプレイヤーと前のターンを行ったプレイヤーが効果を受けます。

いわゆるタッグフォースのタッグデュエルのルールです。

「俺から行かせてもらう。ドロ！。俺はサイバー・フェニックスを
守備表示で召喚しカードを三枚伏せターンエンド」

機械で出来た鳥が現れる。

サイバー・フェニックス

DEF1600

カイザー

手札 2枚

モンスター サイバー・フェニックス

魔法罫 リバースカード3枚

「俺のターンドロ！俺はE・HEROエアーマンを召喚！」

羽にプロペラが付いた人型のモンスターが現れる。

E・HEROエアーマン

ATK1800

「効果により、オーシャンを手札に加える！」

「サーチカードか」

「ああ！エアーマンでサイバー・フェニックスを攻撃！」

十代がエアーマンに指示を出すと、エアーマンの羽から小さな竜巻が、サイバー・フェニックスを貫いた。

「サイバー・フェニックスが戦闘で破壊された場合一枚ドロウする」

カイザー

手札 2枚 3枚

「カードを一枚伏せターンエンド」

十代

手札 4枚

モンスター E・HEROエアーマン

魔法罫 リバースカード 1枚

「僕のターンドロウ！僕はスチームロイドを召喚！」

デフォルメされた機関車が現れる。

スチームロイド

ATK1800

「スチームロイドでエアーマンを攻撃！スチームロイドが攻撃する時、スチームロイドの攻撃力は500ポイントアップする！」

スチームロイド

ATK1800 2300

スチームロイドがエアーマンを轢いて倒した。

十代& amp ;康太

LP8000 7500

「ターンエンドだ！」

翔

手札 5枚

モンスター スチームロイド

魔法罫 リバーズカード3枚

「俺のターンドロ！俺は死者蘇生を発動しエアーマンを特殊召喚
！」

さつき破壊された、プロペラの付いた羽を持ったHEROが現れる。

「氷結界の守護霊を召喚！」

半透明な小さな子供が現れる。

氷結界の守護霊

ATK1000

「手札から魔法カード氷結界式洗脳術を発動！このカードは氷結界
と名の付くモンスターが存在する時しか発動出来ないが、相手モン
スターを一体のコントロールを得る！」

氷結界の守護霊が何か呟くとスチームロイドがこちらに向かって走
ってきた。

そして、翔の方を向いた。

「レベル4E・HEROエアーマンとレベル4スチームロイドにレ
ベル1氷結界の守護霊をチューニング！氷結界の里に封印されし龍

が、その力を今解放つ！仲間との絆を紡ぐ力になれ！シンクロ召喚！壊せ！氷結界の龍トリシューラ！」

『わしの出番がやけに早いな・・・負けフラグか？』
三つの首を持った龍が現れる。

氷結界の龍トリシューラ

ATK2700

「トリシューラの効果により、右端の手札、右側のリバーズカード、墓地のサイバー・フェニックスを除外する。破壊神龍の咆哮！」

「させないよ！左側のリバーズカードオープン！異次元封鎖！これによりフィールド上のカードは除外されない！」

除外されたカード

サイバー・フェニックス

死者蘇生

「翔、良く防いでくれた」

「まだまだ行くぜ！翔！強欲な壺を発動し二枚ドロ！永続魔法アイスカーペットを発動し、氷結界の守護霊を特殊召喚！更に手札からワンショットブースターを特殊召喚！更にレベル1ワンショットブースターにレベル1の氷結界の守護霊をチューニング！集いし氷の力が、新たな力の糧になる！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！新たな希望、シンクロチューナー、ブリザード・シンクロン！」

小さな氷で出来たシンクロンのようなモンスターが現れる。

ブリザード・シンクロン

「ブリザード・シンクロンがシンクロ召喚に成功した時、相手の手札と自分の手札を同じ枚数になるように手札が少ない方のプレイヤーがドロ―する！俺の手札は2枚、前のターンのプレイヤーである翔の手札は4枚！よって2枚ドロ―！」

「ここまでして、更に手札増強か・・・やるな！」

「まだまだ！俺はまだ真のエースを呼び出していない！」

「なんだと！手加減か!？」

「最大まで活かせる瞬間まで温存させてもらう。トリシューラでダイレクトアタック！ブリザードブレス！」

『わしだつてたまには活躍させてもらおう!』

「畏発動！攻撃の無力化！」

「防がれたか・・・カードを一枚伏せターンエンド」

康太

手札 3枚

モンスター 氷結界の龍トリシューラ ブリザード・シンクロン

魔法罫 リバースカード2枚 アイスカーペット

「俺のターンドロ―。俺は」

「ちよつと待った！クリアマインド！レベル9氷結界の龍トリシューラにレベル2ブリザード・シンクロンをチューニング！新たなる氷の鼓動が究極の氷結界の龍を進化させる！仲間との絆を紡ぐ力となれ！アクセルシンクロ！現れる、究極氷結神龍トリシューラ！」

そして、康太が出てきた時、トリシューラが細くなり、腕と脚が長くなったようなモンスターが現れていた。

「・・・どうやって消えたんだ【すか】?」「」

「知らん！」
「「「オイ！」」」

究極氷結神龍トリシユウラ

ATK4000

「究極氷結神龍トリシユウラの効果発動！このカードのシンクロ召喚に成功した時、手札、墓地、フィールドからカードを二枚ずつまで除外する！究極破壊神龍の咆哮！」

『わしの最大の力！究極の氷結界の龍の力じゃ！』

「騒ぐな俺はリバースカードの最後の一枚と、墓地のスチームロイドと異次元封鎖、手札二枚を除外させてもらおう！」

カイザー

手札 三枚 一枚

「まずいな・・・サイバー・フェニックスを守備表示で召喚しターンエンド」

カイザー

LP8000

モンスター サイバー・フェニックス

「俺のターンドロ！俺は魔法カード融合を発動！効果により、手札から沼地の魔神王とE・HEROバーストレディを墓地に送り、現れる、E・HEROフレイム・ウイングマン！」

十代のフェイバリットカードである、フレイム・ウイングマンが現れた。

E・HEROフレイム・ウイングマン

ATK2100

「フレイム・ウイングマンでサイバー・フェニックスを攻撃！フレイムシュート！」

フレイム・ウイングマンが体に炎を纏い機械で出来た鳥に突撃する。フレイム・ウイングマンに当たった途端、サイバー・フェニックスは爆発した。

「フレイム・ウイングマンの効果発動！相手モンスターを戦闘により破壊した時、相手に破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える！」

カイザー&翔

LP8000 6800

「サイバー・フェニックスの効果により一枚ドロ！」

「トリシューラで攻撃だ！」

「くっ！まだまだ戦えるっす！」

カイザー&翔

LP6800 2800

「ターンエンドだ！」

十代

手札 2枚

モンスター 究極氷結神龍トリシューラ E・HEROフレイム・

ウイングマン

魔法罫 1枚

「僕のターン！ドロ！僕は思ったんだ、僕は皆の後ろに着いてい

くんじゃない！強くなつて、お兄さんやアニキ、康太くんみたいに強くなつて、一緒に歩いて行くんだ！その為に僕は強くなるんだ！」

「それが翔の出した答えか？」

「そうだよ、お兄さん！」

「ならばこのターンにその覚悟を証明して見せる！」

「うん！僕は魔法カードパワーボンドを発動！僕は手札のジャイロイドとスチームロイドを融合しスチームジャイロイドを融合召喚！蒸気機関車をデフォルメにし、プロペラをその胴体につけたようなモンスターが現れる。」

スチームジャイロイド

ATK2200 4400

「更にリミッター解除を発動！スチームジャイロイドの攻撃力を倍にする！」

スチームジャイロイド

ATK4400 8800

「スチームジャイロイドでフレイム・ウイングマンを攻撃！攻撃宣言時に僕は速攻魔法、決闘融合ーバトルフュージョナーを発動してフレイム・ウイングマンの攻撃力分スチームジャイロイドの攻撃力をアップする！」

スチームジャイロイド

ATK8800 10900

「翔！良くやったけどな、リバーズカードを読み間違えてるぜ！ダメージステップにリバーズカードオープン！速攻魔法決闘融合ーバトルフュージョナーを発動！フレイム・ウイングマンの攻撃力をス

チームジャイロイドの攻撃力分、攻撃力をアップする！」

フレーム・ウイングマン

ATK2100 13000

カイザー&翔

LP28000

Side 康太

「ガツチャ！楽しいデュエルだったぜ！」

「俺もだ、楽しめたぜ！」

「俺の完敗か・・・翔の成長も見れたしまあ悪いデュエルではなかったな」

「僕、もつとこのアカデミアで頑張るっすよ！お兄さんみたいに強くなるっす！」

「頑張れ、翔」

「うん！」

『よかったぞ！』

『丸藤君もカイザーも凄かったぞ！』

「ありがとうな！皆！」

こうして、卒業模範タッグデュエルは幕を閉じた。

Side end

卒業模範タッグデュエル！（後書き）

通りすがりのデュエリスト様の小説の遊戯王5D・s Another
er story アカデミアの伝説にて、コラボ小説が載って
おりますので、良ければ読んでください！

一期終了記念番外編1〜康太と沙也加のデート〜（前書き）

一期終了記念番外編です！

ちなみにPV200000突破記念番外編のリクエストお待ちしております。
おります。

コラボでも大丈夫です。
日にちはかかりますが・・・。

一期終了記念番外編1〜康太と沙也加のデート〜

Side 康太

春休みになつたな・・・。

実家（？）に帰ろうかな？

でも、実家（？）は暇だしな・・・。

と思つていると、空間に穴が切り裂かれた。

いきなり剣により空間が切断されたかの様に・・・。

「はじめましてだね、ボクの名前はロキ。神の一人さ」

と言いながら、ルチアーノに似た少年が現れる。

「頭おかしいのか？なんなら、精神科の病院紹介しようか？」

「そんなのいらないよ、神というのは本当だもんね」

「証拠は？」

「この剣」

「プラシドから奪つたのか？デッキを没収した時に」

「違うよ！なんでボクがツツコミに回らないといけないのさ？」

「・・・ノリかな？」

「そんな理由でツツコミに回らせないでくれ！」

「話が進まないから一億歩譲つて神と認めよう。なんで来た？」

「とりあえず今度、別の平行世界の未来のデュエリストとデュエルして貰おうと思つてね」

「面倒だからヤダ」

「これあげるからやつてよ」

と言い、神はとある魔術の禁書目録のゲームをちらつかせてきた。

「わかった。いつやるんだ？」

「来週辺りかな？とりあえず、デッキを未来の禁止制限の物に改造しといてね」

ロキはそう言っつてリストを渡してくれた。

「じゃあまた今度ね。ツールもこれで喜べば良いけどね」

なんとか帰ったな。

カードをオークションに出そう。

さようならブラック・マジシャン（泣）。

さようなら真紅眼の黒龍（号泣）。

この売上で海馬ランドのチケットを買った（泣）！

・・・三日後・・・

ちなみに実家（？）にはもう帰った。

沙也加も一緒だ。

ちなみに実家（？）は童実野町にある。

「何故だ・・・」

落札価格¥1000・0000・0000

二枚セットで売ったが・・・高すぎだろ！

10年以上遊んで暮らせるだろこれ。

取引しよう！楽だ！

これからの生活が楽だ！

さて、海馬ランドのチケット買おう！

海馬ランドの入場券はと・・・6000円か・・・落札価格と比べて安いな。

買うか。

・・・二日後・・・

「沙也加！明日、海馬ランド行こうぜ！」

「たしかに近いけど・・・」「入場券はもう買った」

「どこにそんなお金が有ったんですか？無駄遣いしないでよ・・・」
「・・・ごめん。ブラックマジシャンと真紅眼を使わないから売ったんだよ。使ったらまずいからな」

「そうですか・・・行きましようか！」

（一億円で売れた事は言わなくて良いか。面倒だし）

・・・次の日・・・

「着きましたね！」

「だな。しかし・・・」

「社長は青眼好きすぎだろ！」
「辺り一面青眼ばかりじゃないか！」

「とりあえず、観覧車（？）辺りに乗るか」
「はい！」

・・・数分後・・・

「・・・中まで青眼の模様付きかよ！」

「そんなに青眼をプッシュしなくても・・・」
「なあ」

「次は・・・お化け屋敷に行こうぜ」
「うん！」

・・・数分後・・・

「着いたな」

「うん」

「入るぞ」

「はい」

気のせいかな沙也加は返事しかしてないな……。

「キヤア！」

「なんだ？つて青眼の銀ゾンビだと！」

懐かし過ぎだ！

「ああ、あのバニラモンスターですか」

「たしかに弱いが……」

「うわぁ！」

「次は……ゾンビマスターかよ！逃げるぞ沙也加！」

「もちろんです！」

あれは怖い！

ガチカードだったカードだし、今でも充分強いし！

「ハア、ハア……疲れた……」

「ハア、ハア……私……もです……」

「出口だ！」

「速く出ましよう！」

「もちろんだ！」

脱出成功！

「しかし……このお化け屋敷はアンデッドワールドを完全再現しようとしてたのか？」

「まあ良く出来てましたね」

「まっただ」

怖い！怖すぎる！

オカルトは嫌いなんだが……。

社長もオカルト嫌いだったのになんで作ったんだろ？そう思っていると【アンデッド族の世界観が解ったか愚民共！お化け屋敷アンデッド・ワールド】という看板が見えた

「なんだろう？凄い殺意が湧いてきた！」

「暴れないでね？康太さん？」

「はい！」

「・・・昼飯にするか・・・」

「はい」

ちなみに昼飯の弁当は俺が作った。

沙也加に作らせたら死んでしまう！

「肉じゃがとハンバーグとポテトサラダと卵焼きですか」

「ああ」

「お弁当の定番ですね」

食べ物の持ち込みはOKだった。

カップルのデートとか向けにだな、多分。

「「いただきます！」」

食事シーンはカットさせていただきますby作者

「「ごちそうさまでした！」」

「美味しかったです」

「ならよかった。次はジェットコースターに乗ろうぜ」

「はい！」

「ちよつとそこのお嬢さん？一緒に行かない？」

ナンパ野郎か・・・。

「人の彼女に何してんだ？」

「こんな野郎より、俺様と回ろうぜ？」

「放してください！」

「チツ！ならそこの野郎！」

「なんだ？」

「俺様とデュエルしろ！俺が勝ったらこの女は貰って行く」

「じゃあ俺が勝ったらお前死ねよ？」

「良いぜ！負ける訳無いからな」

「じゃあ貴様には地獄への片道切符をやるっ」

（トリシューラ？聴いてるか？）

『わしの力でわしと風華にはテレパシーの様に喋れるようにはした
が早速使うとは何じゃ？』

（今回だけは氷結界を使わず戦うぜ。絶対シンクロ使ったら卑怯扱
いだし）

『解った。頑張れよ』

（目指せワンキルだ）

「デュエル！」

「ナンパ野郎！先行は譲ってやる」

「俺様はナンパ野郎なんて名前じゃねえ！桐山和也様だ！」

「さっさとしろ。お前の次のターンはカードをプレイ出来ないしな
！」

「俺様は未来融合ーフューチャーフュージョナーを発動し、デッキ
からダークホルスドラゴン三枚とミンゲイドラゴン二枚を墓地に送
りFGDを選択する！更に龍の鏡を発動！これにより、今、墓地に
送ったモンスターを除外しFGDを融合召喚！ターンエンド」

「俺のターンドロー！俺はカードを四枚伏せターンエンド」

「俺は永続罫、シモツチの副作用を発動！」

「俺は魔法カードスタンピング・クラッシュを発動破壊するのはそ
の右端のリバースカードだ！」

「全部一緒だリバースカードオープン、ギフトカード。効果により
死亡確定野郎のライフを一枚につき3000回復する。更にシモツ

チの副作用の効果により相手がライフを回復する場合、その回復を
ダメージに変更する。さあ死にな、ナンパ野郎（死人）
ナンパ野郎

LP4000 - 5000

「嫌だ！俺は死にたくない！」

ナンパ野郎は走って逃げようとする。

「待て！雑魚！」

ナンパ野郎はタバコを吸っていたのか、体力が低くかっただらしくす
ぐに追いついた。

「デツキは貰っていっけ雑魚ナンパ野郎（笑）」

「クソッ！」

売ったら何万円になるかな

「ただいま！デツキ貰ってきたぜ」

「売ったら何万円位になりますかね？」

「100万円位は行きそうだな」

・・・数分後・・・

いきなり係員の人に呼ばれた。

何故？

理由を聞くと、あのナンパ野郎はかなり迷惑な人物で海馬ランドに
入り浸ってカッパルの女性をナンパし連れ去ったりしていたらしい。
それを退治したから、お礼がしたいらしい。

「気にしないでください・・・俺だって彼女がナンパされたから、
ブチ切れてやっただけです」

「デツキまで没収して無力化していただいていますし・・・」

「気にしないでほしいんですけど・・・」

「そうだ！これを差し上げます。その彼女さんにもどうぞ！」
渡されたのは・・・フリーパスだった。

「ありがとうございます！」

「また来てくださいね！こちらもお待ちしております！」

「行くぜ沙也加！次はメリーゴーランドだ！」

「はい！」

・・・数時間後・・・

「今日は楽しかったな！」

「はい！また行きましょう！」

「もちろんだ！フリーパスも貰ったしな」

こうして、俺達の初デートは終わった。

ちなみに次の日、海条遊騎という平行世界の未来のデュエリストとデュエルした。

Side End

一期終了記念番外編1〜康太と沙也加のデート〜（後書き）

通りすがりのデュエリスト様の小説の遊戯王5D・s Another
er story〜アカデミアの伝説〜にて、コラボ小説が載って
おりますので、良ければ読んでください！

一期終了記念番外編〜一期振り返り座談会（反省会）〜（前書き）

反省会です。

初期設定等を書きました。

一期終了記念番外編〜一期振り返り座談会（反省会）〜

一期が終わったな。

康太「そうだな」

沙也加「極端に私のデュエル少ないよね。ヒロインなのに」

仕方ないよ・・・デッキ考えるの面倒だし。

康太「それで俺のデッキを四つに固定したのか？」

そうだ。問題あるか？

康太「もっと使わせろ！」

ワンキルばかりするようなデッキをポンポン考えれる訳無いだろ！

康太「4000だし・・・簡単じゃない？」

原作キャラとあまり被らないように気をつけつつやったんだよ、俺
だって（泣）

康太「BFとかもろに被ってるが・・・」

ガチでわかりやすいのがあれしか浮かばなかったんだ・・・。

沙也加「TGRハイパーライブラリアン入りのシンクロンデッキは
？」

あれは、ドツペル・ウォリアーを軸にしたデッキだ。間違っても蟹デッキそのものではないぞ！

クイツク・シンクロンとかも入ってないハズだし。

康太「書いたその時のノリで書き上げてたし絶対適当だろ」

一応、話は一度頭に考えてから書いてる。適当じゃない！

沙也加「精霊のカードもその場のノリで決めてましたよね」

康太「氷結界の風水師の風華以外の精霊の可能性が有ったしな」

風華「私以外の可能性があつたんですか！」

・・・あつたよ。

当初の予定では、氷結界の封魔団の予定だったよ・・・。

康太「マジかよ」

風華「マジですか・・・」

沙也加「酷いね」

トリシユ「わしの初期設定はどうなんだ？」

史上最強の弟子ケンイチのじじいをイメージしてた。

トリシユ「あんなマッチョの化け物と同じような感じか・・・」

康太「扱い良いな！」

トリシューラ好きだし。

沙也加「昔、良くトリシューなんか燃えるなんて言ってたよね」

気が変わったんだよ……。

康太「実際よく使ってるしな！ジャンク入りのTGで！」

風華『氷結界使いの癖に』

沙也加「そうですよ！」

トリシュー『そうじゃそうじゃー！』

だって強いし。

沙也加「……」

康太「……」

風華『……』

トリシュー『……』

ちなみに沙也加の初期設定は……。

眼鏡をかけている。

真面目。

委員長のような性格。

ロン毛。

だっただぞ！

沙也加「ロン毛以外全く違いますよね」

真面目な委員長は書けないよ……。

真面目な人間じゃないし。

ちなみに康太の初期設定はこうだ。

馬鹿正直。

優しい。

熱血漢。

面倒だろうが仲間の為なら平気で首を突っ込む。

見た目がバカとテストと召喚獣の土屋康太。

康太「ふざけんな！ムツツリー二なんか嫌だ！」

ムツツリー二は個人的にはキャラとして、好きなんだが。

風華「変わってますね」

Orz

風華の初期設定も載せてやる！

見た目が氷結界の封魔団。

高飛車。

康太&沙也加「便乗すんな！」
バキィ、グチャ、ドゴォ!

ちよっ、康太、沙也加、無言で殴ったり蹴ったりしないで痛いから。

風華『これ以上やると作者が死にそうなのでこれで終わります!』

一期終了記念番外編〜一期振り返り座談会（反省会）〜（後書き）

痛い痛い（泣）

康太と沙也加よ・・・蹴りすぎだ・・・痛過ぎだ（泣）。

ちょっとしたお知らせ？（前書き）

連続更新です。

本編とは関係ありませんが、更新とはかなり関係あります。

ちょっとしたお知らせ？

今回はお願いと、お知らせです。

まず、俺の家族等の話をします。

家族構成が父、母、姉、俺、弟、という感じなんですよ。

俺は現在、高校一年の春休み、つまり二年生になる直前という訳なんですよ。

姉は、今年高校を卒業し、弟は来年度受験という感じですよ。

つまり、家族がずっと家に居るといふ状態なんですよ……。

この小説の事は家族はおろか、友人にすら話していないし、話す気もありません。

むやみやたらに書けないという訳ですよ。

定時制の高校のため、今までは（春休みに入る前）簡単に時間が取れた（午前から夕方に家族がいない）のですが、最近は時間があまり取れておれません。

深夜か、隙を見て書くかの二択な訳ですよ。

何が言いたいかと言うと、これからしばらくは更新が遅れますという事です。

かなり自分勝手な理由で申し訳ありません。

次をお願いなのですが、俺が一人で書いていますので、オリカがネタ切れなのですよね……。

シューティング・スター・ドラゴンの上位モンスターの効果と、名前はほぼ決めましたが、ほかの事、つまりはこれから使っていくカードの事です。

という事で、オリカを募集します。

募集の条件は、チートになりすぎない程度で、わかりやすい効果のカードであることと、モンスターならば見た目も書いてください。応募の際はメッセージ又は、感想に書き込んでください。よろしく願います。

恐竜使いと鬼畜野郎とガチデツキ？使い（前書き）

最近、更新が難しくなってきましたが、頑張ります！

恐竜使いと鬼畜野郎とガチデツキ？使い

Side 康太

新年度が始まり、いろいろ有った。

新入生、江戸・不死鳥・・・もといエド・フェニックスを後攻ワンキルで撃破する十代や後攻1ターン目でオジャマデルタハリケーンを決めて見せたサンダーとかな。

「沙也加！ちよつと購買に行かないか？」

「いきなり何故ですか？」

「ドローパン食べてみたい」たまにはね、惣菜パンが食べたくなる時もあるさ。

「アレルギーとかは大丈夫なの？」

「大丈夫だ」

アレルギーは無い。

だが凄まじいレベルの好き嫌いはあるがな・・・。

「じゃあ食べに行きましょうか！」

・・・数分後・・・

購買部に着いたな・・・さあ食うか！

「トメさん、お久しぶりですね」

「はじめまして、康太さんの彼女の藍沢沙也加です。よろしくお願
いします」

「康太ちゃん久しぶりだね。沙也加ちゃんはじめまして、トメって
呼んでね」

「よろしくお願ひします、トメさん」

「トメさん、ドローパンください」

「初めてだね、康太ちゃんがドローパンを買うなんてさ」

「たまには食べたくなくなるさ」
さて、一つを見極めて・・・「ドロー！」。

中身は・・・なんだと！

「具無しパンですね・・・」

「まずくもないし、旨くもない・・・微妙だな・・・」

「カードパックがついてきますよね」

「本当だな」中身は・・・。

H I ヒートハート

E I エマジエンシーコール

R I ライトジャステイス

O I オーバーソウル

H E R O フラッシュ

使いたいのに使えないカードを貰っても・・・。

「シニョール康太、こんなところに居たノーネ」

「ゲツ、クロノス教諭」

「今は臨時校長ナノーネ。とりあえず、シニョール十代達と共に予備のデュエルディスクを運んで欲しいノーネ」

デュエルディマク・・・間違えた。

デュエルディスクを運ぶのか・・・。

これってティラノ剣山戦か・・・。

「・・・わかりました」

・・・数分後・・・

「なあ、十代？」

「なんだよ、康太？」

「なんで二人で運ぶ事になったんだろうな？」

「翔がトイレに行くって言うてから帰ってきてないからだろ」

「運び終わったら、翔をシメかないか？」

「良いかもな」

「デュエルディスクを置いていくドン！……ってあんたは氷の鬼神じゃないかドン？」

「そのふざけた呼び方はなんだ！」

「カイザーを撃破し、鬼才と呼べる程までのデュエルのセンスを持ち、未知の召喚方法、シンクロ召喚を行うという噂を聞き一年生が付けた通り名ザウルス」

「なんて酷いあだ名だ！同調召喚師の方がマシだ！」

「充分それも酷いあだ名だと思うぜ」

「笑いながら言われても慰めにすらならねえよ！」

「カイザーを撃破した氷の鬼神、高嶺康太と卒業タッグデュエルにてタッグパートナーを務めた遊城十代！俺とデュエルするザウルス！」

「康太！ここは俺が行くぜ！」

「待て！俺はこいつを倒さねえと、イライラが治まらねえ！」

No Side

「デュエル！」

「恐竜野郎、先行は譲る」

「ナメてると痛い目見るドン！俺のターンドロー！俺は暗黒ステゴを守備表示で召喚！」

ステゴザウルスそのものが現れる。

暗黒ステゴ

DEF2000

「カードを一枚伏せてターンエンドン！」

剣山

手札 4枚

モンスター 暗黒ステゴ

魔法罫 リバースカード 1枚

「俺のターンドロ！俺は強欲なウツボを発動！俺は手札の水属性モンスターを二枚手札からデッキに戻し三枚ドロ！する。三枚ドロ！手札より、氷結界の妖精の効果発動！このカードをドロ！フェイズ以外に手札に加わった時、特殊召喚できる。」
水色と青を基調とした服を着た、氷の羽が生えた女性が現れる。

氷結界の妖精

ATKO

「氷結界の妖精は自身の効果により特殊召喚した場合、デッキからカードを一枚ドロ！する。更に魔法カードサイクロンを発動！リバースカードを破壊！」

破壊されたカード

奈落の落とし穴

「ああ！奈落の落とし穴が破壊されたザウルス！」

（何でだろう？最近この世界で俺以外が奈落の落とし穴を使っているのを良く見かけるようになったな……。転生したばかりの頃はあまり見なかったのに……。）

破壊されたカード

奈落の落とし穴

（何だろう？最近こっちの世界で奈落を見る回数が増えてきてる……。）

「ああ！奈落の落とし穴が破壊されたザウルス！」

「アイスブーストを発動し水属性モンスターを三枚捨て三枚ドロ！」

捨てられたカード

氷結界の風水師

氷結界の水影

氷結界の召喚者

「私・・・出番が少ないだけでなく捨てられたりといったコスト扱
いされるんですね・・・」

「なんかごめん・・・とりあえず、魔法カード死者蘇生を発動！氷
結界の召喚者を特殊召喚！」

氷結界の召喚者

ATK2300

「氷結界の召喚者の効果発動！他の氷結界と名のつくモンスターが
存在する場合、1ターンに一度、デッキからレベル4以下の氷結界
と名のつくモンスターを特殊召喚できる！現れる！氷結界の守護霊
！」

氷結界の守護霊

ATK1000

「レベル1氷結界の妖精にレベル1氷結界の守護霊をチューニング
！集いし氷の力が、新たな力の糧になる！仲間との絆を紡ぐ力とな
れ！シンクロ召喚！新たな希望、シンクロチューナー、ブリザー
ド・シンクロン！」

「更にアイスカーペットを発動、氷結界の水影を特殊召喚」

氷結界の水影

ATK1200

「レベル2氷結界の水影にレベル6氷結界の召喚者をチューニング！集いし願いが新たに輝く星となる！光射す道となれ！シンクロ召喚！飛翔せよ、スターダスト・ドラゴン」
体に星屑を纏った龍が現れる！

スターダスト・ドラゴン

ATK2500

「クリアマインド！レベル2シンクロチューナーブリザード・シンクロンにレベル8スターダスト・ドラゴンをチューニング！集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く！光射す道となれ！アクセルシンクロ！現れる、シューティング・スター・ドラゴン」
体に星屑を纏った機械的な龍が現れる。

シューティング・スター・ドラゴン

ATK3300

「「どうやって消えたんだ【ザウルス】！」」

「知らん！つてかまたこの絡みやるのかよ！？つーか十代は二度目だろ！」

「「知らん！」」

「オイ！」

「シューティングスタードラゴンの効果発動、デッキトップを五枚めくり、その中のチューナーモンスターの数だけ攻撃できる！」

「そんなギャンブル、外れるザウルス！」

「わからないだろ？一枚目、チューナーモンスター、氷結界の守護霊！二枚目チューナーモンスター、デブリ・ドラゴン！三枚目、氷結界の水影！四枚目、チューナーモンスター、デブリ・ドラゴン！

五枚目、チューナーモンスター氷結界の守護霊！」

「五枚ともチューナーモンスターなんて、普通おかしいドン！」

（次のターン以降完全な事故かよ！）

「これが【積み込み】俺達の絆の力だ！行け、スターダスト・ミラ
ージュー！ゲオレンダア！」

剣山

LP4000 0

S i d e 康太

「あれ？」

なんでスターダスト・ミラージューゲオレンダア！なんか成功したんだ？

「負けは負けだドン」

「じゃあ通らせてもらうぜ」

こうして、デュエルディスク運びは終了した。

・・・数時間後・・・

「翔お前、良くもディスク運びを押し付けたな」

「誤解つすよ」

「問答無用！」

俺は、リアルバイサーデスを使い、翔にお仕置きした。

ちなみに、このリアルバイサーデスは俺の部屋に何故か俺宛てで届いていた。

「ギヤアアアアアア！」その日の夜、翔の叫び声が寮中に響いた。

ちなみに、次の日、何故か十代が剣山を舎弟にしていた。

剣山に聞くと、あの後、デュエルして十代がワンキルして、舎弟に

してもらったらしい。

S i d e E n d

恐竜使いと鬼畜野郎とガチデツキ？使い（後書き）

氷結界の召喚者と氷結界の妖精はユタさんが投稿されたオリカです。

EDVS十代 HEROVSHERO!

Side 康太

さて翔が昇格して衣装が変わったのが見慣れてきたな。
昨日カイザーが負けて、江戸が十代に挑戦しようとして、戦う事になった。

原作通り、十代が負ければネオスゲットのイベント。
勝てばかなりまずい事になってしまうな……。

……次の日……

「江戸とまたデュエルするのか……頑張れよ！」
雑魚だな！

「この前勝ったんだし、大丈夫だって」

「その油断が足元を掬うぜ？」

やばいな……十代の奴、調子にのってやがる。

「大丈夫だって。それじゃ行ってくるぜ！」

「後から俺も行くぞ」

「わかった！また後でな」

さてと、行くか。

デッキは一応持っておこう。

……数分後……

Side 十代

「さあエド！楽しいデュエルにしようぜ！」

どうせ今回も勝てるだろ！

「行くぞ！」

NoSide

「デュエル！」

「ボクのターンドロー！ボクはE・HEROクレイマンを守備表示で召喚！」

エドのフィールドに粘土で出来たHEROらしからぬモンスターが現れる

E・HEROクレイマン

DEF2000

「カードを二枚セットしてターンエンド」

エド

手札 3枚

モンスター E・HEROクレイマン

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロー！ここは様子見だ！俺はE・HEROフェザーマンを守備表示で召喚！」

羽の生えたHEROが現れる。

E・HEROフェザーマン

DEF1000

「カードを二枚伏せてターンエンド」

「エンドフェイスにリバーズカードオープン終焉の炎！これにより、黒焰トークンを特殊召喚！」

十代

手札 3枚

モンスター E・HEROフェザーマン

魔法罫 リバーズカード二枚

「ボクのターンドロ―！ボクはおろかな埋葬を発動しD・HEROディアボリックガイをセメタリーに送る。ボクはD・HEROディアボリックガイのエフェクトを発動する！セメタリーのディアボリックガイを除外しデッキからディアボリックガイを特殊召喚する」
半裸の中年男性のようなモンスターが現れる。

D・HEROディアボリックガイ

ATK800

「ディアボリックガイと黒焰トークン二体を生け贄に現れる！D・HEROドグマガイ！」

黒い羽を持つ人とは思えない様な人型モンスターが現れる

D・HEROドグマガイ

ATK3400

「ドグマガイでフェザーマンを攻撃！デス・クロニクル！」

「くっ・・・フェザーマン！でも次に繋げるぜ！罫発動！ヒーロースIGNAL！これによりフォレストマンを守備表示で特殊召喚！」
体の半分が木で出来たHEROが現れる。

E・HEROフォレストマン
DEF2000

「これでボクはターンエンド」

エド

手札2枚

モンスター E・HEROクレイマン
魔法罫 リバースカード1枚

「俺のターンドロー！」

「この瞬間、ドグマガイのエフェクトにより、十代！お前のライフを半分にする！」

十代

LP4000 2000

「むかつくんだよ！十代！お前みたいな憧れだけでHEROを使う奴がな！」

「俺は・・・俺は違う！」

「違うないな！」

「くっ・・・ターンエンド」

「ボクはD・HEROダイヤモンドガイを召喚しデーモンの斧を装備。ドグマガイでフォレストマンを攻撃しダイヤモンドガイでダイレクトアタック」

十代

LP2000 0

Side十代

負け・・・た・・・。

「大丈夫か！？十代！」

あれ？カードが白紙に見える・・・。

ガタツ

ああ・・・俺・・・二度とデュエル出来ないんだ・・・。

Side 康太

やっぱり十代が負けたか・・・。

なんか様子がおかしいな・・・なんかふらふらしてるな・・・。

「大丈夫か！？十代！」

ガタツと音がして十代が倒れる。

「大丈夫か！大丈夫か！？十代！！」

「二度とボクの前に現れるな」

そう言つと十代の倒れる際に散らばったハネクリボーのカードを踏み付けた。

「オイ！糞野郎！」

「誰に向かつて糞野郎呼ばわりするんだ？」

江戸がそう言うが・・・。

「その足を退ける！糞野郎！」

「フン」

「・・・オイ、デュエルしろよ！」

「何故しなくちゃならないんだ？」

「十代を侮辱したお前を俺は、俺は許せない！」

「良いだろう！デュエルだ」

Side End

康太の怒り VS エド（前書き）

前書きにも後書きにも書くことが無い・・・。

今回は康太の切り札が出ます！

康太の怒り VS エド

NoSide

「デュエル！」

「俺のターンドロ！俺は強欲な壺を発動し二枚ドロ！今引いた氷結界の妖精二枚の効果を発動！二体を特殊召喚！」
青と水色を基調とした服を着た氷の羽が生えた女の子が二体、現れる。

氷結界の妖精

DEF0

「氷結界の妖精はこの効果で特殊召喚された場合一体につき一枚ドロ！する！よって二枚ドロ！カードを二枚伏せてターンエンド」

康太

手札 5枚

モンスター 氷結界の妖精×2

魔法罫 リバースカード2枚

「ボクのターンドロ！ボクはD-I-H-E-R-Oダイヤモンドガイを召喚！」

透明な刺がついた鎧？を着た男が現れる。

D-I-H-E-R-Oダイヤモンドガイ

ATK1400

「ダイヤモンドガイで氷結界の妖精を攻撃！ダイヤモンドブロー！」
「畏発動！アイスシールド！アイスシールドは氷結界と名の付くモ

ンスターが攻撃される時、その攻撃を無効にしてデッキから氷結界と名の付くモンスターを一枚墓地に送りその効果で墓地に送られた氷結界と名の付くモンスターよりレベルの低い氷結界と名の付くモンスターをデッキから特殊召喚する！俺はデッキから氷結界の破術師を墓地に送り氷結界の守護霊を特殊召喚する！」

「くっ・・・ならばダイヤモンドガイのエフェクト発動！デッキの一番上のカードをめくり、そのカードが通常魔法ならばセメタリーに送る。それ以外ならばデッキの一番下に戻す」

めくられたカード
終わりの始まり

「通常魔法なのでセメタリーに送る！カードを二枚伏せてターンエンド！」

エド

手札 3枚

モンスター D I H E R O ダイヤモンドガイ

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロ―！俺はレベル1の氷結界の妖精にレベル1の氷結界の守護霊をチューニング！シンクロ召喚、希望のカシンクロチユ―ナーフォーミュラ・シンクロン！」
F1のスポーツカーの様なモンスターが現れる。

フォーミュラ・シンクロン

DEF1500

「フォーミュラ・シンクロンの効果で一枚ドロ―！更に俺はアイス

ロストを発動！3000ライフポイントを支払い、デッキから氷結界と名の付くモンスターを全て墓地に送る！俺はデッキから15枚の氷結界を墓地に送る」

「何だと！？そんな事をすればほとんどもうモンスターは引けないぞ！？」

「かまわん！このターンでけりをつけてやるからな！アイスカーペツトを発動し、氷結界の守護霊を特殊召喚しもう一度シンクロ召喚！フォーミュラ・シンクロン！もう一度一枚ドロー！」

「またドローだと！？」

「手札増強はここまでだ！デブリ・ドラゴンを召喚！」
小さな龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「そんな雑魚に何が出来るんだ？」

「デブリ・ドラゴンの効果発動、墓地の攻撃力500以下のモンスターを一体特殊召喚する。ただし、この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効になる。現れる、氷結界の破術師」
小さな魔術師風の子供が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「・・・むかつくんだよ。江戸、お前みたいな自分は被害者として思っていない復讐にとらわれた屑がな！」

「何も知らないくせにそんな事をほざくな！」

「何も知らない？知っているさ！家族を殺される怒りや悲しみくら

い！」

「何だと」

「俺の親父はな！いきなり、何もしていないのに通り魔に刺されて死んだ！俺の目の前でな！」

「・・・」

「しかもそいつは捕まったがな！責任がとれない障害者のふりをして何の罪にも裁かれず釈放された！どれだけそいつを憎んだか？どれだけそいつを怨んだか？解るか！？答えてみる！」

「・・・」

「デュエルの続きだ！レベル3氷結界の破術師にレベル4のデブリ・ドラゴンをチューニング。集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る。仲間との絆を紡ぐ力となれ。シンク口召喚。氷結界の龍グングニール」

氷で出来た赤みを帯びた龍が現れる。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「更にレベル7氷結界の龍グングニールにレベル2フォーミュラ・シンクロン二体をチューニング！氷の一族に邪悪な思いが集う時、その思いが究極の邪神を呼び覚ます！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンク口召喚！砕け！アイス・バーサーカー！」

体が氷で出来た巨大な斧を持った人型の化け物が現れる。

アイス・バーサーカー

ATK4000

「アイス・バーサーカーのシンク口召喚に成功した時、墓地の氷結界と名の付くモンスターを全て除外する。ブレイク・アイス・ホール！」

アイス・バーサーカーが斧を振ると墓地の氷結界と名の付くモンスターが全て除外された。

「アイス・バーサーカーはこの効果で除外した氷結界の枚数分だけ攻撃できる。更にアイス・バーサーカーの効果発動、手札の氷結界と名の付くモンスターを一枚ゲームから除外することでこのターンの間アイス・バーサーカーは畏の効果を受けない。アイス・スタンアイス・バーサーカーが唸るとエドのフィールド上の魔法、畏が全て凍った。

「アイス・バーサーカーでダイヤモンドガイを攻撃、アイス・クラッシュシュ！」

アイス・バーサーカーが凄まじい速さでダイヤモンドガイを砕いた。

エド

LP 4000 1600

「アイス・バーサーカーでダイレクトアタック！アイス・クラッシュシュ！」

エド

LP 1600 0

Side 康太

「反省しろよ糞野郎！」

そう言うってから俺は十代のデッキを回収する。

そうしていると江戸は無言で帰って行った……。

デッキを回収し終えたし十代の所に行こう。

……数分後……

「よつ十代、大丈夫か？」

「ああ・・・康太か・・・実は俺・・・カードが白紙にしか見えなくなっただ・・・」

「そうか・・・見える様になっただらまたデュエルしような！」

「ああ」

さて、過労死HEROネオスとの決戦に向けて頑張るか！

S i d e E n d

氷結界の里へ・・・(前書き)

今回はデュエル無しの、オリジナル話です。

氷結界の里へ・・・

Side 康太

「後はこのカードを入れれば完成だな」

デッキを調整をしてたが入れた覚えの無いカードがあつたな・・・。
なんでもっと早く気づかなかつたんだろうか・・・。

『康太よ、氷結界の里に来てくれ』

「何故だ？」

『ちよつと話したい事がある』

「わかつた。風華、行くぞ！」

『ハイ！』

「何をやってるんです？」

「やべえ！風華が実体化してる最中なのに・・・。

「貴女、何者です？」

『私は氷結界の風水師の風華、康太さんの精霊です』

「わかりました。何をしてたんですか？」

「やばいな・・・精霊界なんかには沙也加が来たら・・・。

「私も行きますね」

「いやいや、危ないから来ないでくれよ！」

「危ないから来ない方が・・・。」

「康太さんは黙っててね？」

「リアルバイサーデスを見せながら言う台詞じゃないよね？つーか
やめようよ！バイサーデスを使おうとしないでくれよ！」

「痛いとか叫びながら私に助けを求める康太さん・・・興奮するね！

・・・ハアハア」

「沙也加！？元の世界に帰って来てくれよ！てか沙也加つてドが付
くSだったの！？」

『沙也加さんの意見に同意します・・・ハアハア』

「風華まで敵か！？トリシューラ助けて！」

『いつもわしに暴言を言ってるくせに都合の良いこと言っな！』

「いつも・・・ごめん」

『わかれば良い。これ風華、もっと激しくやりなさい』

「お前も敵か！？」

『リア充なんて死ねば良いと思う』

「・・・助けてくれ」

「ハアハア・・・さあバイサーデスを受けてください・・・ハアハア」

「目がやばいって！落ち着けよ！」

『とりあえずゲートを開けて移動しましょうか』

「そうしよう」

『それじゃ開けますね』

「つて落とし穴みたいに落とすな！つ沙也加危ない！！」

俺は移動をして沙也加に近づいた。

そして沙也加の頭を庇う様に抱きしめた。

「痛っ！」

穴の下まで落ちた。

死ななかつたのは奇跡だな・・・。

「沙也加、大丈夫か？・・・つてズボンのファスナーを開けるな！」

「何か問題でも有りましたか？」

「問題しかねえ！」

『トリシューラ様の所へ急ぎましようか』

「ああ」

「わかりました」

・・・数分後・・・

「で、何のようだ？」

『特訓をすべきだと思わんか？アクセルシンクロやデルタアクセル』

シンクロをやって見せたがまだ足りてないんじゃないか？』

「デルタアクセルシンクロって何？」

『アイス・バーサーカーはシンクロモンスターのチューナー二枚＋シンクロモンスターが条件じゃったろ？』

「ああ」

『通常のアクセルシンクロはシンクロチューナー＋シンクロモンスターじゃ。つまりデルタアクセルシンクロとはシンクロモンスター三枚でシンクロ召喚するという事じゃ』
「なるほど」

『しかし、アイス・バーサーカーが目覚めたのに、まだスターダスト・ドラゴン様のアクセルシンクロの力、シューティング・スター・ドラゴン以上の力は目覚めておらん。なので、スターダスト・ドラゴン様の力を使えるようになる為の特訓じゃ』

「具体的に何をするんだ？」

『本来のアクセルシンクロはDーホイールの力で行うが、康太は違う』

「つまり、俺にDーホイールのようなスピードの中シンクロ召喚をデュエルディスクを構えてやれと言っのか？」

『そうだ』

「危険過ぎますよ！康太さん、止めておきましょうよ！」

「俺は・・・俺は皆を守る力が欲しいだから・・・やる。沙也加、大丈夫だ、きつと、きつと生きて帰ってくる！」

「・・・でも！」

「わかってくれ・・・。行くぞトリシューラ！」

『・・・わかった。行くぞ康太！わしの上に乗れ！』

「あっ・・・」

沙也加・・・ごめん・・・でも俺は力が欲しいんだ。皆を守る力がな。

「具体的に何をするんだ？」

『わしの上に乗って康太がデュエルディスクを構える。わしは全力

で飛ぶ』

「シートベルトみたいな物は？」

『わしの氷の力で氷の膜を作って守る』

「・・・すごく不安になってきた」

『風華もおるし大丈夫じゃろ』

「・・・わかった」

Side 沙也加

康太さんがいないし暇ですね・・・。

「私は何をしていたら良いんだろっ・・・」 『とりあえずライホウ様の所へ行きませんか？あそこになら何か暇をつぶせる物が有るかも知れませんし』

「わかりました、行ってみましょう！」

こうして私達はライホウさんの所へ行く事になりました。

・・・数分後・・・

『着きましたよ！』

「ここですか？」

『はい』

「わかりました・・・とりあえずノックしてくれませんか？」

『はい。ライホウ様！いらっしやいますか？』

『居ますよ。誰ですか？』

『風華です』

『わかりました。入ってください』

『もう一人、人間の方が居ますが、一緒に入って良いですか？』

『康太様ですか？』

『違います。康太さんの彼女さんの沙也加さんです』

『わかりました。入ってください』

「『おじやまします!』」

部屋は綺麗何ですが……。

「特に何も無いですね……」

『それを言わないでください……私もそれ程必要無いと思うので
集めなかったのですが』

『アレは何ですか?』

『トリシューラ様用の干し肉です……アレを食事に入れなければ
里が減ぶので……』

氷結界の里ってそんなに滅びやすいの!?

『過去に滅びかけましたしね、トリシューラ様のせい』

『どうしてなの?』

『実は……トリシューラの氷結界の里を破壊した時の事の説明……
・と言う事が有りましてね』

「……トリシューラって馬鹿なんですね」

『康太様も似たことをおっしゃってましたね』

「ハハハ」

S i d e 康太

「成功したな!」

『まだ未完成で不安定だがな』

「言うな……」

『とりあえず風華達を迎えに行くか』

「ああ!」

……数分後……

「よっ!沙也加、そろそろ帰るぜ!」

「わかりました。さあ行きましょー!」

『じゃあゲートを開きますね』

・・・着いたな

「起きろ、沙也加」

「おはようございます、康太さん。氷結界の里に行ったのは夢ですか？」

『夢じゃないですよ』

「風華さん!？」

「精霊の事黙っててごめん」

「いえいえ、気軽に話せる物じゃ無いですしね」

「ありがとうございます」

こうして沙也加が精霊を見れるようになった。

帰ってきたらサンダーが白く、ホワイトサンダーになっていた。

アレにはなりたくないな・・・。

Side End

ユニーク30000突破記念番外編〜康太と沙也加のデート海編〜（前書き）

純愛というか、ピンクイベントというか、ラブラブな康太達を書こうとしたら、コメディっぽくなってしまった・・・。
どうしよう・・・。

ユニーク30000突破記念番外編〜康太と沙也加のデート海編〜

Side 康太

暑い！暑すぎる！

夏なんて大嫌いだ！

早く寮の部屋に戻ろう。

部屋には、冷房が有るしな。

「康太さん、明日海へ行こうよ！」

明日は・・・土曜日だな・・・めんどくさいし断ろう。

「暑いからやだ」

「じゃあデュエルして！」

「何故？」

「私が勝ったら、海へ行こう！私が負けたら・・・私を好きにして・

・・・良いよ」

絶対勝ってやる！

海には行きたくない！

勝ったらこき使ってやる！

「良いぜ」

「デュエル！」

「私のターンドロー！私は天使の施しを発動し三枚ドローし二枚捨てます！」

捨てたカード

オネスト

手札抹殺

なんか嫌な予感が・・・。

「更に神の居城ーヴァルハラを発動し、光神テテュスを特殊召喚！」
白い服を着た羽が生えた女性が現れる。

光神テテュス

ATK2400

「高等儀式術を発動！私は神光の宣告者を選択しデッキから神聖なる球体を三枚墓地に送り、特殊召喚！」
羽が生えた球体が二つ繋がった様なモンスターが現れる。

神光の宣告者

DEF2800

「私はクリスティアを自身の効果により、特殊召喚！」
巨大な羽が生えたモンスターが現れる。

大天使クリスティア

ATK2800

「効果により、オネストを回収します。強欲な壺を発動し二枚ドロ！更にテテュスの効果により、オネストをオープンし一枚ドロ！更にハーブの精をオープンしドロ！更にクリスティアをオープンしドロ！更にドロ！モンスターではありませんね・・・ラストドロのカードを伏せてターンエンド」

沙也加

手札 6枚

モンスター 神光の宣告者 大天使クリスティア 光神テテュス

魔法罫 リバーズカード 2枚

鬼畜だ！勝ち目無いじゃねえか！

「俺のターンドロー！俺は強欲な壺を発ど「神光の宣告者で無効にします」なら俺は天使の施しを発ど「無効」ならモンスターをセツトカードを伏せてエンド「エンドフェイズにお触れ発動！」・・・」

康太

手札 2枚

モンスター セットモンスター

魔法罫 リバーズカード 1枚

「私のターンドロー！私は神光の宣告者を攻撃表示に変更しセットモンスターに攻撃します！」

「セットモンスターは氷結界の舞姫だ」

「クリスティアとテテユスでダイレクトアタック」

「・・・酷いな」

「じゃあ明日海に行こうね！」

「・・・はい」

こうして明日海に行くことになってしまった。

・・・次の日・・・

「海ですね！」

「・・・ああ」

「・・・日焼け止めを塗って欲しいんだけど良い？」

「ああ！」

「じゃあよろしくね」

ちなみに沙也加が着ているのは白いビキニだ。
静まれ、静まってくれ俺の股間よ！

「早く塗ってよ！」

「ああ、わりいな」

沙也加の背中に日焼け止めを塗り始める。

沙也加つてあらためて見ると、綺麗だな……。

モデルみたいに脚が綺麗だし、胸も俺好みのちょうど良い大きさだし。

こんな女性と俺みたいなルックスも中の中、モブキャラ扱いされても良いようなレベルで個性も特に無いような男で……釣り合ってるのか……。

「すまないちよつとトイレに行ってくる」

「わかりました。待ってますね！」

海の家に入りトイレを借りる。

人は、いたが見たこと無い人だった。

アカデミアが雇ってるのか？

「離してください！」

「良いじゃん、俺達と良い事しようぜ？」

「そうだそうだ！アニキと俺達と一緒に良いことしようぜ？」

「私には……私には愛してる人が居るんです！」

そんな風に思ってくれてるのに俺は……情けないな。

「生意気な女だなア！」

そう言つて男は沙也加に手を出そうとしていた。

沙也加に手を出す前に俺はその男に全力の右拳を放つた。

そして男は1m程飛んでいった。

「よくもやりやがったな？エリートであるこの俺を！」

「アニキはカイザーを継ぐ男と呼ばれていた、天上歩様だぞ！」

「実際、カイザーはオシリスレッドの高嶺康太とかいうクズに負けたがな」

「じゃあ貴様はそのクズと闘う勇氣は有るか？」
そう言つて俺はディスクを取り出した。
「やっつてやるうじゃねえか！」

(すまんが、氷結界は今回は使わないぜ)

『仕方ないじゃろ、シンクロを使えば卑怯扱いされるじゃろうしな』

「デュエル！」

「俺のターンドロ―！俺はライトロードマジシャン・ライラを召喚
！」

黒髪で長髪の白い服を着た女性が現れる。

ライトロードマジシャン・ライラ

ATK1700

「更に魔法カードソーラーエクステンジを發動し、手札からライ
ラを捨てデッキから二枚ドロ―し二枚墓地に送る」

「自分のデッキを破壊するとかやっぱり雑魚のようだな！」

「エンドフェイズにライラの効果發動、デッキトップを三枚墓地に
送る」

「俺のターンドロ―！俺はカードを一枚伏せて、仮面龍を召喚して
エンドだ！」

仮面をかぶったような龍が現れる。

仮面龍

ATK1400

「俺のターンドロ―！俺はライラの効果でリバースカードを破壊する！」

「くっ」

「奈落を破壊したか・・・最近良く見るな・・・。裁きの龍を特殊召喚！」

巨大な白い龍が現れる。

裁きの龍

ATK3000

「裁きの龍の効果発動！1000ポイントライフを払い、このカード以外のカードを全て破壊する」

「何！？」

「さて、潰してやるよ！ライラを召喚！二体でダイレクトアタック！ライトロード・エンド・ブレイク！」

「ちっ！お前等行くぞ」

「わかりました、アニキ！」

「二度と俺の大切な人に・・・沙也加に近づくな！」

「康太さん・・・愛してる！」

「くっくっくっわかりました！」

「わかったなら良いやつて沙也加！いきなり抱き着くな！あまりこっとういう事は言いたくないが、胸が当たってるって」

「当てちゃ駄目？」

「くっ・・・耐える！耐えるんだ俺の理性！沙也加を襲う（性的な意味で）なんて人として最低だぞ！」

「康太さんになら襲われても良いよ」

「俺が個人的に駄目なんだよ！部屋ならともかく、砂浜で野外プレイとか問題だから！」

「私・・・もう我慢できない!」

「やめるオオオオオオオオオオ!」

「ハアハアハアハア」

「ちよつと目がヤバいつて!」

こうして、沙也加との鬼ごっこを1時間は、した。

その夜、俺は沙也加と部屋で次の日、腰痛になるレベルまで熱い夜を過ごした。

次の日、俺は海がトラウマになってしまっていた・・・

Side End

十代の帰還（前書き）

十代デッキが二つになります。

十代の帰還

Side十代

やっとNモンスター達とハネクリボアの精霊と会えたぜ……。いろいろと大変だったな！

とりあえず康太んところに行ってデッキの改造をしてもらおう！

・・・数分後・・・

ハアハアハアハア・・・やっ到着いた。

「康太、今、部屋に居るか？」

俺はPDAから康太に電話して聞いてみる。

「久しぶりだな十代！元気にしてたか？クロノス先生も心配してたぜ？」

「そんな事より、部屋に居るか？」

「ドンマイ、クロノス先生。とりあえず居るぜ？何の用だ？」

「ちよつと新しいHERO達を手に入れたからデッキを調整したいんだ！手伝ってくれよ！」

「しばらく待つてくれ！沙也加！ズボンを脱がそうとするな！」
「断るよ！」

「止める！十代と電話中だから！」

「・・・電話切るぜ？」

「助けに来てくれ！」

「十代さん？来ないでね！」

「止める！俺の希望を奪う気か？」

「私には絶望でしか無いからね！」

「今すぐ助けに行くな！」

「ありがとう！」

俺は走って康太の部屋に行く。

S i d e 康太

「くっ・・・ズボンが取られたか・・・」

「次はパンツだね！ハアハアハアハア」

「止める！」

ガチャ 扉が開いた音

「大丈夫か！？康太！」

「いろんな意味で大丈夫じゃない」

だって沙也加の性欲が暴走してるし・・・。

ズボンを取られたし・・・。

「とりあえず何でこうなったんだ？」

十代・・・お前に優しさは無いのか？

「実は・・・」

・・・回想シーン・・・

「康太さん、ヤろうよ！」

「つい最近、腰痛で動けなくなったばっかりだろ！嫌だよ
立てないのはつらいぞ・・・。

「・・・でも・・・。なら脱がして無理矢理犯しちゃえ！」

「止める！」

・・・回想シーン終了・・・

「って訳だ」

「わかった。とりあえず、康太はズボンを穿いてくれ」

「ああ、わかった。沙也加、ズボン返してくれ」

「ハアハア・・・良い匂い・・・」

「・・・無理そうだな」

「すまないな・・・」

締まらねえ・・・。

「とりあえず、どんなカードを手に入れたんだ？」

「こいつ等だ！」

そう言つて十代はNシリーズとネオスを見せてくる。

「とりあえず、どこから弄ろうか？エアーマンは入るな・・・あとはプリズマーとかが入るな」

「プリズマーは持つてるぜ！」

「わかった。ヒーローブラストやオーオーバーソウルとEーエマー
ジェンシーコールも入るな」

「全部有るぜ！」

「わかった。他にもミラクル・フュージョンも入るな。そして、デ
ツキは二つバラバラに持ち歩けよ？ネオステツキとE・HEROデ
ツキとな」

「事故るもんな」

リアリストか！？

「・・・まあな」

言えない！原作では混ぜて使つてた事なんて言えない！

「他は・・・まあ大丈夫かな？サイクロンや大嵐、ハリケーンとか
の汎用性の高いカードを入れときゃ回るな・・・」

「わかった！じゃあまたな！」

「じゃあな」

「皆をびつくりさせる為に後から乗り込むな！」

「わかった」

・・・次の日・・・

「明日香が一応レッド寮の代表だよな？」

「そうだよ」

「俺・・・決めたよ。今回、ジエネックスでは原作介入をあまりせず、優勝を目指す」

「わかったよ」

「・・・顔芸野郎に関わりたくないしな」

「理由はそれですか・・・」

「まあな」

あんな顔芸見せられたら笑ってデュエルに集中できない！

負ける訳にはいかないのに笑いをとりにくるような奴とはデュエルしたくねえよ！

「とりあえず部屋でゆっくりしましょう！」

「ああ！」

俺達は知らなかった。

あんな鬨いに巻き込まれちまうなんて・・・。

Side End

十代の帰還（後書き）

ネタバレ注意

見たくない方は下の方を読まないでください。

ネタバレすると、しばらくしたらオリジナルストーリーに入ります。
康太と沙也加はジエネックスに参加できません

修学旅行初日（前書き）

話が飛びます。
結構飛びます。

修学旅行初日

Side 康太

いろいろ有りすぎた・・・。

最近、十代がデュエルする度にワンキルしてるや・・・江戸が可哀相だったし・・・。

「とりあえず、沙也加？お前、何でここに居るんだ？」

「何か問題ありました？」

「レッド寮男子の場所なのに何でお前が居るのか？って聞いてんだ！」

「・・・ブルー寮女子の実力者はほぼ斎王に洗脳されたから近づきたくなくて」

「仕方ない・・・十代達が解決するのを待つか」

とりあえず見学の間はKCビルでも見ておくか・・・十代が壊す前にな・・・。

とりあえず十代VS江戸のデュエルの内容を教えとくか・・・。

・・・回想・・・

「デュエル！」

「ボクはダイヤモンドガイを守備表示で召喚し、エフェクト発動！めくったカードは終わりの始まりだ！よってセメタリーに送られる。これでターンエンド」

「俺のターンドロー！俺は融合を発動しネオスとアクアドルフィン

を融合しアブソルートZeroを融合召喚！更にミラクルコンタクトを発動しアクアネオスを特殊召喚！プリズマーを召喚、効果によりフレアネオスを見せてネオスを墓地に送る。オーオーバーソウルを発動しネオスを特殊召喚！プリズマーでダイヤモンドガイを攻撃！そして他のモンスターでダイレクトアタック！」

エド

LP4000 0

・・・回想終了・・・

十代・・・鬼畜だな・・・。

「あのデュエルは忘れられませんよ・・・」

「俺もだ・・・」

「何の話してたんだ？」

((言えない・・・この前の江戸とのデュエルが鬼畜だったなんて話してたなんて絶対言えない！))

「単なる世間話だ」

「そうですね！」

「なんだ・・・つまらないな・・・」

「実家の近所が修学旅行つてどんな嫌がらせだよ・・・」

「・・・なんかごめん」

「十代、お前のせいだが問題ない。実家でゆっくりすごさせてもらう」

「そついや沙也加は康太の家に言ったことあるのか？」

「冬休みに泊まった時と春休みに泊まった時の二回ですね」

「冬休み最終日に付き合ったのに付き合う前から実家に行ってたんだな」

「俺には家族がない事伝えただろ」

「忘れてたや」

「おいおい」

「とりあえずアカデミアの方には伝えたからな・・・クロノス臨時校長だけにだが・・・」

「クロノス臨時だけにかよ・・・」

「仕方ないってナポリタン教頭だったっけ？あいつは信用出来ねえ。レッド寮を潰しに来たしな」

「まあな。そういや康太はブルーより成績は上なのに何でブルーにならないんだ？」

「ブルーみたいな奴らが嫌いなんだよ」

「豪華な食事とか食ってみてえや」

「豪華な食事とか部屋は嫌いなんだよ。貧乏性ってやつかな？」

「俺に聞くな」

「わりいわりい」

こうして童実野町に着いた。

Side End

修学旅行初日夜と・・・(前書き)

今回も短いです。

修学旅行初日夜と・・・

Side 康太

他の奴らは野宿なんだよな・・・。

「とりあえず、沙也加先に風呂入ってくれ」

「できれば一緒に入りたいな」

「くっ・・・理性がもたない・・・性欲なんかに負けてたまるか！」

「そんなこと言わずに一緒に入ろうよ！」

「ちよつと待て！胸が当たってる！離れる！」

くっ・・・沙也加つて最近性欲を持て余してるな・・・被害者は俺だけなのは何故・・・？

ああ、彼氏だからか。

「嫌だよ！なんかどっかに行っちゃいそうで・・・」

今まで精霊世界に勝手に行った時とか有ったもんな・・・

「大丈夫だ・・・どこにも行かないって・・・今はな」

「・・・うん！」

「じゃあ風呂入れ」

「一緒じゃないとやだ！」

「・・・わかつたよ」

『イチヤイチャしないでくださいよ・・・鬱陶しい』

「精霊のくせに生意気なこと言うな！」

『精霊だつて子作りもするし、精霊にだつてカップルもいるんです！』

「・・・マジで？」

『マジです！』

「つまり風華は売れ残りつて事か」

『言い方つて物があるでしょうけど・・・って違います私はまだ16歳ですから！未成年ですから！』

「知らなかった・・・てつきり20超えてるとばかり思ってたな・・・」

『orz』

「ごめんなさい」

『放っておいてください』

「じゃあ風呂入るか」

・・・入浴後・・・

「性欲に負けちゃった・・・三回もヤっちゃまうとは・・・orz」

「たっぷりヤられましたね・・・」

『康太さん！かなりヤバいです！氷結界の里が！』

「何が有ったかゆっくり説明してくれ！」

『氷結界の里がまたワームによって攻められようとしているんです！』

「ちなみに昔には何が有った？」

『昔はドラグニティと代行者の両軍が力を貸してくださり退けたんですが・・・』

(ターミナルとか関係無いんだ・・・)

『今回はまだ連絡が取れていないので大変なんです！一緒に戦ってください！』

「戦うってどうやって？」

『もちろんデュエルです！』

「マジか・・・」

「ちなみに何をすれば良いんですか？」

『代行者とドラグニティに要請してワームを迎え撃ちます！』

「沙也加は連れていけない・・・」

「私だって戦います！仲間だから！」

『・・・わかりました』

「・・・わかったよ」

『じゃあ行きますよ！』

こうして俺達はフォーム軍と戦う事になった。

S i d e E n d

修学旅行初日夜と・・・（後書き）

次回以降、オリジナルストーリーです。

世界観は思いついた物だけです。

実際のターミナルとは一切関係ありませんし、設定はほぼ無視しました。

戦争準備〜康太編前編〜

S i d e 康太

また氷結界の里に来ることになったか・・・トリシューラを戦場に投下すれば確実に消せるだろ。

「トリシューラ、俺達はどうしたら良い？」

『康太は風華を連れてドラグニティの住む竜の渓谷へ行つて軍を貸してもらおうじゃ！』

「私は？」

『代行者の居る天空の聖域へライホウと一緒に行け』

「里はどうなるんだ？大丈夫なのか？」

『グルナードとガンダーラが守つておるから安心しろ』

「わかりました」

「じゃあ行くか！」

「はい！」

『行きますよ！道はわかりますのでついて来ててください！』

「わかった」

さて、行くか！

・・・数日後・・・

「着いたな」

『はい！』

「天空の聖域と竜の渓谷、どっちが遠いんだ？」

『天空の聖域ですね。まあ両方同じくらいの距離ですがね』

沙也加・・・ごめん。

『沙也加さんは天使デッキを使ってらっしゃるのでそちらの方が良

いとトリシューラ様が判断したのでしょう」

「わかった。さあ、話をつけてさっさと帰ろうぜ！」

「はい！」

「貴様等、何者だ！」

「私達は氷結界の里を代表して参りました、氷結界の風水師と人間の
高嶺康太様です！」

あいつ等は・・・ドラグニティーレギオンとドラグニティーファラ
ンクスだな。

「人間だが今回の戦争に参加することになった。よろしくな」『チ
ツ、人間風情が生意気に！』

人間ナメンな！

『とりあえずレヴァテイン様のところまで案内してください！』
『来い！』

ファランクスの低い攻撃力ならば俺だけでも何とかなるかな・・・？
異次元の女戦士みたいなアタッカーも居るし・・・。

・・・数分後・・・

『竜の渓谷によっこそ！』

レヴァテインもトリシューラみたいに明るい性格なんだな・・・。

『本題に入りますがワームとの戦争に協力してくださいませんか？』

『もちろんじゃ！トリシューラと久々に酒を呑みたいしな！』

「協力感謝する。じゃあとリシューラに協力してくれるって伝えて
おくよ」

「つかトリシューラと仲が良いんだなこいつ・・・。

『すまんなあ。とりあえずドラグニティの一族には伝えるが帰り道
は気をつけるよ。人間が気に入くない奴もおるからな』

「ファランクスみたいな奴らがまだ居るのかよ・・・」

『わしみたいな人間が好きな奴の方が少数派だし』

「なんでそんなに人間嫌いが多いんだ？」

『使われるだけ使われて要らなくなったら捨てる。そんなことを何回も繰り返すからな・・・一部の人間はな』

「そうか・・・なんかすまないな」

『気にするな。トリシューラ達のように人間をこつちから見て気に入ったりする精霊もあるしな。君は高嶺康太君といったな。君のデュエルは良く見ていたぞ。周りがあんなガチデツキ使いばかりなのに氷結界とかシンクロンとかドラグニティとかネタデツキを中心にデュエルする、デュエルを楽しむ姿勢が気に入ってたしな』

「・・・見られてたのか」

『君が死んだ時は寂しかったな・・・。しかも精霊世界が影響を受けて起きた事件だからってトリシューラがわざわざ自らの責任じゃないのに別の世界に転生させていたのは知らなかったがね』

「なんかトリシューラに悪いことしたな・・・。蹴ったりシバいたり出てくんなくて文句言ったり・・・」

『この前は君と居て楽しかったなんて言ってたし、わしから聞いた事は黙って指摘したりしないでやってくれ』

「わかったよ。ありがとうな！」

『じゃあ帰ろうよ？』

「ああ！」

こうして俺達は帰路に着いた。

『あいつら気に入くないなあレギオン』

『そうだなフランクス、ドウクス様』

『捕まえて牢獄にでも入れておけ』

『はい！』

「なあ風華、帰ったら何する？」

『とりあえず、デツキを調整して戦う準備をしましょうよ。元の世

界に帰ればとりあえず沙也加さんとおしゃべりしたり、康太さんとゲームしたり・・・」

「帰らせないぜ？人間風情！」

「我等が貴様等を捕獲させてもらう！」

ドカツ！ドゴツ！

「グハア」

「ガハア」

二人揃って後頭部を撲られてしまった・・・。

Sideドウス

「こいつ等の荷物を調べるぞ！」

ちなみにもう牢獄には移動させたぞ。

「刃物とかはありません！」

「わかった、服の中は調べたか？」

「この女の服、調べにくいです！」

「破り捨てておけ」

「わかりました！」

女の服は全て破り捨てられ、裸になった。

「鍵をかけて、ほうり込んでおけ！」

「わかりました！」

こうして人間どもは捕獲した。

SideEnd

戦争準備〜康太編後編〜

Side 康太

「・・・此処は何処だ？」

「多分牢獄だな、捕まったし・・・。」

「そのうえに縄で縛られてるし・・・。」

「あれは、誰だ？」

「女性が素っ裸で縄に縛られてるや・・・。」

「茶髪でツインテールの髪型で小柄・・・風華かな？」

「でも・・・何故素っ裸なんだ？」

「風華か？起きろ！」

「・・・何ですか？ってあっち向いててください！」

「隠さなくて良いと思うが・・・？」

「最低ですね」

「だって人間と精霊だぞ？」

「それ以前に男と女ですから！」

「・・・すまん」

「・・・じゃああっち向いててください」

「いや、俺が風華の縄を噛み切るのが先だと思うぞ？だって食い込んでて痛そうだから」

「・・・まあ痛いですけど」

「此処を出たら俺の服を貸すよ」

「・・・ありがとうございます」

「さあ噛み切るぞ」

「わかりました・・・ってどの辺りから噛み切りますか？」

「胸の辺りかな？動かなくても良いし」

「私が女性なの忘れてませんか？」

「最悪クツションになるからな」

『殴っていいですか？』

「ごめん」

『それじゃあ背中からの辺りからで良いですよね？』

「・・・ああ」

仕方ないか・・・しかし俺のリュックの中身を回収してないみたいだし間抜けだな。

「じゃあ行くぞー！」

『はい！』

そう言っつて風華の背中からの辺りの縄に噛み付く。
つてあれ？

「簡単に噛み切れたな・・・」

『呆気ないですね・・・』

「とりあえずリュックからカッターを取り出して俺の縄を切ってくれ。後、リュックの中に着替えの服も入ってるから着替えてくれ」

『わかりました』

・・・数分後・・・

『やっと切れました』

「何で俺を縛ってた縄だけこんなに固いんだよ！つて風華は縄の跡が痛そうだな」

ちなみに風華が来てるのは、新品のトランクスとジャージだ。

トランクスは下着としてだからジャージは上下ちゃんと着ている。

『まあ仕方ないんじゃないですか？』

「よく諦められるな・・・つてあそこに窓があるな・・・しかも壊せそうだし、壊して脱出するか。風華、氷を操れるよな？」

『ええ、簡単に作れますよ』

「ならばハシゴを作って脱出しようぜ」

『わかりました』

風華がそう返事するとハシゴができた。

「さあ壊すぞ！」

バキーン！

そう音がすると窓は粉々に砕けてた。

「さあ脱出だ！」

『はい！』

こうして俺達は牢獄から脱出した。

・・・数分後・・・

『二日ぶりだな。どうしたの急に？』

「二日ぶり！？まあ良いや・・・レヴァティン！ちよっ助けて！」

『具体的にどうやって？』

「例えば乗せて飛ばして氷結界の里まで連れてってくれ！」

『忙しいんだけど・・・』

「フアランクスやドウクスとかレギオンとかに襲われたんだよ！」

『こっちは牢獄にさっきまで閉じ込められてたんですよ！』

『・・・またあいつ等か』

「どついう事だ？」

『あいつ等は気にくわれない事があるとすぐに八つ当たりしたりするんだよね。しかもあいつ等は人間嫌いだし君達は良い獲物みたいな感じだったんじゃない？』

無責任だな。

『まあ連れてく位なら良いよ』

「ありがとう！」

『気にするな。とりあえず早く乗れ』

こうして俺達は氷結界の里に帰還できた。

Side End

戦争準備〜沙也加編〜

Side 沙也加

「天空の聖域に着きましたね・・・」

「しかし遠かったですね・・・輸送部隊にでも運んでもらえばよかったですね」

「・・・ごめんなさい。私が歩くのが遅かったからですよね・・・」

「気にしないでください。沙也加様は康太様とは違い、スタミナがそこまで無いんですから」

「確かに康太さんのスタミナは異常ですね」

「貴方達は何者ですか？」

あの見た目は・・・神秘の代行者アースですね。

「私達は氷結界の里からの使者です。私は氷結界の虎将ライホウです」

「私は人間の藍沢沙也加です！」

「わかりました。お入りください」

・・・数分後・・・

「貴方達の用件を聞かせてくれないか？」

ちなみに喋ってるモンスターはマスター・ヒュペリオンですよ。」

私達、氷結界の一族は貴方達、天空の聖域の住人にワームの撃退を手伝っていただきたいのですが手伝ってくださいますよね？」

「我等は前回も手伝ったし受けてやるっ」

「ありがとうございます！」

「そして、この藍沢沙也加様の精霊を捜しております。彼女は天使族デッキを使用しておりますので此処に来ました」

「良かるっ。我が引き受けよう。ただしデュエルで勝てたならばな」

「わかりました」

『ちなみに実際にダメージは来ないようにデュエルディスクは通さないでやるぞ』

「わかりました。さあいきますよ！」

NoSide

「『デュエル！』」

『我の後攻で良い。レディーファーストだ』

「私のターンドロー！私は儀式魔法、高等儀式術を発動します！これにより私は神光の宣告者を選択し神聖なる球体三枚を墓地に送り神光の宣告者を儀式召喚！」

神光の宣告者

DEF2800

『少女よ、やるな！』

「カードを一枚伏せてターンエンドです！」

沙也加

手札 3枚

モンスター 神光の宣告者

魔法罫 リバーズカード1枚

『私のターンドロー！私は神秘の代行者アースを召喚。効果により創造の代行者ヴィーナスを手札に加える。カードを一枚伏せてターンエンド』

「エンドフェイズに王宮のお触れを発動します！」

神秘の代行者アース
DEF800

マスター・ヒュペリオン
手札 5枚

モンスター 神秘の代行者アース
魔法罫 リバースカード1枚

「私のターンドロ―！私は強欲な壺を発動！これにより二枚ドロ―
！」

『手札補充か』

「まだまだいきます！魔法カード天使の施しを発動してハーブの精を墓地に送ります。墓地に天使族モンスターが4枚なので大天使クリスティアを特殊召喚！効果でハーブの精を手札に加えます。神光の宣告者を攻撃表示に変更！」

神光の宣告者
ATK1800

「神光の宣告者でアースを攻撃！」

『我のアースは破壊される』

「クリスティアでダイレクトアタック！」
『受けるぞ』

マスター・ヒュペリオン
LP4000 1200

「これでエンドです」

沙也加

手札 5枚

モンスター 神光の宣告者 大天使クリスティア

魔法罫 王宮のお触れ

『私のターンンドロー！私はサイクロンを発動し王宮のお触れを破壊する』

「ハープの精を捨てて無効にします」

『それにチェーンして我は死者への供物を発動して次の私のドローフエイズをスキップし神光の宣告者を破壊する。さらに地割れを発動しクリスティアを破壊する』

「効果でクリスティアはデッキトップに戻ります」

『我は墓地のアースを除外し我自身を特殊召喚しダイレクトアタックする！』

沙也加

LP 4000 1300

『ターンエンドだ』

「私のターンンドロー！私は死者転生を発動しハープの精を手札に加えます。クリスティアを特殊召喚！効果で神光の宣告者を手札に加えます。クリスティアでヒュペリオンを攻撃します！」

ヒュペリオン

LP 1200 1100

「ターンエンドです」

『我は何もできない。サレンダーだ』

Side 沙也加

「わかりました。じゃあ一緒に頑張らしましょう！ってひゃっ！」
あそこに入れてたバイブでイっちゃいました……。

『大丈夫ですか？』

「……大丈夫です」すごく恥ずかしいです……。

『ならば大丈夫ですね。さあ我と氷結界の里に帰りましょう！』
「わかりました！」

こうして私の精霊としてマスター・ヒュペリオンが仲間になりました！

S i d e E n d

里への帰還

Side 康太

やっぱり沙也加の方が後か・・・沙也加は精霊を入手出来たんだろ
うか・・・？

「レヴァティン、ありがとうな！」

『気にするな。わしもトリシューラに話があったからな』

『そうですか・・・頑張ってください』

『ありがとうな。康太、わしのカードを預けとくな』

「ありがとう、レヴァティン」

『それでわしといつでも話せるぞ。わしの力でな』

「わかった。風華、お前の家は何処だ？とりあえずジャージから着
替えてくれ。沙也加にばれたら俺が殺される」

『わかりました』

こうして俺達は風華の家に向かった。

Side 沙也加

久々に此処に来ましたね。

「ヒュペリオン、降りますよー！」

『沙也加様、気をつけてください』

「わかりました」

ヒュペリオンの背中にライホウさんと乗っていたので二人とも降り
ます。

『沙也加様、私のカードでございませぬ。お受け取りください』

「わかりました。ありがとうございませぬ！」

なんかヒュペリオンが執事みたいなんですけど・・・。

「ライホウさん、風華さんの家まで案内してください」
『・・・拒否したらどうしますか？』
「ヒュペリオン、ライホウさんを焼」わかりました。案内します
「じゃあ速く行きますよ」
こうして私達は風華さんの家に行きました。

S i d e 康太

風華の家って案外散らかってるな・・・。

「風華着替えはまだか？」

『今終わりました！借りていた服はどうすれば良いですか？』

「俺の今着てる服以外と一緒に洗濯しておいてくれ」

『わかりました』

ドンドン！

「風華さん！開けてください！」

「代わりに俺が開けるぜ？」

『わかりました。速く開けてあげてください』

「どちら様って沙也加か！」

『久しぶりですね！』

「まだ9日しか経ってないぞ！ってファスナーを開けるな！」

『私のマスターである沙也加様に手を出すな少年！』

って沙也加の精霊ってマスター・ヒュペリオンかよ！

「ヒュペリオン！康太さんに何かしたら貴方のカードを破り捨てますよ？」

沙也加が怖いや・・・。

『申し訳ありませんでした！康太様！』

「・・・いや気にするな」

ヒュペリオン怖いって！

威圧感半端ねえ・・・。

『・・・とりあえず風華は何をしているんですか？』

「今、風華は俺の服を洗濯してくれてるぜ？」

「康太さんの下着は？」

「任せてるぜ」

『まだ洗ってませんよ！』

(まあ私が履いたトランクスは先に洗いましたがね)

「そんなこと言わなくて・・・」洗わなくて良いですから渡してください！」やつぱりか・・・」

「ああ・・・久々に嗅いだ康太さんの匂い・・・良い匂い・・・」

「・・・助けてくれ！」

『我々【私達】には無理です。諦めてください』

「ヒュペリオン！ライホウ！お前等俺を沙也加に売る気か！？」

『売らなければ我々【私達】が死んでしまうので、勘弁してください！』

「・・・お前等も大変だな」

この日、ヒュペリオンとライホウと俺に妙な友情が芽生えた。

「ハアハアハアハア」

「目が逝つちやってるって！帰ってこい！」

「康太さん？ハアハア」

「なんだ？」

「このバイブのリモコンを渡すので好きなように弄ってください！」

「こんなもん何処で買ったんだよ・・・。とりあえず最大で放置しとこつ」

ちなみに沙也加はこの夜にバイブだけで10回イッたらしい・・・。
しかし朝起きたら沙也加が夜ばいをかけようとしていた・・・。
どっだけ性欲が溜まつてるんだろうか・・・？

Side End

戦争準備〜作戦会議編〜

Side 康太

「どんな陣形にするんだ？」

『一応防御を中心に考えておる』

「理由は？」

『康太がウォームキングを、沙也加がウォームクイーンをデュエルで倒せ。襲われる可能性があるが、大丈夫か？』

「俺は大丈夫だ。風華が居るからな。沙也加にはヒュペリオンが居るし大丈夫だと思う」

『私・・・頭数に入ってたんだ・・・』

「効果を使えば攻撃されないだろ？」

『そうでしたね。がんばります！』

「沙也加は？」

『我が絶対に怪我をさせぬ！』

「よろしくね、ヒュペリオン！」

『もちろんです！』

「レヴァティンは俺の護衛の数に数えて良いのか？」

『大丈夫だ。わしはお前にわしのカードを託したしな』

「ありがとう」

『ドラグニティだけは解禁してやろう。レヴァティンの力を存分に使ってやれ』

「ありがとうな、トリシューラ」

早速組むか、ドラグニティデッキ！

そつえばドラグニティデッキは元の世界ではたまに使ってたや・・・
レシピはだいたい覚えてるな。

『まあまだ戦争は始まらんがな・・・とりあえず一ヶ月間は鍛えておけよ』

「ああ」

「はい！」

『わし等が住む竜の渓谷に行くか？』

「・・・嫌だ！絶対嫌だ！」

また投獄されるのは嫌すぎる！

『竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い竜の渓谷怖い』

「あそこで風華が震えて怖がつてるし・・・」

『助けてください！康太さん！』

「風華！抱き着くな！」

「康太さんは風華さんにまでフラグを建ててたんですか・・・？」

「ちよっ！それは誤解だ！ってヒュペリオンはなんで構えてるんだ

！？」

『マスター、御命令を』

「康太さんを焼いてください」

「ごめんなさい。フラグは一切建てておりません。そして命だけは勘弁してください」

『私の裸を見たくせに』

「焼き殺して、ヒュペリオン！」

『御意！』

「止める！てか風華は俺をどうしたいんだ！話をややこしくしやがつて・・・」

『私は面白ければなんでも良いですよ』

「いやいや、俺の命がヤバいからな？」

『ならば死んでください』

「嫌だ！ってヒュペリオンは俺に火の玉を投げてくんな！」

『マスターの御命令なので不可能です』

「沙也加！止めてくれ！」

「浮気したくせに何を言ってるんですか？」

「投獄中の事故だからね？」

「・・・わかりました。ごめんなさい。ヒュペリオン、止めて」
「わかってくれてよかった」

俺は沙也加を抱きしめた。

『『『『イチャイチャしてんじゃねえよ！このバカップルが！』』』』
『』

「ごめんなさい」

『『『『わかったならばよし』』』』

「戦争・・・とつとと終わらせるぞ！そして平和になったら皆で世間話でもしようぜ！」

「『『『『もちろんだ！』』』』」

Side End

戦争準備〜前日編〜(前書き)

短いです。

多分今までで一番短いです。

戦争準備〜前日編〜

S i d e 康太

「明日が戦争か・・・」

早いもんだな・・・沙也加も風華もライホウもトリシューラもレヴアテインもヒュペリオンも皆準備している。

戦争前日って言われてもあんまり自覚してねえな俺・・・。

明日はワームキングを落とさねばならないんだよな・・・。

さっさと倒してワームゼロを撃破しねえと里は救えねえんだろうな・・・。

サブデッキのドラグニティも完成したし頑張らねえとな！

S i d e 沙也加

「戦争前にこれだけはしておきたいけど康太さん居るかな・・・？」
せめてやりたいなあ。

最後の一回になったら嫌だなあ・・・

「康太さん。居ますか？」

「居るぜ？入れよ」

「はい！」

S i d e 康太

「いきなり何の用だ？風華は今居ないが？」

ちなみに風華は買い物しに行ってる。

「会つのが最後になるかもしれないから最後にやろうと思って・・・」

「却下だ。何故他人の家でやろうとしてんだよ！まあ俺の精霊の家

「だけどさ」

「でも・・・もう会えないかもしれないんだよ？」

「俺も、沙也加も死なねえよ・・・俺が・・・沙也加は俺が守ってみせるから。沙也加を守る為に俺は死なねえ！」

「なんで人の家でイチャイチャしてんですか・・・？独身女性の悲しみを思い知れ！」

「ちよっ！まてこら！斧なんか振り回すんじゃないよ！」

「カップルなんか滅びろ！カップルなんか死んでしまえ！」

「止めてくれ！まだ死にたくねえって！」

『問答無用！カップルなんか消え去ってしまえ！カップルなんか消滅しろ！』

「きつとそのうち良い人と巡り会えるよ！」

『根拠の無いこと言わないで！私だって！私だって！精霊だけ人みたいに恋してみたいよ！私だって康太さんみたいに良い人と付き合いたいよ！』

「風華・・・」

「康太さんを奪う人なんて嫌いです！」

「せつかくの止めるチャンスが台なしになっちまった！」

『・・・殺す！』

「「止めてくれ！」」

こうして一晩中風華と俺達の命懸けの鬼ごっこが行われた・・・。

Side End

戦争開始

Side 康太

始まったか……。

『氷結界部隊は右から、ドラグニティ部隊は左から、代行者部隊は中央から攻める!』

「グルナードさん、元気ですね」

『ガツハツハツハ。俺様に元気が無けりや誰に元気があるんだよ!』

『声が大きすぎます。もう少し静かにしてください。私達の部隊も攻めに行きますよ!』

「ライホウ! 頑張れよ!」

『我の部隊も前に出るぞ!』

「頑張れデイマク……じゃなかったガンダーラ!」

『私達は暫く此处で待機ですね……』

「そっぴや風華はドラグニティがトラウマだったな」

『一緒に投獄された時からずっとトラウマですよ……』

「さつきからずっと小刻みに震えてると思ったらトラウマのせいか……」

やばい……風華が小動物みたいでかわいいな……。

沙也加はどうしてんだろう?

まあ大丈夫だろ……沙也加は俺より強いしな。

今回持ってたのはガチな代行者だし。

『康太さん……』

「はあ……引っ付くなつて……服が鼻水と涙で汚れるだろ」

『ドラグニティが怖いんですよ! だって裸にひんむかれて、石とかタイルとかみたいな冷たい場所に亀甲縛りで放置されたんですよ!』
あの縛り方亀甲縛りっていうのか……。

「胸とか強調されてセクシーだとは思ってたがそんなに気にする事か

？」

『・・・あまり言いたくないですけど女性の体をセクシーに見せる縛り方ですよ？エロ本とかで良く見ますね』

「なんでそんなこと知ってたんだ？」

『デイマク・・・じゃなかったガンダーラ様の部屋に結構置いてありますからね』

デイマ・・・じゃなかったガンダーラは変態だったのか・・・なんかイメージと違うな・・・。

『しかも置いてあったエロ本は鬼畜調教く舞姫編く無修正版ってタイトルでしたね』

「そんな変態、即刻里から追い出せ」

最低だな・・・デイマクの奴は・・・。

『ちなみにそれと同じ本を戴いたんですが読みますか？』

「・・・今度読ませてくれ」

『わかりました』

タイトルのにすごく気になるんだよ・・・男としては情けないがな・・・。

『ドラグニティ部隊は一度下がって代行者部隊を援護しろ！氷結界部隊は道を作れ！』

「そろそろ行くぞ！」

『はい！』

Side 沙也加

「代行者部隊は大丈夫そうですか？」

『大丈夫でございます。ひ弱な者はおりません』

「サインがありましたね・・・行きますよ、ヒュペリオン！」

『はい、沙也加様』

私達も頑張りますよ！

絶対ワームなんかには負けません！

キングとクイーンとのデュエル

Side 沙也加

さてとワームクイーンが見えて来ましたね。
天使ワンキルに変えてと。

「ワームクイーン！貴女にデュエルを申し込みます！」
『良いわよ！闇のデュエルスタート！』

ワームクイーンがそう言くと、私とヒュペリオンとワームクイーン
の周りが青い炎で包まれました。

NoSide

「『デュエル』」

「私のターンドロー！私は神の居城ヴァルハラを発動しヒュペリオ
ンを特殊召喚！」

炎の羽が生えたモンスターが現れる。

マスター・ヒュペリオン

ATK2700

「カードを2枚伏せてターンエンド！」

沙也加

手札 2枚

モンスター マスター・ヒュペリオン

魔法罫 リバースカード2枚

『楽しいですよ』

「デイマクは？」

『消えて欲しいです』

「デイマク・・・ドンマイ」

『あんな変態要りませんって』

「見えて来たな！行くぞ風華！」

『はい！』

・・・数分後・・・

「ワームキング！デュエルだ！」

『我とのデュエルは闇のデュエルだぞ？良いのか？』

「もちろん、大丈夫だ！行くぜ？」

NoSide

「『デュエル！』」

『我のターンドロロー！我はモンスターをセットしカードを2枚伏せてターンエンド』

ワームキング

手札 3枚

モンスター セットモンスター1枚

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロロー！俺は氷結界の武士を召喚！」

『リバースカードオープン！奈落の落とし穴！』

（何回目だよ・・・俺以外が奈落使ってくるのはよ！）

「くっ・・・俺はリバースカードを2枚伏せてターンエンド・・・」

康太

手札 3枚

魔法罫 リバースカード2枚

『私のターンンドロー！私はリバースモンスター、ワームリンクスをオープン』

不気味な生命体とすら思えないモンスターが現れる。

ワームリンクス

ATK300

『カードを一枚伏せターンエンド。エンドフェイズにワームリンクスの効果でドロー！』

ワームキング

手札 4枚

モンスター ワームリンクス

魔法罫 2枚

(やばい・・・次のドローでなんとかしないと負けだなあ・・・)

「このドローには俺の命がかかっている。絶対にあのカードを引いてみせる！俺のターンンドロー！来た！俺は魔法カード大嵐を発動！」

『畏発動！神の宣告！』

ワームキング

LP4000 2000

「リバースカードオープン！サイクロン！」

『二枚目の奈落が・・・』

「俺は魔法カード、最後の煌めきを発動！俺は俺の手札、フィール

S
i
d
e
E
n
d

戦争編最終戦闘ワームゼロ戦

Side 康太

「風華、見えてきたな」

『そうですね』

「ワームゼロ殺す！よくも竜の渓谷なんかに行く原因を作りやがつてよ！絶対にぶつ殺す！」

『伝令です！沙也加様が足を痛めて歩けないので里に戻るそうです！』

『水影、ありがとう。別に構いませんと伝えてください』

『わかりました』

沙也加・・・大丈夫かな？

Side 沙也加

「ひゃあ！」

転んじやつた・・・いい歳して情けない・・・。

『大丈夫ですか・・・ってそのピンク色のコードは何ですか？』

「いわゆるローリーってやつですね。女性が性的な快感を求めて使う玩具です」

転んだ拍子にいつちやいましたね・・・。

『康太様に強制されたのですか？』

「・・・私の意思です」

恥ずかしいから聞かないですよ・・・見られて興奮してきちゃってるし・・・こんなものだから康太さんに攻められるのかな？

私ってSだと思ってたけどMなのかな？

最近康太さんに叩かれたいって時々思っちゃうし・・・。

『沙也加様って淫乱なんですか・・・』

「合ってますけど言わないで！カード、破り捨てますよ！」

『沙也加様、申し訳ありません!』

「転んだ拍子に足を痛めたので里に連れて帰ってください」

『わかりました。でもその前に氷結界の者に沙也加様が足を痛めて脱落したことを伝えて参ります』

「ありがとうございます、ヒュペリオン」

さて、後は任せますよ、康太さん!

Side 康太

「よし!後少しだ!」

『行きますよ!』

「わかつてる!」

・・・数分後・・・

「デュエルだ!ワームゼロ!」

『ツーーーーーーー!』

ワームゼロがわけがわからない叫び声をあげた途端に、周りが青い炎に包まれた。

そしてワームゼロの前に石版が落ちてきた。

『デュエルだ・・・少年・・・貴様を殺しワームキングとワームクインを復活させてこの世界をワームの物にする!』

「絶対にさせねえ!」

No Side

「『デュエル!』」

『我輩のターンドロ!我輩は未来融合!フューチャーフュージョニーを発動し20枚のワームを墓地に送る。我はカードを二枚伏せ

ターンエンド』

ワームゼロ

手札 3枚

魔法罫 未来融合ーフューチャーフュージョナー リバーズカード
2枚

「俺のターンドロ―！俺は大嵐を発動し魔法罫を全て破壊させてもらうー！」

破壊されたカード

奈落の落とし穴×2

（ワーム共め・・・奈落の採用率高すぎだろ！つーか沙也加とのデュエル以外では奈落抜いてるけどメインから入れようかな・・・？）

「氷結界の舞姫を召喚！」

氷で出来た髪飾りをつけた女性が現れる。

氷結界の舞姫

ATK1700

「フリーズ・シンクロンの効果を手札から発動！このカードが手札に存在するときにフィールド上に氷結界と名の付くモンスターが存在する場合、このカードとデッキの氷結界と名の付くモンスターを墓地に送り、デッキから氷結界と名の付くモンスターを特殊召喚できる！俺は氷結界の破術師を墓地に送り、デッキから氷結界の守護霊を特殊召喚！」

小さな半透明の子供が現れる。

氷結界の守護霊

ATK1000

「強欲な壺を発動し二枚ドロ！アイスブーストを発動し水属性モンスターを手札から三枚捨て三枚ドロ！氷結界の妖精を効果で特殊召喚！」

水色と青色を基調とした氷の羽が生えた少女が現れる。

氷結界の妖精

ATK0

「妖精の効果で一枚ドロ！さらに二重召喚を発動しデブリ・ドラゴンを召喚！」

小さな星屑を纏った龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「効果により、氷結界の破術師を特殊召喚！」

小さな魔術師のような少年が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「レベル3氷結界の破術師とレベル1氷結界の妖精にレベル4デブ

リ・ドラゴンをチューニング！現れる、スターダスト・ドラゴン！」
体中に星屑を纏った龍が現れる。

スターダスト・ドラゴン

ATK 2500

「アイスカーペットを発動し氷結界の妖精を特殊召喚しレベル1氷結界の妖精にレベル1氷結界の守護霊をチューニング！集いし氷の力が、新たな力の糧になる！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！新たな希望、シンクロチューナー、ブリザード・シンクロン！」
水色と青色を基調とした氷の羽が生えた少女が現れる。

氷結界の妖精

ATK 0

「妖精の効果で一枚ドロ！さらに二重召喚を発動しデブリ・ドラゴンを召喚！」

小さな星屑を纏った龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK 1000

「効果により、氷結界の破術師を特殊召喚！」

小さな魔術師のような少年が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「レベル3氷結界の破術師とレベル1氷結界の妖精にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！現れる、スターダスト・ドラゴン！」
体中に星屑を纏った龍が現れる。

スターダスト・ドラゴン

ATK2500

「アイスカーペットを発動し氷結界の妖精を特殊召喚しレベル1氷結界の妖精にレベル1氷結界の守護霊をチューニング！集いし氷の力が、新たな力の糧になる！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！新たな希望、シンクロチューナー、ブリザード・シンクロン！」

小さな氷で出来たシンクロンのようなモンスターが現れる。

ブリザード・シンクロン

ATK500

「ブリザード・シンクロンの効果で三枚ドロ！魔法カード死者蘇生を発動し妖精を特殊召喚！さらにアイスカーペットを発動し守護霊を特殊召喚して集いし氷の力が、新たな力の糧になる！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！新たな希望、シンクロチューナー、ブリザード・シンクロン！二枚ドロ！さて・・・行くぜ魔法カードチューンロストを発動！チューンロストの効果により、チューナーモンスターをチューナーでなくすぜ！」

「何がしたいのだ？」

「こうするのさ！レベル2ブリザード・シンクロンとレベル8スタ

ーダスト・ドラゴンにレベル2ブリザード・シンクロンをチューニング！トップクリアマインド！集いし希望が、新たな力への活路を開く！仲間との絆を紡ぐ力となれ！デルタアクセル！現れる！コズミック・クリアー・ドラゴン！」

体中から光を放った龍が現れる。

コズミック・クリアー・ドラゴン
ATK4000

「コズミック・クリアー・ドラゴンでダイレクトアタック！コズミック・スター・プレス！」

コズミック・クリアー・ドラゴンがワームゼロの方を向いた。口にプレスを溜め、しばらくすると、ワームゼロにむかい放った。

ワームゼロ
LP4000

Side 康太

「ワームゼロ！これで貴様の野望は終わりだ！」

やばいな・・・こいつを、コズミック・クリアー・ドラゴンを使うとなんか疲れたような感じがするな・・・今回に至ってはふらふらするし・・・。

『今回は・・・負けた・・・しかし・・・またいつか・・・攻め込んでやる・・・』

「その時はまた返り討ちにしてやるよ」

『・・・じゃあな』

「ああ・・・」

やばい・・・もう無理だ・・・意識が持たない・・・。

Side風華

『大丈夫ですか!?!』

康太さんがワームゼロと喋り終えて、ワームゼロが消えた途端に倒れてしまいました!

『誰か、来て下さい!』

『どうかなされましたか?』

『武士と水影ですか・・・とりあえず里まで康太さんを運んで!』

康太さん・・・無事だと良いんですけど・・・。

SideEnd

戦争編最終戦闘ワームゼロ戦（後書き）

コズミック・クリアー・ドラゴンの効果は、効果を発動させるまで書きません。

戦争終了→宴会→(前書き)

今回は・・・地味に長いです。

戦争終了〜宴会〜

Side 康太

ん〜良く寝たや！

コズミック・クリアー・ドラゴンをシンクロ召喚すると疲れが溜まるのは前からだったが・・・まさか攻撃宣言しただけで倒れちゃうなんて情けないな。

あの張り紙は何だ？

見てみよう。

面会謝絶？

何でこんな張り紙がつてここは病室かな？

「沙也加！風華！居るか？」

『呼びましたか？』

「何でこんなところに俺は居るんだ？」

『一ヶ月前の戦争でワームゼロを討ち取ってすぐに倒れて運ばれたんですよ？』

一ヶ月前？

「・・・マジで？」

『はい。起きれば面会謝絶は解除して出てきても大丈夫だそうです。ちなみに精密検査は倒れてからすぐに行われたので気にしないでください。後、お金は要りませんので』

「・・・沙也加は？」

『私の家でゆっくりくつろぐように言っております。まあ最近徹夜で起きて康太さんの帰りを待ってましたかね。あまり食事も摂ってませんし・・・』

「さつさと帰ろう！沙也加が心配だ」

『はい！』

・・・数分後・・・

「久々に来たな・・・つーか腹減った。メシ食いたい」
『すぐに準備します』

「おじゃまします」

「康太さん・・・康太さん！」

「沙也加・・・久しぶりだな！」

「康太さん・・・本物の康太さん！やっと会えた！」

「本当に久しぶりだな・・・！」

俺は沙也加を抱きしめ、ディープキスをした。
卑猥な水の音がする。

銀色の糸がお互いの口から出ている・・・。

「抱きしめた感じかなり痩せたな・・・」

「元々ピツタリだった制服がぶかぶかになってしまってますしね・・・
そういう康太さんも痩せたね」

「一ヶ月もメシを食わずに倒れて点滴をされてたんだぜ？そりゃ痩せて当たり前さ」

「そうでしたね」

『イチヤイチヤと人の家でしてんじゃねーよ！』

「「久々の恋人との再会に口出しすんな！そんなだから彼氏も出来ねえんだよ【ないんですよ】」」

『私・・・泣いて良いよね・・・？私・・・怒って良いよね・・・？』

「「ごめんなさい。言い過ぎました！」」

『気にしなくて良いですよ・・・グスン・・・』

「泣くな・・・とりあえず泣きたいなら外に行け」

『・・・私の家なんですけど・・・グスン・・・』

「・・・仕方ない・・・慰めてやるよ」

そういつて俺は、風華を抱きしめた。

「浮気ですか？」

「精霊と人間だから違うはずだ！」

『私・・・結構恥ずかしがり屋なんですよ・・・初めて康太さんに会った時だって、かなり恥ずかしくて・・・そちらに顔を出せませんでしたし・・・こんなだから彼氏が出来ないのもわかってましたし・・・こんなだから他人には悟られたくなくてDSのふりをしてりしてたけど・・・こんなだから誰にも告白されないんですね・・・こんなだからかわいいとか美人とか言われないうですね・・・こんなだから友達が舞姫しかないんですね・・・こんなだからトリシユーラ様に仕えるしかなかったんですね・・・』

「お前は他人と関わるのが少し苦手なだけだ。以上なんて無いよ。それにお前は十分かわいいよ」

「絶対フラグ建てに行つてますよね？殺しますよ？」

「冗談でも勘弁してください」

『私・・・初めてです・・・かわいいなんて褒められたのは！』

「もつと社交的になれば、もつと多くの人に言われるさ」

『はい！』

「じゃあ離れてくれ。そろそろさすがに着替えたい」

病院のパジャマですつと行動してたんだぜ？
着替えたくもなるよな？

「今晚は寝かせないよ？」

・・・第二ラウンドの始まりか？

・・・次の日・・・

『勝利記念パーティーですよ！』

「もう少し落ち着いて・・・女の子はエレガントに行動しろ！」

「昨日の一件で性格変わったよね・・・」

「確かに・・・風華、これやるよ」

『竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い』

い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い
い
い

「やっと落ち着いたな。風華！俺が悪かったから！」

『もう・・・これは見せないでくださいね？』

涙目で上目遣いは反則だろ・・・。

「とりあえず・・・行こうか」

『はいー』

・・・数分後・・・

『彼等の活躍が無ければ我等は負けていました！彼等に拍手を！』

「照れ臭いから止めるー！」

「確かに照れ臭いね……」

『では死亡者に黙祷!』

死んだのは……グルナードか……良い人だったんだがな……。

『康太様。お酒は如何ですか?』

ここでは成人なんだよな。

「貰います」

『舞姫!舞姫じゃない!』

『風ちゃん!久しぶりだね!確か前会ったのは一ヶ月と半月前だね!』

女子会かよ……。

『風ちゃん!大好き!』

『抱きしめないでよ!恥ずかしいよ……』

「キヤラ変わってんぞ?」

『良いじゃん!やつぱり風ちゃんのおっぱいは柔らかいね!』

『ひあ!ちよつとどこ触ってんのよ!?!』

『乳首と　コだよ!』

「公の場で下ネタ言ってるじゃねえよ!」

『風ちゃんびしょびしょだね!』

『舞姫……言わないで……恥ずかしいから!つて酒臭いよ?何

杯何を飲んだの?』

『たったテキーラ三杯だよ』

「飲み過ぎだ!」

『風ちゃん大好き!ハアハアハアハア』

『ちよつと!?康太さん!?どこ行くの?』

「帰る」

『助けてください!つて脱がさないで舞姫!』

『良いじゃん』

『私が良くないんです!』

『気にしない、気にしない!』

「沙也加、外に行かないか?」

「風ちゃん・・・じゃなかった風華さんのお楽しみのお邪魔ですしね」

『ひゃうん！グチユグチユって音たてないですよ！』

『イかせてあげるから！』

『止めてひゃあ！』

『イっちゃったね！もう一度イかない？』

『もう止めて！ひゃあ！』

「さっさと帰ろうぜ」

「うん！」

このあと、しばらくしたら風華が股間をびしょびしょにして、腰をぬかして帰ってきた。

聞いてみるといつものスキンシップらしい・・・。
卑猥なスキンシップだなあ・・・。

Side End

戦争終了、帰還（前書き）

くだらない理由で死人が出ます（笑）。
かなりくだらないです（笑）。

戦争終了〜帰還〜

S i d e 康太

宴会も終わって、復旧したな・・・。

病院とか、重要な施設は被害がなかったしまあある程度当たり前かな？

「トリシューラ、帰って良いよな？」

「もちろん良いぞ」

「では、1時間後にゲートを開きますね」

「わかった。別れの挨拶してくるな！」

「はい！」

「沙也加は行かないのか？」

「私は大丈夫だよ」

「わかった」

・・・数分後・・・

「ライホウ、俺はそろそろ帰るから挨拶しに来たぜ」

「康太様ですか。もうそんな時間ですか・・・この四ヶ月、楽しかったですよ」

「・・・そっぴや最初に会った精霊はお前だったよな・・・」

「私の持っていた槍を首筋に突き付けましたよね・・・」

「そっぴやあの槍は？」

「近くに立てかけてあったのを借りました」

「なるほどな。じゃあ俺は舞姫に挨拶してくるな！」

「わかりました。今度そちらに遊びに行きますね」

「わかった」

・・・数分後・・・

「舞姫！そろそろ帰るから挨拶に来たぜ」

『康太様ですか・・・風ちゃんは？』

「今日は一緒じゃないよ」

『最近、私達も仲良くなりましたよね・・・』

「最初の出会い方がシヨツキングすぎたがな・・・」

『テキーラ三杯をジヨツキで飲んだ後はさすがに酔っ払いますよ』

「ジヨツキだったの？小さめのコップだと思ってた・・・まあこの前、瓶ビールを三十本飲んでたし当たり前かな？」

『飲み過ぎですかね？』

「飲み過ぎだろ。せっかく友達になれたし、これからは様とかつけずに、タメ口で喋ろうぜ？」

『うん。わかった』

「俺の精霊にならないか？」

『良いですよ！』

軽いな・・・。

「じゃあ、今度は俺の寮の部屋で会おうぜ！」

『うん！』

「その前にデイマクを消すか」

トリシューラに許可を取ってな！

『はい』

・・・数十分後・・・

「ガンダーラ・・・間違えたデイマク・・・死ね！」

『我には挨拶しないの！？てか死ね！？』

「舞姫の借金の相手はお前らしいからな。貴様が死ねば舞姫は解放される！トリシューラにも許可を取った！」

祠にいる沙也加にケータイで聞いてもらってな！

『トリシューラ様は我を裏切ったのか？』

「貴様みたいな工口本を買いあさり、舞姫に・・・友達に体を売らせた貴様は許さん！」

『くっ・・・さすがに無理矢理犯したのがまずかったか・・・』

「最低なクズだな！ヒュペリオン、焼け！」

『沙也加様にも頼まりましたし、全力でやります！』

「任せた！」

・・・数分後・・・

「悪は去った。さあ帰るぞ！」

ちなみにディマクは灰になった。

『御意！』

・・・数分後・・・

「着いたな」

『やっと来ましたか・・・後5分しかありませんよ！』

『康太！行こう！』

「ああ。舞姫の名前は・・・麻衣まいで良いか？」

『うん。良いよ！』

『康太、沙也加、お前達は出席停止扱いにしてあり、休んでないことにはしたけど良いな？』

「ああ」

「ええ」

『ならゲートを開けるぞ』

・・・数分後・・・

「ここは・・・俺の部屋か麻衣、風華、沙也加、居るか？」

「居ますよ」

「居るよ」

「居ます」

「今は何月何日だ？」

「3月26日です」

「・・・春休みだね」

「・・・春休みだね」

「休みかよ・・・」

Side End

戦争終了〜帰還〜（後書き）

次回からしばらくは番外編です。

感想100件突破記念番外編〜康太の時渡り〜（前書き）

機皇帝プラシド 様のリクエストの話です。

これでよかったのか、まだ不安ですがね・・・。

感想100件突破記念番外編〜康太の時渡り〜

Side 康太

ここは何処だ？

寮の部屋で寝たんだが・・・なんで外に居んの？

「トリシューラ、俺が此処に居る訳を簡潔に、包み隠さず全て話せ」
「わしの力が暴走してのお・・・気がつけばお前を未来に飛ばしてしまったんじゃ。明日には帰れるぞ」

「わかつた・・・とりあえずさつさと帰らせるよ？」

『おはよう、康太。ここは何処？』

『おはようございます。康太さん、此処は何処ですか？』

「恐らくはネオ童実野シティだ。つまり、未来の童実野町だな」

『変な名前』

「麻衣、そんなことを言うな」

「貴方も精霊が見えるの？」

「君は何者なんだい？それがわからないとこつちも情報は渡せない」

「私の名前は龍可、貴方の名前は？」

「俺の名前は高嶺康太。精霊は見えてるぜ。龍可ちゃんも見えてるんだろ？」

「なんで私が見えてるってわかつたの？」

「最初話し掛けられた時、君は『貴方も精霊が見えるの？』って聞いただろ？貴方もって事は話し掛けた自分は見えてるって事を前提としてるって事さ」

「なるほど・・・」

「ちなみに、氷結界の風水師の精霊が風華で氷結界の舞姫の精霊が麻衣だ」

『龍可ちゃん、よろしくね』

『龍可さんよろしくお願ひします』

「よろしくね、私の精霊は、クリボンとサニーピクシーとサンライ
ト・ユニコーンとレグルスよ。よろしくね」
「ちなみにこいつ等は実体化できるぞ。後、龍可ちゃん、君の後ろ
の鰻に似た龍は何者なんだい？」

「・・・エンシエント・フェアリー・ドラゴンよ・・・」

「俺はそいつの事は言い触らさないから安心してくれ」

「とりあえず、遊星達の居るガレージに行かない？」

「遊星って誰だ？」

あの蟹頭くらい知ってるが知らないフリしておいた方が良いかな？

「じゃあ行こう！」

・・・数分後・・・

「なんだコイツは!？」

いきなりジャックに怒鳴られた。

「いきなり酷いですね。とりあえず自己紹介をしますね。俺の名前
は高嶺康太です。龍可ちゃんから紹介されて此処に連れて来られま
した。どうかよろしくお願いします」

「康太か。俺の名前は不動遊星だ。よろしくな」

「ならそっちが敬語じゃないならこっちも敬語じゃなくて良いな。

とりあえず、俺の身の上の話をする、俺は過去から精霊の力で無
理矢理この時代に飛ばされたんだ」

「そんなオカルト、信じられる訳なからう！」

「・・・仕方ない、トリシューラ出てこい」

『呼んだか?』

「……トリシューラが実体化した!？」」「」「」

『これがわしの力じゃ』

「風華と麻衣も出てきて良いぞ」

『はい』

『わかりました』

「……氷結界の風水師と氷結界の舞姫も実体化した」「……」
「これで信じてくれるよな？」
「ああ。信じよう」
「俺だつて信じるぜ！俺の名前はクロウだ、よろしくな！」
「私の名前は十六夜アキ。よろしく」
「とりあえず、明日には帰れるらしいから世話になつて良いか？」
「何処の馬の骨かもわからん奴を泊めるわけなكارウ！」
「じゃあデュエルするか？」
「やつてやる！」

NoSide

「デュエル！」
「俺は元デュエルキングだ。先行は譲つてやる」
「俺のターンドロ！俺は未来融合！フューチャーフュージョンを
発動しドラグニティアームズ・レヴァティン二枚と光と闇の龍二枚
とドラグニティアキュリスを墓地に送りF・G・Dを選択する。
ドラグニティアランクスを召喚しカードを二枚伏せてターンエ
ンド」

頭から二本の角の生えた竜が現れる。

ドラグニティアランクス

ATK500

康太

手札 2枚

モンスター ドラグニティアランクス

魔法罫 リバースカード2枚 未来融合！フューチャーフュージョ
ン

「俺のターンドロワー！俺はバイス・ドラゴンを特殊召喚！」

紫色の龍が現れる。

バイス・ドラゴン

ATK2000 1000

「ただし、この効果で特殊召喚したバイス・ドラゴンの攻撃力は半分になる。ダーク・リゾネーターを召喚！」

音叉を持った悪魔のようなモンスターが現れる。

ダーク・リゾネーター

ATK1300

「レベル5バイス・ドラゴンにレベル3ダーク・リゾネーターをチューニング！王者の鼓動、今ここに列をなす！天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚、我が魂、レッド・デーモンズ・ドラゴン！赤い悪魔のような龍が現れる。」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

ATK3000

「レッド・デーモンズ・ドラゴンでドラグニティーファランクスを攻撃！アブソリュート・パワーフォー스！」

「このくらい、ハンデでくれてやる！」

康太

LP4000 1500

「俺はこれでターンエンド」
ジャック

い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い竜の溪谷怖い
い」

『風ちゃん、大丈夫？』

「ちよつとしたトラウマがあるからな・・・しばらく放置しといて
やってくれ」

「・・・問題無いのね？」

「一応な・・・。気を取り直して、ドラグニティーレギオンを召喚
し、ドラグニティーファランクスを装備」

体中に派手な装飾を施している鳥が現れる。

ドラグニティーレギオン

ATK1200

「ドラグニティーレギオンの効果を発動し、レモン・・・もといレ
ッド・デーモンズ・ドラゴンを破壊！」

「変な省略をするな！」

「デーモンの斧をレギオンに装備して、二体でダイレクトアタック
で終わりだな」

ジャック

LP40000

S i d e 康太

「弱いな。これを伏せてたらダメージすら受けなかったな」
そう言つて、俺は手札にあった威嚇する咆哮を見せる。

「俺は、手加減されて負けたのか！くそっ！」

「じゃあ泊まつて良いよな？」

「ああ。問題無い」

「・・・掃除してくる」普段アニメで出てる場所以外は汚いな・・・
掃除しよう・・・。

「すまないな・・・客にこんな事させて・・・」

「いきなり押しかけて泊めてくれなんて言った俺の責任だ。問題無い・・・あっ」

デッキケースを、しかもエクストラデッキをばらまいてしまった！

「スターダスト・ドラゴンだと！？俺のデッキは？って入ってるな・・・」

「・・・仕方ないか・・・」

俺は自分が転生者である事と、転生した後の事を遊星に話した。

「そうか・・・康太も大変だったんだな」

「遊星だつて大変だったんじゃないか」

お互い、過去の話で盛り上がった。

・・・次の日・・・

「じゃあ俺は帰るぜ」

「また、会えたら会おうな！」

「俺は貴様を認めないぞ！」

「掃除ありがとうな！」

「宿題を覚えてくれてありがとう、康太！」

「また会おうね、康太さん」

「またな！」

・・・数分後・・・

「帰って来れたな、風華、麻衣」

『案外楽しかったね』

『竜の渓谷やドラグニティを使うときは言ってくださいね』

「わかったわかった」

ちなみに、帰ってくるまでの時間は3時間しか経っていなかった。

S i d e E n d

感想100件突破記念番外編「トリシューラとレヴァテインの宴会」(前書き)

今回は通りすがりのデュエリスト様のリクエストの回ですが・・・
かなりカオスになりましたね(笑)

感想100件突破記念番外編〈トリシューラとレヴァティンの宴会〉

Sideトリシューラ

レヴァティンとの宴会の約束まで後2分か・・・まだかのお・・・？
あつ来たな！

『すまん、道を間違えたから遅くなったな』

『気にするなレヴァティン、遅刻はしてないぞ』

『わかった。早速飲むか！』

『そうじゃな！麻衣、風華、グルナード、樽を6つくらい持ってきてくれ』

『わかりました！』

『わかったぜジジイ』

『わしもとりあえず、100つくらい樽を持ってきたが要らんかったかな？』

『多分全部飲むじゃろ』

『そうだな』

『じゃあ最初の一杯目といくか』

『いただきます！』

グビツと一気に飲み干して・・・。

『ぶはあ！美味しい！』

『そついやトリシューラ、最近は調子は良いか？』

『康太に蹴られたり、ゴクゴク（酒を飲んでいる音です。by作者）。康太に殴られたり、散々じゃの・・・』

『ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ』

『笑いすぎじゃ！』

『そんなにでかいくせになんで、ゴクゴク。人間の康太くん蹴られたりしてんだよ』

『人間の世界に行くと人と同じくらいのサイズになっちまうんじゃ』

よ・・・」

『ドンマイ。ぷっ』

『笑うなって言っておろうが！ゴクゴク』

『トリシューラ、お前は俺を笑い殺す気か。ゴクゴク』

『本当の事を言ってるだけじゃ！ゴクゴク』

『風ちゃん大好き！』

『麻衣、勝手にトリシューラ様のお酒飲んじゃダメじゃないですか！何を・・・ひゃっ！』

『風ちゃんのおっぱいも　　こも柔らかくて気持ちいいね』

『やめてよ麻衣！ひゃうん』

『もうイっちゃってかわいいなあ』

『ちよっと待ってよ！服を脱がさないで！ひゃっ！って、どこ舐めてるのよ！』

『　　コだよ！』

『平然と言わないで！』

『あっちもお楽しみのようじゃの・・・』

『そうだな・・・』

『楽しんでませんって！』

『風華も最近冷たいし、わしはもう用済みなのか？』

『まだ大丈夫だろ。わしも三馬鹿のせいで忙しいしなあ・・・』

『康太と風華を投獄したフランクス達か・・・』

『あいつら霧の谷からの使者を幽閉しやがったし・・・迷惑この上ないってもんだよまったく・・・。ゴクゴク』

『そっちも大変じゃの・・・。ゴクゴク』

『わし達って似てるな。ゴクゴク』

『そうじゃな。ゴクゴク・・・ぷはあ』

『麻衣も人間の世界に行くようになったし、いろいろと大変になってきたしのお』

『康太は康太でわしを使い回し出したし、大変になってきたしそろそろ出陣準備をせねばならんな』

『わしの出番が減るのぉ・・・』
『これからはわしの時代じゃ、そろそろ隠居しなよ』
『うるさい！わしはまだ現役じゃ！』
『良いじゃん。隠居しなよ』
『嫌じゃ！わしはまだまだ現役なんじゃ！戦えるんじゃ！』
『ちっ！強欲なジジイだな』
『酷くない？その扱いは！』
『だって現役を退いてほしいし』
『orz』
『もう懲り懲りなんだよ！あんたで除外されるのは！』
『わしに文句を言うな！』
『じゃあ誰に文句を言えば良いんだ！』
『知らんわ！』
『まあ落ち着いてくださいよ・・・麻衣はそろそろやめて・・・恥ずかしいから・・・』
『照れてる風ちゃんもかわいい！康太も弄るとねかわいいけどね！』
『何をやらかしたんですか・・・？』
『お風呂に入ってる最中に裸で話し掛けたよ』
『・・・康太さんつて以外とシャイだもんね・・・』
『お前等は元氣じゃの・・・』
『喧嘩する気が失せたな』
『じゃあお開きにするかの？』
『そうだな』

Side End

感想100件突破記念番外編〈コラボ・遊戯王〉転生せし者の歩む道〈編〉

すごく大変でした。

サイキック族なんて回した事ないので上手く書けたか微妙です・・・。

Side 康太

久しぶりにバナナが買えたな・・・。

島にいるから、海から送って貰うしか物を手に入れられないからな・・・バナナだけを頼む気にならなかったからな・・・。だつて恥ずかしいし・・・。

沙也加達もいないし食べよう。

バナナなんか久しぶりだな。

バナナは好きだつたしお袋もよく買って置いてくれたなあ・・・。

弟の優ゆうも好きだつたしな・・・。

『バナナなんかどうでもいいじゃないですか』

「バナナは俺の人生の五分の一を占めている人生の縮図だ！バナナを侮辱するのは絶対に許さん！」

『バナナどんだけ好きなんですか・・・』

「弟と1時間、バナナを取り合つて全力の殴り合いをするレベルだ」

『・・・好きすぎでしょ』

「康太さん、どうかしましたか・・・つてきやつ！」

沙也加が麻衣のカードを踏み付けて転んだな・・・つて俺に向かつてきやつた！

「うわあ！あつバナナが！」

バナナが何故か開けつ放しだつた電子レンジの中に入つちまった！

『いきなり人を踏み付けてなにかあつ・・・痛！』

麻衣が電子レンジに頭ぶつけたな・・・。

『麻衣・・・大丈夫？きやつ！痛！』

風華が麻衣を立たせようとしたら頭に電子レンジのスイッチが当たつたな・・・つてぎゃあああああ！

「バナーナア！バナーナア！俺のバナーナア！」

『いきなり何があつたんじゃ？』

『実は……（今さっきまでの出来事の説明）……って事がありまして』

『なんてカオスな……』

「バナーナア！俺のバナーナア！」

『五月蠅いのお……とりあえず、平行世界のデュエリストと闘え、康太！』

「俺のバナーナアがゲル状に！バナーナア！大丈夫か？バナーナア！」

『とりあえず、ワープさせておくからな』

こうして俺は平行世界にワープすることになってしまった。

Side???

いきなりトリシューラの精霊にわしのマスター（？）とデュエルしてほしいって頼まれたが……俺はどうしたら良いんだ？

「バナーナア！バナーナア！」

泣きながら「バナーナア！」って絶叫してる奴が居るが、あいつがあのトリシューラのマスター（？）なのか？

『康太、とりあえず落ち着いてよ』

「久しぶりのバナーナアが……」

「オイ、お前は何者だ？」

「バナーナア！……って誰？ってか男であつてるよな？」

一応中性的な顔つきだが……。

「ああ。俺の名前は黒羽恭夜だ。お前は？」

「俺は高嶺康太だ。とりあえず康太と呼んでくれ。つーかトリシューラの奴……いきなりなんでこんなところに連れて来やがったんだ？」

「康太、トリシューラの精霊の事知ってるのか？」

「一応、俺の精霊だ・・・一応な・・・。アレは俺の人生の汚点であり一番関わりたくない生命体だ」

「扱い酷いな・・・」

「ただけトリシューラは嫌われてんだか・・・。」

「俺を間接的にはいえ、死に追いやった奴を好きになれるわけないだろ・・・」

「成る程な」

「それがわしの嫌われてる理由か・・・」

「当たり前だろ！」

「康太つて転生者だったんだ。知らなかった」

「戦争前に言ってますたよね・・・って酒を飲んで酔っ払ってますたね」

「・・・面目ない」

「俺、忘れられてない？」

「すまんすまん、つい忘れちゃってた」

「・・・orz」

「俺の精霊達のキャラが濃いもんな」

「まあな・・・」

「私つてそんなにキャラ濃いのか？」

「かなり濃いですよ」

「わしは？」

「「お前等全員濃いつて！」」

「嘘だよな？」

「嘘じゃよな？」

「嘘ですよな？」

「「嘘じゃねえ！」」

「『orz』」

「そんなことしてても、撤回しないぜ？」

「酷いな・・・」

「いつもの光景だ」

「そうか・・・」

「いつもなら沙也加や十代もいるからもつと騒がしいよね？」

「そうじゃな。わしは普段はいないからそうも言い切れんがのお」

「私達がない時は沙也加さんといういろとやってますしね」

「人の私生活をばらすんじゃないやねえよ！俺にプライベートは無いのか！？」

「ありませんよ」

「無いね」

「無いの」

「ならばお前等の私生活もばらしてやる。まず、風華の部屋は散らかってて、下着とかが散乱してるし、麻衣はギャンブルと酒が好きで大量の酒の瓶や缶が散乱してるうえに麻雀のセットとかだけは片付いてるし、トリシューラは干し肉が飯から抜かれただけで里を崩させたし・・・お前等全員ちゃんぽらんなんだよ！」

『『『・・・』』』 or z

「言い過ぎじゃないか？」

「普段もつと酷い事されてるし、これくらいよくね？」

「こいつの精霊と周りの環境はどれだけ大変なんだろう・・・？」

「・・・とりあえずデュエルしないか？」

「わかった」

NoSide

「「デュエル！」」

「先行はどっちにする？」

「恭夜に譲るよ」

「俺のターンドロー！俺はガスタ・ガルドを守備表示で召喚！」

緑色の大きな鳥が現れる。

ガスタ・ガルド

DEF500

「カードを二枚伏せてターンエンド！」

恭夜

手札 3枚

モンスター ガスタ・ガルド

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロー！俺は氷結界の騎士を召喚！」

氷でできた鎧を纏った騎士が現れる。

氷結界の騎士

ATK1700

「氷結界の騎士の効果発動！ガスタ・ガルドを攻撃表示に変更させる。氷結界の騎士でガスタ・ガルドを攻撃！」

「畏発動！魔法の筒！このカード効果により、騎士の攻撃は無効になる。そして、康太に騎士の攻撃力分のダメージを与える！」

康太

LP4000 2300

「先にダメージを食らったか・・・カードを一枚伏せてターンエンド！」

康太

手札 4枚

モンスター 氷結界の騎士

魔法罫 リバースカード1枚

「俺のターンドロー！俺はガスタの巫女ウィンダを守備表示で召喚！」

緑色の髪的女性が現れる。

ガスタの巫女ウィンダ

DEF400

「ガスタ・ガルドを守備表示に変更しターンエンド」

恭夜

手札 3枚

モンスター ガスタ・ガルド ガスタの巫女ウィンダ

魔法罫 1枚

「俺のターンドロー！俺は氷結界の舞姫を召喚！麻衣、頼んだぜ！」

『任せて！』

薄い紫色の髪的女性が現れる。

氷結界の舞姫

ATK1700

「騎士の効果でガスタ・ガルドを攻撃表示に変更し、麻衣の効果で軍師を見せてリバースカードを手札に戻す」

「くっ・・・」

「麻衣でガルドを攻撃！」

「だがガルドの効果でガスタ・イグルを特殊召喚！」
またさつきとは違う緑色の鳥が現れた。

ガスタ・イグル
DEF400

恭夜

LP4000 2800

「ターンエンドだ！」

康太

手札 4枚

モンスター 氷結界の舞姫 氷結界の騎士

魔法罫 リバースカード1枚

「俺のターンドロー！俺は沈黙のサイコウィザードを召喚！」
白い鎧を纏った騎士のようなモンスターが現れる。

沈黙のサイコウィザード

ATK1900

「ジェスター・コンフィを特殊召喚！」

ピエロのようなモンスターが現れる。

ジェスター・コンフィ

ATK0

「レベル4沈黙のサイコウィザードとレベル1ジェスター・コンフィとレベル2ガスタの巫女ウィンダにレベル1のガスタ・イグルをチューニング！深き精神の底で眠る竜が目覚めるとき、深き精神の奥から放たれる！シンクロ召喚！メンタル・デーモン・ドラゴン！」

細身な緑色の龍が現れる。

メンタル・デーモン・ドラゴン

ATK3000

「それが恭夜のエースモンスターか・・・俺もそろそろエースを出さねえとな！」

「行くぜ、康太！メンタル・オーバー・ドラゴンで氷結界の騎士を攻撃！」

康太

LP2300 1000

「メンタル・オーバー・ドラゴンの効果で氷結界の騎士の攻撃力分1700ポイント、ライフを回復する！」

恭夜

LP2800 4500

「カードを一枚伏せてターンエンド！」

恭夜

手札 1枚

モンスター メンタル・オーバー・デーモン

魔法罫 1枚

「俺のターンドロー！俺は罫カード、氷結の召喚術を発動しデッキから氷結界の風水師を特殊召喚！」

鏡を持った茶髪の女性が現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「風ちゃん、暇だね。ポーカーでもやらない？」

「良いよ！」

「康太、なんでお前のフィールドでモンスターがポーカーやってんだよ！」

「知らん！麻衣と風ちゃん・・・間違えた風華に聞け！」

「・・・別にいいや」「仕切りなおしだ！レベル4氷結界の舞姫にレベル3氷結界の風水師をチューニング！集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」

赤みを帯びた氷でできた龍が現れた。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「グングニールの効果により、手札を二枚捨て、メンタル・デーモン・ドラゴンとリバーズカードを破壊する！フリージング・ランス！」

「畏発動！エンジェル・リフト！効果により、ガスタ・ガルドを特殊召喚！さらにガスタ・が破壊された事により、ガスタの巫女ウィンダを特殊召喚！」

ガスタの巫女ウィンダ

DEF400

「リバーズカードを2枚伏せて魔法カード、命削りの宝札を発動し

5枚ドロロー！・・・このターンで決める！リバーズカード、二重召喚を發動しデブリ・ドラゴンを召喚！」

小さな星屑を纏った龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「効果で氷結界の破術師を特殊召喚！」

小さな魔術師のような少年が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「魔法カード、アイス・ブリストを發動し、水属性モンスターを三枚捨て三枚ドロロー！アイス・カーペットを發動し氷結界の御庭番を特殊召喚！」

二本の剣を持った青い服を着た人型のモンスターが現れる。

氷結界の御庭番

ATK100

「レベル2氷結界の御庭番とレベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！氷結界の里に封印されし龍が、その力を今解き放つ！仲間との絆を紡ぐ力になれ！シンクロ召喚！壊せ！氷結界の龍トリシューラ！」

三つ首の龍が現れる。

氷結界の龍トリシューラ

ATK2700

『わしだつて・・・わしだつて頑張つてやる!』

「帰れ愚鈍!とりあえずトリシューラの効果で手札とウィンダとガルドを除外!」

「俺の・・・負けか・・・」

「行け、トリシューラ!グングニール!ダイレクトアタックだ!」

『ポケモンみたいな指示じゃの』

「五月蠅い!」

恭夜

LP45000

Side 康太

「勝つた!」

「負けちまつたか・・・」

「命削りの宝札が無かつたら負けてたよ。恭夜つて強いな」

「康太つて転生してから負けたか?」

「彼女の沙也加に負けたよ・・・」

「沙也加つて娘はどんだけ強いんだよ・・・」

「俺と同じ転生者で天使デッキの使い手だよ・・・鬼畜だがな」

「性格が?」

「性欲がヤバいが性格は普通に良い奴だよ。デッキはかなり鬼畜だがな」
「・・・わかつたよ。康太、メアド送つてくれ。あと、トリシューラ、帰らせてくれ」

「そういえばメアド送つてもメール出来るのか?」

『わしの力でつなげられるぞ』

「わかった」

俺達はメアドを赤外線で交換した。

「じゃあな！また会おうぜ！」

「ああ！」

行っちまったな……。

「帰ろうぜ！沙也加や十代が待ってるからさ！」

「うん」

「はい」

『じゃあ帰らせるぞ！』

……数時間後……

「……夢か？」

そう言ってから、ケータイを開き電話帳を見る。

そうするとちゃんと【黒羽恭夜】の名前とメアドが有った。

『おはよう、康太』

「おはようございます！康太さん」

「おはよう、沙也加！」

とりあえず今回だけはトリシューラに感謝するか！

そう思ってから俺は恭夜に【これからもよろしくな！】とメールを送った。

Side End

感想100件突破記念番外編〈コラボ・遊戯王〉転生せし者の歩む道〈編〉

ユタ様、勝手にメアドを交換させるイベントなんか作って申し訳ありませんでした！

感想100件突破記念番外編〜これからの展開についての会議編〜(前書き)

BRAVE様のリクエストの話です。

感想100件突破記念番外編〜これからの展開についての会議編〜

康太「また座談会だコノヤロー！」

沙也加「感想100件突破しましたしとりあえずこれからについての事を中心に話し合いまししょうか」

トリシューラ「新キャラも前回より3名増えたしのお・・・」

麻衣「私だね」

ヒュペリオン「我ですな」

レヴァテイン「わしもだな」

沙也加「ヒュペリオンは、私の精霊ですよね・・・一応」

康太「沙也加の精霊っていうより忠実なる下僕って感じだがな」

麻衣「圧倒的なパワーでちよい役の悪役、ディマクを焼き付くしたよね」

風華「見てませんでしたけど、恐ろしい位大きな火柱が見えましたね・・・」

ライホウ「すごく怖かったですけど、あの氷結界の一族の面汚しが消えてうれしいですね」

麻衣「グルナード様・・・」

ライホウ『彼は勇敢な戦士であり、氷結界の誇りでした・・・』

トリシューラ『そうじゃな・・・。しかし新しいグルナードとガンダーラ良い奴が入ったのお・・・』

康太「そうか・・・」

ライホウ『私の後釜はどうなるのでしょうか。そしてグルナードの後釜は口が悪いのが玉にキズですがね』

沙也加「そうなんですか・・・。ライホウさんは大変ですよ・・・こんなにも性格が濃い方が多いですね」

ライホウ『・・・胃薬が手放せませんよ』

康太「ライホウ・・・ドンマイ。つか俺達ってさ三期はどうするんだろう?」

俺が答えよう!

全員「『『『『『『『『お前は作者、アストラル!』』』』』』」

いかにもアストラルだ!

康太「でも普段着なんだな。半袖半ズボンで全体的にぼっちゃりとしたな」

言うな!

少し気にしてんだよ!

沙也加「ならばダイエットしましょうよ・・・」

少しずつしようとはしてるんだが続かないんだよな・・・。

康太「で、俺達の未来って？」

実際幾つか考えてある。

麻衣「成る程・・・」

風華「案外しつかりしてるんですね」

レヴァティン「見切り発車だったのにな」

言うな！

最近はそうでもないだろ！

トリシューラ「まあそうじゃな。だがな、コズミック・クリアー・ドラゴンの話を解決させにやならんがのお」

もう考えてあるし効果も決まってる。

康太「で、俺達はどうなるんだよ」

まあ漂流教室の流れには参加しないよ。

風華が精霊世界への転移が使えるからな。

転移させて終わりじゃつまらないしな。

沙也加「でしょうね。それは薄々感じてました」

康太「そりゃ読者の方々も気付いてるだろ」

三期にはいろいろとやらかすつもりだからな！
頑張れよ！

康太「わかってるっの」

トリシューラ「もちろん頑張るぞい！」

ライホウ「同感です」

麻衣「何があっても皆で頑張ろ！」

全員「おう！」

感想100件突破記念番外編〈原作キャラ5人との連続デュエル編〉(前書き)

カイエン(毎度申し訳ありません。漢字ができません)様のリクエ
ストで康太が原作キャラ何人倒せるかをやってみた物です。

感想100件突破記念番外編〈原作キャラ5人との連続デュエル編〉

Side 康太

「後でデュエル場に来いだと!？」

吹雪さんは狂ったのか？

「康太くんは強いからね。何人掛かりだと倒せるか、知りたくなつたんだ。とりあえず5人に頼んだからデュエルしてくれないかい？」

「何故いきなりそんなことを？吹雪さんだつて強いじゃないですか？」

無論嘘だ。

全デュエルで負けてたし。

「だから言つたじゃないか。面白いルールを思いついたつてさ」

「わかりました……。また後で行きます」

「ありがとう、康太くん！」

沙也加は巻き込まれてないかな？

沙也加が相手だと負け確定だぞ？

・・・数分後・・・

「4人しかいませんよ、デュエル場には」

ちなみに十代、翔、剣山、明日香だ。

「ああ、あと一人は少し到着が遅れるつて連絡が有つたよ」

「ちなみに誰ですか？」

「教えられないね。僕は教えても良いけど、面白く無いだろ？」

「そうですね・・・」

「ルールを説明しておくね。まず、ライフポイントは毎回回復せず、回復をなんらかのカードでした場合、次のデュエルが始まる前に4000に戻す」

「わかりました。他には？」

「手札は引き継ぎ、次のデュエルを開始するよ。ちなみに手札を回復する方法は有るけど、後で言うね」

手札消費が激しいときついな。

「わかりました。他には？」

「さつきから同じ返しかただね。面白くないなあ……。まあいいや、次のルールは、フィールドは毎回リセットされるよ。フィールドに有ったカードは全てデッキに戻るよ」

つまり展開しすぎたらその分ボードアドバンテージを失うのか……。

「そして最後に伝える事が有んだけど、まずはこれを見てくれ！」
出てきたのは……。リアルバイサーデス等の拷問道具と沙也加が入っている檻だと！

「沙也加に何をしたんだ！」

「大丈夫だよ。沙也加ちゃんにはちょっと頼んで協力してもらってるだけだから」

「……。わかりました」

「話は戻すけど最後のルール、手札に関しての救済ルールだよ。康太くんの手札が5枚以下の時、これ等を使った拷問を受けるか、沙也加ちゃんとやるかのどちらかをすれば手札を5枚に回復できるんだ！」

「黙れ変態！」

そう言つて俺は吹雪さんにデュエルディスクを投げつけた。

「痛いよ康太くん。デュエルディスクは投げる物じゃないよ」

「そんな変態に、人権なんて存在しない！」

「アスリン、やっぱり康太くんは苦手だよ……」

「今のは兄さんが悪いわよ……」

「そうかなあ……？」

「当たり前だバカヤロー！」

「とりあえずアスリンとデュエルしてよ……。僕は少し席を外すね。」

・・・

吹雪さんがそう言つとすぐに出て行ってしまった。

その背中には哀愁が漂っていた・・・。

「明日香、デュエルするか？」

「ええ、お願いするわ」

NoSide

「デュエル！」

「私のターンドロー！私はブレード・スケーターを守備表示で召喚！」

体の一部に刃を付けたフィギュアスケートの選手のような女性が現れる。

ブレード・スケーター

DEF1500

「カードを一枚伏せてターンエンド！」

明日香

手札 4枚

モンスター ブレード・スケーター

魔法罫 リバーズカード1枚

「俺のターンドロー！俺はアイスブーストを発動し手札の水属性モンスターを三枚捨て三枚ドロー！生還の宝札を2枚発動しアイスカーペットを発動。効果で氷結界の舞姫を特殊召喚。生還の宝札2枚の効果で2枚ドロー」

氷でできたような髪飾りを付けた女性が現れる。

氷結界の舞姫

ATK1700

「氷結界の水影を召喚！」

忍者のような金髪の男性が現れる。

氷結界の水影

ATK1200

「氷結界の舞姫の効果発動！手札の氷結界と名の付くモンスターを任意の枚数見せて、その枚数分のリバーズカードを戻す！俺は氷結界の防人を見せ、そのリバーズカードを戻させてもらう！」

「あれ？風ちゃんはどこ？」

「くっ……私のリバーズカードが！」（麻衣……頼むから自重してくれ……）

「レベル4氷結界の舞姫にレベル2氷結界の水影をチューニング！氷結界より現れし龍が世界を凍らせ全てを消し去る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンク口召喚！消し去れ！氷結界の龍ブリューナク」
氷でできたような龍が現れる。

氷結界の龍ブリューナク

ATK2300

「私の出番は？私の出番は終わり？風ちゃんはどこ？ねえ康太、教えてよ！」

「……聞かなかった事にしよう。氷結界の龍ブリューナクの効果で手札を2枚捨て、アイスカーペットとブレード・スケーターを手札に戻す。捨てた2枚の効果で氷結界の防人の2枚ドロ。アイスカーペットを発動し舞姫を特殊召喚し生還の宝札2枚の効果で2枚ドロ！」

「何枚も何枚もドロしてるわ・・・私のターンはまだなの？」
「ごめん・・・多分このターンで終わる。手札を一枚捨て、アイス
カーペットを手札に戻し、発動。氷結の虎将グルナードを特殊召喚」
氷でできた鎧を着た男性が現れる。

氷結界の虎将グルナード

ATK2800

「効果で2枚ドロ更に手札を3枚捨て、生還の宝札2枚とアイス
カーペットを手札に戻すそして2体でダイレクトアタック」

明日香

LP40000

康太

手札 10枚

墓地 10枚

残りデッキ枚数 20枚

「次は僕だよ！」

「DDBの錆にしてやる！」「デュエル！」

「僕のターンドロ！僕はジャイロイドを守備表示で召喚」
デフォルメされたヘリコプターのようなモンスターが現れる。

ジャイロイド

DEF1000

「カードを3枚伏せてターンエンド！」

翔

手札 2枚

モンスター ジャイロイド

魔法罫 リバースカード3枚

「俺のターンドロロー！手札11枚とか・・・そんなに要らないって・・・デブリ・ドラゴンを召喚！」
小さな龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「効果で氷結界の破術師を特殊召喚！」
魔術師のような少年が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「魔法カード、大嵐を発動！」

破壊されたカード

次元幽閉

奈落の落とし穴

サイクロン

「ガチカードばっかだなあ・・・レベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンク口召喚！氷結界の龍グングニール」
赤みを帯びた氷でできたような龍が現れる。

氷結界の龍グングニール
ATK2500

「グングニールの効果発動！ジャイロイドを破壊！フリージング・ランス！」

「くっ・・・僕のジャイロイドまで！」

「死者蘇生を発動し氷結界の舞姫を特殊召喚！」

氷結界の舞姫

ATK1700

『ビールか焼酎飲みたい・・・帰りたい』

「2体でダイレクトアタック！」

康太

手札 8枚

墓地 13枚

残りデッキ枚数 19枚

「次は俺だドン！」

「こつなりやヤケだ！全力で叩き潰す！」

「デュエル！」

「俺のターンドロー！俺は暗黒ステゴを守備表示で召喚！ステゴザウルスが現れる。」

暗黒ステゴ

DEF2000

「ターンエンドン」

剣山

手札5枚

モンスター 暗黒ステゴ

「俺のターンドロー！俺は二重召喚を発動！氷結界の舞姫を召喚！」

「三回目ですね・・・」

氷結界の舞姫

ATK1700

「氷結界の風水師を召喚！」

鏡を持った和服を着た女性が現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「今回のデュエルでは初めて出されましたね。ですが何故麻衣と一緒なんですか？」

「風ちゃん！大好き！」

「風華・・・ごめん。諦めるレベル4氷結界の舞姫にレベル3氷結界の風水師をチューニング！闇より現れし爆撃機が、天より現れ悪を討つ！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！焼け、ダーク・ダイブ・ボンバー！」

黒い爆撃機のようなモンスターが現れる。

ダーク・ダイブ・ボンバー

ATK2600

「地割れを発動し暗黒ステゴを破壊しダーク・ダイブ・ボンバーで攻撃！ダーク・ダイブ・ブラスト！」

剣山

LP 4000 1400

「更にダーク・ダイブ・ボンバーの効果で自身をリリースしレベル×200のダメージ、つまり1400のダメージを与える！」

剣山

LP 1400 0

手札 5枚

墓地 18枚

残りデッキ枚数 17枚

「次は俺だ！」

「十代か・・・きついな」

「デュエル！」

「俺のターンドロ！俺はおろかな埋葬を発動し、ネオスを墓地に送る！さらにリバーソウルを発動しネオスを特殊召喚！」
白い全身タイツを着たような男らしきモンスターが現れる。

E・HEROネオス

ATK 2500

「カードを1枚伏せてターンエンド！」

十代

手札 3枚

モンスター E・HEROネオス

魔法罫 リバーカード1枚

「俺のターンドロー！俺はアイスカーペットを発動し氷結界の破術師を特殊召喚！」
魔術師のような少年がまた現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「氷結界の風水師を召喚！」

氷結界の風水師

ATK800

「レベル3氷結界の破術師にレベル3氷結界の風水師をチューニング！集いし氷の力が氷結界の里の秩序を守る。仲間との絆を紡ぐ力となれ。シンクロ召喚現れる！氷結界の虎王ドロレン！」

青い毛の虎が現れる。

氷結界の虎王ドロレン

ATK2000

「カードを1枚伏せてドロレンの効果発動！リバーズカードとアイスカーペットを手札に戻し攻撃力を1000ポイントアップする！アイスカーペットを発動し舞姫を特殊召喚！」

「またか・・・」

氷結界の舞姫

ATK1700

「舞姫の効果で氷結界の軍師を見せてリバーズカードを手札に戻させてもらう！」

「やばい……」

「魔法石の採掘を発動し手札を2枚捨て、死者蘇生を手札に加え発動！グルナードを特殊召喚！」

氷結界の虎将グルナード

ATK2800

「ドウローレンでネオスを攻撃！」

十代

LP4000 3500

「舞姫とグルナードでダイレクトアタック！」

十代

LP3500 0

「後一人だ！いけるぜ！」

「遅れたんだな」

「ラストのデュエリスト、前田隼人くんだ！」

「へ？」

「デュエル！」

「俺のターンドロ！俺はモンスターをセットしてエンドなんだな」

隼人

手札 5枚

モンスター セットモンスター 1枚

「俺のターンドロー！エンド」

康太

手札 1枚

「俺のターンドロー！俺はレスキューキャットを召喚！」
ヘルメットを被った子猫が現れる。

レスキューキャット

ATK300

「レスキューキャットの効果でXーセイバーエアベルンとデスコアラを特殊召喚！」

長い爪の生えた獣と巨大なコアラが現れる。

Xーセイバーエアベルン

ATK1600

デスコアラ

ATK1100

「レベル3デスコアラにレベル3Xーセイバーエアベルンをチューニング！現れる、ゴヨウ・ガーディアン！」
歌舞伎役者のようなモンスターが現れる。

ゴヨウ・ガーディアン

ATK2800

「デスコアラを反転召喚するんだな！」

デスコアラ

ATK1100

「デスコアラのリバース効果で400ダメージを与えるんだな！そしてゴヨウ・ガーディアンとデスコアラでダイレクトアタック！」

康太

LP4000 0

Side 康太

「なんだこりゃ!?!」

最後が猫シンクロとか無理じゃねえか！

「康太くん。ドンマイだね」

「負けた・・・カードを一切プレイ出来ずに負けた・・・」

「良いデュエルだったぜ康太？4人も連続で倒したんだぜ？」

「でもな・・・はあ・・・」

「康太さん元気だして！私を部屋で好きにしていから！」

「わかった・・・ありがとうな沙也加」

「好きだよ康太さん」

沙也加が優しく口づけしてくれた。

「イチャイチャするんだったら帰ってくれっす！」

「それには同感だな」

「・・・わかったよ。帰るぞ沙也加」

「うん！」

ちなみに帰った後、部屋でゆっくり二人の時間を楽しんだぜ！

Side End

お気に入り登録100件突破記念番外編〜小説終了後書く予定の続編のプロトタ

お気に入り登録100件突破記念番外編という事で、続編のプロトタイプ的な物を書いて行きます。

ちなみに、3作品から決めかねていきますので、とりあえずそのうちの1作品であるポケモン編です。

ではどうぞー！

Side 康太

ここはどこだ？

俺は沙也加と結婚してプロデュエリストとして順調だったし、頑張ってたのに……。

初めての子どもそろそろ生まれるはずだったのに……夢だったのか？

夢だったらやだなあ……。

「康太さん、起きてください！」

風華の声だ……。

どうやら夢ではなかったらしい……。
返事しよう……。

「風華、どうした？って麻衣も風華も実体化してる!？」

「なんか気がついたらここに……」

「コウタ、降りてらっしゃい、ベルちゃんとチェレンくんが来たわよ！アララギ博士からのベルちゃんとチェレンちゃんとコウタへの贈り物も届いてるし早く降りて来なさい！マイちゃんとフウカちゃんも一緒にね！」ベル？チェレン？……ポケモンの世界かな？

場所は、ブラックホホワイトの世界観であるイツシユ地方、そして俺はブラックホホワイトの主人公、トウヤに転生、しかもコウタという名前だな……。

「わかったよママ」

主人公も確かママって呼んでたし問題ないよな……。

「あっ！コウタ、おはよう！」

「騒ぎすぎだよベル、あっ、コウタおはよう」

「おはようベル、チェレン」

マジでブラックホホワイトの世界に転生したのかよ……。

また転生とか面倒だなあ……。

「で、この贈り物の中身、つまりこれらのモンスターボールだが、どうする?」

「コウタから選びなよ。コウタの家に届いた荷物なんだからさ」

「そうだよ!コウタ!早く選びなよ!」

「じゃあこれに……あいつ!」

俺は窓の外にいたヤツをシバキ倒すため、ヤツの近くの窓を開けてヤツに飛び移った。

そして、一発殴って……。

「痛い痛い!わしじゃ!わしじゃから殴らないでくれ!」

「よくもまた転生させやがったな!絶対殺す!二度と立ち上がれなくなるまで殴ってから殺す!」

「落ち着け!今回はわしじゃない!今回はレヴァティンの責任なんじゃ!」

「チツ……仕方がないか……今回だけはやめてやる!」

「舌打ちなんかしないでくれ!」

「はあ……そういや見た目がサザンドラになってんだな」

「だがわしの覚えてる技は普通とは違うぞ?」

「仕方がない……お前が俺のパートナー(笑)だ」

「(笑)ってなんじゃ!」

「だってお前だぜ?散々迷惑をかけてきたな!」

「すまんのぉ……」

「仕方がないか……」

「ねえコウタ、どうしたの?いきなり窓から飛び降りて……ってサザンドラ!?」

「今さっきシバキ倒してゲットしたんだ。あつ俺が選んだポケモンはベルにやるよ」

「なんでベルなんだよ!」

「レディーだからさ」

「ベルがレディー?笑わせないでよコウタ」

「がさつだからってそんなこと言わないでよチエレン！」

「はぁ・・・風華、麻衣行くぞ？」 「わかったよ、すぐに行くよ」

「あわわ・・・待ってください！」

こうして俺達は旅立つ事になった。

S i d e E n d

お気に入り登録100件突破記念番外編〜続編候補のプロトタイプを公開編2〜

今回は短めです。

Side 康太

ここはどこだ？

沙也加と結婚して、初めての子供が生まれるはずだったのに・・・
夢だったのか？

プロデュエリストになって荒稼ぎして沙也加と幸せに過ごしてたの
は夢だったのか？

夢だったらやだなあ・・・。

『康太！起きてよ！』

麻衣が呼んでる・・・起きなきゃな・・・。

「麻衣？どうした？ってここはどこだ！？」

俺は全く知らない部屋にいた・・・前の世界の部屋でもないし、レ
ッド寮の部屋でもない。

ましてや、俺と沙也加との家でもない。

部屋を探索するか・・・。

・・・数分後・・・

特に何も見つからなかったな・・・。

ただわかったのはこの世界でも俺は高嶺康太という名前で風華も麻
衣も居る。

今は4月6日つまり明日から新学期である事、そして俺は文月学園
の二年生、つまりまた高校生として生きていく事、更に同級生に吉
井明久、土屋康太、木下秀吉、坂本雄二という名前があった。

ははは・・・バカとテストと召喚獣の世界に転生したらしい・・・。
面倒くさい！

トリシューラ殺す！

「そついや麻衣と風華は帰らないのか？」

『私は帰れないみたい・・・』

『私も帰れませんね・・・』

・・・これからどうしよう。

・・・次の日・・・

「寝坊した！遅刻する！」

「高嶺！一番お前が遅かったぞ！」

「鉄人先生、申し訳ありませんでした！」

「鉄人なんて呼ぶのは坂本くらいだけだぞ」

「・・・間違えました西村鉄人」

「・・・まあいいか、ほらお前の分だ」

「なんでまた面倒なクラス発表の教え方なんだよ・・・」

「試験校なんだから仕方ないだろ。お前はやっぱり馬鹿だったらしい・・・」

転生前の記憶は昨日、夢で見たから解るがあれならFクラス確定だろ・・・。

高嶺康太・・・Fクラス

こうして、俺の三度目の高校生活が始まった

Side End

お気に入り登録100件突破記念番外編〜続編候補のプロトタイプ公開編3〜

今回ののは結構マイナーかもしれませんが。

この作品を読んでいる方に原作を読んでいる人居るかな？

個人的に好きなんだけどなあ・・・。

ダークヒーロー系の漫画なんですけどね・・・。

ちなみに作品名はCODE: BREAKERという作品です。

この作品は週刊少年マガジンにて連載中の作品です。

Side 康太

・・・ここはどこだ？

俺は沙也加と結婚して、沙也加との初めての子供が生まれる一週間前だったのに・・・。

夢だったのか？

夢だったらやだなあ・・・。

『康太さん起きてください！』

「おはよう・・・風華・・・」

ここは・・・公園か？

でも俺は公園なんかは何故居るんだ・・・？

あれは青い炎かな？

見に行ってみるか・・・しかし、なんだこの学ランは？

漫画で読んだCODE：BREAKERの大神零の着ていた学ラン

みたいだが・・・。

お？着いたな。

人が燃えてる！

しかも中心には黒髪の優男が立っている。

「止める！そんなことしたら人が死んでしまう！」

あれは・・・大神零だな。

これでわかった、ここはCODE：BREAKERの世界だ。

「目撃者は全て消す」

いきなり襲い掛かって来やがった！

俺はバックステップでその青い炎が燈されている左手での攻撃を避ける。

くっ・・・青い炎に当たった木の葉が燃えた！？

ヤバいつて！

「風華・・・ゴメン・・・とりあえず、やれ、レヴァティン！」

レヴァティンが大剣を地面にたたき付ける。
そうすると地面がえぐれ、大神零に向かって石とかが飛んで行きダ
メージを与えた。

とりあえず、逃げる！

・・・数分後・・・

・・・逃げ切れたらしい。

もう大神は追ってきてない。

生徒手帳の住所の欄を見てその住所の家に着いた。

・・・案外近かったな。

「麻衣！出てこい！とりあえず風華を呼んできてくれ。さっきまで
いた場所に居るからさ」

『逃げた時に置いてきたの？』

「・・・そうらしい。しかし俺が行ったら最悪死ぬかもしれないか
らな」

とりあえず生き残って沙也加と再会して子供に麻衣と風華とトリシ
ユーラ以外のカードを渡すんだ！

それまで死んで堪るか！

こうして俺の命懸けの学園生活が始まった・・・。

Side End

PV300000突破記念番外編〜康太・女体化編〜(前書き)

匿名希望の方にアドバイスをいただき書きました。

苦手な方は注意してください。

PV300000突破記念番外編〜康太・女体化編〜

Side 康太

・・・朝か、起きるか。

ふああああ・・・よく寝た。

身体が縮んでる!?

何故だ?

「トリシューラ!出てこい!」

なんか声も高くなってるな・・・。

『誰じゃ?』

「康太だよ!」

『わしの知ってる康太は紺色の長髪の幼女じゃなくて黒髪の短髪の高校生じゃぞ?』

「・・・幼女?ふざけんな駄目精霊!」

『痛い痛い、殴るな!・・・この力加減、まさしく康太!』

「最初から言ってるだろうが!」

『蹴らないでくれ!痛いから!』

「何故こうなつたか、理由を教えてくれ。よりによってなんで幼女なんだよ?」

『多分レヴァティンの悪戯じゃな。あいつにはたしか幼女趣味があったはずじゃ』

未確定で断言されてないが・・・幼女趣味だと・・・?

「マジか・・・?」

『マジじゃ』

さあ、どうでしょうか?

「とりあえずレヴァティンを取っ捕まえて解除させる。わかったか?」

『わかった、幼女な康太とか見せて気持ち悪いからな』

鏡見よう……。

……数分後……

うん、事情を聞かなきゃ完全に誘拐犯に見える。

ちなみに見た目はF A R L Y T A I Lのウエンディだな。

声もそんな感じだったし。

「沙也加、起きてるんだろ？」

「ばれてましたか」

「まあな。気配でわかるからな」

なんせこの世界じゃ気配がわからないといきなりデッキを盗るためにいきなり襲われたりもありえるからな。

「沙也加、俺は今日……いや、暫くアカデミアの授業を休むかもしれない」

「まあロリコンに襲われるかもしれないですね」

「十代さん、康太さんは暫く休むかもしれませんが、言い訳は……風邪で熱だしたって言うてくれだそうです。本当の理由はこっちで話すので一人で来てください」

……数分後……

「康太がこの女の子!？」

「そうだ。朝起きたらトリシューラ絡みの事件に巻き込まれてこのザマだ……はぁ……どうしよう?」

「なんか可愛らしいな。康太ってわからなきゃな」

「わかってる。暫くすりゃあ戻るらしいが……風呂とか飯どうしようか?」

「ご飯は私が取ってきますよ。お風呂は……さすがに無理なので身体を拭くだけで我慢してください」

「なら、服は?」

「沙也加、貸してくれないか？」

「サイズが合わないでしょさすがに・・・」

「小さくなつた服とか無いのか？作り替えて着るから」

「そんなこと出来んのか？」

「武士の鎧を作つたのに、出来ないとても？」

「そうでしたね」

「風水師の服も作つてたよな！」

「だからミシンを使えばできる！」

「だね」

『私・・・氷結界の里に置いてあるお下がりの服を持ってきましょ
うか？』

「・・・ありがとう。使わせてもらつ」

『わかりました。すぐに取ってきます！』

・・・数分後・・・

「なあ、風華？」

『なんですか？』

「なんでミニスカートなんだよ？しかもノーパンで？沙也加達はい
ないけどさ、たまに裸見られてるけどさ、恥ずかしいんだけど！そ
のうえ半袖のシャツだと？俺に何を求めてんだ！？」

『萌えとかかわいさですね』

「イラツとくるぜ！」

『風ちゃん、康太がかわいいね！抱きしめていい？今晚抱いていい
？裸にひんむいていい？』

『麻衣、大丈夫ですよ』

『ありがとう、風ちゃん！ねえ、この姿なら康太は無いんじゃない
？偽名考えようよ！』

『良いアイデアですね！』

「もつどうにでもなれ・・・」

・・・数分後・・・

『では玲奈で決まりです!』
ちなみに外で呼ぶ時だけだから部屋の中では面倒だから康太で固定な。

『玲奈ちゃん!抱きしめてあげるね!』

「・・・助けてくれ」

『かわいい!はうう・・・お持ち帰り!』

「H A N A S E!俺に自由は無いのか!？」

『無いよ?私の物だから!私の家に持って帰って裸にひんむいて、抱くの!』

「止める!やめてくれ!俺は男だ!」

『今は幼女だもん!』

『そうですね・・・』

「助けてくれ・・・俺はまだ死にたくない。生きてまた授業に出たい」

まあ居眠りしたりしてるがな。

『居眠りしてるんだし良いでしょ?』

「うっ・・・」

『凶星ですね』

「言っな・・・」

『そういう事で私の家に行こう!』

「止めるオオオオ!」

・・・数分後・・・

「ここは何処だ?どうみても麻衣の家の寝室だな。麻衣の服があるし・・・」

服・・・脱がされてるや・・・。

とりあえず身体に布団を巻き付けておこう。

『起きた？起きたならいただきます！』

「止めるオオオオ！俺に同性愛の趣味は無いから！」

『大丈夫だよ！抱きまくらの代わりに使っただけだから！』

「だから、止めるって言ってるだろうが！」

『えくやだよ！だってかわいいし』

「っーかなんで裸？」

『反応が面白そうだったからだよ！』

「・・・帰る。風華に帰るためのゲートを開けてくれるように頼みに行くか・・・」

『じゃああつちで一緒に寝よ！』

「沙也加に殺されるからやだ」

『じゃあ行かせない！』

「・・・わかった。沙也加を説得するから帰らせてくれ」

『うん！』

「じゃあ帰るか！」

・・・数分後・・・

帰れたな・・・。

今は何時だ？

15時57分か・・・そろそろ沙也加達が帰ってくる時間だな。
昼寝でもするか・・・。

・・・数時間後・・・

「沙也加、お帰り！」

「康太さん、ただいま！」

『幼女に呼び捨てにされる高校生女子と呼び捨てにしてる幼女って
なんかおかしいね風ちゃん』

『そうですね』

「泣いていい？」

『慰めてあげるね！』

「止めとくか・・・」

『扱い酷くない！？』

「前からそんなもんだ・・・」

『風ちゃん！康太が虐めるよぉ〜』

『さつきから思ってたんですけど酒臭いですよ？そして扱いが酷い理由は自業自得かと』

『皆！そんなこと無いよね！？って皆目を背けないで！ねえ皆！ねえつてば！』

「酒飲みすぎだ。酒癖も悪いし。治した方が良いと思う」

『皆酷い！』

「『事実を言ったただけだ【です】！』」

『・・・』

「麻衣・・・ごめん」

『別に良いよ・・・私って皆にそんなイメージ持たれてたんだ・・・私って皆に嫌われてたんだ・・・』

「俺は嫌っては無いつて。どっちかと言えば好き【友人的な意味でだつて」

『【恋人的な意味で】私の好きなの！？でも沙也加が・・・』

『【友人的な意味なので】沙也加は関係無いつて』

『【浮気的な意味なので】本当に大丈夫なの？』

『【友人的な意味なので】何が？』

『へ？』

・・・説明中・・・

『うわぁ・・・私ってすごい勘違いしてたんだね』

「だな。つーか恋人的な意味では無いことが途中でわからなかったのか？」

『うん!』

「オイ!」

『はあ・・・麻衣には呆れますね。勘違いが酷すぎますよ』

『ハハハハハ・・・』

「で、どうします?今夜どうやって寝ますか?どうやって身体を洗いますか?」

「仕方なく麻衣の抱きまくらにされるよ・・・無理矢理とはいえ契約だからな・・・。身体は自分で拭くよ・・・。」

「わかりました。ではご飯取ってきますね?」

「ああ。頼んだぞ!」

ちなみに麻衣に連れ去られる前に晩飯は作った。

・・・食事後・・・

「ごちそうさまでした」

「ごちそうさま」

『身体拭きましょう。早めにしないと眠くなりますよ?』

「そうだったな」

この身体じゃ体力は少ないらしく、すごく疲れた。

『早く康太を抱きしめたい!』

「・・・無理矢理でも徹夜しようかな?貞操の危機を感じたから・・・」

『大丈夫だよ!精々胸を揉んだり、舐めたりするだけだから!』

「魔法カードブラック・コアを発動」

『すいません。勘弁してください!』

「じゃあさっさと身体拭いて寝よう!」

ちなみにこのあとは特に何もなかった。

そして、次の日の22時頃、元に戻った。

ユニーク40000突破記念番外編 康太の過去 (前書き)

ユタ様がアドバイスしてくださった、康太の過去です。
沙也加が話の話題でちらっと出てます。

ユニーク40000突破記念番外編〜康太の過去〜

Side 康太

ふあああ・・・眠いな。

お袋のメモだな。

読むか・・・。

今日も銀行でお呼ばれしてるから行ってくるね

今日もご飯作っというてね

よろしくね康太ちゃん

お袋・・・銀行で雇われて弁護士やってるって聞いたがどなんだよ・・・。

てか月に30万円渡して「これ、優と康太の分のお小遣と今月分の光熱費以外の生活費ね 管理よろしく」じゃねえよ！

大抵月8万位余って小遣い

になっただよ！

・・・まあ嬉しいけどさ。

つてもう7時20分かよ・・・学校行かなきゃ！

あつ、ちなみに家から30分以内に着くが遅刻したらやだからさつさと行くか・・・。

「優、起きろ！朝飯はテーブルに置いてるからちゃんと食ってけよ

！」

「はいー！」

ちなみに優は6歳なんだが、案外しっかりしてるんだよね・・・。

お袋よりしつかりしてるからな・・・。
6歳の子供よりしつかりしてない37歳のお袋っていったい・・・。
ちなみに優はデュエリストだ。
ちなみにジュラックと裏サイバーと氷結界使いだ。
ちなみに俺と氷結界の型は違うからな。
優に異常なオーバークイルを決められたりするの嫌な思い出だな。
って予定の時間に遅れる！

・・・40分後・・・

「おはようございます。上地先生！」
「高嶺、お前いつも速いな・・・今日も生徒の中では一番だぞ？」
「ははは・・・俺はいつも家事をするために早起きしてるので、こんな時間になるんですよ」
「お袋さんは忙しいし、弟君はまだ小さいし大変だな高嶺」
「親父はもっと忙しかったらしいし別に大丈夫ですよ」
「じゃあな高嶺！」
「ではまた後で！」
上地先生はいい人だが熱すぎるんだよな。

・・・数分後・・・

皆来したがまあ問題無いな。

おっ、アイツが来たな。

「よっ！裕也」

「康太、おはよう」

こいつの名前は不動裕也。

実家は不動産屋だ。

ちなみに裕也はいわゆるイケメンって奴である。

幼なじみで俺にデュエルを教えてくれた奴であり、憎むべき敵【リ

「ア充」である。

所詮俺は一般の地味なモブキャラみたいなもんさ……。

「康太、睨むなよ……最近お前からの視線が痛いんだよ！」

「リア充だからだ！リア充は憎むべき敵だ！」

「何言ってるんだか？俺は彼女いない歴〃年齢だぜ？」

「いつも帰り道告白されてるくせしてまだ屁理屈を言うか……」

「心に決めた女性としか付き合う気はない！」

「はぁ……もてもてな裕也が羨ましいぜ……」

「運はお前の方がいいだろ？トリシューラを6枚も持つてるくせに……」

「……」

「さすがに6枚は要らなかったぜ……つーか制限カードになったし5枚いらねえよ」「そっぴや横でターミナル回してた女の子かわかったなあ」

「だよな！貧乳だったが、かわいい顔してたし、あんな娘と付き合いたいよなあ」

「まあちよつと暗そうなイメージだったけどな」

「……あの娘、多分昔辛い事があったんだと思う……。リスト

カットの跡があったし……」

「マジか……。なんかかわいそうだな」

「そっぴやもうそろそろ時間だな。また次の休み時間に喋ろうぜ」

「ああ！」

……放課後……

「裕也、じゃあな！」

ちなみに裕也は放課後ティータイムとかいうグループのCDを買いに行くらしい。

俺……アイツのオタク趣味にはどうも思わないんだがアイツに彼女できて絶対には部屋を見せれないと思うんだ……。

なんせ散らかってはないが、アニメのポスターとかアニメのCDと

かいつぱいあるし・・・。

・・・帰宅後・・・

「ただいま！」

「お兄ちゃん、お帰りなさい！」

「優、なんもなかったか？」

「なかったよ？」

「わかった。じゃあデュエルでもしとくか？」

「うん！」

・・・数分後・・・

「じゃあ3体のサイバー・ダーク・ドラゴン【ATK14000】
でダイレクトアタック！」

康太

LP2000

「酷いオーバーキルだな・・・」

「全力で狙ったもん！」

「酷！じゃあ俺はそろそろ晩飯の準備するか」

「わかった！」

「優は物分かりがよくて賢いな！よしよし」

「お兄ちゃん、なんか手伝える事ある？」

「特にないな。とりあえずリビングで待ってるよ！」

「うん！」

こんな感じで一日は過ぎていった・・・。

「夢か・・・優や裕也、お袋は大丈夫かなあ・・・帰りたいな・・・元の世界に・・・」
てか夢見て思い出したがターミナル回して、トリシューラを6枚ゲツトした時横に居たの沙也加だったんだな・・・。
沙也加って生前？はリストカットをするレベルにまで追い詰められたんだな・・・。
俺が愛してやらないとな・・・生前？幸せになれなかった分、こっちでは幸せにしてやるう。

S i d e E n d

新学期・・・波乱の予感（前書き）

またしばらくはオリジナルストーリーです。

三期の内容に康太が絡むといろいろストーリーが壊れるので・・・

新学期・・・波乱の予感

Side 康太

ふあああ・・・あんまり寝れてないや。

一昨日徹夜で氷結界を弄ったのが悪かったか・・・。

PDAにメールが来てるな。

読むか何々・・・はあ!?

「沙也加起きろ!そしてさっさと制服に着替えろ!」

「いつたい何があったの?眠いからもうちよつと寝たいんだけど・・・」

「」

「すつごくめんどい事になった。校長からの呼び出しで、校長室に行くぞ・・・久々にシンクロナスタ―絡みの面倒だなあ・・・胃が痛いや。久々に痛くなったなあ」

「私と会う前に明日香さんに胃薬渡してたらしいね。胃薬なんて飲んだことないよ」

「昔から家族絡みでいろいろ有ったから胃薬はよく飲んでたからな・・・」

「」

「苦労人ですもんね」

「そうなのか?つて風華起きてたのか?」

「はい、暇潰しによく力を使って沙也加さんと康太さんの夢を見えますから」

「あの夢もか?」

「康太さんの過去はちゃんと見ましたし覚えてますよ。優君かわいいですよね!裕也さんはイケメンでしたし」

「どんな内容なんですか?」

「風華、言ったらシバく」

「チツ、分かりました」

「あからさまに嫌な顔すんな!」

・・・数分後・・・

禿のおじさん、つまり鮫島校長が目の前にいる。
つまり校長室に居るんだよな・・・面倒くさい。

「何の用ですか？内容次第では帰らせていただきますが」

「非常に言いづらい事なんですが、海馬コーポレーションに行つて
海馬社長に会つてもらいたいんがいいかね？」

「・・・拒否権は？」

「ありません」

「・・・ですよね」

「という事で海馬コーポレーションに明日には行つてください。ま
た実家に帰らせて申し訳ないけどね」

「・・・失礼しました」

めんどくせえ・・・胃薬とか買い集めるか。

・・・数分後・・・

荷物を纏めないといけないな。

いろいろ要るがどうするか・・・。

「コンドームとデッキは必須で、着替えや歯ブラシ、ローターにサ
イドデッキ、融合デッキも必要だし」

「オイ、二つ程要らん物が有つたぞ！」

「着替えと歯ブラシ？」

「必須だろそれは！コンドームとローターだよ！」

「し？」

「自重しろ！」

『少年、これが絶望だ。ターンエンド』

「トリシューラ、出てくんじゃねえよ！」

『わしの扱い酷っ！』

「黙れカス！」

『わし・・・泣いていい？』

「帰れ、邪魔」

『・・・分かったわい』

「邪魔者は去った。とりあえず「コンドーム」が必要ないって事に気付こうか？」

「やらないの？」

「やらなくていいだろ・・・つーか宿舎に泊まる可能性も有るのにやれるか！？」

「・・・えっ！」

「やっぱり気付いて無かったか・・・」

「でも・・・」

「はぁ・・・仕方ないか」「それじゃ！」

「今晚やれば問題無いな」

「できれば毎晩シたいな」

「はぁ・・・」

・・・次の日・・・

「・・・着いたな」

「また康太さんの実家だね・・・」

「はぁ・・・何回目だよ」

「またお風呂で・・・」

「後でな」

こうしてあの社長に会う事になった・・・。

Side End

新学期・・・波乱の予感（後書き）

お気に入りユーザー登録してくださっている方が15人を突破したら、何か記念番外編を書こうと思います。

ちなみにお気に入りユーザー登録してくださっている方の内、誰か（15番目の方は確定でそれを含む。ちなみに現在14名）5名の方にメッセージを送りますので、番外編で読みたい話をメッセージで送っていただきたいと思います。

という事でよろしく願います！

社長との接触（前書き）

社長の口調があっているか不安です・・・。

社長との接触

Side 康太

「失礼します！」

「ふうん、入れ」

社長・・・とりあえず自重という言葉覚えてくれ！

「で、何の用ですか？いきなりアカデミアから呼び出されたんですが、具体的にどうすれば良いのですか？」

「ただデュエルを何日かに分けてし続けられたい。ただしシンクロモンスターを使つてな」

「・・・拒否権は有りますか？」

「無い！・・・後、シンクロモンスターを売つてほしい」

「・・・いろいろ種類が有りますが具体的な希望は有りますか？・・・できれば拒否したいのですが、我慢しましょう」

「ふうん、磯野！商談の準備だ」

「商談、開始イ！」

あれは・・・磯野の名言？の一つのパロディだと！？

「何が欲しいんですか？」

「スターダスト・ドラゴンだ！」

「そのカードは無理です。他には有りますか？」

「極神皇ロキだ！」

・・・テストとか授業で使ったネタデッキでの使用したカード達だな。

「あの、シンクロモンスターを見せましょうか？」

「頼む」

俺はシンクロモンスターを纏めたファイルを取り出し、社長に渡した。

「このカード達を買いたい！」

社長が取り出して見せたカードは……。

ブラック・ローズ・ドラゴン

レッド・デーモンズ・ドラゴン

エクスペロード・ウイング・ドラゴン

トライデント・ドラギオン

なんというか……上二枚無理だな。

「すみません、レッド・デーモンズ・ドラゴンと、ブラック・ローズ・ドラゴンは無理です。申し訳ありません」

「ふうん、分かった。いくらほど、貴様の口座に振り込めばいい？」

「その前に、シンクロ召喚に必要なチューナーはどうします？青眼の白龍のサポートカードもありますよ？」

「世界に現在使用できる枚数が3枚しかないはずの青眼のサポートカードを何故貴様が持っている？」

「信じていただけるとはわかりませんが、藍沢沙也加と私、高嶺康太は転生者なのです。デュエルモンスターズがあまり発展しておらず、世界に数枚しか存在しないカードがほぼ無い世界で生きていましたので、持っております」

「そのような戯言信じられる訳無いが、シンクロ召喚という証拠を見せられた今、信じられない訳無いだろ」

「ありがとうございます。元の世界での生活を詮索をしないでいただけるとうれしいです」

「分かった」

……数分後……

「ではこのカード達でよろしいですね？」

「ああ」

・ ちなみに社長に渡すチューナーやチューナーのサポートカードは……

伝説の白石

ドレッド・ドラゴン

火炎龍

デブリ・ドラゴン

調和の宝札

カードガンナー

だ。

「ではこの口座に振り込んでおいてください。お買い上げありがとうございます。うございました」

「ふうん、これくらい問題無い」

いやいや、10桁でこれくらいはありえないだろ……。

さすが社長、金持ちだな……羨ましい。

「テストデュエルは何時からにします？」

「明日から二週間程度で問題無いだろう。デッキはちゃんと調整しておけ」

「分かりました。ではまた明日」

……めんどくせえなあ。

胃薬足りるか？

Side End

社長との接触（後書き）

久しぶりな次回予告

外道に戻り海馬社長を困らせる事を決心した康太はワンキル用にあのフェイバリットモンスターをシンクロ召喚することに特化したネタデッキをいくつも作り上げた・・・。
そしてテストデュエルに挑む！

次回、佐々木と將軍と最凶ワンキルコンボ！

次回もよろしくお願いします！

佐々木と將軍と最凶ワンキルコンボ！(前書き)

佐々木エンドのデュエル三連打！

佐々木と将軍と最凶ワンキルコンボ！

Side 康太

「で、今日はどんなデッキとデュエルするんですか？」

「ビートダウン系だ。シンクロモンスターを出せるデッキは持ってきたな？」

「もちろんです」

ちなみに沙也加は初日にクビになった。

理由？パーミッション系のデッキを何度も使い、一度もシンクロ召喚してないからだ。

・・・数分後・・・

「デュエル！」

「俺のターンドロー！」

これは勝ったな。

「カラクリ小町 二三四（漢字が出ませんでした。申し訳ありませんby作者）を召喚！」

木でできたロボット、しかも江戸時代の女性のような髪型で、花柄の和服を着ているロボットが現れた。

カラクリ小町 二三四

ATKO

「永続魔法、カラクリ解体新書を発動！借カラクリ蔵を発動し、カラクリ武者 六参一八（漢字が出ませんでした。申し訳ありません。by作者）を手札に加え、小町を守備表示に変更する！六参一八を召喚」

木でできた、ロボット今回は鎧を着たモンスターが現れた。

カラクリ武者 六参一八

ATK1800

「レベル4六参一八にレベル3二二四をチューニング！現れる、カラクリ將軍 無零！」

木でできたロボット、今回は將軍のような立派な兜を着けたモンスターが現れた。

カラクリ將軍 無零

ATK2600

「無零の効果でカラクリ参謀二四八を特殊召喚！二四八の効果で二四八の表示形式を守備表示に変更する」

木でできたロボット、今回は和服を着た男性型のモンスターが現れた。

カラクリ参謀 二四八

DEF1600

「解体新書の効果で解体新書を墓地に送り二枚ドロー！もう一度解体新書を発動、無零の効果で自身の表示形式を変更する。シンクロキャンセルを発動し二二四と六参一八を特殊召喚し、またシンクロ召喚、無零効果で六参一八を特殊召喚して、無零の効果で自身の表示形式を変更し解体新書の効果で二枚ドロー！更に二四八と六参一八をチューニング、無零、効果で六参一八を特殊召喚し、解体新書

を発動。無零の効果で自身の表示形式を変更し、借カラクリ蔵を発動し二二四をサーチ、無零の表示形式を変更、解体新書で二枚ドロ！強欲な壺で二枚ドロ！シンクロキャンセルで二二四と六参一八を特殊召喚。レベル4六参一八にレベル3二二四をチューニング！禁止？そんなの関係ないな！勝てば良いんだよ！シンクロ召喚！ダーク・ダイブ・ボンバー！ダーク・ダイブ・ボンバーの効果で無零と六参一八とダーク・ダイブ・ボンバーを射出する！死者蘇生を発動しダーク・ダイブ・ボンバーを特殊召喚し射出する！」

デュエルマシン

LP40000

「勝った！」

「待て！ダーク・ダイブ・ボンバーとカラクリ將軍無零のデータしか取れなかったぞ！？やり直せ！」

「シンクロ召喚を4回もしたんですしし良いでしょう！？」

「またやれ！」

「・・・わかりました」

「デュエル！」

「俺のターンドロ！俺は強欲な壺を発動し二枚ドロ！更にクイツク・シンクロンを手札のモンスターを捨て、特殊召喚！」

テンガロンハットを被ったロボットのようなシンクロンが現れた。

クイツク・シンクロン

ATK700

「ジャンク・シンクロンを召喚し効果でボルト・ヘッジホッグを特殊召喚！」

鍋を被ったオレンジ色のシンクロンとハリネズミの針がボルトに代

わったモンスターが現れた。

ジャンク・シンクロン

ATK1300

ボルト・ヘッジホッグ

DEF800

「手札からドツペル・ウオリアーの効果を発動！特殊召喚！銃を持った黒い軍服を着た男性が現れた。」

ドツペル・ウオリアー

ATK800

「レベル2ボルト・ヘッジホッグとレベル2ドツペル・ウオリアーにレベル3ジャンク・シンクロンをチューニング！仲間の命を糧に敵を滅ぼす！シンクロ召喚、ダーク・ダイブ・ボンバー！ドツペルトークンを二体を特殊召喚してレベル1ドツペルトークン二体にレベル5クイツク・シンクロンをチューニング！現れるニトロ・ウオリアー！更に死者蘇生を発動しクイツク・シンクロンを特殊召喚しボルト・ヘッジホッグを自身の効果で特殊召喚し全モンスターを射出！」

デュエルマシン

LP40000

「勝った」

「ニトロ・ウオリアーが増えただけではないか！やり直せ！」

「わかりました・・・」

「デュエル！」

「俺のターンドロー！俺は天使の施しを発動し三枚ドローし二枚捨

てる。この効果でヴァーユを二枚捨てる。手札のB F I 暁のシロツコを捨ててダーク・グレファアを特殊召喚。更に墓地のヴァーユの効果で、シロツコとヴァーユを除外し、B F I アームズ・ウィングを特殊召喚。ゲイルの効果で特殊召喚。レベル4ダーク・グレファアにレベル3 B F I 疾風のゲイルをチューニング！一度出撃したら止まらない！残酷非道な機械兵器！シンクロ召喚！ダーク・ダイブ・ボンバー！アームズ・ウィングを射出！更に墓地シンクロ！アーマード・ウィング！アーマード・ウィングとダーク・ダイブ・ボンバーを射出！

デュエルマシン

LP40000

「オイ！あまり変わってないぞ！」

「良いじゃん！つーか何回ダーク・ダイブ・ボンバーを使わせる気だ！？」

「貴様！ダーク・ダイブ・ボンバーを何度使えば気が済むんだ！」

「何度使っても気が済まない！何度射出しても気が済まない！死ぬまで使い続けてやる！」

「止める！データが取れないではないか！」

「煩い！良いじゃん、ダーク・ダイブ・ボンバーのデータを取れば！」

「煩いのは貴様だ！ダーク・ダイブ・ボンバーを使うのを止める！」

「やだ！」

「社長！アカデミアが消えました！」

「本当か！？」

「はい。いきなり何故か、消えました」

「俺がアカデミアに行くから貴様はおとなくシンクロモンスター
のデータを取るためにデュエルマシンとデュエルしておけ」

「・・・わかった。ただし、データが取り終われば帰るぞ」

「ふうん。勝手にしろ」
「わかった」

この後日、アカデミアがこちらの世界に戻って来て、すぐにアカデミアに俺達は戻った。

S i d e E n d

佐々木と將軍と最凶ワンキルコンボ！（後書き）

カラクリ系統の漢字が出ませんでした。
申し訳ありません。

異世界への扉と氷結界の里

S i d e 康太

帰って来たが、皆落ち込んでるな・・・。

ヨハンとアモンが帰って来なかったそうさ。

まあ俺には関係無いがどうかしてやりたいんだが・・・。

・・・数時間後・・・

皆のエースが並んで、時空の裂け目かな？

その裂け目みたいな物に攻撃させている。

ちなみに沙也加と一緒に居るぞ？

「くそつ、康太が居たらもつと・・・」

「世話が焼けるな・・・沙也加、やるぞ！」

「はい！」

「現れる！アイス・バーサーカー！」

「来て！マスター・ヒュペリオン！」

俺達のカードの力が足されたら、いきなり裂け目みたいな物から光が出てきた。

そして皆を包み込んだ・・・。

その後、皆はこの世界から消えた。

・・・数分後・・・

ここは何処だ？

風華や沙也加、麻衣も居るな。

「十代、俺は行く所があるからお前等とは一緒に行けない。沙也加、麻衣、風華、行くぞ！」

「はい！」

『うん！』

『わかりました』

スターダストだけはシメる！

よくもコズミック・クリアー・ドラゴンを、なんかいわくつきみた
いなカードを渡しやがって！

「目指す場所は氷結界の里だ。まずはトリシューラの所に行く」

「私は？」

「ライホウ辺りと居てくれ」

「・・・嫌」

「なんか言ったか？」

「嫌だよ！康太さんと離れたくないよ！」

「危険何だぞ？最悪、沙也加が死ぬかもしれないんだぞ？それでも
良いのか？」

「私は・・・私は康太さんと一緒ならそれで良い！康太さんの為に
死ぬならそれで良い！」

「はあ・・・スターダストの所に一緒に行くか？まあトリシューラ
に会ってからだだな。後、危険だからしっかり掴まっておけよ。ト
リシューラの上から落ちるから」

「うん！早く行こ！」

「はあ・・・走んな。ゆっくり地道に行こうぜ・・・。まだ先は長
いからな」

「はい・・・」

「敬語に戻ってるぞ。せつかく春休みに直したのにな」

『私も協力したよ？』

「まあな。でも言うな・・・。だって自慢してるみたいだし」

『・・・うん』

『麻衣、落ち着いてよ』

『風ちゃん、わかったよ』

「はあ・・・とりあえず案内できるか？麻衣、風ちゃん・・・じゃ

なかつた風華」

『風ちゃんって言わないでください！恥ずかしいから！後、案内はできます。氷結界の里の方向を指し示すコンパスみたいな物がありますので』

「わかつたよ・・・とりあえず案内よろしく」
『はい』

・・・数日後・・・

「着いたな・・・長かつた・・・」

「はぁ・・・だよね・・・」

『まあ仕方ないって』

『徹夜で歩き続けましたしね・・・』

『度々沙也加さんが寝て康太さんが担いでましたしね』

「・・・ごめんね」

「気にすんな。つーか風華、黙つといてくれって頼んだのに言いやがって・・・はぁ」

『止めて止めて！頬を引っ張らないで〜』

「やだ。仕返しだ！」

『痛い痛い！放して！』

「ほい」

『やっと放してくれた・・・』

「腫れてるね、痛そうじゃないけど」

『風ちゃんは口を滑らせないように気をつけてね。さっきみたいに
なるよ』

「お前は酒を控える！」

『・・・えっ？』

『ですよね〜』

『巻き添えにされた・・・』

「酒を控えてちゃんと健康的な生活を・・・」

『精霊は不老不死だから大丈夫だよ・・・まあ太ったりはするけど』
「スタイルを維持してちゃんと皆に気を配れば彼氏位作れると思う」
『酷いよ・・・』
「涙目でこっち見んな。慰めないぞ!」
『性的な意味で?』
「オイ!」
「浮気?」
「断じて違う!」

いろいろ有って氷結界の里に着いた・・・。
何でこんな漫才みたいなきやならなかったのかはまるでわ
からんが・・・。

S i d e E n d

Side 康太

「おうい、コウタ早くおいでよ!」

「わかったわかった・・・麻衣、風華、サザンドラ、行くぞってミネズミが出てきたな・・・行けサザンドラ!」

「わし恐い!行け、康太!」

「・・・おう」

俺はミネズミに向かい走り出し、ミネズミの鳩尾を全力で殴った。

「良くやった!チャンスだ麻衣!」

「ふざけないで!」

あーあ・・・麻衣に蹴られてるな・・・。

あれは痛いだろな・・・。

とりあえずミネズミは逃がしとくか。

次はヨーテリーだな!

「喰らえ!」

俺はヨーテリーを捕まえてバックドロップをした。

ヨーテリーは泡を吹きながら倒れていた。

「ヨーテリーゲットだぜ!」

「良くやった康太!」

「コウタ、何をやってるんだい?」

「ヨーテリーの捕獲」

「何でサザンドラが戦ってないんだい?」

「あいつ・・・尻尾巻いて逃げようとしやがったからな・・・」

「コウタって強いよね」

「煩いって」

「確かにコウタは喧嘩は滅法強いよね」

「止せよチエレン」

こうしてヨーテリーが仲間になった……。しかし……。しばらくは戦えないな。だって、泡吹いて倒れてるしな。

「おっ、またミネズミが出てきたな。行けサザンドラ！」
「今回はやるぞ！」

「技は何があるんだろう……。？」
「れいとうビーム、ふぶき、りゅうのはどう、あくのはどう、じゃ！」

「待て！普通覚ええない技ばかりじゃないか！」
「トリシューラじゃからな！」
「はぁ……。ならりゅうのはどうを撃て！」

「喰らえ！」
サザンドラの三つの首の真ん中の頭から紫色のビームみたいな物が放たれたが……。

「ズツ」
ミネズミはそう言うつと簡単そうにりゅうのはどうを回避した。そしてサザンドラにたいあたりをした。そうしたらサザンドラは倒れた。

「打たれ弱すぎだろ！」
「サザンドラがミネズミに負けた」
「笑いながら言うな！」

「だって普通ありえないだろ」
「まあ……。はぁ。これからどうしよう……。？」
「何て言うか、情けないですね。このサザンドラ」

「だよ、風華ちゃん」
「とりあえずモンスターボール買ってきてさっさと入れちゃおうよ！」

「さっさと行くか！」

「うん！」

「はい！」

こうして俺達は次の町へ向かう事になった……。

S i d e E n d

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜ライホウとヒュペリオンの居酒屋

通りすがりのデュエリスト様のリクエストで、ライホウとヒュペリオンの居酒屋トークです。

Sideライホウ

私は今、氷結界の里にある居酒屋に来ています。

ちなみに経営者は武士で、副業ですね。

前回の戦争にて仲良くなった、苦勞人仲間と酒を飲む為に……。
来ましたね……。

『待たせたな、ライホウ』

『いえいえ、遅刻はしていませんし、待ち合わせより早く来た私が悪いんですから』

『私も我で待たせたのは申し訳ないから、今回は奢るぞ』

『ありがとうございます』

『気にするな。そういえば、最近沙也加様が呼んでくださらないんだが……』

『沙也加様は確かに最近ヒュペリオンを呼んでおりませんね』

ちなみに戦争終了後もよく二人でこの酒を飲んでいるので最近は常連になりつつありますね。呼び捨てしても良いとの許可も戴いたので呼び捨てなのは気にしないでください。

『まあ気にしないでください。そういえばこちらはトリシューラ様がまた暴走して、康太様を困らせてましたね』

『六武衆とのパーティーだな。あの件は沙也加様から伺ったからわかるぞ』

『紅様にも手伝って戴きなんとか解決しましたが、大変でしたね。トリシューラ様が暴走しかけましたし』

『だな……』

『私達つてどうなんでしょうかね……何故こんなに苦勞しなくてはならないのでしょうかね？』

『我等精霊という物は人の為に戦い、マスターの為に死ぬのが本望』

な生物なのだが・・・』

『苦労するのは嫌ですね。もう少しで良いから楽にして戴きたいです
すね』

ちなみに話を聞いている間にちゃんと酒は飲んでいきますよ。

『それには同感だな・・・しかしビール10杯も飲んだしそろそろ
お開きにするか』

『ですね。ありがとうございます』

『じゃあまた飲もうな』

『はい。ではさようなら』

S i d e E n d

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜ライホウとヒュペリオンの居酒屋

紅はガイウス様の小説のキャラで、そちらにコラボした回がありますので是非読んでみてください！

ガイウス様、ありがとうございました！

Side 康太

「……………大ありじゃあつ！」「……………」

Cクラスの前を通っていたらそんな声が聞こえてきた。

しばらく待つか……具体的に言うとな明久が戦線布告に向かう辺りにな。

その間に文月学園について説明しとくとAクラス〜Fクラスまであって、Aクラスに近ければ近いほど点数が高く、設備も上等でFクラスに近いほど酷くなる。

テストには点数の上限が無く、制限時間内に解けた分が点数となる。ちなみにFクラスの設備はちゃぶ台とポロポロの座布団で潰れかけの木造の部屋だ。

……数分後……

「騙されたあつ！」

明久が転がり込んで来たな……。

明久について説明しとくと、かなりのバカで学園初の観察処分者になった男で塩と水と砂糖が主食な生き物に思えない奴だ。

観察処分者はバカの代名詞で、召喚獣は普通、物に触れないが（床は特殊な加工をしているらしいので乗れるが）観察処分者の召喚獣は物に触れるようにされており、召喚獣のダメージの何割かがフィードバックするんだよな。そしてその召喚獣で雑用をさせられるのが観察処分者だ。

髪の色はクリームのような色で髪は短めだ。

髪形は説明できそうにない……。

「大丈夫か、アキ？」

「大丈夫だよ康太」

「やはりそうきたか。ちなみに康太は、明久が帰ってくるちょっと前に来たばかりだぞ？」

今喋ったのは坂本雄二髪形は逆立っている短髪で髪の色は赤色だ。ちなみにこのクラスの最高の成績である代表だ。

今喋ったのは坂本雄二髪形は逆立っている短髪で髪の色は赤色だ。ちなみにこのクラスの最高の成績である代表だ。

「やはりってなんだよ！やっぱり使者への暴行は予想通りだったんじゃないか！」

「・・・騒ぐな！喧しい！煩い！イラツとくる！殴るぞ！」

「ごめん、康太」

「すまなかった」

「別に良いよ」

・・・数時間後・・・

「じゃあ俺は帰るから」

「わかった」

「最初、俺は、回復試験を受けるな」

「わかった」

・・・次の日・・・

俺は今、姫路と回復試験を受けている。

この間に試験召喚戦争、略して試召戦争のルールを説明しておく。

一、原則としてクラス対抗戦とする。各科目担当教師の立会いにより試験召喚システムが起動し、召喚が可能となる。なお、総合科目勝負は学年主任の立会いのもとでのみ可能。

二、召喚獣は各人一体のみ所有。この召喚獣は、該当科目において最も近い時期に受けたテストの点数に比例した力を持つ。総合科目については各科目最新の点数の和がこれにあたる。

三、召喚獣が消耗するとその割合に応じて点数も減算され、戦死に至ると0点となり、その戦争を行っている間は補習室にて補習を講習する義務を負う。

四、召喚獣はとどめを刺されて戦死しない限りはテストを受け直して点数を補充することで何度でも回復可能である。

五、相手が召喚獣を喚び出したにも関わらず召喚を行わなかった場合は戦闘放棄とみなし、戦死者同様に補習室にて戦争終了まで補習を受ける。

六、召喚可能範囲は、担当教師の周囲半径10メートル程度（個人差あり）。

七、戦闘は召喚獣同士で行うこと。召喚者自身の戦闘参加は反則行為として処罰の対象となる。

八、戦争の勝敗は、クラス代表の敗北をもつてのみ決定される。この勝敗に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。あくまでもテストの点数を用いた『戦争』であるという点を常に意識すること。

まあ他にもいろいろ有るがこれくらいだな。

ピンポンパンポン《連絡します》

須川の声で校内放送が流れ出した。

《船越先生、船越先生》

死ぬなよ？アキ。

《吉井明久君が体育館裏で待っています》

やっぱりこれか・・・。

船越女史といえば、婚期を逃してついに単位を盾に交際を迫るようになった教師だ。

《生徒と教師の垣根を越えた、男と女の大事な話があるそうです》

・・・試験が終わったし行くか！

「姫路、そろそろ行こうぜ？」

「はい！」

姫路、フルネームは姫路瑞希で、学年次席だがクラス振り分け試験の時倒れてしまいFクラスに振り分けられた女子で巨乳である。

髪の色はピンク色で髪形はロングである。

顔つきは美人というより、かわいい方だと思う。

さてと、暴れるか！

S i d e E n d

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜ifストーリー 康太VSエド〜

ガイウス様のリクエストでもしエドとのデュエルでのデッキがとあるストラクチャーデッキだったらというifストーリーです。

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜ifストーリーリール康太VSエド〜

NoSide

「デュエル！」

「俺のターンドロ―！（デッキが、この前買ったストラクチャーデッキだと！？勝ち目有るのか？とりあえずやるしかない！）俺は異次元の生還者を召喚！」

ポロポロのローブを着た男性のようなモンスターが現れる。

異次元の生還者

ATK1800

「カードを二枚伏せてターンエンド！」

康太

手札 3枚

モンスター 異次元の生還者

魔法罫 リバースカード2枚

「僕のターンドロ―！（この僕が手札事故だと！？手札にモンスターしかない・・・仕方ない）僕はD・HEROディフェンドガイを
守備表示で召喚！」

灰色の煉瓦でできたような体のモンスターが現れる。

D・HEROディフェンドガイ

DEF2700

「これでターンエンドだ」

エド

手札 5枚

モンスター D・HEROディフェンドガイ

「・・・むかつくんだよ。江戸、お前みたいな自分は被害者としてか
思っていない復讐にとらわれた屑がな！」

「何も知らないくせにそんな事をほざくな！」

「何も知らない？知っているさ！家族を殺される怒りや悲しみくら
い！」

「何だと!？」

「俺の親父はな！いきなり、何もしていないのに通り魔に刺されて
死んだ！俺の目の前でな！」

「・・・」

「しかもそいつは捕まったがな！責任がとれない障害者のふりをし
て何の罪にも裁かれず釈放された！どれだけそいつを憎んだか？ど
れだけそいつを怨んだか？解るか!？答えてみる！」

「・・・」

「デュエルの続きだ！俺のターンドロー。俺は永続罫、マクロコス
モスを発動。そしてディフェンドガイの効果で一枚ドロー。異次元
の生還者を生け贄に邪帝ガイウスを召喚」
黒色の体の巨大なモンスターが現れる。

邪帝ガイウス

ATK2400

「邪帝ガイウスの効果により、ディフェンドガイを除外し1000
ポイントダメージを与える。装備魔法、DDRを発動し異次元の生
還者を特殊召喚。二体でダイレクトアタック」

エド

Side 康太

「反省しろよ糞野郎！」そう言ってから俺は十代のデッキを回収する。

そうしていると江戸は無言で帰って行った・・・。

デッキを回収し終えたし十代の所に行こう。

・・・数分後・・・

「よっ十代、大丈夫か？」

「ああ・・・康太か・・・実は俺・・・カードが白紙にしか見えなくなっただ・・・」

「そうか・・・見える様になっただらまたデュエルしような！」「ああ」

さて、過労死HEROネオスとの決戦に向けて頑張るか！

Side End

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜ifストーリー〜康太VSエド〜

今回、康太が使ったデッキは帝王の降臨です。

長かった・・・。

今回はコラボです。

もう一つコラボが有ると思うと何だか疲れが湧いて来ると共にワクワクします。

Side 康太

はぁ・・・なんでこうなったんだろう？

俺、何もしてないよな？

『酒を頂戴！』

『麻衣、自重して！康太さんは未成年なんですから酒なんて持つて
る訳ないですから！』

『嘘でしょ！？17歳なんだから成人でしょ？』

『嘘じゃありません！人間界では20歳からが成人なんですから！』

「風華さん、麻衣さんを帰らせて」

『羽交い締めしてますけどそろそろ抜けられそうです！』

『酒、酒を頂戴！』

料理酒ならあるが・・・知らせない方が面白いよな？

『酒！』

『もう・・・駄目・・・』

風華がやられた！

これはまずい！

『酒！』

「くっ・・・自重してくれ！麻衣、落ち着いてくれ！」

俺は無理矢理、麻衣を押し倒したまたま持っていたミネラルウォーターを飲ませた。

もちろんさっきまで飲んでた物だが・・・。

「なんで麻衣さんを押し倒してるの？なんで間接キスなんてしてる

の？」

「麻衣の暴走を何とかする方法がこれしか浮かばなかったんだ・・・

許してくれ」

麻衣め・・・もう飲み干したか・・・。

麻衣め・・・もう飲み干したか・・・。

『康太と間接キス・・・キスなんて間接キスですら初めてなのに・・・』
赤面してるし・・・ディマクに無理矢理やられた時、ディマクはキスをしなかったのか・・・。
まあ気にしないがな。

『康太、また平行世界のデュエリストとデュエルしてみないか？』
トリシューラが喋りかけてきたみたいだが無視しよう。

また面倒に巻き込まれる・・・。
『ヒュペリオンが転生者同士のデュエルを観てみたいらしいからの』
お

『そんな事よりバナナを食べる方が優先だな』

そう言つて俺はバナナを食べた。

『ならばまた強制的に飛ばしてやる!』

『今回は私もついて行きます!』

こうして俺達はまたパラレルワールドに飛ばされた・・・。

Side?

俺の名前は天空 優だ。

ちなみに転生者だ。

いきなりトリシューラの精霊らしき生命体にいきなりこの場所に飛ばされたんだ。

神崎 有栖と一緒に・・・。

「ここ・・・何処?」

「知らん」

「とりあえず人は居ないみたいだしボクと しない?」

「止めてくれ」

「トリシューラの馬鹿、何をするんだ!? 麻衣はもう暴走してないが沙也加が暴走しそうなんだが・・・はあ」

「康太さん! しょうよ!」

「自重してくれ！頼むから！」

「嫌です！」

「お前等はいつたい何者なんだ？」

つい思っていた事を口走ってしまった。

Side 康太

いきなり見知らぬ男女に話し掛けられた。

とりあえず敬語で対応しよう。

「はじめまして、高嶺康太です。よろしくお願いします」

礼儀正しい人というイメージを持たせよう。

その方が後々楽だろうしな。

「はじめまして、藍沢沙也加です。よろしくお願いします」

沙也加も挨拶したな。

「ちなみに康太さんとお付き合いしております」『疫病神みたいな扱いはな！心外じゃぞ！』

「黙れこの馬鹿！とりあえず宇宙にでも行って大気圏突破でもしろ！」

『酷っ！』

『沙也加様！何故呼んでくださらないのですか！？仕事なんて放り出してやって参りますのに！』

「ヒュペリオン、ちゃんと仕事はしてね！」

ちなみにヒュペリオンとトリシューラは実体化してるぞ。

「康太、大変そうだな」

「まだ二体精霊が居るし、普段はもっと大変だぞ？」

「そうか・・・とりあえずデュエルしないか？」

「良いぜ？やろう！」

NoSide

「デュエル！」

「優に先行は譲るよ。本気が見たいし、俺はオリカ有りのデッキだから」

「わかった。俺のターンドロ―！俺は極星獣タンゲリスニを守備表示で召喚！」

白い羊のようなモンスターが現れる。

極星獣タンゲリスニ

DEF800

「カードを二枚伏せてターンエンド」

優

手札 3枚

モンスター 極星獣タンゲリスニ

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロ―！俺は氷結界の軍師を召喚！」

傘をかぶっている、和服を着た男性の老人が現れる。

氷結界の軍師

ATK1600

「氷結界の軍師の効果により、手札の氷結界の防人を捨て1枚ドロ―！防人の効果でもう1枚ドロ―！軍師でタンゲリスニを攻撃！」

軍師が何か呪文らしき言葉を呟くとタンゲリスニは凍りつき爆発した。

「タンギリスニの効果により、極星獣トークンを特殊召喚！」

白い小さな狼のようなモンスターが2体現れる。

極星獣トークン

DEF0

「この次のターンにはツールが出るかもしれないな・・・出たらまずいが仕方ないか・・・。カードを2枚伏せてターンエンド」

康太

手札 4枚

モンスター 氷結界の軍師

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロー！俺は極星獣グルファクシを召喚！」

黒い馬のようなモンスターが現れる。

極星獣グルファクシ

ATK1600

「レベル3極星獣トークン2体にレベル4極星獣グルファクシをチューニング！10の星が揃う時、この世と星界を繋ぐ扉が開かれる。古の戦神よ、大いなる魔槌を携え、轟く轟雷と共にその姿を世に知らしめせ！シンクロ召喚、出でよ星界の三極神の一体、極神皇トークン！」

巨大な人のようなモンスターが現れる。

そのモンスターの手には巨大なハンマーが握られており、禪のよう

な物を履いている。

極神皇トール

ATK3500

「でかいな・・・でもでかけりゃ良いって物じゃない。どちらかと言えば、俺は貧乳の方が好みだし」

「聞いてねえよ。トールで軍師を攻撃！サンダー・パイル！」

「甘い！畏発動、アイス・シエル！これでトールは除外させて貰う！」

「それはどうかな？畏発動！神の宣告！」

「なんだと！」

優

LP4000 2000

康太

LP4000 2100

「これで俺はターンエンド」

優

手札 4枚

モンスター 極神皇トール

魔法罫 1枚

「くっ・・・俺のターンドロワー！俺はモンスターをセットして、カードを1枚伏せてターンエンド」

康太

手札 3枚

モンスター セットモンスター 1枚

魔法罫 リバースカード 2枚

「俺のターンドロ！俺は神の柩 그레이プニルを發動し極星天
ヴァナデイスを手札に加える。おろかな埋葬を發動しレスキューキ
ヤットを墓地に送る。死者蘇生を發動しレスキューキヤットを特殊
召喚！」

黄色いヘルメットをかぶった猫が現れる。

レスキューキヤット

ATK300

「レスキューキヤットの効果発動！自身を生け贄にタングリスニと
タングニョーストを特殊召喚！」

白い羊のようなモンスターと黒い羊のようなモンスターが現れる。

極星獣タングリスニ

ATK1200

極星獣タングニョースト

ATK800

「極星天ヴァナデイスを召喚！」

黒髪ロングの女性に羽の生えたようなモンスターが現れる。

極星天ヴァナデイス

ATK1200

「レベル3極星獣タングニョーストとレベル3極星獣タングリスニ
にレベル4極星天ヴァナデイスをチューニング！10の星が揃う時
星界の神々を束ねし王よ。その全知全能なる力を示せ！シンクロ召
喚！出でよ星界の三極神を束ねる最高神！極神聖帝オーデイン！」
巨大な槍を持つ巨大なお爺さんが現れる。

極神聖帝オーデイン

ATK4000

「でかけりゃ良いって物じゃない！」

「何回目だよ！まあ良いツールで裏側守備表示のモンスターを攻撃
！サンダー・パイル！」

「氷結界の番人ブリズドの効果により1枚ドロー！」「オーデイン
でダイレクトアタック！ヘブンス・ジャッジメント！」

「畏発動！和睦の使者！」

「カードを1枚伏せてターンエンド」

優

手札 0枚

モンスター 極神聖帝オーデイン 極神皇ツール

魔法罫 リバーズカード1枚

「俺のターンエンド！・・・これは！俺はおろかな埋葬を発動し氷
結界の破術師を墓地に送る。さらに強欲な壺を発動し2枚ドロー！
俺は今引いた氷結界の妖精2枚の効果を発動。こいつ等を特殊召喚
し効果で2枚ドロー！」

青を基調にした服を着た、氷の羽が生えた女の子が2体現れる。

氷結界の妖精

ATK0

「デブリ・ドラゴンを召喚！」
小さな龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「効果で破術師を特殊召喚！」
銀髪の少年が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「レベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール」
赤みを帯びた氷の龍が現れる。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「グングニールの効果発動！手札を2枚捨てリバースカードとオーディンを破壊！フリージング・ランス！」
「くっ……でもエンドフェイズに帰って来るぞ？」「ふっ……このターンで終わらせる！魔法カード発動！シンクロキャンセル！これにより、グングニールをエクストラに戻し、デブリ・ドラゴンと破術師を特殊召喚！レベル1氷結界の妖精2体とレベル3氷結界

の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！氷結界の里に封印されし龍が、その力を今解放つ！仲間との絆を紡ぐ力になれ！シンクロ召喚！壊せ！氷結界の龍トリシューラ！」

三首の氷でできた龍が現れる。

氷結界の龍トリシューラ

ATK2700

「効果により、ツールとオーデインを除外する！」

『わしの力は神すら超える！』

「くっ！」

「トリシューラでダイレクトアタック！」

優

LP20000

Side 康太

「やばかった・・・」

シンクロキャンセルが無かったら負けてたし・・・。

「後ちよつとだったのに・・・」

「たしかに惜しかったね」

「ボク、興奮してきたよ！」

「ここで発散しようとするんなよ？そっぴや沙也加と有栖は何の話をしてたんだ？」

「の話だよ」

「下ネタ禁止！」

「とりあえず知り合ったんだしメアド交換でもしとくか？」

「ああ」

「ボクはもう沙也加としたよ」

「全員交換しておこうぜ」

「ああ」

「うん」

とりあえずメアド交換を終え、しばらく談笑してからトリシューラに頼み、帰還した。

Side End

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜コラボ 遊戯王デュエルモンスター

メアド交換のイベント何か作って申し訳ありませんでした！
この設定は使ってもらっても構いません！

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編／続編予定の作品のプロトタイプ

わからなくても、面白いか面白くないかくらいは書いていただきました。
いです。

アンケートを2つ行おうと思います。

詳しくは後書きにて。

Side 康太

不登校にでもなるか？

でもなあ・・・内申に響くし行くしかないか・・・。

・・・数時間後・・・

学校に着いたな。

「麻衣、風華・・・とりあえず周りに昨日の奴は居ないか確認してくれ」

『わかりました』

『わかったよ！』

『『います【いたよ】』』

やっぱり来るのか・・・。

あいつは桜小路 桜か・・・原作キャラにはあまり関わりたくないな。

殺しの現場を見るのには抵抗があるし・・・。
居眠りでもしとくか。

・・・数時間後・・・

放課後だなあ・・・。

奴、大神 零にはには関わらないようにしなきゃな。
居場所？

昨日、奴と遭遇した公園だよ。

「やっと会えたな」

「その能面みたいなお顔、俺は見たくなかったなあ・・・面倒だし」

とりあえず天罰を5枚デュエルディスクにセットして手札を持つか・
・。

「昨日は変な力に妨害されたが、今日はそうはいかない!」

「突撃しか知らないのか? 畏発動! 天罰! 喰らえ!」

あいつ・・・左手から青い炎を出して放電させてやがる・・・。
あれじゃ天罰が効かない!

少しまずいか?

「これが秘策か?」

「まさか・・・氷結界の御庭番を召喚!」

二本の刀を持った男が現れたが、今は必要なのはレベルだけだ!

「二重召喚を発動しデブリ・ドラゴンを召喚し破術師を特殊召喚し
レベル2氷結界の御庭番とレベル3氷結界の破術師にレベル4デブ
リ・ドラゴンをチューニング! 氷結界の里に封印されし龍が、その
力を今解き放つ! 仲間との絆を紡ぐ力になれ! シンクロ召喚! 壊せ
! 氷結界の龍トリシューラ!」

「康太? 何かあったか?」

「今は奴を攻撃して、俺を逃がしてくれ」

「わかった!」

トリシューラの口からブレスが放たれ、ダメージを与えた。
逃げるか!

・・・数分後・・・

「なんでまた俺は転生したかわかるか?」

「わしにはわからん・・・康太と麻衣と風華はいきなり光に包まれ
て反応が消えてしまったんじゃよ・・・沙也加もしばらくして消え
てしまったしのお」

「そうか・・・沙也加まで。沙也加も探さなきゃな。とりあえずそ
のうち帰れると良いな・・・」

「じゃな。しかしヒュペリオンが沙也加が消えたからって暴走して

大変なんじゃよな』

「それくらい止めるよ。神を超えたんだろ？」

ちなみにいろいろあつてトリシューラとは和解した。

まあ扱いが悪いのは変わらないがな。

『わかつとる。そつちも頑張れよ？わしも呼ばれば助けに来るか
らな！』

トリシューラ・・・消えたな。

「麻衣、風華、帰るぞ」

帰る事ができる可能性も見つかったんだ。

帰るために頑張るぜ！

S i d e E n d

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜続編予定の作品のプロトタイプ

アンケートの1つ目は、この小説終了後、プロトタイプのがどれが読みたいか教えてください。

2つ目は、この逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編の追加するかしないかのアンケートです。
次のうち、どれかを選んでください。

- 1、トリシューラの干し肉が好きになった訳
- 2、沙也加の過去
- 3、さつさと本編書け

上の3つから選んでください！

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜コラボ 遊戯王 〜精霊の歌声〜

何気に長いです・・・。

もしかしたら最長かもしれませぬ。

そしてHIRO様ありがとうございました！

Side 康太

・・・助けてくれ。

『何回言ったらわかるんですか！もう100回は言ってますよ！』

『ちよつと康太に悪戯しようとして沙也加の拷問道具【玩具】を無断で借りようとしただけじゃん』

麻衣・・・ふざけんなあふて腐れてるんじゃないやねえよ！

拷問道具だぞ！

玩具じゃないぞ！

『あれは玩具じゃありませんよ！拷問道具ですよ！』『でも沙也加は玩具だつて言ってるよ？』

『あの中にはいろいろ危ない物がいっぱい入ってるんですから！』
『っぱいをかなり強調してるな・・・』

『じゃあ拝借して風ちゃんにやろう！』

「痛いから止めてやれ」

ちなみに全て凄まじい威力だ。

何度気絶しかけたか・・・。

『え〜やだよ・・・』

「風ちゃん・・・じゃなかった風華、死ぬなよ」

『見捨てないでください！後、風ちゃんって呼ばないでください！

恥ずかしいから！』

『じゃあやろうか！』

『嫌です！つて引きずらないでくださいよ、麻衣！』

「すまない風華・・・俺には助けられない・・・。俺にできるのは死なないように祈る事だけだ・・・。」

『不吉な事言わないでください！』

目頭が熱くなってくるな・・・。

『康太、異世界のデュエリストとデュエルしてくれ！』
『キヤアアアアアアアア！』

「風華・・・風華！」

『風ちゃんのパルが姿・・・凄く興奮するよ！』

『痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い
痛い痛い痛い痛い痛い』

「風華ア！」

『風華は元気にしておるか？』

「どう聞いても、どう考えても元気な訳無いだろ！」

『これだけ叫べれば元気じゃろ』

こいつ・・・逝かれてるな。

『とりあえず行くぞ』

こうして俺達はまた異世界に行く事になった・・・。

Side？

・・・私の名前・・・？

・・・氷川水月よ・・・。

・・・いきなり惚けた・・・トリシューラの精霊に・・・こんな所
に連れて来られたの。

・・・『康太とデュエルしてくれ！』・・・つてね。

・・・康太って誰なの・・・？

「風華アアアアアアア！」

・・・あそこにバイサー德斯みたいな物に捕われている・・・氷結界

の風水師と・・・バイサーデスに捕われてる風水師を見て興奮している・・・氷結界の舞姫が・・・居るわね・・・。その近くに風華アアアアアアアア！って叫んでる・・・オシリスレツドの男性と・・・トリシューラが居るわ・・・。

「あの・・・あなた名前は・・・？」

「そつちが名乗るのが先じゃないのか・・・？」

「それは失礼したわね・・・私は氷川水月よ・・・よろしくね・・・」

「・・・私・・・そこそ有名だと・・・思ってたんだけど・・・。

「俺は高嶺康太だ。よろしくな。とりあえずなんかの縁だしデュエルしないか？」

「・・・良いわよ・・・」

NoSide

「デュエル！」

「先行は譲る。全力で来い！」

「・・・私のターンドロ・・・私は氷結界の風水師を守備表示で召喚・・・」

赤い髪のツインテールの少女が現れる。

氷結界の風水師

DEF1200

「カードを2枚伏せてターンエンド」

水月

手札 3枚

モンスター 氷結界の風水師

魔法罫 リバースカード 2枚

氷結界の虎将ライホウ

ATK2100

「・・・グルナードでダイレクトアタック・・・」

グルナードが突進し、康太に切り掛かる。

「危ないって！罨発動！くず鉄のかかし！」

くず鉄でできたかかしがグルナードの一撃を受け止める。

「・・・ならライホウでダイレクトアタック・・・」

ライホウが札を康太に向かって投げつける

「くっ・・・」

康太

LP4000 1900

「・・・ターンエンド・・・」

水月

手札 0枚

モンスター 氷結界の虎将ライホウ 氷結界の虎将グルナード

魔法罨 リバースカード 2枚

「俺のターンドロロー！俺は氷結界の紋章を発動し、氷結界の破術師を手札に加える。魔法カード地砕きを発動！」

地面が砕かれ、ライホウが落ちる。

「アイスブーストを発動し破術師、守護霊、御庭番を墓地に送り3枚ドロロー！これは・・・行けるか？手札から氷結界の妖精の効果を発動！特殊召喚し1枚ドロロー！」

氷の羽が生えた、青と水色が基調とした服を着た女の子のようなモンスターが現れる。

氷結界の妖精

ATK0

「アイスカーペットを発動し守護霊を特殊召喚！」
半透明な和風な服を着た少年が現れる。

氷結界の守護霊

ATK1000

「レベル1氷結界の妖精にレベル1氷結界の守護霊をチューニング！現れる、希望の力、シンクロチューナー、フォーミュラ・シンクロン！」
F1のレースカーのようなモンスターが現れる。

フォーミュラ・シンクロン

DEF1500

「効果で1枚ドロー！俺はモンスターをセットし、ターンエンド」

康太

手札 5枚

モンスター フォーミュラ・シンクロン セットモンスター 1枚

魔法罫 リバーズカード 2枚【1枚はくず鉄のかかし】アイスカ

ーペット

「・・・私のターンドロー・・・私はグルナードでフォーミュラ・シンクロンを攻撃・・・」

「くず鉄のかかしを発動！」

「・・・これでターンエンド・・・」

水月

手札 1枚

モンスター 氷結界の虎将グルナード

魔法罫 リバースカード 2枚

「・・・どうやら俺はこのターンには逆転しなきゃならないらしい。できなきゃ負けか。でも、最後まで俺は、諦めない！俺のターンドロー！ふっ・・・まだ俺にも運は残ってたらしい。魔法カード死者蘇生を発動しライホウを特殊召喚！そしてレベル6氷結界の虎将ライホウにレベル2フォーミュラ・シンクロンをチューニング！現れる、スターダスト・ドラゴン！」

体中に星屑を纏った白銀の翼を持つドラゴンが現れる。

スターダスト・ドラゴン

ATK2500

「リバースカード、リビングデッドの呼び声により、フォーミュラ・シンクロンを特殊召喚！そして、クリアマインド！レベル8スターダスト・ドラゴンにレベル2フォーミュラ・シンクロンをチューニング！集いし夢の結晶が、新たな進化の扉を開く！光射す道となれ！アクセルシンクロオ！生来せよ、シューティング・スター・ドラゴン！」

機械的な体を持った筋肉質な龍が現れる。

シューティング・スター・ドラゴン

ATK3300

「シューティング・スター・ドラゴンでグルナードを攻撃！スターダスト・ミラーージュ！」

シューティング・スター・ドラゴンがまっすぐ上に飛び、グルナードに向かってダイブする。

グルナードに当たる瞬間にシューティング・スター・ドラゴンから

4体の分身が現れ、全5体のシューティング・スター・ドラゴンが
グルナードを貫いた。

水月

LP4000 3500

「酷いな・・・社長が嫌がらせて弄ったか？」

水月はあまりのえげつなさに俯いていた。

「・・・大丈夫か？」

「・・・大丈夫よ・・・」

「ならこれでターンエンドだ！」

康太

手札 5枚

モンスター シューティング・スター・ドラゴン セットモンスター
1枚

魔法罫 リバースカード 1枚【くず鉄のかかし】 リビングデッド

ドの呼び声 アイスカード

「・・・私のターンドロ・・・私はカードを1枚伏せてモンスター
をセット・・・ターンエンド・・・」

水月

手札 0枚

モンスター セットモンスター 1枚

魔法罫 リバースカード 3枚

「俺のターンドロ！シューティング・スター・ドラゴンでセット
モンスターを攻撃！スターダスト・ミラージュ！」

「・・・罫発動・・・和睦の使者・・・」シューティング・スター・

ドラゴンは高く飛び、セットモンスターにダイブしたが、青いローブのような物を着た女性に守られてしまった。
そのあと、先程康太が捨てたモンスターが、セットモンスターの居たはずの場所に居た。

氷結界の破術師

DEF1000

「俺はカードを1枚伏せてターンエンド」

康太

手札 5枚

モンスター シューティング・スター・ドラゴン リバースモンスター 1枚

魔法罫 リバースカード 2枚【1枚はくず鉄のかかし】 リビン
グデッドの呼び声 アイスカーペット

「・・・私のターンドロ・・・モンスターをセットしてターンエンド・・・」

水月

手札 0枚

モンスター 氷結界の破術師

魔法罫 リバースカード 2枚

「俺のターンドロ！俺はリバースモンスター、氷結界の舞姫を反転召喚！」

薄い紫色の髪的女性が現れる。

氷結界の舞姫

ATK1700

「舞姫で破術師を攻撃！」

舞姫が手に持つている武器を投げつけると、見事に破術師に命中し爆発した。

「シューティング・スター・ドラゴン、セットモンスターに攻撃！
スターダスト・ミラーージュ！」

シューティング・スター・ドラゴンは遙か上空に飛び、セットモンスターを目掛けてダイブする。

セットモンスターがリバーズすると、現れたのは青い熊のようなモンスターだった。

グリズリーマザー

DEF1000

「・・・グリズリーマザーが戦闘で破壊されたから・・・もう一体
グリズリーマザーを特殊召喚するわ・・・」

「堅いな・・・突破できねえ・・・ターンエンドだ」

康太

手札 6枚

モンスター シューティング・スター・ドラゴン 氷結界の舞姫

魔法罫 リバーズカード 2枚【1枚はくず鉄のかかし】 リビン

グデッドの呼び声 アイスカーペット

「・・・私のターンドロ・・・私はリバーズカード・・・サイク
ロンを発動・・・くず鉄のかかしである・・・真ん中を破壊するわ
・・・」

「シューティング・スター・ドラゴンの効果により、無効だ！」

「・・・私は氷結界の守護陣を召喚・・・」体中に氷の模様が付い

たような狐が現れる。

氷結界の守護陣

ATK200

「・・・レベル4グリズリーマザーに・・・レベル3氷結界の守護陣をチューニング・・・冷たき氷槍よ・・・我前に立ちはだかる敵を貫きたまえ・・・シンク口召喚・・・貫きし氷槍・・・氷結界の龍グングニール」
赤みを帯びた龍が現れる。

氷結界の龍グングニール
ATK2500

「・・・リバーズカード、サルベージを発動・・・風水師2枚を手札に加える・・・」

「私、活躍できますよね？麻衣に出番があつたのに私は生け贄と破壊しかされてないんですけど・・・」

「・・・手札から今回回収したカード達を捨て・・・シューティングスター・ドラゴンとくず鉄のかかしを破壊・・・」

「ふえ？つて言うより麻衣！外してくださいよ！リアルバイサーデスは痛いんですから！股間の辺りもなんか湿ってきて気持ち悪いですし、外してください！」

「水月、すまないが外してきて良いか？」

「・・・良いわよ・・・」

康太は風華に付けられているリアルバイサーデスを外した。

「ありがとうございます！」

「泣きながら抱き着くな！汚れるから！制服なのに止める！」

「駄目ですか？」

（上目遣いで泣き顔で見られて頼まれたら断り辛いなあ・・・仕方ないか）

「・・・良いよ・・・制服は諦めて洗濯しよう」

「・・・続きから始めるわよ・・・グングニールで舞姫を攻撃・・・」

「
グングニールが吠えた後、氷のプレスを舞姫に向かって放った

康太

LP1900 1100

「・・・これでターンエンド・・・」

水月

手札 0枚

モンスター 氷結界の龍グングニール

魔法罫 リバーズカード 2枚

「俺のターンドロー！アイスカーペットの効果発動！墓地から御庭番を特殊召喚！」

和服のような服を着た二本の刀を持つモンスターが現れる。

氷結界の御庭番

ATK100

「デブリ・ドラゴンを召喚！」

小型で太めな龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「デブリ・ドラゴンの効果で破術師を特殊召喚！」
先程も現れた少年が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「レベル2氷結界の御庭番レベル3氷結界の破術師にレベル4デブリ・ドラゴンをチューニング！氷結界の里に封印されし龍が、その力を今解き放つ！仲間との絆を紡ぐ力になれ！シンクロ召喚！壊せ！氷結界の龍トリシューラ！」
三首の氷でできた龍が現れる。

氷結界の龍トリシューラ

ATK2700

「効果によりグングニールと手札と墓地の風水師を除外する！」

「・・・くっ・・・」

「魔法カード強欲な壺を発動！二枚ドロ！行ける！魔法カードハリケーンを発動！魔法カード魔法石の採掘を発動！手札を2枚捨て、死者蘇生を回収し発動！帰ってこい、シューティング・スター・ドラゴン！」

「・・・私の負けね・・・」

「たまたまさ」

「・・・気にして無いわ・・・どうせ私は雪のようにはかない命・・・」

「・・・よくは分からないがとりあえず、全力で今を頑張れば良いんじゃないか？」

「・・・ええ・・・分かったわ・・・」

「・・・じゃあ行くぞ！行け、トリシューラ！シューティング・スター・ドラゴン！ダイレクトアタック！」

シューティング・スター・ドラゴンとトリシューラが同時に上空に飛び、水月にダイブする。

逆お気に入りユーザー登録15名記念番外編〜コラボ 遊戯王 〜精霊の歌声〜

HIRO様、勝手に水月さんに康太の連絡先を渡して申し訳ありません。

お詫びに康太を自由に使ってやってください。
何度登場しても良いので！

逆お気に入りユーザー15名記念番外編「氷結界の里 トリシューラと干し肉と

アンケートにて1番票の多かったトリシューラと干し肉のエピソードです。

S i d e トリシューラ

・・・懐かしい夢じゃったなあ・・・。

わしがスターダスト・ドラゴン様から氷結界の里を治めるように指示されてから数ヶ月して氷結界の里に着く寸前で餓死しかけた時の夢じゃな・・・。

知らないって？

なら見せてやろう。

S i d e 過去のトリシューラ

暇だな・・・スターダスト様はあんなに退屈そうな里をわしに治めさせようだななんてふざけてるのなの？

ヤバイ・・・腹減ってきたなあ。

飯は全部食ったし、どうしようかの・・・。

ああ・・・好物の生肉食べたいの・・・。

干し肉以外なら何でもいいから食べたいの・・・。

ああ・・・でももうだめだ。

わしは力尽きて倒れてしまった・・・。

S i d e 過去のライホウ

私は今、新しくこの里に派遣された里を治める龍を迎えに行っているんですよね・・・。

なんでグルナード達にじゃんけんで負けたのか・・・。

『輸送部隊、速く移動してください。遅くなったら文句を言われそうなので』

『わかりました、ライホウ様!』

・・・数時間後・・・

『あれは・・・何なんでしょうか? って龍ですね』

三首の氷でできたような龍が辛そうに横たわってますね・・・。

『旅の方、少し食料を分けてくれんかの? 腹が減って氷結界の里に行かねばならんに倒れてしまったんじゃ』

龍が話しかけてきましたね・・・って氷結界の里?

『あなたがトリシューラ様ですか?』

違ったら失礼ですよね・・・。

『お主、氷結界の里の者か?』

やっぱり合っていましたね。

『あつ、食料ですね。これをどうぞ。今あるのは干し肉だけみたいですがどうぞ。』

Side 過去のトリシューラ

『わしは干し肉は少し嫌なんじゃよ・・・。でもまあ仕方ないの・・・。食べなきゃ死ぬしの』

わしは長年食わず嫌いだった干し肉を一口、恐る恐る食べた。

『私達が昼ご飯用に準備した物なので毒等が入ってないですし、一気にがつつりお食べください』

・・・これは!

『美味い! 美味すぎるぞ!』

わしは後悔した・・・。

干し肉を食わず嫌いして食べなかったわし自身に・・・。

『気に入られてよかったです。さあ、とりあえず10年程一緒に頑張りましたよ!』

わしは決意した。

『何を勘違いしてるんじゃない？わしはこの恩を返すまでスターダスト様のところには帰らず氷結界の里に残り、治める！』

『毎日お食事に干し肉をつけましょうか？』

『それはありがたいの。頼んだぞライホウ！』

『もちろんでございます、トリシューラ様』

S i d e トリシューラ

やっぱり、懐かしい夢じゃったな・・・。

この何年かライホウにはずっと世話になりっぱなしじゃなあ。

今度休暇でもやるうかの？

温泉にでも行かせてやるかの！

S i d e E n d

逆お気に入りユーザー15名記念番外編〜氷結界の里 トリシューラと干し肉と

一応これで逆お気に入りユーザー15名記念番外編は終了ですが、
もう一件書くかもしれません。

今回は普通に本編をかくと思います。

スターダスト・ドラゴンの所への移動と接触(前書き)

久々の本編です。

スターダスト・ドラゴンの所への移動と接触

Side 康太

どうしてこんな格好しなきゃならんのだろうか？

そしてトリシューラは忙しいから地図を渡して里に残りやがった……。

めんどくさいなあ……。

「フゴフ、フゴフ！」

「康太さん、どうかしましたか？」

「フゴフ、ゴフンゴ」

「手錠と足枷と猿轡と目隠しと首輪はやっぱり嫌ですか？」

「フゴフゴフフ！つぷはあ。沙也加！苦しいって、猿轡とか嫌だから。当たり前だから！」

『我が儘言わないでください。この前宿で覗きをしようとした罰ですから』

『そうだよ、康太？忘れてない？』

「……男としてやらなきゃならん気がして、つい」

「見たいならいつでも私が見せるのに……」

「羞恥心とか無いのか？」

「……康太さんの為なら捨てれます」

「オイ！問題しかないぞ！そしてヒュペリオンは近々、氷結界の里に来るらしいから残っちゃつとけよ沙也加」

「ヒュペリオンごときいつでも会えますよ」

「ヒュペリオン……ドンマイ」

『康太様、沙也加様、後もう少しで着くのでそろそろ気を引き締めてください。後、飲み仲間のヒュペリオンを虐めないであげてください』

「……はい」

「そろそろ目隠しとかを取ってくれ。見えないのは怖いからな」

「仕方ないですね……」

「やっと解放された……」

「全身が痛いし首輪の鎖は取ってくれないし……どうしようか、これ？」

『速く行きましょう。目的は果たさねばなりませんからね』

「ああ！」

ちなみに前回来た場所とは見た目が変わっていてびっくりしているんだよな、俺は。

『でかいね風ちゃん』

『風ちゃんって言わないでください！恥ずかしいから……。私は風華って名前なんですしね。大切な名前なのでこっちで呼んでください』

「でかけりや良いつて物じゃない」

「ですよね」

『行きますよ、康太様』

「ああ、わかつてるよ」

『久しいな少年。トリシューラの馬鹿は案内を指示したのに他に押し付けたな……。世話が焼ける』

「コズミック・クリアー・ドラゴンはなんて欠陥カードなんだ！一ヶ月も寝込んだぞ！」

『……。恥ずかしい話したが、実は制御用のカードを渡しそびれたんだ。汝には申し訳ない事をした』

「呆れて何も言えねえよ……」

『という事で渡しておく』

「……。わかった」

こうして俺はコズミック・クリアー・ドラゴンの制御用のカードを手に入れた。

『帰りは我が送ってやろう。トリシューラにも説教をせねばならんしな』

「ちなみに何の説教なんだ？」

『我が頼んだ同人誌を買うのを忘れたからだ』

「ちよつとまで、コラ！いろいろアウトだぞ！」

『我は同人誌の読みあさりとブラック・ローズ・ドラゴンとお喋りするのが生き甲斐なんだ』

「変態め……」

『聞きたくなかったですね』

『まさかデイマクの同類だったとは……びっくりです』
『だよ』

「……まあ別に良いですね」

『我はデイマクとは違って、実際の行動には移らん。そして最近はレヴァティンと幼女系の、特に幼女調教系の同人誌を読みあさるのが私の趣味だ。汝も読むか？』

「慎んでお断りさせていただきます」

こうして俺達は氷結界の里に戻った。

Side End

スターダスト・ドラゴンの所への移動と接触（後書き）

この小説のオリキャラは全て変態のような気がしてきました・・・。

感想200件突破記念番外編〈スターダストとブラック・ローズ〉(前書き)

この番外編シリーズは後2件だけなのでよろしくお願いします。

感想200件突破記念番外編〈スターダストとブラック・ローズ〉

Side スターダスト

『ブラック・ローズ・ドラゴン、久しぶりだな』

ああ・・・一週間ぶりの幸せだ・・・。

『私は会いたくなかったわよ！二度と近寄らないで！』

ブラック・ローズ・ドラゴンは背中の荊の蔦のような物を使って私を・・・叩いた。

気持ちいい！

『この痛み・・・気持ちいい！』

『あんたみたいなドMは嫌よ！顔も見たくない！』

そう言うと、ブラック・ローズ・ドラゴンは何度も何度も私を荊の蔦のような物で叩く・・・。

『気持ちいい！もっと、もっと叩いてくれ！』

『このドM・・・気持ち悪い・・・』

『もっと我を罵ってくれ！』

『黙りなさい！この変態！』

『うつつ・・・興奮してきた』

『嫌あ！近寄らないで汚らわしい！』

『この込み上げてくる気持ち・・・正しく愛！』

『そんな愛要らないわよ！』

『もっと、もっと、叩いてくれ！』

『嫌よ、触りたくない！』

『ハアハアハア・・・もっと罵ってくれ！』

『声も聞きたくない！』

『行ってしまったなあ・・・ハア』

Side 康太

「それはお前が悪いだろ・・・」

今、俺はスターダストの恋愛相談をしてるが独りよがりな愛だなあ・・・俺には理解出来ん。

『何とか好かれる方法は無いか?』

「無いな。少なくともその性格を治して、ブラック・ローズ・ドラゴンに謝る事からしなくちゃならないし・・・」

『そうか・・・』

何で俺がモンスターの恋愛相談をしなきゃならんのか・・・。

『我はブラック・ローズ・ドラゴンの為なら死ぬ事すらできる自信がある』

「なら自分のDMを治すんだ」

『それは・・・できる自信が無い・・・』

効果のせいなのか!?

あの効果のせいなのか!?

『我は、産まれたその時からずっとこの性格だ。今更矯正なんてできない・・・』

「そうか・・・」

『相談にのってくれてありがとう。またな少年』

あいつ・・・どうするんだろうな。

Side End

感想200件突破記念番外編「スターダストとブラック・ローズ」(後書き)

さっき気づきましたが、201件目の方が登録してない方だった・
・メッセージが送れない・・・orz

感想200件突破記念番外編「沙也加の過去」(前書き)

暗いです・・・。

血とかが苦手な方は読まない方が良いかもしれません。

そんな描写は少ないですが・・・。

ちなみにsasami様のリクエストです。

感想200件突破記念番外編／沙也加の過去

Side 過去の沙也加

暇だなあ……。

私には家族はいない。

お父さんが朝から晩まで働いて私の学費やお小遣、生活費を稼いでくれる。

勿論、私もアルバイトをしてある程度稼いでる。

レトルトやインスタント、お惣菜ばかりだけどちゃんとご飯も食べれてるし今の生活に文句はないよ？

でも、友達が私にはいない。

私に笑いかけてくれる人はお父さんしかいない……。

「嫌だなあ……でも行かなきゃ……。せつかくお父さんが頑張ってる稼いだお金で学校に行ってるのに……」

私が一番嫌いな所、学校。

高校生になっても虐めはまだ終わらない。

中学が一緒だった人が中心で、高校生になってから知り合った人は関わろうとしない……。

私が唯一楽しめるのはデュエルだけ。

デュエルだけが生きがいで、デュエルが無ければ生きていけない……。

私はカッターを取り出して日課になってしまったリストカットをまたしてしまう……。

血が出てきて痛みで意識がとびそうになる。

しかしその痛みが何故か心地好い……。

……数分後……

「チツ。コイツまた来てるよ」

小声でそう言う声はつきり聞こえる。

私は平和な日常を過ごしたいだけなのに……。

「また脱がされたいの？まさか露出狂？ワハハハハハハ」
クラス中から笑い声が聞こえる。

嫌だ、帰りたい、死にたい、生きるのが辛い……。

……放課後……

体中びしょびしょで重い体を引きずるように私は帰る。

これからバイトだなあ……辛いなあ。

……バイト後……

バイトの制服で私は帰る。

泣きたい、死にたい、いなくなりたい。

……数日後……

久々にターミナル回しに行こう。

今日こそはトリシューラを当ててみせる！

……数分後……

当たらない……5000円も使ったのに……。

「トリシューラ6枚目！？軍師出せよ！さすがにもう要らん！」
交換してほしいなあ……。

でも無理だよな……。

カツコイイなあ、年下みたいだけどね……。

「俺、1枚しか持ってないし……康太、交換してくれ！」

「嫌だ！ソリティアデッキ組みそうだし、裕也に渡したらとんでも

ない事になる！」
私も無理だろうね……。
フリーデュエルして帰ろう。

Side 沙也加

あの頃の夢……。私が大学に入る前の事……。
あの頃に康太さんに会ってたんだ……。
あの頃、信用できる人は1人、お父さんだけだった。
今は康太さんもいるし皆仲良くしてくれる。
お母さんは私を産んですぐに死んだらしい。
昔は、何で私を産んだの？私なんか産まなきゃよかったのに……。
って言いたかったけど、今は違う。
今ははつきりこう言える。
産んでくれて、ありがとうって。
「康太さん、起きて！朝だよ！」
「ふああああ……。よく寝た……。沙也加、涙の跡が有るぞ？」
「気にしないで、さっき欠伸した時だと思うから」
「わかった」
こうしてまた康太さんとの一日が始まる……。

Side End

里への帰還・・・そして

Side 康太

「ありがとう、スターダスト」

俺達はスターダスト・ドラゴンの背中に乗ってここまで、氷結界の里にまで移動してきたんだよな。

怖いことこのうえない状況だったぜ・・・。

『気にするな、少年。今度修行をつけてやる。覚悟しておけ』

スターダストはそう言っている。

返事は決まってるがな。

「わかった。だが速めに頼む」

なんせ沙也加にO H A N A S H Iされる可能性があるからな。

『わかった。では説教に行ってくる』

そう言った後、すぐにスターダストは飛び立った。

・・・数分後・・・

「これからしばらくの生活はどうする？」無論沙也加とは別々に過ごしたい。

なんせ搾られるからな。

搾られたら体力がもたない。

こんなところで体力を使うわけにもいかないしな。

『私と麻衣は別の家にいた方が良いと思います』

風華・・・苦労してるな。

まあ、一緒にいたらいろいろ危ないがな。

性的な意味でな。

「一軒の家に2人つつ過ごすべきだと俺は思う。なんせ風華の家も麻衣の家も2人位しか過ごせそうにないからな」

ちなみに事実だ。

なんせ狭いからな。

「では私と康太さんが風華さんの家で、麻衣さんが麻衣さんの家で、風華さんは野宿でよろしいですね？」

えつと・・・何と言うか・・・。

「『ふざけんなあ【ないでください】！』『』」だって風華がかわいそうだし・・・こんなところで野宿したら凍死するし。

今、氷結界の里は冬だ。

無論スーツで寝ようもんなら死ねるな。

風華の服装は和服みたいな物だ。

確実に寒いはずだ。

なんせ気温が-30度より下だぜ？

「死ぬつて、マジで」

『そうですね！死にますつて！』

風華も認めてるし・・・。

「なら風華さんと麻衣さんが麻衣さんの家に住めば良いんじゃないですか？」

風華、断れよ、いや断らなかつたら後で説教してやる・・・。

『嫌です！私は同性愛には興味ありませんから！』

興味があつたら喜んで麻衣の家に行つてただらうな・・・。

「じゃあ私と康太さんに別々に住むんですか？嫌だなあ・・・」

そついや麻衣が一言も喋つてないな。

『・・・酒飲みたい』

麻衣・・・自重しろよ。

『麻衣、我慢してください！』

風華が正論を言ってるな。

『だってスターダスト・ドラゴン様の所に行く前からずっと飲んでないんだもん！』

そついや取り上げたな。

何故か一升瓶を100本もリュックや鞆に入ってたし・・・。

『そうですねけど自重しましょうよ。仕方ないとは思いますがね』
まあな。

禁酒をいきなりさせられるのはきついだろうな。

『わかったよ……。私、帰るね。沙也加、一緒に行かない？一緒にしばらく住まない？』

……。何気なく誘ったな。

「……。良いよ。行こう！」

よし、行ってくれた！

これで体力はなんとかなる……。はずだ！

『康太さんとはしばらく住むんですね……。私』

「ああ。まあな」

……。風華との数日間、沙也加に浮気扱いされないように気をつけなきゃな。

「そろそろ飯食いたいな。なんかあるか？」

無かったらリュックにあるカップ麺でも食べよう。

腹減ったな……。

『ありますよ。昨日作った野菜炒めが残ってます』

残り物か、まあ良いがな。

「ありがとう。ありがたく貰っとく」

風華の手作りの野菜炒めか……。

そっぴい風華の手料理なんか食べたことなかったな。

『あつ、加熱が終わりましたよ、どうぞ！』

見た目は美味そうだが味はどうかかな？

「いただきます！……。案外美味いな！」

思ってたよりは美味い。

まあ、俺よりは下手かな？

充分だとは思うがな。

『案外ってなんですか！』

「なんか、料理下手そうないメージがあったし」
ちなみに本音だぞ？

『酷いです！何でそんなイメージがあつたんですか！？』

なんか、不器用なイメージがあるんだよな、コイツ……。

対人関係からかな？

何でか全くわからん。

「何となくだな。対人関係とかいろいろな面で不器用なイメージが定着したんだよ」

頬を膨らませて怒ったような顔をしてるな。

なんか子供みたいだな。

『もう許しません！』

風華がそう言つたらすぐに俺に飛びつき、のしかかってきた。

案外軽いから別に何とも思わないや……。

「よくもやりやがったな！」

無論本気で攻撃したりしない。

ちよつと体を無理矢理ひっくり返して軽く乗っってから、手を抑えて攻撃されないようにしただけだ。

『放してください！恥ずかしいですから！』

赤面しててかわいらしいなあ……。

ああ……虐めたい。

頬を摘んだり、突いたり、胸を揉んだりしてもっと赤面させたりと
かしたいな……。

『にやけてて凄く怖いですよ！離れてください！』

まあ、答えは決まってるがな。

「断る！俺はDSなんだぜ？これくらいで満足するわけ無いだろ！」

ああ……楽しい！

風華の反応が面白い！

『あの……どいてくれませんか？お腹の辺りがそろそろ辛いです』

「ごめんごめん」

もつと弄りたかった……。

「もう夜中だしそろそろ寝ないか？」

だってもう2時だし。

もう眠い……。

『そうですね。でも布団が一組しかありません……』
……どうしようかな？

……待てよ？

「なら俺が床で寝るよ。俺は丈夫だからさ」
なんせ、親父が死んでから数ヶ月家でずっと泣きながら徹夜したし
な。

そして数日間、登校拒否までしたし……。

そしてその数日後、優が生まれた。

それから泣かない事を心に決めたんだ。

『駄目です！一緒に寝ましょう！』

……え？

「今なんて？」 『一緒に寝ましょうって言いました』

「仕方ないか……さっさと寝よう」

『はい！』

こうして俺達は同じ布団で寝るはめになった

Side End

沙也加と麻衣と次の日

Side 麻衣

酒、おいしいなあ……。

久しぶりに飲んだし、誰か一緒に飲みたいなあ……。

あつ、沙也加が居るじゃん！

一緒に飲もう

『沙也加〜！一緒に酒飲まない？』

「未成年だから断るね」

……諦めないもん！

『えい！』

私は一升瓶の中の残りの酒を無理矢理沙也加に飲ませた。

残ってたのは半分より少ないけどね。

「アハハハハハハハ！アハハハハハハハハ」

沙也加が壊れた？

「麻衣さん、遊ぼ〜」

……笑い上戸なのかな？

イメージと違うなあ……。

「ねえ〜麻衣さん〜遊ぼ〜よ」

完全に酔っ払ってるね。

『そんなことより、スルメ食べながら酒飲んでお喋りしない？』

沙也加の本音を聞いてみたいな！

「良いよ〜」

よし！

『康太の事ってどう思ってるの？』

「一番気になってるんだよね、このこと。」

「康太さん？もちろん愛してるよ〜！」

それにしては……。

『私にはそう思えないよ。康太を傷つけたり、康太を縛ったりしてるから・・・』
だっってお互いがお互いを支え合って、お互いが愛し合うのが本当の付き合うつて事だと思っからね。

「そうかな？そういう事でわかりあえる人達もいるし」

康太はドS、沙也加もドS・・・康太って沙也加に気を使ってるんだね。

『康太は毎回バイサイドスとかをくらっ前に止めてくれてっ事言ってるよね。この前、私が使った時だっけ震えてたし・・・』
事実だよ、これは。

「・・・そうなんだ」

『うん。もっと康太の事をわからないとね。いつか康太に嫌われちゃっよ?』

脅しじゃなくて事実、すべて本当の事だよ。

「うん、もっと康太さんとわかりあえるように頑張るよ!」

SMしないといいなあ・・・。

『頑張ってね!さあもっと飲もう!』

「うん」

・・・次の日・・・

Side 康太

「風華、朝飯はベーコンエッグと食パンで良いか?」

材料はあるからな・・・。

『はい。お願いしますね』

ちなみに風華の服装はかわいらしい熊の絵が書いてあるピンクのパンツだ。

俺はスウェットだ。

「昼にはライホウの家から布団を借りような・・・客用のならある

だろうし……」

深夜に風華の寝相が悪くて布団から追い出され、床で寝るはめに結局なっていた……。

やっぱりコイツ雑だな。

『すいませんね……。寝相が悪くて』

仕方ないよな……。

「風邪引いたけど気にしてないから
実際ヤバイ。」

俺じゃなかったら倒れてただろうな。

俺は規格外だからな。

体の丈夫さならな……。

『でもさつきからふらふらしてますけど?』

眠い……。倒れそう……。

「大……。丈夫だから……。さ。飯……。さつさと作って……。ゆ
つくり……。させて……。くれ……。」

ヤバイ……。意識が朦朧としてきた……。

倒れそう……。

『とぎれとぎれ何ですけど大丈夫ですか?』

「大丈夫だ、問題ない」

大丈夫じゃないがやらなきゃ……。

簡単にできるしさつさと作って終わらせよう。

……数分後……

「出来たぞ」

『美味しそうにできましたね』

まあちゃんと作れたな、このポロポロな体でな。

「『いただきます!』」

うん、上手くできてる。

『美味しいです!』

「誰が作っても一緒だろ？」

なんせフライパンに油をひいた後、ハムを焼き、卵をのせて焼けばできるもんな。

『まあそうですが……』

頭が痛い……眠い……意識が朦朧とする……。

「だろ。ごちそうさま。俺は寝るよ」

頭痛い……。

『おやすみなさい。私は布団を借りてきますからね』

いつも風華が寝てる布団か……なんか恥ずかしいな。枕から良い匂いがする……って精霊だぞ、風華は！

……数時間後……

よく寝た……がまだ頭痛いし熱も出てきた。

スウェットは汗でびしょびしょだから気持ち悪い。

風華に悪い事したな……。

『起きましたか。よかった』

風華……喉が痛い。

「リュックをとってくれ……ゴホッゴホッ」

喉が痛いし声が枯れてる……。

『どうぞ』

確かのだ餡を大量に持ってきてあるはずだが……あった！俺はのだ餡を一つ取り出して舐める。

案外、美味しいな。

『この餡って美味しいんですか？』

「美味しいぞ？普通の餡みたいに甘いし……ゴホッゴホッ」
風邪薬も持ってきてたな。

飲んでおこう……。

『甘くて美味しいです！もっと欲しいです！』

俺ののだ餡が奪われるのはまずい！

「のど飴をこれ以上奪わないでくれ〜!」
無くなったら困るから!

『え〜でも・・・まあ良いです。風邪が治ってから貰いますから』
仕方ないか。

「わかったわかった」

世話がやける。

Side 沙也加

今何時なの?

何々、15時57分・・・って麻衣さんとお喋りした後の記憶がないや・・・。

『昨日のお喋り楽しかったね!』

まあそうでしたが・・・。

「酒は没収させてもらうね」

また飲まされたら困るもん・・・。

『そんな〜』

「諦めてね」

ちゃんと康太さんの事を考えて付き合わなきゃね、私も。

Side End

スターダストの修行（前書き）

今回、書き方を変えてみました。

前とどちらが読みやすいか教えてください。とあるとありがたいです。

スターダストの修行

「スターダスト、さっさと始めようぜ」

トリシューラへの説教を終えたスターダストに俺は話しかける。

『信頼できる精霊の仲間はあるか？いるなら連れて来い。一人なら辛いかもしれん。人間は一人までなのだ。すまない、少年』

信頼してる精霊・・・あいつはいつも俺と一緒にいる友人みたいな奴だ。

いつも俺を気にかけている、大切な仲間。

『私がいいます。やりましょう、康太さん！』

いつも傍にいてくれる、風華がいる！

「・・・ここにいるぜ、俺の二番目の相棒、風華が！」

一番目の相棒？

もちろん裕也だ。

あいつがいたから俺は前に進めた。

あいつがいなきゃ生きてなかったと思う。

『わかった』

『康太さん・・・浮気はダメですよ』

「わかつてる！てか違う！」

頑張るしかないか！

『目を閉じて手を繋げる。我の力で三幻神の所へ送り戦わせる』

・・・数分後・・・

ここはどこだ？

暗闇みただが風華と俺の体は色が浮かび上がってるかのように暗闇のような場所でも見えている。

地面を叩いてもすり抜けるみたいに当たらないし、下へ移動するイメージを頭に浮かべると沈むように動く。

ここはどこなんだ？

『ここはどこですか？』

「知らん」

まったく、何がなんだかわからねえや。

『汝等は何奴なのだ？』

そう声が聞こえたからその方向を俺達は向いた。

そうしたら巨大な紅い龍がいた。

「お前こそ誰だ？俺達はスターダストによって、ここに飛ばされただけだ。敵とかそういうたのではない」

こいつどっかで見た事が・・・。

『我の名はオシリス、オシリスの天空龍』

三幻神の1体、オシリスの天空龍だと！？

ドジな事しか覚えてないな。

「俺はどうしたらいい？スターダストの事だからあんたとデュエルしろって事だと思うがな」

めんどくさいなあ・・・。

まあ仕方ないか。

『良いだろう。構えろ』

俺はデュエルディスクを構え、オシリスと向き合う。

そうした後、デッキをデュエルディスクに装着した。そしてデッキは最近付けたばかりのオートシャッフルによりシャッフルされた。

「『デュエル！』」

オシリスがそう言うのと天空から石版が降ってきた。

その石版はオシリスの前で止まった。

「俺のターンドロ―！俺はモンスターをセット」

康太の前に裏側のカードが横向きで現れた。

「カードを2枚伏せてターンエンド」

康太

手札 3枚

モンスター セットモンスター 1枚

魔法罫 リバーズカード 2枚

『様子見ですか……。しかし相手のデッキがわからないのでこれしか出来ませんね』
風華はそう言った。

『私のターンドロ。私はイエロー・ガジェットを守備表示で召喚。効果でグリーン・ガジェットを手札に加える』
黄色い機械で背中に歯車を付けたモンスターが現れる。

イエロー・ガジェット

DEF1400

「カードを5枚伏せてターンエンド」

オシリス

手札 1枚

モンスター イエロー・ガジェット

魔法罫 セットカード 5枚

「ガン伏せとか怖いな……。俺のターンドロ！俺は氷結界の武士を召喚！」

氷で出来た鎧を着た氷の刀を持ったモンスターが現れる。

氷結界の武士

ATK1800

『畏発動、奈落の落とし穴』
氷結界の武士が現れた場所に穴が空き、武士は落ちていつて除外された。

「どいつもこいつも奈落奈落ってガチ思考過ぎるんだよ！せっかく奈落があまり使われないアニメの世界に来たのに、せっかく奈落を抜いてガチ思考を辞めたのに！くそ！ターンエンドだ！」

康太

手札 3枚

モンスター セットモンスター 1枚

魔法罫 リバースカード 2枚

『私のターンドロ。我はグリーン・ガジェットを召喚。レッド・ガジェットを手札に加える』
先程のイエロー・ガジェットに似た緑色の機械が現れる。

グリーン・ガジェット

ATK1400

「ガジェットならどのデッキなんだろうな？除去ガジェットか？弾圧ガジェットか？それとも除外ガジェットか？」

康太はそう呟き、構えなおす。

『貴様が言ったデッキタイプは全て違う。我は畏カード血の代償を発動する。500ライフ払いレッド・ガジェットを召喚』
オシリス

LP4000 3500

『効果でイエロー・ガジェットを手札に加える』先程までのイエロー・ガジェット、グリーン・ガジェットに似た赤いモンスターが現れる。

レッド・ガジェット

DEF1400

「3体のモンスター・・・代償・・・まさか神!？」
康太は何かに気づいたかのように叫ぶ。

『有り得ますね』

風華は康太にそう返事する。

『ガジェット達を生け贄に現れる、オシリスの天空龍!』
赤い龍のようなモンスターが現れる。

オシリスの天空龍

ATK1000

オシリス

LP3500 3000

「今、一番厄介な神が現れたか・・・しかし召喚時の効果は攻撃扱い・・・ならば和睦の使者とかで防ぐしかない」康太は三幻神攻略の為の作戦を呟きながら考える。

『畏3枚発動、ゴブリンのやりくり上手。さらにそれにチェインして非常食を発動する。我はゴブリンのやりくり上手を全て墓地に送り、ライフを3000ポイント回復し、4枚ドロ―し手札を1枚デッキの下に戻す効果を3回繰り返す』

オシリス

LP3000 6000

オシリスの天空龍

ATK1000 10000

「攻撃力100000・・・死ぬかも」

『イエロー・ガジェットを召喚しグリーン・ガジェットをサーチ、グリーンを召喚しレッドをサーチ、レッドを召喚しイエローをサーチする。ガジェット3体を生け贄に現れる、オベリスクの巨神兵!』

オシリス

LP6000 4000

青い体の巨大なモンスターが現れる。

オベリスクの巨神兵

ATK4000

オシリスの天空龍

ATK10000 9000

「まさか最後の神、ラーを呼ぶ気か？」

康太は三幻神が2体揃い、内心焦りだした。

『無論だ。貪欲な壺を発動し、グリーン2枚、レッド2枚、イエロー1枚をデッキに戻し2枚ドロー!』

オシリスの天空龍

ATK9000 10000

『ガジェット達をもう一度召喚!』

オシリス

LP4000 2500

「ライフは大分減ったが手札が有り得ないくらい減ってない・・・」

やばくないか？」

康太は額に冷や汗をかきだした。

『ガジェット達を生け贄にラーの翼神龍を召喚する！』

金色の体を持つ不死鳥のような神々しいモンスターが現れる。

ラーの翼神龍

ATK 3900

オシリス

LP 2500 2000

「畏発動！威嚇する咆哮！これで守らせてもらおう！」

康太が発動した畏により、音波が発生した。

その音波により、神達は怯えて攻撃を止めた。『我は無限の手札を発動し、ターンエンド』

オシリスの天空龍

ATK 7000

オシリス

手札 7枚

モンスター オシリスの天空龍 オベリスクの巨神兵 ラーの翼神龍

魔法罫 血の代償 無限の手札

「これが運命をわけるラストターン・・・俺のターンドロ！俺は手札を1枚伏せてリバースモンスター、メタモルポットの効果を使う！」

黒い壺のようなモンスターが現れる。

メタモルポット

ATK700

「リバーズ効果により、お互い手札を全て捨て、5枚ドローする！」
「オシリスの効果によりバトルを行い破壊する！戦闘ダメージは与えられず、ちなみに攻撃力2000より上ならそのモンスターの攻撃力を2000下げる」オシリスは勝ち誇ったかのような声色で康太に向かって言う。
しかし・・・。
「メタモルポットは破壊されたが俺は手札を回復したし、貴様の手札は5枚に減った！」

オシリスの天空龍

ATK7000 5000

「うっ！」

オシリスは康太の指摘により、悔しそうな声を出した。

「バイス・ドラゴンを特殊召喚！」

紫色の体を持つ龍が現れる。

バイス・ドラゴン

ATK1000

「オシリスの効果発動！」

「和睦の使者を発動し守る！氷結界の風水師を召喚！」
鏡を持った、着物を着たような女性が現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「私の効果が、使えない・・・」オシリスは相当悔しいらしく、手

を握りしめていた。「レベル5バイス・ドラゴンにレベル3氷結界の風水師をチューニング！現れる！スターダスト・ドラゴン！」
体に星屑を纏った幻想的な龍が現れる。

スターダスト・ドラゴン

ATK2500

「魔法カードワン・フォー・ワンを発動し、デッキから氷結界の守護霊を特殊召喚！」

半透明な少年のようなモンスターが現れる。

氷結界の守護霊

ATK1000

「リバーズカードオープン！アイスカーペット！氷結界の番人ブリズドを特殊召喚！」

青い鳥のようなモンスターが現れる。

氷結界の番人ブリズド

ATK300

「レベル1チューナーモンスターとレベル1モンスター・・・合計レベルは2ですね」
風華はそう言いながら、康太のリュックに入っているのど飴を舐めはじめた。

「シンクロチューナーを呼ぶ準備が整ったか・・・やってみろ！」

「レベル1氷結界の番人ブリズドにレベル1氷結界の守護霊をチューニング！集いし氷の力が、新たな力の糧になる！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！新たな希望、シンクロチューナー、ブリザード・シンクロン！」

小さな氷で出来たシンクロンのようなモンスターが現れる。

ブリザード・シンクロン

ATK500

「効果で5枚ドロー！」

康太はデッキの上から5枚を引き抜いた。

「よし！魔法カードチューンロストを発動！これにより、ブリザード・シンクロンをチューナーじゃなくする！」

康太はそう宣言し、オシリスに向かって指を指した。

『チューナーをチューナーじゃなくして何がしたいのだ？』

「デルタアクセルを完成させてみせる！手札から死者蘇生を発動し、ブリズドを特殊召喚！」

先程までいた青い鳥が現れた。

「アイスカーペットをもう一枚発動し、守護霊を特殊召喚し、もう一度ブリザード・シンクロンをシンクロ召喚するぜ！効果で2枚ドロー！」

康太はデルタアクセルシンクロの準備を完成させてみせた。

『面白い。やって見せる！』

「行くぜ！クリアマインド！レベル2ブリザード・シンクロンとレベル8スターダスト・ドラゴンにレベル2ブリザード・シンクロンをチューニング！集いし希望が新たな力への活路を開く！仲間との絆を紡ぐ力となれ！デルタアクセル！現れる！コズミック・クリアー・ドラゴン！」

体から光を放つ龍が現れた。

「さあ、光を出すのを止めて本来の姿を現せコズミック・クリアー・ドラゴン！」

コズミック・クリアー・ドラゴンから出ていた光は納まり、細身の星屑を纏った、スターダストとは違う剣の煌めきのような美しさと気高さを感じさせる龍が現れた。

コズミック・クリアー・ドラゴン
ATK4000

「神と同等なレベルに見えるが果たして神を突破出来るかな？」
オシリスは康太を挑発した。

「このターンでけりをつけてやる！コズミック・クリアー・ドラゴンの効果発動！このカードの召喚に成功したターンの間、このカード以外のモンスターは効果を発動できない！」

「何！？」

オシリスはオベリスクの効果を使い、迎撃するつもりだったらしく驚いた。

「行くぜ！コズミック・クリアー・ドラゴンは墓地のチューナーモンスターを任意の枚数除外し、攻撃力を除外した枚数×500ポイント上げる！俺は氷結界の風水師、ブリザード・シンクロン2枚、氷結界の守護霊を除外し、2000ポイント上げる！」

コズミック・クリアー・ドラゴン
ATK4000 6000

コズミック・クリアー・ドラゴンが吠ええると、墓地のチューナー達が半透明な状態で浮き上がり、コズミック・クリアー・ドラゴンの体に入っていた。

「攻撃力6000だと！？しかし、攻撃力が終わらせるには足りてないぞ？」

「コズミック・クリアー・ドラゴンでオシリスの天空龍を攻撃！スターダスト・ストライク！」

コズミック・クリアー・ドラゴンがオシリスの天空龍に向かって突撃した。

そしてオシリスの天空龍は貫通され、破壊された。

オシリス

LP2000 1000

『少年、まだ私のライフは残っているぞ？』

「コズミック・クリアー・ドラゴンの効果発動！手札からチューナー・モンスターを除外する事でもう一度攻撃出来る！俺はデブリ・ドラゴンを除外！」

康太は手札を1枚、腰に着けているデッキケースに入れた。

『何！』

「ラストだ！オベリスクに攻撃！スターダスト・ストライク！」

オシリス

LP1000 0

「勝った？勝ったのか俺！」

『ですね』

康太と風華は喜びあった。

「しかしスターダストはなんで精霊を連れていけって言ったんだろっ？」

康太はずっと思っていた疑問を口にした。

『我がその答を教えよう。理由は簡単だ。スターダストに頼まれて私は少年とデュエルした。スターダストはデュエルで我に勝つまで帰らせないように我に頼んだ。我はその通りに従っただけだ』

オシリスは答を簡潔に述べた。

「わかった。じゃあな」

康太は元々いた場所に帰って行った。

「スターダスト、勝ったぜ？」

俺はそうスターダストに話しかける。

『いきなりコズミック・クリアー・ドラゴンの効果を完璧に操ったうえに、神の弱点をつくとはな・・・』「褒めなくていいよ」

実際神の弱点に気がついたのはアニメの最終回辺りで、オシリスの効果を跳ね返したシーンがあったからだ。

AIBOがマグネット・バルキリオンを分離させたシーンから攻撃扱いってわかったしな。

『ではゆっくり休め』

「ああ」

疲れたからゆっくり寝よう。

PV400000&ユニーク50000突破記念番外編 激闘王様ゲーム編

ラストが無茶苦茶かつ、何度も未成年の飲酒シーンがあります。

苦手な方はご注意ください。

ここは氷結界の里ライホウの家。

ここである闘いを行う為に時と世界を超え、13名もの人物が集合した。

以下メンバー

高嶺康太

藍沢沙也加

不動裕也

スレイルナヴァルア

神羅

紫炎 紅

海城遊騎

竹内 漣

東雲 結

黒羽恭夜

黒羽 空

氷川水月

霧島 紫

やり方

王様とかかれたくじと1〜12までの数字の書かれたくじ、合計13枚の紙から1人1枚引き、王様と書かれた紙の人がくじの数字を選び、その数字の人に好きなことを指示し、その指示をその数字のくじを引いた人物が行う。

ルール

「私も遊騎くんと・・・遊騎くんと・・・」

一人だけその光景を見てショートしかけていた。
チュという音が聞こえた。

そしてポツキーゲームをしていた2人を見ると・・・

「コノノノノ」

顔を林檎のように真っ赤にして顔を背けていた。

「あの・・・その・・・えーっと・・・ごめん。真ん中の辺りで折
つとけばよかったよな？」

顔を真っ赤にしていた康太が水月に聞く。

「・・・気にしなくていい・・・王様ゲームだから・・・」

「・・・そうか。わかった」

その後、二人は元々いた席に戻った。

「第四回戦！」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」

「俺だ」

そう言うてくじを出したのはさっき紅に肩揉みをやらされて疲れて
いる遊騎であった。

「3番と12番、さっき肩揉みで疲れたからマッサージしてくれ
3番と12番それは・・・」

「・・・私ね」

「私か」

紫とスレイだった。

（トツプランクのデュエリストと神にマッサージ頼むとか、遊騎の
奴、勇者だな）

康太はさっきの事故のキスを考えないようにしながらそう思った。

・・・数分後・・・

「・・・ちよつと疲れたわ・・・」

「まだ大丈夫だな」

疲れてきた紫とピンピンしているスレイが存在していた。

「第五回戦！」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」

「……私ね」

答えたのは遊騎にマッサージした紫だった。

「……8番……麻衣さんとテキーラ一気飲み対決をして……勝つまで帰ってこれない……」

紫は凶器的な発言をし、確実に一人を脱落させに行った。

「……私だ」

皆の心は「神だから大丈夫だろうな」と考えていたが……

……数分後……

一口飲んだだけでぶっ倒れたスレイの姿があった。

「神だし外に捨てておいても大丈夫だろ」

「ですね」

康太がそう言った後、沙也加が返事した。

その後、裕也がスレイを外に捨てた。

「あれが敗者の末路……」

「……怖いわね」

遊騎と水月が言った。

「神が最初の脱落者だったがまだ行くぞ」「」「」「」「」「」「」「」「」「」

「王様だーれだ！」「」「」「」「」「」「」「」「」「」

「俺か」

くじを出したのは康太だった。

「何番を潰……ゲフンゲフン、何番に何をやらそうか？」

康太はかなり物騒な発言をした。

「よし、9番、テキーラをジョッキで1杯飲んでから、四つん這いになって10番の椅子になれ」

「9番・・・俺か」

生け贄は神羅だった。

「じゃあ飲むぞ！」

神羅はジヨッキの中身を一気に飲み干した。

そして四つん這いになり・・・。

「速く乗りや」

「・・・・・・・・・・・・・・・・関西弁になった!?」

神羅には酔っ払うと関西弁になる癖があったようだ。

「・・・あ、ああ」

裕也は神羅の背中に座った。

「行くぞ」

「・・・・・・・・・・・・・・・・王様だーれだ！」

「・・・私」

王様は空だった。

「・・・11番と9番・・・。麻衣さんとテキーラ一気飲み対決・・・

・勝つまで戻ってこれない・・・」

11番は・・・

「私か」

漣だった。

9番は・・・

「また俺かいな」

神羅だった・・・。

・・・数分後・・・

「また私の勝ちだね！」

「3人テキーラ一気飲み対決で潰したよあいつ？」

麻衣がはしゃいでる所に康太がツッコみを入れる。

「処理はどうします？」

「神羅さんは外に、漣さんは医務室に寝かせとけ」

風華の疑問に康太は答え、指示通りに行動する。

「澪さんがやられた……。俺、大丈夫か？」

遊騎が疑問を感じ始めた。

「テキーラによる潰しあいが変わってきてるが行くぞ！」

「王様だーれだ！」

「私……」

くじを見せたのは水月だった。

「8番……飲み物を取ってきて……」

8番は……

「うん！わかったよ」

B F使いの結だった。

……数分後……

「取って来たよ！」

コップに液体を注いで持ってきた結がいた。

「……ありがとう……」

コップを傾け、中身を飲みだす水月。

「中身はさつき渡された瓶の中身だけど飲み物だって渡されたから

大丈夫だよな？」

バタツ。

中身は……テキーラだった。

「水月を医務室に連れて行って看病しとくから続きをしといてくれ」

康太はそう言って世間一般で言うお姫様抱っこを水月にして連れて

行った。

「さつきまで司会をしてた康太が行っちゃったから俺がやるぞ」

裕也はそう言ってくじを減らした。

「行くぞ！」

「俺だ！」

くじを出したのは恭夜だった。

旅立ちと決意

風の噂で聞いたが霸王という鎧を着た謎の男がジムという男を倒したらしい。

まあ一週間前に聞いた話だし、三週間前の事だとも聞いた。

ちなみにこの情報を氷結界の里に伝えたのはライホウで六武衆達の所へ行った時に水色の髪の小柄な少年に聞いたらしい。

十中八九、翔だな。

あの水色がよく頑張ったが何故ライホウを知っているんだ？

まあ調べればわかると思うが。

「風華、俺は霸王と闘おうと思う。沙也加には内緒でな。来てくれるか？お前だけが頼りだ。まあ俺のデッキと俺達二人の服装は変えるがな」

「私は行きますよ。康太さんだけじゃ不安ですし」

康太は荷物をまとめながら風華に聞き、風華は康太の行動に賛同した。

そして風華も荷物をまとめ始めた。

・・・次の日・・・

「本当にいいんですか？沙也加さんに伝えなくて」

「・・・いいんだ」

実際はよくないししたくなかった。

しかし沙也加は巻き込みたくない。

本当に苦渋の決断だったし今も悩んでる。

しかし前に進まなきゃ、親友の間違いを正せない。

これは十代を救うための闘いだ。

「・・・わかりません。私には沙也加さんに黙って行く理由がわかりません！」

「巻き込みたくないんだよ！世界で一番大切な人を、こんな危険な事に巻き込み訳には行かないんだ！・・・すまん、熱くなりすぎた。沙也加はヒュペリオンにトリシューラから連絡を入れて帰ってもらおうと思う」

『貴方の覚悟はそんなものなんですか！？見損ないましたよ』

風華は後に向き家に向かって歩いていく。

「待ってくれ！」

康太は風華に向かって走り、抱き着いた。

「・・・俺だつて怖いんだ。死ぬかもしれない、廃人になるかもしれない、親友と信じてきた十代に裏切られるかもしれない。でも親友だからこそ助けなきゃいけないんだ。それに沙也加はこの問題に関係ない。あいつの前でだけは死にたくない。これは俺のエゴだつてわかつてるし、沙也加には悪いと思う。だが頼む。お前だけは俺から離れないでくれ。お前だけは傍にいてくれ。俺を一人にしないでくれ！頼む・・・」

康太は泣きながら風華の服を掴み、縋り付くように抱きしめていた。『貴方は、康太さんは私のパートナーですから。パートナーに仲間としてこうも大切にされているなんてわかつたら着いていくしかありませんよ。沙也加さんはここまで思われていて幸せでしょうね・・・』

風華はもらい泣きを仕出す。

「俺は知らん。ただ、俺はこれから沙也加を愛しつづけるだけだ」

『そうですか。でも康太さんらしいですね』

風華も康太も気がつけばお互い笑いあいながら歩いて行った。

・・・数時間後・・・

「ヒュペリオン、用ってなんですか？」

沙也加はヒュペリオンに呼ばれ、ヒュペリオンのもとに向かったの

だ。

『・・・元の世界に帰っていただけませんか？』
ヒュペリオンは少し威圧的に話す。

「無理です。貴方とはいえ、潰しますよ？」

そう言つて沙也加はヒュペリオンのカードを持ち、破ろうとする。

『申し訳ありませんでした！』

ヒュペリオンは土下座で沙也加に謝り、命だけは助かった。

「ヒュペリオン、貴方の腰にあるデッキ2つはいただきますね」

沙也加は無理矢理ヒュペリオンの腰のデッキケースを引っ張り奪つた。

そして沙也加はそれをリュックに片付けた。

『二度と逆らいませんから、なんでも言うことを聞きますから許してくださいませ！』

「では康太さんの所まで連れて行ってください。わかりましたね？」

『はい！』

こうして沙也加は康太の所へ向かったのだった。

「なんかゾツとするや・・・」

『気のせいですよ』

悪夢再び（前書き）

自重を忘れた沙也加。
何故こうなった？

悪夢再び

かなり歩いたがまだ霸王の城には着かないな……。

「腹へつたな……」

もう3日は水と塩とサラダ油で過ごしている。

まあ、親父が死んでからの二ヶ月位はもつと食生活は酷かったがな。『だから1日1膳、しかも子供用のお茶碗の1膳じゃ足りないって言いましたよね？私にはちゃんと食べるって言いながら自分が食べてないからそのツケが来たんですよ！しかもなぜか最近の水と塩とサラダ油だけで凌いでましたし……。私だけに毎日三食食べさせて自分は我慢つてそんなのパートナーじゃありませんよ！』
風華に説教される……。腹へつてんだから休ませてくれ！
倒れる！

体力が持たん！

とか考えるものの、言い返す気力は既に無く、ただ寝たいという気持ちしがひたすら心の中に渦巻いている。

ふと横を見ると、川があつた。

超古深海王シーラカンスやジェノサイド・キング・サーモン、レインボーフィッシュとかがいるな……。

美味そうだなあ……。

他にも色々な魚族モンスターがいるな。

採りに行くか！

『一部攻撃力2800を超えるような強いモンスターがいますって！勝てませんよ！命懸けな行為は慎んでください！』

風華はそう言うが、生きる為には仕方ない、全力で殺る！

俺は、ズボンを脱ぎ川に入った。

「キエーーーーーイ！」

フリーザのように叫び、一気に魚を岸にあげた。

『捕れたのはジェノサイド・キング・サーモンだけですな』

少し大きいだけの鮭だな・・・。

「焼いて食うぞ」

俺は近くの木の枝を集め、火をライターで燈す。

濡れた身体を乾かし、ジエノサイド・キング・サーモンを焼いてい
く・・・。それに塩胡椒をある程度振って、味付けをする。

「いただきます」

そう言っただけで俺は食べはじめる。

普通に鮭の味がしていて、美味い。

風華が物欲しげにこつちを見つめる。

かなり食べづらい。

「こつちを見つめんな。恥ずかしい」

「だって美味しそうですから・・・。私だって食欲はあるんですよ」

ほんとコイツはガキだな・・・。

この前苦手な食べ物のお話をしてたら、唐辛子のような辛い物、苦い物、酸っぱい物、渋い物、匂いのきつい物、炭酸飲料、酒、肉、が
苦手らしい。

子供舌なのか？

でも子供は肉とか好きな奴が多いはずだし・・・。
しかもかなり夢見がちで純粹だな・・・。

心が汚れた俺みたいなの奴が関わっていいのかなり悩む。

俺？

エアガンの改造とデュエルと勉強と家事に元の世界での時間を全て
使ってたが何か問題あるか？

ちなみに改造エアガンの威力は最大の時ですら1発でコンクリートを破
壊した程度だった。

まあ危ないから改悪して威力を下げたがな。

一度使えば遠距離武器は使いこなせると自負してるからな。

まあ絶対に命中するとかそんなことはできんが。

全く純粹さなんてないな・・・。

食べ物の好き嫌いは匂いのきつい物と生野菜だけだ。

・・・俺も苦手な物は多いな。

まあ気にしてないし、今まで生きてこれたから大丈夫か。

物思いにふけっていると、オレンジ色の生命体が飛んで来る。

間違いない、ヒュペリオンだ。

「ヒュペリオン、なんかあったのか？」

俺は何故か来たヒュペリオンに驚き、理由を聞いてみる。

『実は・・・ヘアツ』

訳を話そうとしたヒュペリオンはいきなり小石に躓き、転んだ。

そして倒れたヒュペリオンの背中には沙也加と麻衣の二人がいた。

「人間のいる元の世界に帰らせたはず・・・いや、ヒュペリオン

に任せたのが失敗だったか？」

「さて、康太さん、お仕置き時間ですよ？」

沙也加はデュエルディスクを構え、持つてなかつたはずのデッキケースの取り出し、ディスクに入れた。

メタデッキかもしれないが、ドラグニティと氷結界しか持つてなかつたので氷結界をディスクにセットする。

お互いがデッキをセットしたら、お互いのデッキがシャッフルされた。

デッキの上から5枚を掴み、言う。

「デュエル！」

「私のターンドロー！私は勝利の導き手フレイヤを召喚！」

青いチアガールの衣装を纏った女性が現れる。

勝利の導き手フレイヤ

ATK100 500

「さて、永続魔法、コート・オブ・ジャスティスを発動！効果により、時械神サンダイオンを特殊召喚！」

肩の辺りが出っ張った脚の無い黄色い鎧のような、胸に鏡が付いたようなモンスターが現れる。

時械神サンダイオン

ATK4000 4400

「カードを1枚伏せ、ターンエンド」

沙也加

手札 2枚

モンスター 勝利の導き手フレイヤ 時械神サンダイオン

魔法罫 セットカード1枚 コート・オブ・ジャスティス

「・・・嫌な予感がする。俺のターンドロ！俺は、氷結界の武士を守備表示で召喚！」

氷で出来た鎧をきた武士が現れ、防御の姿勢をとった。

氷結界の武士

DEF1500

「これ以上何か出来そうにないな。手札的にも、フィールドの相手モンスターのにも……。カードを2枚伏せターンエンド！」

康太

手札 3枚

モンスター 氷結界の武士

魔法罫 セットカード2枚

「私のターンドロ！スタンバイフェイズに時械神サンダイオンはデッキに戻ります。さて、コート・オブ・ジャスティスで時械神メタイオンを特殊召喚」

さっきのサンダイオンに似た赤いモンスターが現れる。

時械神メタイオン

ATK 400

「高レベルなのに攻撃力0、今は400だが、何か嫌な効果を持つてそうだな・・・」

「さあ、どうでしょうかね？ターンエンドです」

沙也加

手札 2枚

モンスター 勝利の導き手フレイヤ 時械神メタイオン

魔法罫 セットカード1枚 コート・オブ・ジャスティス

「俺のターンドロー！」

「畏発動！バトルマニア！」

「武士に攻撃を強制！？何を考えてんだ！？」

氷結界の武士

ATK 1800

「なら氷結界の風水師を召喚！」

薄めの紫色の和風な服を着たツインテールの女性が現れる。

氷結界の風水師

ATK 800

「さて、仕方ない武士でメタイオンを攻撃！アイススラッシュ！」

武士がメタイオンに切り掛かる。

「メタイオンは戦闘でも、効果でも破壊されず、戦闘ダメージも受けません。そしてメタイオンの効果が発動します！フィールド上のメタイオン以外のモンスターを全て手札に戻し、1枚につき300ポイントダメージを与えます！」

康太

LP4000 2800

「チツ、壁モンスターすら出せねえか……。ならターンエンドだ！」

康太

手札 5枚

魔法罫 セットカード2枚

「私のターンドロ！メタイオンはデッキに戻ります。さて、神の居城ヴァルハラを発動し、時械神ザフィオンを特殊召喚します！」
さっきまでのサンダイオンやメタイオンに似た青い鎧のようなモンスターが現れる。

時械神ザフィオン

ATK0

「では、カードを1枚伏せターンエンドします」

沙也加

手札 1枚

モンスター 時械神ザフィオン

魔法罫 セットカード1枚 コート・オブ・ジャスティス 神の居

城ヴァルハラ

「俺のターンドロー。カードを2枚伏せターンエンド……」

康太

手札 3枚

魔法罫 セットカード4枚

「私のターンドロー！スタンバイフェイズに時械神ザフィオンの効果でデッキに戻り、カードを手札が5枚になるようにドローします。チェーンで、リロードを発動します。手札を全てデッキに戻し、戻した枚数分ドローします。リロードの効果で1枚ドローし、ザフィオンの効果で4枚ドロー！」

「くっ……手札アドバンテージまでもが沙也加が上に……」

康太は少し恐怖した。

しかし怯えたような顔をせず、しっかりと時械神を睨みつける。

「では、ヴァルハラの効果で手札から時械神サンダイオンを特殊召喚！」

最初に現れた黄色い鎧のようなモンスターが現れる。

時械神サンダイオン

ATK4000

「サンダイオンでダイレクトアタック！」

サンダイオンが康太の方に向かって飛んで行き、康太の近くで止まり、電撃を放つ。

「畏発動！魔法の筒！」

サンダイオンの電撃が？が描かれた筒に吸い込まれ、沙也加に向かって放たれる。

「ダメージダイエットを発動します。効果で効果ダメージは半分に なります！」

沙也加

LP4000 2000

「行けると思ったが失敗したか・・・」

康太は苦虫をかみつぶしたような顔をして、サンダイオンを睨む。しかし鏡に映った顔が面白くて嘔いてしまう。

「笑っている余裕があるのかわかりませんが、カードを2枚伏せターンエンド！」

沙也加

手札 3枚

モンスター 時械神サンダイオン

魔法罫 セットカード2枚 神の居城ヴァルハラ コート・オブ・

ジャステイス

「俺のターンドロ」

「罫カード、バトルマニアを発動、更にチェインし、オジヤマトリオを発動！」

康太のフィールドに派手なブリーフを履いた黄色、緑、黒、の色をしたモンスターが現れる。

オジヤマトクン

ATK0

「氷結界の風水師を召喚！」

薄めの紫色の和風な服を着たツインテールの女性がまた現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「リバーズカード、妨害電波を発動します！このターン、シンクロ召喚はできません！」

「なら、クロスソウルを発動！サンダイオンを生け贄に使えるようにする。二重召喚を発動。サンダイオンを生け贄に、現れる、氷帝メビウス！」

氷で出来た鎧を着たような巨人のようなモンスターが現れる。

氷帝メビウス

ATK2400

「効果により、ヴァルハラとコート・オブ・ジャスティスを破壊！メビウスが地面を殴ると、氷の柱が地面から出てきて、ヴァルハラとコート・オブ・ジャスティスを破壊した。

「何もできないか・・・ターンエンド」

康太

手札 0枚

モンスター 氷結界の風水師 オジャマトークン×3 氷帝メビウス
セットカード2枚

「私のターンドロー・・・私の手札にはモンスターはもうありませんし、セットカードにも、手札にも攻撃を防ぐカードはありません。サレンダーします」

そう言っつて沙也加はデッキに手を置いた。

「沙也加・・・お前を巻き込みたくないから置いてきたのになんで、なんで来たんだよ！」

巻き込んで怪我をさせたくない・・・。

もし死んだら、もし一生残る傷を作らせてしまったら。

そう考えると怖くて。

逃げ出したくなって。

気がついたら風華を巻き込んで夜逃げに近い事をしてしまった。

「俺は弱い。その弱さのせいで怪我をさせたり、死なせたくなかった。エゴなのはわかる。だが・・・察してくれ」

「康太さんは弱くなんてありません。一緒に支え合って、一緒に前に進みましょう」

康太が震えていたが、沙也加は抱きしめ、耳元で呟くように言った。

「私達、空気みたいだね」

「ですね・・・。はあ・・・」

特別番外編〈禁止制限小ネタ〉

康太「元の世界での新しい禁止制限が発表されたし、それについて話すか」

沙也加「暇でしたし暇潰しにはなるでしょうしね」

康太「まずは禁止からだ」

【禁止】

「フィツシュボーグ・ガンナー」

「メンタルマスター」

「ハリケーン」

「王宮の弾圧」

康太「フィツシュボーグ・ガンナー！なぜだ!？」

沙也加「康太さんのデッキは水属性中心ですからガンナーは痛いですね・・・」

康太「沙也加には刺さらないな・・・」

沙也加「弾圧が地味に痛いです・・・。エンジェルパーミッションには必須なのに・・・」

康太「そうか。ハリケーンは・・・なんで禁止になった？大嵐が無い今、消えちゃダメだろ・・・。次は制限をしてみるか」

【制限】

- 「カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -」
- 「真六武衆 - シエン」
- 「TG ハイパー・ライブリアン」
- 「デブリ・ドラゴン」
- 「フォーミュラ・シンクロン」
- 「ローンファイア・ブロッサム」
- 「大嵐」
- 「原初の種」
- 「紫炎の狼煙」
- 「貪欲な壺」

康太「大嵐が帰ってきたのか。ならハリケーンには納得だな。・・・
てかデブリ・ドラゴン、行かないで！」

沙也加「開闢が帰ってきたのは謎ですね。原初の種は無限ループがある
ので当たり前です。デブリは暴れ過ぎたので妥当かと」

康太「そうか・・・。ライブリアンとシエンは当たり前だな。正
直規制されなかったらキレてよかったと思う」

沙也加（康太さん、デブリ・ドラゴンで無茶苦茶シヨック受けてま
すね・・・）

沙也加「狼煙は当たり前ですね。・・・暗黒界と代行天使が何故か
規制されてませんね」

康太「貪欲な壺は仕方ないな。ローンファイア・ブロッサムは今更
感が・・・」

沙也加「次は準制限です！」

【準制限】

「召喚僧サモンプリースト」

「トラゴエディア」

「ネクロ・ガードナー」

「氷結界の虎王ドウローレン」

「デステニー・ドロー」

「光の護封剣」

「マインドクラッシュ」

「リビングデッドの呼び声」

康太「リビングデッドの呼び声がまさかの緩和……。ネクロ・ガードナーも緩和……。トラゴエディアも緩和……。デステニー・ドローも緩和……。何故デブリだけ……」

沙也加「妥当ですね。サンプリやマイクラはなんでなのでしょうかね？」

康太「さあな？」

沙也加「次は無制限になったカード達です！」

【制限解除】

「裁きの龍」

「魂を削る死霊」

「オーバードロード・フュージョン」

「サイクロン」

「巨大化」

「グラヴィティ・バインド・超重力の網」

「ゴッドバードアタック」

康太「首吊ろう」

沙也加「止めてください！とりあえずサイクロン難民が増えそうです
ね……」

康太「なんでライロのエースが帰ってきて氷結界のキーパーツが規
制されるんだ……」

沙也加「デブリジャンクドッペルが暴れすぎたからです。たけし要
りますか？」

康太「たけしって呼んでやるな。魂を削る死霊って呼んでやれよ……」

沙也加「面倒ですから」

康太「そうか……。氷結界、これからどうしよう……」

沙也加「わかりませんね」

康太「首吊ろう……」

沙也加「止めてください！」

暇だ・・・俺はそう考えながら町をぶらぶらしてる。

たまたま見かけたカードショップにはめぼしいカードが無かった。

だから暇潰し用のゲームを買おうとゲームショップに行ったがやはりめぼしいゲームは無かった。

とりあえず今は実家もどきの家に帰ろう。

童実野町はとにかく平和だった。

しかし平和すぎてくだらない。

そう思いながら帰路を歩いていると沙也加がどこかに走って行っていたのを見かけた。

今は関係無かったので無視して歩く。

『そんなくだらないって顔してたら運が逃げますよ』

風華がそんな事を言ってくる。

「運は逃げる物じゃないぞ」

まあ多分正しいであろう発言を風華に向かって呟いた。

基本的に俺は外ではイヤホンマイクを着けている。

何も無い場所に向かって話しかける痛い子に見られない為にな。

『知らなかったです・・・』

風華の天然さに呆れながら歩いていると家についた。

誰もいないので無言で手を洗い、うがいをして寝転ぶ。

かなり退屈で、することが無いので話し相手が精霊以外で欲しい。

風華や麻衣とは良く話すが話題が合わないんだよな・・・。

精々昔のくだらない失敗話を話したり聞いたりするくらいしかできないし。

『康太、別の世界に行け。わしの暇潰しの為に』

会いたくない奴が出てきたがスルーしてテレビの電源をつける。

チャンネルを回すが面白い番組が無かったからテレビの電源を消す。

仕方ない、ラグラージの型でも考えよう。

面白い型が浮かばないから止めよう。

『話を聞け！』

「何かあったのか？面倒だから手短に頼む」

俺はとりあえず奴の話を聞いてみる事にした。

暇潰しになれば良いが・・・。

『話し忘れてたんじゃがお前さんの親友を名乗る不動裕也という少年を転生させたんじゃ』

・・・いきなり凄まじい暴露ってオイ！

「裕也に何があつたんだ？」

場合によつては許す気は無い。

こいつは俺の親友を死なせたのか？

『と行つてもワームとの戦争の際にワーム共を倒す為に放った攻撃がたまたま康太のいた世界にも影響を及ぼして、たまたまあの裕也という少年に当たつただけじゃ』

・・・とりあえず奴はシバかなきゃならんな。

『痛い！痛い！わしをシバくな！だからあつちに連れて行ってやろうって持ち掛けたのに』

「どづい事だ？」

『ワームとの戦争でお前さんはよく働いてくれたし褒美として裕也に会わせてやろうと思つてな』

感謝するべきなのか・・・。

裕也を殺したのはこいつ。

だがこいつが裕也を転生させたおかげで、俺は裕也に会える・・・。
嬉しくないって言つたら嘘になる。

だが沙也加は放置して良いのか？

『沙也加は、そのご褒美は今を受け取りません。康太さんと一緒に康太さんと同じ所へ私は行きます。と言つてたの』

沙也加・・・。

親に会いたいであろう気持ちを抑えているのだろう。
いつのまにかそんな事を考えていた。

『わしの力では元の世界へは、霊体としてしか行かせられぬしのお・
・。だから裕也の所へ行くかと尋ねたんじゃよ』
トリシューラ・・そんなに俺の事を・・ってなるわけ無いが、
霊体としてしか行けないなら親の顔なんて見れないだろうな・・。
「仕方ない、裕也の所へ連れていってくれ。沙也加と一緒にな」
あいつ等に会いたかったなあ・・。
元の世界に行かなきゃならないし不可能に近いがな・・。
こうして俺は旅立った。

「ここは・・路地裏か？しかしどうなんだ？いったい何が？」
「路地裏ですね。とりあえずトリシューラに連れて来られたのでし
よう」

俺の疑問に沙也加が答える。
理解するのが早いな。

「チツ、裕也って野郎にも遊馬って野郎にも負けたし踏んだり蹴つ
たりだな・・。」

烏賊の様な髪型の奴が歩いているな・・。
話しかけてみるか。

「裕也の事知ってるのか？」

「知ってるぜ。だが知りたければ俺にデュエルで勝つんだな！」
チツ・・やっぱりデュエルかよ。

「良いぜ！だがデュエルディスクが今、無いんだが貸してくれない
か？あと名前を教えてください。俺は高嶺康太だ」

「良いぜ。予備くらいいくれてやる！ちなみに俺の名前を教えてください。
俺は神代凌牙だ！」

あいつに青に近い紫色の画面の付いたデュエルディスクとスカウタ
ーもどきを渡される。

「デュエル！」

「俺のターンドロー！俺はビッグ・ジョーズを召喚！」

青い鮫に機械を付けたようなモンスターが現れる。

ビッグ・ジョーズ

ATK1800

「俺はカードを1枚伏せてターンエンド！」

シャーク

手札 4枚

モンスター ビッグ・ジョーズ

魔法罫 リバースカード 1枚

「俺のターンドロ―！俺は魔法カード大嵐を発動。そのセットカードを破壊だ！」

フィールド上にセットされていたカードが全て嵐で吹き飛ばされ、破壊された。

「何！？」

「まだまだ！魔法カードアイス・ブーストを発動！さてと手札は揃った！行くぜ、デブリ・ドラゴンを召喚！」
小さな太めの龍が現れる。

デブリ・ドラゴン

ATK1000

「効果で破術師を特殊召喚！」

銀髪の長い髪の子供が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「レベル3、氷結界の破術師にレベル4、デブリ・ドラゴンをチュ
ーニング！集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇
る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！氷結界の龍グング
ニール」

赤みを帯びた氷の龍が現れる。

氷結界の龍グングニール

ATK2500

「シンクロ召喚・・・裕也の奴も多用してやがった・・・」
やはりあいつだな。

「康太さん、早く決めてください！」

「分かつてる！アイス・カーペットを発動し氷結界の虎将グルナ
ードを特殊召喚！」

青い鎧に身を包んだ男性が現れる。

氷結界の虎将グルナード

ATK2800

「手札を1枚捨ててグングニールの効果発動！ビッグ・ジョーズを
破壊！」

ビッグ・ジョーズに向かってグングニールが氷の矢を放つ。

その氷の矢がビッグ・ジョーズが破壊された。

「チツ・・・俺の負けか・・・」

「またやるうぜ！2体でダイレクトアタック！」

シャーク

「裕也に会いたかったな。この学校に奴は通っている。校門前で待ってりゃ会えるはずだ」

シャークが俺にくれたD・パッドで地図を出してもらって場所を教わった。

てかこれカーナビみたいな事ができるんだな。

「分かった。ありがとう！また会おうぜ！」

俺達とシャークは別れて逆の方向に歩きだした。

逆お気に入り登録ユーザー20人突破記念番外編／もし康太が裕也のいるZEX

書くことが無いので、後書きか前書きで何か企画をやるかどうかと思う
のですがアイデアをください・・・

校門で3時間ほど待機していた俺と沙也加。

「くちゅん」

沙也加がくしゃみをしていた。

今、この世界の季節は秋だ。

しかし元の世界の季節は夏だった。

季節がいきなり変わって寒かったんだろうな……。

「寒いです……。康太さん、抱き着いていいですか？」

「別にいいぞ。恥ずかしいが」

俺は沙也加に聞かれた事に対し返答する。

そうすると沙也加はいきなり抱き着いて来た。

許可したが恥ずかしいな……。

潤った目と、愛らしい唇。

少し嫉妬深い所があるがかわいらしい性格。

それに対し俺はどうなんだろう？

親父を殺した犯人を憎み復讐に燃える醜い心、復讐するためにある程度鍛えた体、復讐するために考えて改造したエアガンを常に持ち歩く……。確実に一般的な人間ではない。

あの犯人の親父を殺した瞬間の嬉しそうな笑顔、俺に包丁を向け、刺そうとし、止めた後言ったあの憎い言葉、全て忘れられない。

そっぴいや今まで忘れてたが転生する前日、裕也と喧嘩別れしたな……。

犯人の居場所を見つけたから会って謝らせようと思いきこに向かった時裕也に会い、そのことを話した。

その最中に話が拗れて喧嘩になった。

お互いボロボロになったが和解はできず、そのまま喧嘩した状態になってしまった。

最悪の別れ方だと思っ……。

「あれ？康太つてリア充になつてる・・・だと？殺す！」

最悪な所で親友【暗殺者】が睨んでいた・・・。

「何でいきなり殺すなんて発言！？」

「リア充だから」

・・・すごい理由だ。

「とりあえずパンチから始まる交渉術だ！」

「危ないっての！あとその交渉術は門外不出であつて欲しかった・・・」

・・・あいつの拳はコンクリートを砕くつてのに・・・。

「次はキックに繋げる交渉術だ！ちなみに最後はプロレス技で締め
る交渉術だ」

「危ないって！死にたくない！あとそれは脅迫だよな！？」

言いたかつた事は言えた。

「とりあえず康太を仕留めるのは骨が折れるし・・・デュエルで勝
つた方が負けた方の言うことを一つ従う。それでいいな！」

「ああ、良いぜ！」

お互いD・ゲイザーを投げ、D・パッドを腕に着ける。

その後、D・ゲイザーが目の前に片目だけに眼鏡をかけたような状
態で装着される。

そしてお互い向かい合い、構える。

「デュエル！」

そして、D・パッドが変化したデュエルディスクによって決められ、
裕也が先行になる。

「俺のターンドロワー！俺は手札抹殺を発動！お互い手札を全て捨て、
同じ枚数ドロワー！」

お互い墓地に手札を捨てる動作を行い5枚ドロワーする。

「魔法カード死者蘇生を発動、レッドアイズ・ダークネスメタルド
ラゴンを特殊召喚！」

銀色に輝く紅い目の龍が現れる。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン
ATK2800

「レダメの効果発動！ドラグニティ・ファランクスを特殊召喚！」
頭の両端にに槍を1本ずつ着けたような小型の龍が現れる。

ドラグニティ・ファランクス
ATK500

「レダメをリリースし、ホルスの黒炎龍LV6を召喚！」
レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンとはまた違った銀色の身体を持つ龍が現れる。

ホルスの黒炎龍LV6
ATK2300

「レベル6のホルスの黒炎龍LV6にレベル2ドラグニティ・ファランクスをチューニング！シンクロ召喚、レッド・デーモンズ・ドラゴン！」

赤い悪魔のようなドラゴンが現れる。

レッド・デーモンズ・ドラゴン
ATK3000

「カードを2枚伏せてターンエンド」

裕也

手札 1枚

モンスター レッド・デーモンズ・ドラゴン

魔法罫 リバーズカード 2枚

「俺のターンドロ―！氷結界の風水師を召喚！」

紫色に近い和風な服を着た女性が現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「転生してからの今までのデュエルが前座に見えてくるくらい飛ばして来やがって……。俺はカードを3枚伏せてターンエンドだ」

康太

手札2枚

モンスター 氷結界の風水師

魔法罫 リバーズカード 3枚

「俺のターンドロ―！リバーズカードオープン、リビングゲットの呼び声！レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを特殊召喚！」

先程フィールドを離れた銀色に輝く龍が町を破壊しながら現れた。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン

ATK2800

「レダメの効果により、ドラグニティ・ファランクスを特殊召喚！」

先程フィールドに存在に存在していた小さな龍も復活した。

ドラグニティ・ファランクス

ATK500

「・・・やっぱりスカレが最終的に出てくるのか？」

「もちろんだ！ドラグニティ・アキュリスを召喚！効果は使えない」

赤い槍のように細い龍が現れる。

ドラグニティ・アキュリス

ATK1000

「レベル8、レッド・デーモンズ・ドラゴンにレベル2、ドラグニティ・アキュリスとドラグニティ・フランクスをダブルチューニング！現れる、スカーレット・ノヴァ・ドラゴン！」

紅い悪魔のように邪悪な龍が壊れた町を踏み荒らしながら現れる。

スカーレット・ノヴァ・ドラゴン

ATK3500 4500

「町がこんなに壊されてるが大丈夫なのか？てかスカレでかい・・・」

「辺りはスカーレット・ノヴァ・ドラゴンが出た途端に壊された、焼け野原のようになってしまっている。」

「ちなみにこれはD・ゲイザーによって見せられている映像だから町は一切壊れてないぞ。・・・まあ怖いけど」

「わかった」

お互いの雑談が終わり、向き合つと、三つの人影が見えてくる。

「裕也・・・いきなり飛ばし過ぎじゃないか？」

一人は前髪が海老のように尖っているような髪型が特徴な九十九遊馬。

「そうよね」

一人は緑色の髪が特徴な観月小鳥。

「でも相手のセットカードは3枚、まだわからないぞ」

最後の一人は太っている武田鉄男だ。

「スカールレッド・ノヴァ・ドラゴンで風水師を攻撃、バーニング・ソウル！」

スカールレッド・ノヴァ・ドラゴンは身体に炎を燈し、風水師に体当たりを仕掛ける。

「それを待っていた！畏発動！アイス・シエル」

風水師の周りに氷のバリアが張られようとするが……。

「畏カード、トラップ・スタンを発動！」

突如爆発が起きて、氷のバリアが破壊される。

「ならばチェインしてリバー・スカードオープン！くず鉄のかかし」

爆発がおきた直後、かかしがスカールレッド・ノヴァ・ドラゴンの攻撃を受け止め、風水師を守った。

『ひやひやさせないでくださいよ……。本当に怖いんですから』

風華は額の汗を服の袖で拭きながら康太に言った。

「悪いな……。でも次は防げない。だがライフが有る限り諦めはしないさ」

「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンで風水師を攻撃！」

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンが巨大な火の玉を放つ。

風水師は抵抗しようとしたがすぐに破壊された。

康太

LP4000 2000

「すまない……。風華。お前の破壊は無駄にはしない！」

「これでターンエンドだ」

裕也

手札 1枚

モンスター レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン スカーレ
ツド・ノヴァ・ドラゴン

「俺のターンドロロー！手札からアイス・カーペットを発動！もう一度、出番だ風華！」

「はい！」

もう一度先程フィールドにいた女性が現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「風華つて誰だ？」

「風水師の風華、俺の相棒だ」

「よろしくお願いします！」

「……あの風水師、喋った！？」「……」

風華の発言に康太と沙也加以外の人間は驚いた。

「訳あつて康太さんの精霊を2年と半年程やらせていただいております」

「デュエルを再開する。俺は畏カード、氷結の召喚術を発動！破術師を特殊召喚！」

銀髪の長い髪の子供が現れる。

氷結界の破術師

ATK400

「レベル3の氷結界の破術師にレベル3、氷結界の風水師をチューニング！氷結界より現れし龍が世界を凍らせ全てを消し去る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンク口召喚！消し去れ！氷結界の龍ブリューナク」

雪の結晶をイメージさせるような氷の龍が現れる。

氷結界の龍ブリューナク

ATK2300

「まだスカレには退場されたくないな……。エフェクト・ヴェーラーの効果を使わせてもらう」

ニーソックスを穿いたようなミニスカートのかわいらしい羽の付いている女の子がブリューナクに抱き着く。

その瞬間ブリューナクの効果が封じられ、ブリューナクは力を失ったかのような感じが伺われる。

「やばいな……。しかしまだ始まったばかりだ、巻き返さなきゃ。死者蘇生を発動してアキュリスを奪う」

裕也のフィールドにいた赤い槍のような龍が康太のフィールドに現れる。

ドラグニティ・アキュリス

ATK1000

「レベル6氷結界の龍ブリューナクにレベル2ドラグニティ・アキュリスをチューニング！現れる、ギガンテック・ファイター」

白く、ゴツゴツした人型のモンスターが現れる。

ギガンテック・ファイター

ATK2800

「さすがに戦士族モンスターはいないか……。ギガンテック・ファイターでレッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを攻撃！」

ギガンテック・ファイターがいきなりレッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン目掛けて突進する。

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンは炎のブレスを放つが、ギガンテック・ファイターは耐えた。

そしてレッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンはギガンテック・ファイターに殴られ消滅したが、その直後にギガンテック・ファイターが爆発し、消滅した。

「ギガンテック・ファイターの効果により、守備表示でギガンテック・ファイターを特殊召喚する」

ギガンテック・ファイターがいきなり地面から出てきて、防御の姿勢をとる。

ギガンテック・ファイター

DEF1000

「やっぱりそいつは鬱陶しいな……。スカレじゃ突破できない……」

裕也は舌打ちし、ギガンテック・ファイターを睨む。

「ズババナイトなら……」

「くず鉄のかかしがあるから通すのは厳しいぞ」

外野の遊馬と鉄男が話している。

それを無視してデュエルは進む。

「ターンエンドだ」

康太

手札 1枚

モンスター ギガンテック・ファイター

魔法罫 アイス・カーペット セットカード 1枚【くず鉄のかかし】

「俺のターンンドロー！魔法カード、壺の中の魔導書を発動！お互い3枚ドローする！」

お互い、デッキの上に手を置いて、3枚ドローした。

「・・・カードを3枚伏せターンエンド」

裕也

手札 0枚

モンスター スカーレット・ノヴァ・ドラゴン

魔法罫 セットカード 3枚

「俺のターンンドロー！俺はアイス・カーペットの効果で氷結界の風水師を特殊召喚！・・・風華、過労死だけはすんなよ？」

『だいたい疲れましたよ・・・』

再度また和風な服を着た女性が現れた。

氷結界の風水師

DEF1200

「風華をリリース！現れる、風帝ライザー！」

マントを着た、緑色巨体の人のようなモンスターが現れる。

風帝ライザー

ATK2400

「ライザー、スカレを戻してやれ！」

「負ける訳には行かない！神の宣告で召喚自体を無効にする！」

ライザーが掌から風を出してスカーレット・ノヴァ・ドラゴンを倒そうとしたが、天使を二人連れた長い髪の男性に命令され、ライザーは倒された。

裕也

LP4000 2000

「ターンエンド・・・」

康太

手札 3枚

モンスター ギガンテック・ファイター

魔法罫 アイス・カーペット セットカード1枚【くず鉄のかかし】

「俺のターンドロー！・・・引きが悪いな・・・。ターンエンド」

裕也

手札 1枚

モンスター スカーレット・ノヴァ・ドラゴン

セットカード 2枚

「俺のターンドロー！アイス・カーペットの効果でブリューナクを特殊召喚！」

雪の結晶のようなイメージの龍が再び現れる。

氷結界の龍ブリューナク

ATK2300

「さすがにもう無理だな……。強くなったな！」

「魔法カード大嵐を発動！割れる！」

嵐が急に現れ、フィールド上の魔法、罫カードがすべて割れた。

「さてブリユーナクの効果だ。スカーレット・ノヴァ・ドラゴンには退場を願おうか！」

ブリユーナクが氷のブレスを放ち、スカーレット・ノヴァ・ドラゴンを凍らせた。

スカーレット・ノヴァ・ドラゴンは凍りつき、消えた。

「死者蘇生を発動！風華、出てこい！」

へとへとそうにまた和風な服を着た女性が現れる。

氷結界の風水師

ATK800

「風華、最後のトドメは任せた！受け継がれる力を二枚発動！ブリユーナク、ギガンテック・ファイター、悪いが墓地に送られてくれ……」

ブリユーナクとギガンテック・ファイターは康太の方を向き、頷きながら消えていった。

氷結界の風水師

ATK800 1950 3350

「行け、相棒！ダイレクトアタックだ！」

風華は裕也に向かって突進する。

そしてどこからかいきなりスタンガンを取り出し、裕也に押し当て

た。

裕也

LP2000 0

「待て！氷結界らしく攻撃しろよ！なんでスタンガン！？」

『手元にあつたのでつい……』

康太と風華が即興でいきなり漫才を始める。

「……痛かった……。まあいいや」

裕也は一人納得して座り込んだ。

「あつ、これやるよ、康太」

「だからお前は……もういいや。ありがとう、裕也。【ブラック・レイ・ランサー】？使いづらそうだな」

ブラック・レイ・ランサーを受けとった途端、康太達は消えた。

「ここは……俺の家か」

「みたいですね。てか寝たままですいません……」

「気にするな……」

康太がふと手元を見るとあるカードがあつた。

それを掴み、カードを見つめる。

（あのデュエル……夢じゃないんだな……）

そのカードは、さっき受けとった【ブラック・レイ・ランサー】と

白紙のカードだった……。

白紙のカードって何なんだ？

逆お気に入り登録ユーザー20名突破記念番外編 未来のデュエリストとの

実に一月程経ってしまいました。

こんな怠慢な作者を許してください！

「確かにシンクロ召喚が初めてされた時代に来たはずなんだが・・・ここは何処だ？」

白い特徴的な服装のつんつんした髪型の青年が何処からともなく現れた。

「人間を捜すしかないか。シンクロモンスターを消し去らねば・・・」
謎の青年は闇に消えていった・・・。

「・・・沙也加、何をしてる？何故跨がっている？」

沙也加が康太の腕を押さえながら康太の腰に跨がっていた。

「おはようございます！ゆっくり眠れました？」

「お前のせいで朝一番からかなり疲れたよ」

「ならマツサージを・・・」

「股間に手を伸ばしてるじゃん！止める！朝から他人に言えない行為はしたくない！」康太は沙也加を引きはがし、上着を脱ぐ。

そして紺色のシャツを着て、レッド寮の制服を手に取り、羽織った。

沙也加はいきなり康太が脱いだスウェットの上着の内側に顔を押し付け臭いを嗅ぎ出した。

ズボンも穿き代えた康太は時計を見る。

そして腰にデッキケースを着けて家を出た。

「今日は休みなの忘れてたな・・・」

家を出て暫くして休みだったのを思い出し、康太は引き返した。ふと横を見ると、白い服の男がいた。

「どうかしましたか？」

その男に話しかけた康太はその男の顔を見た途端に顔をしかめた。

（うわぁ・・・プラシドそっくり・・・。面倒を運んできそう・・・

「顔をしかめるな。ここは何処だ？」

プラシドそっくりな男は康太に話しかける。

「何処、ですか……。デュエルアカデミアのある孤島ですよ」

「なん……。だと……」

プラシド（仮）は謎の顔芸をしながら絶望的な声色で嘆いていた。

無論康太は嫌そうな顔をしていた。

理由はその男の声がプラシドと変わらなかったからである。

おそらくプラシド確定だと康太は思った。

しかし彼の前でシンクロモンスターを使ったり見せたりしなければ面倒な事になる問題はないからシンクロモンスターの事は黙っておく事にした。

「康太さん！この前借りたトリシューラを返さなきゃって思い出しました」

この瞬間、康太の顔は絶望に満ちた顔となり、プラシドはニヤリと笑った。

「デュエルだ、お前！」

「お前じゃない、高嶺康太だ！」

お互い腕につけていたデュエルディスクを構えて向かい合う。

「デュエル！」

そしてデュエルは始まった。

「俺のターンドロ！俺はワイズコアを召喚」

中心辺りが割れている卵のようなモンスターが現れる。

ワイズコア

DEFO

「カードを2枚伏せてターンエンド」

ブラシド

手札 3枚

モンスター ワイズコア

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロー！」

「この瞬間、サンダー・ブレイクを使わせてもらう。手札を1枚捨て、ワイズコアを破壊する！」雷がワイズコアを目掛けて墜ちた。ワイズコアはそれによって破壊されてしまった。

「ワイズコアの効果により、ワイゼルT、ワイゼルA機皇帝ワイゼル、ワイゼルG、ワイゼルC、を特殊召喚する」

5体のモンスターが現れた。

「合体せよ、機皇帝ワイゼル！」

5体のモンスターは1体の機械のような白い人型のロボットに合体した。

ワイゼルT

ATK500

ワイゼルA

ATK1200

機皇帝ワイゼル

ATK0

ワイゼルG

DEF1200

ワイゼルC

ATK800

「そして機皇帝ワイゼル はパーツの攻撃力の合計を攻撃力とする」

機皇帝ワイゼル

ATK 2500

「いきなり過ぎたる・・・まあ突破ってデッキ間違えた!?なんでドラグニティや氷結界じゃなくてこれなの!?くっ・・・俺はモンスターをセツトしてエンド!」

康太

手札 5枚

モンスター セットモンスター 1枚

「俺のターンドロ。ワイゼルよ、あのモンスターを破壊しろ!」
ワイゼルが一気に接近し、セットモンスターに近づいてワイゼルAの刀のような物でセットモンスターを突いた。
貫かれたのは、白く、耳が立った、鎧を着けた犬だった。

ライトロード・ハンター ライコウ

DEF 100

「ライコウの効果で・・・」

(・・・ワイゼル はモンスター効果のせいで対象にとれないか・・・だが!)

「ワイゼルAを破壊する!」

ライコウが噛み付いてワイゼルAでワイゼルがライコウを追い払う。しかし、そのせいでワイゼルAは破壊されてしまった。

機皇帝ワイゼル

ATK 2500 1300

「そしてライコウの効果でデッキの上から3枚墓地に送る」

康太はデッキの上から3枚を墓地に送り、微笑んだ。「俺はワイゼ

ルA3を召喚してターンエンド」

ワイゼルに別の新しい腕が装着された。

機皇帝ワイゼル

ATK1300 2900

プラシド

手札 2枚

モンスター 機皇帝ワイゼル ワイゼルT ワイゼルA3 ワイ

ゼルG ワイゼルC

魔法罫 リバースカード2枚

「俺のターンドロー！俺はスクラップ・キマイラを召喚！」

ガラクタでできた体の顔はライオンで翼のはえた獣のようなモンスターが現れる。

スクラップ・キマイラ

ATK1700

「キマイラの効果でスクラップ・ビーストを特殊召喚！」

ガラクタでできた、四足の獣のようなモンスターが現れる。

スクラップ・ビースト

ATK1600

「レベル4、スクラップ・キマイラにレベル4、スクラップ・ビーストをチューニング！現れる、スクラップ・ドラゴン！」

ガラクタでできたドラゴンが現れる。

スクラップ・ドラゴン

ATK2800

「シンクロモンスターとは忌まましい！」

ブラシドはスクラップ・ドラゴンを睨みながらつぶやく。

しかし康太の耳にその言葉は聞こえていた。

「使える物使つて戦術をたてて何が悪い？勝てりゃ何でも良いんだよ、反則以外ならな！」

ゲーム等の悪役のような台詞を言う康太の顔はまさに外道のようだった。

「墓地のレベル・ステイラーの効果発動。スクラップ・ドラゴンのレベルを下げてレベル・ステイラーを特殊召喚する」

背中の羽に大きく星が描かれたとう虫が現れる。

レベル・ステイラー

DEF0

「スクラップ・ドラゴンの効果により、レベル・ステイラーを破壊し、ワイゼルA3を破壊する」

スクラップ・ドラゴンがレベル・ステイラーを踏み潰し、その肉体を食べた。

その後、プレスを放ち、ワイゼルの片腕をまた破壊した。

機皇帝ワイゼル

ATK2900 1300

「スクラップ・ドラゴンで、機皇帝ワイゼルを攻撃！」

スクラップ・ドラゴンがワイゼルに向かって突進する。
ワイゼルはそれによって破壊された。

ブラシド

LP4000 2500

「くっ……忌ま忌ましいシンクロモンスターめ!」

「またシンクロモンスターへの侮辱かよ……。まあ個人の事情があるだろうし、仕方ねえか」

康太は仕方なさそうに答えたが、ブラシドは苦虫をかみつぶしたような顔をしていた。

「カードを1枚伏せてターンエンド」

康太

手札 4枚

モンスター スクラップ・ドラゴン

魔法罫 リバースカード 1枚

「俺のターン……。無理だ……。機皇帝とでも言うと思ったか?

魔法カード、死者蘇生を発動、蘇れ機皇帝ワイゼル!」

描かれたような胸のパーツが現れる。

機皇帝ワイゼル

ATK0

「ワイゼルの効果。スクラップ・ドラゴンを吸収する」

青白い光がワイゼルの と描かれたような部分が開き、現れ、スクラップ・ドラゴンを拘束する。

「リバーズカードオープン！スクラップ・スコール。スクラップ・ソルジャーを墓地に送り、スクラップ・ドラゴンを破壊する。そして1枚ドロロー！」

いきなり金属製の物が大量に落ちてきて、スクラップ・ドラゴンを破壊した。

「ターンエンド」

ブラシド

手札 2枚

モンスター 機皇帝ワイゼル

魔法罫 リバーズカード2枚

「俺のターンドロロー！俺は魔法カード、大嵐を発動！」
お互いのフィールドに嵐が吹き荒れる。
魔法罫ゾーンのカードがそれによって破壊された。

「魔法カード死者蘇生を発動！スクラップ・ドラゴンを特殊召喚！」

先程破壊されたスクラップ・ドラゴンが現れ、咆哮をあげる。

「スクラップ・ドラゴン、奴のフィールドにいるあの不気味なアレを砕け！スクラップ・ブレス！」

スクラップ・ドラゴンが口からビームを放ち、機皇帝ワイゼルを破壊してみせた。

プラシド

LP25000

「俺の体が透けて・・・」

今、プラシドが言った通り、プラシドの体は透けてきていた。

「お前の事、面倒な奴だと思っていたが違ったらしい。シンクロモンスターが嫌いな理由も知っている。・・・実は俺、転生者でさ、一度死んでこの世界に来た。その世界ではシンクロ召喚が流行っていたが、ソリッドビジョンもなくて、ただひたすら強いと言われるようなデッキばかりが流行っていた。だがこの世界ではそんな事はなかった。しかしこの世界ではシンクロモンスターが悪用され、モームントの暴走により、世界は滅びる・・・だろ？」

康太は語りかけるような口調でプラシドに話し掛ける。

「たしかに合っている。だが、転生者というのは信じられん」

「まあ信じるとは言わん。だが俺はお前を信じようと思える」

「なら信じてやる」

お互い手を差し延べあつて、握手した。

「俺はこれから英雄、忌ま忌ましい不動遊星の活躍したという時代に行く、だから貴様は有名人となって世界を滅びの未来から救ってくれ」

康太は頷き、こう答えた。

「俺は高嶺康太だ。康太って呼んでくれや」

「ああ、また会えたら会おう」

この言葉を言い終えてすぐにプラシドは消えた。

康太はプラシドとの約束を守る為に頑張ろうと決めた。

アストラルの小ネタ帳 オリジナルパック編 くデュエリストパック 高嶺康士

BRAVE様よりネタをいただきました、オリジナルパックネタです。

息抜きなネタです、はい。

アストラルの小ネタ帳 オリジナルパック編 くデュエリストパック 高嶺康士

康太「集いし氷の力により氷結界の村より、封印されし龍が蘇る！仲間との絆を紡ぐ力となれ！シンクロ召喚！氷結界の龍グングニール！」

ストラテジーガイド10種類中1枚又はデュエリストパック 高嶺康太編のカードリスト入り

30種類

1パック5枚入り

新規カード8種類

氷結界の舞姫

氷結界の武士

氷結界の風水師

氷結界の水影

ジャンク・シンクロン

氷結界の御庭番

氷結界の番人ブリズド

氷結界の虎将 ライホウ

氷結界の虎将 グルナード

The トリックイー（レア）

氷結界の騎士^{レア}

氷結界の龍 トリシューラ（スーパーレア）

氷結界の龍 グングニール

氷結界の龍 ブリユーナク（レア）

氷結界の虎王 ドウローレン（レア）

ブリザード・シンクロン（スーパーレア）

スターダスト・ドラゴン（スーパーレア）
シューティング・スター・ドラゴン（レア）
究極氷結神龍 トリシューラ（ウルトラレア）
コズミック・クリアー・ドラゴン（ウルトラレア）

アイス・カーペット（スーパーレア）
アイスブースト（レア）

強欲なウツボ

死者蘇生^{レア}

強欲で謙虚な壺^{レア}

サイクロン

リビングデッドの呼び声

聖なるバリア - ミラーフォース -

神の宣告

奈落の落とし穴

アストラルの小ネタ帳 オリジナルパック編 くデュエリストパック 高嶺康士

このパック・・・美味すぎる・・・。

逆お気に入り登録ユーザー20名突破記念番外編 氷結界の里の一日 (前書

短いです。

かなり短いです。

そして誰得なライホウ回です

・・・先に謝ります、sasami様申し訳ありません！
期待どおりにできた自信がありません！

『トリシューラ様、お食事の時間ですよ!』

・・・なんだか久々に登場した気分ですね・・・。
まあ気にする必要ないですよね。

『ライホウか・・・?干し肉はどれくらいあるかの?』

『10Kgくらいでしょう』

『わかった。では食うかの』

トリシューラ様がお食事を始めました。

風華は康太様の所へ、麻衣はヒュペリオンと沙也加様の所へ行きました。

霸王軍とやらの侵攻を抑えるのが精一杯なのですが、康太様が止めてみせるとおっしゃりましたので信じますよ。

『トリシューラ様!里の南から敵兵が!』

そう、叫びながら走ってきたのは、氷結界の水影でした。

伝令に遣わされたようではあったが、息切れ一つしていませんでしたね・・・。

『もういい!わしが行く!』

そうおっしゃり、トリシューラ様は何処かへ飛んで行きました。

・・・10分後・・・

『干し肉持ってこい!』

戦場で、敵兵を味方ごと殲滅させた破壊神のようなトリシューラ様は、干し肉が足りず、怒ってらした。

『もう干し肉はありません!』

水影が交渉しに行きましたが、水影は言い切った瞬間トリシューラ様に投げ飛ばされました。

『ライホウ?わかつとるの?』

『実は水影の言う通り、干し肉のストックが切れまして、晚餐用し
が残ってません。明日には六武の者から届きますから我慢してくだ
さい』

この発言を終えた瞬間、私の意識がとんだ……。

『起きた、ライホウ？』

女性の声が聞こえ、辺りを見渡す。

そうすると、銀髪が見える。

私の幼なじみ、氷結界の封魔団だった。

『ありがとう、助かったよ』

『何があったの？』

『気がついたら飛ばされて……』

かなりの衝撃と共に、気がついたら飛ばされて、散々だった……。

『トリシューラ様って本当によく迷惑な事するよね……。里護っ

てくれてるから文句は無いけど』

『上司としては最悪だけだな』

本当に最悪な上司だ……。

部下を吹き飛ばすし、好きな食べ物が無ければ八つ当たりするし……。

。

『……笑えないわね』

『そろそろ戻るよ、またな』

『じゃあね』

『ああ』

……1時間後……

長い道のりを歩き、なんとかトリシューラ様の祠に戻ってきた。
疲れた……。

『ただいま戻りました』

『寝てるし……おぼろげに一日経ってしまった。』

眠ってしまい、そうしてる内に一日経ってしまった。

「それはあそこに片付けてくれ」

俺は今、実家で風華と片付けている。

休みの間、ずっと住んでいたので、片付けないとまずいくらい散らかっているからだ。

『沙也加さんの下着はどうします?』

「あの箆笥に片付けてくれ。沙也加の服用の引き出しの下の引き出しな」

無理矢理・・・ではなく、親（この世界ではもう死んでいるからいいが）の服を処分したから引き出しがあいた。

だから沙也加の服を片付けられる。

「・・・だいぶ片付いたな。後はカードだけだな」

辺りを見渡すとカードが・・・って訳ではないが、ケースに入りきっていないんだよな。

だから山のように積んである。ケースは買ってきたから入れるだけだ。

・・・チャイムがなったな。

客?でも来るような奴はいないし・・・（転生前の）俺を虐めてた奴はシメておいたし・・・。

「誰ですか・・・って水月!？」

「・・・遊びに来ちゃ・・・ダメだった・・・?」

首を傾げながら聞かれたが、ダメな訳は無い。

しかし部屋が埃っぽいからなあ・・・。

「掃除中だから埃っぽいからまずかつたかな?」

「・・・そうなの・・・なら・・・一緒に出かけない・・・?」

これ、デートのお誘いなのか・・・?

こんな経験、なかったからなあ・・・。

・・・彼女いるんだけどな。

てかもしかして・・・浮気になるんじゃない？

こりゃあかなくて！

ってなんで関西弁になったんだあ！

「・・・どうかした・・・？」

きよとんとした顔で見つめられ、なんか罪悪感が・・・。

「気にするな、まあ大丈夫だろうから。まあ今、寝間着だから着替えさせてくれ。玄関で待つてろよ」

俺は部屋に戻り、私服に着替える。

今は冬だ、だからコートでも着るか。

ズボンはジーンズ、上着は長袖のシャツ、コートを羽織る。

「風華、留守番は任せた！」

『では片付けは一旦中断していただきますね』

「わかった」

マフラーを巻いて出かけるか。

水月はちよつとサイズが大きい水色のワンピースを着て、女性用のジャンパーを着ている。

上着とかは詳しくないから詳しくは説明できん！

「いきなりだったからこんな適当な服装で悪いな」

「・・・気にしなくていい・・・私だって・・・急におしかけたんだから・・・」

はあ・・・どうすりゃいいんだろうか・・・。

適当に歩いていると、ファミレスが見えた。

「飯どうする？」

12時頃、つまり飯食つくくらいの時間に来られたから、飯がまだだった。

「・・・ならあのファミレスで・・・」

「わかった」

ファミレスは何故かわからないが空いていて、すぐに席に座れた。

「ご注文はどう致しますか？」

「ではハンバーグ定食とオレンジジュースをお願いします」

「・・・私はペペロンチーノと烏龍茶を・・・」

「かしこまりました」

・・・10分後・・・

10分以内に両方テーブルに置かれた。両方美味かった為すぐに完食していた。会計は俺がこっそり支払っておいた。

「次どこ行く？」

「・・・あそこで・・・カード見たい・・・」

飯食ってる最中に喋ってた時にこのデートは紫に仕組まれたって事を聞いたが・・・気にしなくていいか。楽しいし。

「M・HEROとか色々あるなあ・・・」

ゴーズやブラッドウォルスみたいな遊戯や海馬みたいな有名な奴が使ったカードは高いが、サイクロンみたいな使いやすいカードは安かった。

元の世界だとぼったくりだが。

「・・・そうよね・・・」

楽しんでくれてるかな？

「パック買ってくる」

かなり古い掘り出し物のようなパックもあるし、楽しみだな。買った後、戻ると水月がいなくなっていた。下を見ると紙切れが落ちていた。

【高峯康太、きさまの彼女はあずかった。返してほしけりやとなり町の倉庫き15時までに来い】

頭悪そうな怪文書だなオイ！

高嶺康太、貴様の彼女は預かった。返して欲しけりや隣町の倉庫に

15時までに来いって書けよ！

漢字くらい書けよ！

読みづらいしわかりにくいわ！

しかも名前間違えてるし！

沙也加はアカデミアにいるし、水月が誘拐されたか。

仕方ない、二度と立ち上がれないようにしてやるか。今は14時か・

。。。

急ぐか！

・・・1時間後・・・

「来たか高嶺康太！」

ハゲた奴がそう言いながら鉄パイプで殴りかかって来るがカウンターの要領でエアガンで殴る。

そいつは壁まで飛んでいき、壁にぶつかり、気絶した。

まだ奴らは50人近くいるみたいだ。

何とかなるかわからん。

水月はゲス共に何かされたらしく泣いており、服は切り裂かれたかのようにボロボロだった。

「お前等は俺を怒らせた。理由は三つ。一つ目は仲間に出した事！二つ目は女性を泣かせた事！三つ目は俺への用に関係無い人間を巻き込んだ事だ！」

俺はポケットから、氷結界の里で作られた手榴弾を取り出す。

そののピンを抜き、奴らに投げる。

水月の所までは届かないが、向かって来てる奴にはダメージが与えられるはずだ。

一応使った時盾にする用に渡された布で身体を守るか。

爆発音の後、投げた辺りを見ると奴らは凍っていた。

布も凍っていたが普通に動く。

理由はトリシューラに凍らされたくないから凍らない物を着ようっ

て作った素材だからだ。

「後はお前だけだな。仲間とやらは死んでないから安心しな。あの氷は10分経つと解凍されちゃうんだよ」

「ふっ・・・あんな奴等関係ないな！貴様を殺せたなら！」

そいつはナイフを使い、俺を刺しに来たが、脚をエアガンで撃った。そいつが倒れ込んだのでナイフを奪い、へし折った。

「大丈夫か？怪我は無いか？何かされたか？」

「・・・胸を揉まれたし・・・色々された・・・何もいらないと・・・思っていたけど・・・怖かった・・・」

気がついたら俺は、水月をビンタしていた。

「何もいらぬ？ならここで死んでみる！」

俺はナイフを水月に渡す。

だが水月はナイフを受け取ったが何もしなかった。

「な、死にたくないだろ？皆大切な命がいると、必要だと思ってるんだ。軽々しく何もいらぬなんて言うな。誰でも何かを得たりしていいんだ」

「・・・でも・・・失うのが怖くて・・・」

「皆失うのは怖い。だからといって得ようとしなのは間違ってる」
水月に持たせたナイフを優しく取り上げ、捨てる。

水月が泣き出してしまった・・・。

どうすりゃいいんだ？

落ち着くだろうし抱きしめてやろう。

もう一度奴らに向かってさっきの手榴弾を投げつけてから水月を抱きしめた。

・・・5分後・・・

水月が泣き止んだが、時間は15時20分になっていた。

・・・水月の服買いに行かなきゃならぬ。

「とりあえずこのコート着てくれ」

ブラジャーやショーツが見えて落ち着かねえよ。

「・・・うん・・・」

「服買いに行くぞ」

女性用の服なんてよくわからないっての・・・。

ワンピースがずたずたにされていたミニスカートみたいになっちゃま
つてるしなあ・・・。

コートが長くて助かった・・・。

ある程度隠れたし。

とは言え脚が隠れきってないのはある意味厳しい・・・。

・・・10分後・・・

ブティックに来たが俺は場違いだな。

水月に服買ってやらなきや。

・・・10分後・・・

水月が新しい服を選んできた。

新しい服は水色の長袖のシャツに青いロングスカート、黒いタイツ
を着ていた。

そして紺色のコートを羽織る。

「・・・どう・・・？」

「似合ってるよ」

会計、済ませなきゃならんな。

会計を済ませてもう一度町に繰り出した。

タグは取ったし、笑い者になったりはしていない。

「・・・これからどうする？」

「海馬ランド行かない？」

「あそこは・・・社長の像で嘖きそうになるからやめてくれ」
もう色々ねーよってなるし。

「・・・そう・・・」

「俺の家、来るか？片付けの間は玄関にいてもらうが」

「・・・うん・・・」

さっさと片付けなきゃな。

たわいのない会話をしながら家まで帰る。

すぐに到着したが風華は大丈夫かな？

帰って来ると風華はちゃんと留守番していた。

寝てはいたが・・・。

埃だけはどうにかしなきゃと思っていたが風華がしてくれていた。

「とりあえず茶でも出すよ。ここにいてくれ」

たしか紅茶があったな・・・麦茶や烏龍茶はなんか申し訳ないし。

「紅茶だ、暖まるぞ」

「・・・ありがとう・・・」

俺はコーヒー派だからコーヒーを飲んでいる。

ミルクや砂糖は入れてない。

ブラックが好きだからな。

落ち着くなあ・・・。

「・・・苦そう・・・」

「苦いのは好きだからな。コーヒー飲んできると幸せな気分になる」

「コーヒー派と紅茶派、どっちが多いんだろうか？」

そんなことを考えながらも水月で話す。

お喋りってたまになら楽しいな。

沙也加とか風華とか皆一緒に過ごしてる奴としか喋らないし・・・。

。

「お代わりいるか？」

「・・・ええ・・・」

紅茶をもう一度水月に出す。

美味しそうに飲んでくれると嬉しいな。

「もう19時30分か・・・晩飯作るうか？」

「・・・頼むわ・・・」

冷蔵庫にあるのは・・・鶏もも肉やら豚バラ肉やらあるな。

白菜やしらたき、エノキタケもある。

鍋にしよう。

水炊きでいいか。

てか俺、なんで風華と二人で鍋作るうとしてんだよ・・・。

多人数で食いたかった・・・。

「コンロ何処にしまったっけ？」

『食器棚の上にあります。ボンベは昨日買ったのが横にあります』

とりあえずコンロとボンベを取り、鍋に水を入れる。

ある程度水を入れたら具を入れてと。

「煮えたら食えるぞ。しばらく待てよ」

「・・・わかってる・・・」

「そついやこの後どうするんだよ？帰るのか？」

だって今晚寂しいし・・・。

でも帰さなきゃまずいし・・・。

「・・・今晚泊まつたら・・・帰るわ・・・」

「そつか。お、煮えてきた！」

「・・・食べましょうか・・・」

「おう！」

鍋を風華、俺、水月で食い終えた後風呂入って寝た。

昼過ぎに水月は帰った。

もっと話したかったな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3483q/>

遊戯王デュエルモンスターズGX～氷のデッキの使い手～

2011年12月18日04時46分発行